量子 循環経済

ツーリズム マテリアル

市場 DX

日経BP

技術と社会の未来を
提示する

予測・分析レポート

人型 光電

ロボット 融合

2026春
総合
カタログ

中期経営計画、新規事業、技術開発の
戦略立案に。貴社の課題解決に役立つ、
レポートの新刊をご紹介します。

AGI/ASI





デジタル金融

日経BP 予測・分析レポート

エンタメの未来

日経BP 予測・分析レポート

販売中商品のご案内

日経BP予測・分析レポートは、70点を超えるアイテムを取り揃えています。
中期戦略の立案、新規事業、新製品・サービスの開発などに、ぜひお役立てください。



※価格は全て10％税込　※タイトルや発行日等は変更になる場合があります。

最新刊

量子コンピューター/量子技術
開発&ビジネス参入戦略2026-2035 ［2026年2月9日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p6 掲載

マテリアル・イノベーション2040
［2026年1月30日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p10 掲載

エンターテインメント・ビジネスの未来 2026-2035 ［2026年1月30日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p14 掲載

グローバルシナリオ2040
全産業編 ［2026年2月27日発行予定］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:880,000円
※書籍のみの販売はありません。
p18 掲載

テクノロジー・ロードマップ2026-2035
AI/ICT融合新ビジネス編 ［2026年2月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p22 掲載

未来調査2026-2035
先端テクノロジー編 ［2025年12月12日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p26 掲載

光電融合/シリコンフォトニクス未来戦略
［2025年11月25日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p30 掲載

循環経済型ビジネス 事業創出・参入戦略 ［2025年12月15日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p34 掲載

自動車産業2045
［2025年11月28日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:770,000円
※書籍のみの販売はありません。
p38 掲載

人型・AIロボット未来予測2035
［2026年1月30日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p8 掲載

金融DX市場予測レポート 2026-2030 ［2026年1月30日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p12 掲載

ツーリズムビジネスの未来 2026-2035 ［2026年3月3日発行予定］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p16 掲載

テクノロジー・ロードマップ2026-2035
全産業編 ［2025年10月31日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p20 掲載

未来調査2026-2030
全産業編 ［2026年1月30日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p24 掲載

世界水素ビジネス 未来戦略
［2025年11月25日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p28 掲載

AI未来シナリオ2030
［2025年12月16日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p32 掲載

デジタルヘルス未来戦略
空間・拠点&ビジネス展望編 ［2025年11月28日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p36 掲載

DX・AI

未来技術2025-2034
先端AI/ICT編 ［2025年2月17日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p40 掲載

SIビジネス未来戦略2025-2028
［2025年1月31日発行］
［書籍のみ］価格:330,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:495,000円
p44 掲載

DXサーベイ2025-2027
［2024年10月31日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,078,000円
p48 掲載

ロボット未来予測2033
［2024年2月22日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p52 掲載

製造業DX調査レポート 2025-2035 ［2025年2月17日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,078,000円
p42 掲載

半導体チップレット未来戦略
［2024年12月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p46 掲載

AIビジネス事業創出・参入戦略 2025-2028 ［2024年9月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p50 掲載

IoTセンサー未来戦略 2035 ［2023年10月31日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,078,000円
p53 掲載

ウェルビーイング・脱炭素

GXビジネス 事業創出・参入戦略 ［2025年4月21日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p54 掲載

ウェルビーイング テック最前線 ［2023年7月31日発行］
［書籍のみ］価格:440,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:660,000円
p57 掲載

「望ましい未来」をつくる SDGsテック未来戦略 ［2022年3月23日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p59 掲載

脱炭素ビジネス 未来戦略 ［2022年2月18日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p61 掲載

ウェルビーイング市場を拓く 技術開発戦略 ［2023年3月24日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p56 掲載

カーボンニュートラル 最前線 ［2023年3月1日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:770,000円
※書籍のみの販売はありません。
p58 掲載

カーボンディスクロージャー 未来戦略 ［2022年2月21日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p60 掲載

※価格は全て10%税込

新市場・マーケティング

デジタル&データマーケティング 市場分析2025-2027 ［2024年11月8日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p62 掲載

シニア成長市場分析& 事業創出戦略 ［2024年11月14日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p64 掲載

女性活躍 戦略レポート2025 ［2025年2月7日発行］
［書籍のみ］価格:198,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:297,000円
p65 掲載

宇宙ビジネス 事業創出・参入戦略 ［2023年12月8日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p66 掲載

メタバース事業・構築戦略 調査編 ［2023年2月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p67 掲載

エネルギー

蓄電池ビジネス 戦略レポート ［2024年11月29日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p68 掲載

電力調達・再エネ活用 戦略レポート ［2024年2月13日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p70 掲載

世界洋上風力ビジネス
全体動向編 ［2022年11月30日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p72 掲載

モビリティー

世界EV総覧&技術戦略レポート 2025 ［2024年10月31日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p74 掲載

EV未来予測 世界5社の開発戦略 ［2023年12月20日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p75 掲載

生体センシング最前線2030
モビリティー編 ［2024年10月10日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:880,000円
※書籍のみの販売はありません。
p76 掲載

テクノロジー・ロードマップ2023-2032
自動車・エネルギー編 ［2023年1月31日発行］
［書籍のみ］価格:495,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:742,500円
p78 掲載

世界モビリティ新ビジネス 調査レポート ［2023年9月29日発行］
［書籍のみ］価格:440,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:660,000円
p79 掲載

グローバル モビリティ スタートアップ ［2023年1月31日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:770,000円
※書籍のみの販売はありません。
p80 掲載

中国EV市場調査
［2022年2月7日発行］
［書籍のみ］価格:330,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:495,000円
p81 掲載

徹底分解シリーズ

テスラ「サイバートラック」徹底分解
全体編 ［2025年5月29日発行］
［書籍のみ］価格:1,100,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,650,000円
p82 掲載

テスラ「サイバートラック」徹底分解
ECU編 ［2025年9月30日発行］
［書籍のみ］価格:1,760,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:2,640,000円
p84 掲載

吉利汽車「ZEEKR 007」徹底分解
全体編 ［2024年10月31日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p85 掲載

電動モビリティー 徹底分解 ［2024年1月19日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p86 掲載

中国BYD「SEAL（海豹）」徹底分解
［全体編］ ［2023年9月15日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p87 掲載

トヨタ自動車「新型MIRAI（Advanced Drive）」徹底分解 ［2021年12月24日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p88 掲載

4脚歩行ロボ「Spot」 徹底分解 ［2021年9月30日発行］
［書籍のみ］価格:550,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:825,000円
p89 掲載

フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解
【全体編】 ［2021年7月30日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,320,000円
p90 掲載

フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解
【インバーター/モーター/電池編】 ［2022年2月14日発行］
［書籍のみ］価格:1,320,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,980,000円
p91 掲載

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解
【全体編】 ［2019年12月5日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p92 掲載

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解
【ECU編】 ［2019年12月30日発行］
［書籍のみ］価格:1,320,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,980,000円
p93 掲載

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解
【インバーター/モーター編】 ［2020年3月16日発行］
［書籍のみ］価格:1,100,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,650,000円
p93 掲載

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解
【電池編】 ［2020年3月16日発行］
［書籍のみ］価格:1,100,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,650,000円
p93 掲載

建設・インフラ

建設テック未来戦略 2025-2035
［2024年12月12日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p94 掲載

グリーン・デジタル社会をつくる
インフラ事業構築&市場予測2025-2050 ［2024年11月15日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p96 掲載

インフラビジネスレポート2023 vol.2 ［2023年6月23日発行］
［書籍のみ］価格:198,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:297,000円
p98 掲載

医療・健康・食農

医療・健康ビジネスの未来 2025-2034 ［2024年12月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p100 掲載

生体センシング最前線2030
ヘルスケア編 ［2024年10月10日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:880,000円
※書籍のみの販売はありません。
p102 掲載

デジタルヘルス未来戦略
有望市場・調査分析編 ［2023年12月20日発行］
［書籍のみ］価格:880,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:1,078,000円
p104 掲載

テクノロジー・ロードマップ2023-2032
医療・健康・食農編 ［2023年3月1日発行］
［書籍のみ］価格:495,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:742,500円
p105 掲載

未来予測・有望技術【全産業】

消費トレンド2040 市場予測・ロードマップ ［2024年2月13日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p106 掲載

未来技術2025-2034
全産業編 ［2024年12月27日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p108 掲載

未来ビジネス2024-2033
全産業編 ［2024年2月29日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p110 掲載

「望ましい未来」をつくる 技術戦略 ［2020年12月7日発行］
［書籍のみ］価格:660,000円
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:990,000円
p112 掲載

リスクシナリオ2032
全産業編 ［2022年8月30日発行］
［書籍とオンラインサービスのセット］価格:880,000円
※書籍のみの販売はありません。
p113 掲載

量子コンピューター/量子技術 開発&ビジネス参入戦略 2026-2035

開発動向・サプライチェーン分析、有望適用分野と市場規模予測
国別・方式別特許分析



量子コンピューター開発動向&方式別将来性

様々な方式別の強みと弱み、基礎技術の蓄積から実用化までの道筋を提示

サプライチェーン分析

超電導方式と将来性高い中性原子方式を例に分析し、日本としての戦い方を提言

有望適用分野の展望と市場規模

金融・化学・モビリティー分野の現状と課題を分析し、可能性を考察

量子技術の特許分析

方式別、国別、有力スタートアップ別に徹底分析。各注力ポイントを可視化

■ 著者：日経クロステック、アーサー・ディ・リトル・ジャパン上谷学、VALUENEX大庭淳一
■ 編集：日経クロステック
■ レポート：A4判、174ページ ■ 2026年2月9日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-21001-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-21003-9

量子コンピューターで世界が激変――10年後に勝つための戦略策定に必要な情報を網羅！

「国家戦略技術」の1つに指定された量子技術。経済安保上も重要な技術であり、遅れを取ることは許容できない状況です。中でも量子コンピューターは、これまでのスーパーコンピューターでも解けない問題を計算できる可能性を持ち、コンピューターのパラダイムを大きく変えるものとなります。わずか10年前までは机上の空論と思われていた技術が、ついに現実になる日が近づいています。市場はいつどのような規模で拡大していくのか、サプライチェーンはどのように再構築されるのか、いつ動き出せばいいのか――、企業は確かな参入・投資戦略の策定が急務となっています。

本レポートは、量子技術とその市場について2035年ごろまでの近未来を展望しています。量子コンピューターの最新開発動向や、実用化のカギとなる誤り耐性量子コンピューターの実現時期を精微に考察。また、金融、化学・材料／創薬、モビリティー分野における可能性と先進事例を紹介し、各領域の市場規模を予測しています。さらに、特許分析により、各国の技術的強み、方式別の優位性、革新的スタートアップの競争力を客観的に評価しています。

量子コンピューターの実現には、希釈冷凍機などの従来型コンピューターとは異なる特殊デバイスが必要になります。また、当初からクラウドサービスを通じた提供モデルが構築されるなど、多様なビジネスレイヤーが形成されています。5層構造サプライチェーン分析は、企業が最適な市場参入ポイントを特定するための実践的ツールとなるでしょう。

量子技術分野における戦略的意思決定に必要な最新情報と洞察を網羅した一冊です。ぜひお役立てください。

目次

第1章 重要度を増す量子技術
1-0 本レポートの読み方
1-1 エグゼクティブサマリー
- 見えてきた本格量子コンピューターの時代
- 量子コンピューターのサプライチェーン
- 量子コンピューターの特許分析
- 量子コンピューターの応用適用分野とその市場規模
- 量子センサー／量子通信の社会実装

第2章 量子技術の開発動向
2-1 期待と注目が集まる量子技術
- 国の重要戦略に位置付けられる
2-2 量子コンピューターは何ができるのか
- 見えてきた本格量子コンピューターの時代
2-3 知っておくべき量子コンピューターの基礎
- 量子計算は従来型コンピューターと何が違うのか
- 量子計算が注目される理由
- 量子コンピューターの実現方式
- 量子時代に求められる人材
2-4 方式別量子コンピューターの可能性と課題
- 超電導 ●イオントラップ ●中性原子 ●光
- シリコン ●ダイヤモンドスピン ●トポロジカル
- アニーリング
2-5 量子コンピューターのソフトウエアとソリューション
- ソフトウエアとソリューション
- プラットフォーマーとして存在感を示すNVIDIA

第3章 量子コンピューターのサプライチェーン分析
3-1 量子コンピューターのサプライチェーン
- サプライチェーンの概要
3-2 超電導量子コンピューターのサプライチェーン
- プレーヤーマップ
- 部材／素材
- サブシステム
- ハードウエア構築
- クラウドサービス
- アプリケーション
3-3 中性原子量子コンピューターのサプライチェーン
- プレーヤーマップ
- 部材／素材
- サブシステム
- ハードウエア構築
3-4 サプライチェーン構造から読み解く方式別の共通項と相違点
- 技術構造の共通項と相違点
- 産業・供給構造の共通項と相違点
- 人材・知財・ビジネスモデルの相違点
3-5 日本が取るべき戦い方
- 量子コンピューターのサプライチェーンで取るべき方向性
- 中国企業の位置付け

第4章 量子技術の特許分析
4-1 特許の俯瞰解析とは
- 特許の解析方法
4-2 量子関連特許の俯瞰解析
- 俯瞰図から見る技術領域
4-3 方式別量子コンピューター特許
- 超電導方式
- 量子アニーリング
- イオントラップ方式
- 光方式
- 中性原子方式
- トポロジカル方式
- ダイヤモンドスピン方式
4-4 国別の特許分析
- 上位国
- 中国における技術開発状況
- 米国における技術開発状況
- 韓国における技術開発状況
- 日本における技術開発状況
4-5 各国の量子スタートアップにおける技術開発状況
- スタートアップの状況
- 中国の量子スタートアップ
- 米国の量子スタートアップ
- 日本の量子スタートアップ
4-6 特許の分析まとめ
- まとめ

第5章 量子コンピューターの有望適用分野と市場規模
5-1 有望適用業界とその背景
- 有望な分野
- 金融
- 化学・材料／創薬
- モビリティー
5-2 採用事例の現状とボトルネックとその解消見込み
- 採用事例の現状
- 金融
- 化学・材料／創薬
- モビリティー
- ユースケースまとめ
5-3 業界別の市場規模感
- AIか量子か
- 試算の前提とアプローチ
- 各業界のユースケースと参照市場レポート
- 量子適合率と採用率の設定根拠
- 市場規模の試算

第6章 他の量子技術の社会実装の可能性
6-1 量子センサー
- 概要
- ダイヤモンドNVセンター
- 量子スピントロニクス・センサー
- 量子もつれ光センサー
- 光子検出器
- 量子慣性センサー
- 光格子時計
6-2 量子暗号通信
- 主要プレーヤーと技術水準・開発動向
- QKDの動向
- PQCの動向
- ユーザーの採用動向
- 社会実装におけるボトルネック



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-qcom-x

人型・AIロボット未来予測2035

用途別の社会実装シナリオ
市場規模予測と要素技術ロードマップ



人型・AIロボットの未来像

各国政策分析から導く
人型ロボット普及シナリオと市場予測

人型ロボット開発・供給のバリューチェーン

日本企業にとってどのような機会が
見込めるかが分かる

有望3分野 ビジネスのポイントと普及予測

介護・生活/エリアマネジメント/極限環境

人型ロボットに対する社会的ニーズ調査

1500人に独自調査。
ロボット発展動向を見通す

■ 著者：三菱総合研究所、日経クロステック ほか
■ 編集：日経クロステック
■ レポート：A4判、322ページ
■ 2026年1月30日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20903-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20905-7

人型・AIロボットはいつ普及し、どこまで発展するのか？ ビジネス機会はどこに生まれるのか？

世界の人型ロボット市場は、さまざまな調査会社が2030年代半ばに5～10兆円になると予測しています。生成AIや半導体に匹敵する市場規模であり、これだけの成長を期待できる分野は他に多くはありません。人型・AIロボットでは、その応用の広さをカバーするために新たな産業エコシステムが生まれ、これまでにないビジネス機会が得られると予想できます。産業用途にもサービス用途にも適用可能であり、企業に加えて家庭での普及を想定でき、適用範囲は非常に広いと見込まれます。

本レポートは、2035年ごろまでの近未来における人型・AIロボットの社会への浸透を展望しています。ロボットバリューチェーンの変化や中国を始めとする海外のロボット開発動向や政策・規制動向、日本の政策動向について解説し、人型・AIロボットが普及した社会はどのようなものになるか、応用分野別の普及動向がどうなるか、市場規模がどう拡大するかを予測し提示します。さらに「介護」、「エリアマネジメント」、「極限環境」の3分野での人型・AIロボット実装時期とユースケースなどを詳解。人型ロボットの完全自律実現に向けたロードマップや、人型ロボットの今後についてのビジネスパーソン意識調査も収録しています。

かつて日本は人型ロボットの開発で世界のトップを走っていました。現状では米国や欧州、中国に先を越されているように見えますが、人型ロボットのハードウエアを造るにはこれまでのロボット技術の蓄積が必要です。人型に見えないロボットから要素技術が使われる可能性もあり、さらに、社会的高齢化による人手不足の課題先進国である日本は、応用面で先行できる可能性があります。本レポートは今後のロボット関連ビジネスの戦略策定に必要な情報を網羅した一冊です。

目次

第1章 人型ロボットに向かう開発・供給のバリューチェーン

1-1 ロボットバリューチェーンの変化
- 日本のロボットバリューチェーンの現在地
- バリューチェーン変動の背景にある要因
- ロボットプロバイダー視点で見たバリューチェーンへの影響
- ユーザー視点で見たバリューチェーンへの影響
- 社会視点で見たバリューチェーンへの影響
- 新興プレーヤーの出現と投資動向
- 日本・米国・中国・欧州におけるロボットスタートアップ
- 日系ロボット関連プレーヤーの現状に対する見立てと示唆
- 人型ロボット日系メーカーのバリューチェーン

1-2 中国産業用ロボット
- 中国産業用ロボット市場と将来予測
- 産業用ロボットと人型ロボットのすみ分けと協調
- 中国政策と産業用ロボット動向
- 中国産業用ロボットバリューチェーン
- 中国における産業用ロボットの多業界展開
- 中国市場参入に向けて

第2章 AIロボティクス・人型ロボットの未来像

2-1 サービスロボットの可能性と課題
- 人口減少と労働生産性の課題
- 汎用ロボット普及への技術課題
- 産業用ロボットとサービスロボットの将来市場規模
- 人型ロボットの将来市場規模
- 人型ロボット発展の条件

2-2 ロボット先進地域と国内のAIロボティクス関連政策と産業動向
- 主要国のAIロボティクス関連政策と産業動向
- 日本国内のAIロボティクス関連政策と産業動向

2-3 AIロボティクス・人型ロボットの活用が期待される分野
- AIロボットの活躍を見込める11の分野
- AIロボティクス活用における重点3分野

第3章 介護・生活分野におけるAIロボティクスと人型ロボット

3-1 介護・生活分野におけるAIロボティクスの今後
- 介護・生活分野の現状と課題
- 介護・生活分野におけるAIロボティクス未来像
- 介護・生活分野における新たな展開の可能性と課題
- 介護・生活分野において今後の進展が期待される国内事例
- 介護・生活分野においてAIロボティクスの未来像を実現するための打ち手
- 介護・生活分野におけるAIロボティクス・人型ロボット関連で新たに期待できる事業機会と留意点

3-2 介護・生活分野における人型ロボット
- 介護・生活分野における人型ロボットの初期事例
- 介護・生活分野における人型ロボットの将来像

第4章 エリアマネジメント分野におけるAIロボティクスと人型ロボット

4-1 エリアマネジメント分野におけるAIロボティクスの今後
- エリアマネジメント分野の現状と課題
- エリアマネジメント分野におけるAIロボティクス未来像
- エリアマネジメント分野における新たな展開の可能性と課題
- エリアマネジメント分野において今後の進展が期待される国内事例
- エリアマネジメント分野においてAIロボティクスの未来像を実現する打ち手
- エリアマネジメントにおけるAIロボティクス・人型ロボット関連で新たに期待できる事業機会と留意点

4-2 エリアマネジメント分野における人型ロボット
- エリアマネジメント分野における人型ロボットの初期事例
- エリアマネジメント分野における人型ロボットの将来像

第5章 極限環境分野におけるAIロボティクスと人型ロボット

5-1 極限環境分野におけるAIロボティクスの今後
- 極限環境分野の現状と課題
- 極限環境分野におけるAIロボティクス未来像
- 極限環境分野における新たな展開の可能性と課題 ほか

5-2 極限環境分野における人型ロボット
- 極限環境分野における人型ロボットの初期事例
- 極限環境分野における人型ロボットの将来像

第6章 AIロボティクスにおける日本企業の強みと将来戦略

6-1 AIロボティクスの産業エコシステム
- AIロボティクスに見るスマイルカーブ

6-2 日本が強みを持つ3つの要素
- ロボット情報処理・制御の要素技術開発
- 高品質なリアルデータの活用
- ユーザーの生活課題を踏まえた実装

第7章 AIロボティクス・人型ロボット時代を日本がリードするための提言

7-1 提言の概要
- 日本の勝ち筋としての3つの提言

7-2 [1]エコシステム形成に向けた戦略の再構築を
- サービスロボットを実装できる環境の確立
- 産業界:サービスロボットを見据えたサプライチェーンの構築 ほか

7-3 [2]市場特性を踏まえた技術開発を
- サービスロボットへのニーズ把握と開発推進
- 産業界:強みを持つ技術の再強化 ほか

7-4 [3]社会・企業内部の“知”を武器に
- 日本のサービス品質をAIロボティクスへ統合
- 産業界:高品質なデータを生かしたAIロボティクス開発 ほか

第8章 ビジネスパーソン1500人に聞いた人型ロボットへの意識と意見

8-1 調査概要
- 調査の目的と実施概要
- 回答者とロボットとの関わり

8-2 人型ロボットの普及見込みと課題
- 人型ロボットが普及する時期
- 人型ロボットを家庭または勤務先で導入してみたいか
- 既存カテゴリーのロボットへの影響 ほか

8-3 人型ロボットの役割と用途
- 人型ロボットが解決に役立つ社会課題
- 人型ロボットが役立つ作業場面
- 人の代わりか、人にできないことをさせるか ほか

8-4 人型ロボットに求められる機能と技術
- 人型ロボットに必要な機能
- 実用化・普及に向けて向上すべき機能
- 実用化・普及に向けて向上すべき部品と技術

8-5 日本が取るべき戦略と国内産業への影響
- 日本は人型ロボット本体を開発すべきか
- 人型ロボットの部材や利用法についての開発 ほか

8-6 人型ロボットに関する注目企業
- 人型ロボットの導入・活用について相談してみたい企業・組織
- 注目している海外の人型ロボット開発会社

8-7 人型ロボットに関する自由意見と現状のロボットに対する認識
- 人型ロボットに対するビジネスパーソンの自由意見
- ロボット全般に対する現状認識と課題



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-hurob-x

マテリアル・イノベーション2040

自動車・電子部品・半導体の次世代材料・プロセス予測
MI・PI／量子／ロボティクス活用戦略



自動車・半導体・電子部品――業界別のマテリアル未来図

3大業界ごとに、2040年までに重要度が増すキーマテリアルの進化と市場を展望

キーマテリアル未来予測

特許・論文分析から、実用化が期待される30のキーマテリアルの技術動向を分析

マテリアル産業を強くするデジタル技術

2040年までの技術進展ロードマップを提示

マテリアル・イノベーション戦略

スピードが求められる時代、新たな技術やビジネスをどう生み出していくのか?

■ 著者・編集協力:
NEDO、産業技術総合研究所、AIST Solutions ほか
■ 編集:日経クロステック
■ レポート:A4判、316ページ
■ 2026年1月30日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20897-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20899-9

今後どのようなマテリアルが登場し、どんな価値を提供するのか? 競争力の源泉となるキーマテリアルを提示、その未来を読み解く

国や企業の競争力、盛衰をも左右し、ゲームチェンジャーとなり得るマテリアル――。日本企業ならではの擦り合わせ開発による高度な製造プロセス技術が詰まったマテリアルは日本の製造業の武器として、これまで世界で強みを発揮してきました。今後も、その強みを維持・強化していくためにはどうしたらよいのか。そのヒントとなる情報を提供できればと願い、本レポートを企画しました。

具体的には、「自動車部品」「半導体」「電子部品」の3大部品業界ごとに、現状をきちんと捉えた上で、今後重要となるマテリアルの未来を展望。さらに、今後採用が拡大すると期待される計30のキーマテリアルを取り上げ、特許・論文分析を通して技術の未来動向を解説しています。

一方で、マテリアルには開発期間が長いという弱みがあります。この弱みを克服し開発競争のカギを握るのが、マテリアルズ・インフォマティクス(MI)やプロセス・インフォマティクス(PI)、量子コンピューター、ロボティクスといったデジタル技術の活用です。2040年をターゲットに、それぞれの技術ロードマップや利用シーン、技術課題を見通しました。併せて、今後マテリアルを社会実装していくために必要なイノベーション戦略も解説しています。

今、企業に求められる社会課題の解決にも大きく貢献するマテリアル・イノベーションは、新たな価値の提供とともに、企業の競争力の向上につながります。貴社の経営戦略、事業開発戦略の策定に必要な情報が一冊に凝縮されています。是非ご活用ください。

目次

第1章 イントロダクション
1-1 本レポートの概要と想定読者
●本レポートの概要
●本レポートの想定読者
●情報ニーズと各章の対応
1-2 本レポートの構成

第2章 社会課題解決のための新たなマテリアル・イノベーション戦略
2-1 求められるマテリアル戦略の見直し
●社会課題の抜本的解決へ、マテリアルのポテンシャル
●マテリアル戦略を構築するための3つの視点
2-2 未来を見据えたマテリアル・イノベーション戦略の在り方
●戦略構築の3つの視点と3つの戦略モデル
2-3 マテリアル・イノベーションの実践例
●2035年を見据えた三菱ケミカルのイノベーション戦略
●京都試作ネットに見る、イノベーションを加速する企業間連携

第3章 マテリアルの未来図～自動車部品
3-1 自動車産業の現状
●重要な転換点に差し掛かっている日本の自動車産業
●危険な保護主義的な動き
●車の価値観が変わり、開発のキーワードはCASEに
3-2 自動車産業に重くのしかかる社会課題「地球温暖化」
●温暖化に関する世界の状況、日本の状況
●2050年に向けた各国の目標と電源構成の捉え方
●温暖化防止へ、主要国・地域の自動車目標
3-3 EVは社会課題解決の切り札か
●EVとCO_2削減の本当の関係
●EVで懸念される最大の問題
3-4 次世代自動車の材料課題
●エネルギーを有効活用する電動車
●電動化に伴うマテリアルの課題
●軽量化を実現するプラスチックの活用法
3-5 自動車に対する価値観の変化で重要度増す内装
●居住性を高めるには五感に訴求
●革よりも革らしいとは
●自動運転に役立つ、ミリ波を通す金属調シート
3-6 カーボンニュートラル達成のための材料選択
●CO_2排出量削減に有効な軽量化材料とは
●CO_2排出量削減にバイオプラスチックは有効か
3-7 サーキュラーエコノミー達成のためのリサイクル法選択
●単なるリサイクルとは違うサーキュラーエコノミー
●日欧の現状に見るリサイクルの問題点
●自動車プラスチックリサイクルで高い目標掲げる欧州 ほか
3-8 未来の自動車は、未来のプラスチックは
●エネルギー効率から見る未来の自動車
●EV、HEV、FCVの棲み分け
●課題解決へ、プラスチックの機能のつくり方

第4章 マテリアルの未来図～半導体
4-1 進化を続ける半導体技術
●微細化、トランジスタ、配線、中工程・チップレットの現在地
●半導体技術が解決に貢献する社会課題
●社会課題解決に向けたテクノロジー・ソリューション
4-2 半導体の進化を止めないマテリアル技術
●テクノロジー基盤としての半導体
●半導体システムの基礎デバイス技術
●半導体技術を支えるマテリアル
●マテリアルと露光、成膜、エッチング装置
●一層の進化が求められるプロセス技術
4-3 2040年を見据えた、半導体マテリアル技術のロードマップ
●トランジスタとストレージクラスメモリーの有望株
●半導体材料の有望株
●加工技術の有望株
●チップレットの有望株
●原子レベル制御プロセス技術の有望株
4-4 ゲームチェンジャーとなる可能性秘めた半導体技術
●実用化されれば大きなインパクト必至

第5章 マテリアルの未来図～電子部品
5-1 電子部品の現在地と未来の捉え方
●電子部品の世界シェアは33%、電子情報産業の中で最大
●電子部品の未来を考える3つのフィールド
5-2 GX×モビリティー
●モビリティー分野の主な電子材料・電子部品
●2040年に向けたモビリティー分野のロードマップ
●今後のモビリティー分野で重要度増す電子材料・電子部品
5-3 DX×情報通信
●情報通信分野の主な電子材料・電子部品
●2040年に向けた情報通信分野のロードマップ
●今後の情報通信分野で重要度増す電子材料・電子部品
5-4 CE×環境
●環境分野の主な電子材料・電子部品
●2040年に向けた環境分野のロードマップ
●今後の環境分野で重要度増す電子材料・電子部品
5-5 GX／DX／環境をけん引するキーマテリアル
●電動化を担う次世代パワー半導体向け材料
●次世代通信・高周波対応に不可欠な誘電体材料
●高速無線通信を支える高周波フィルター材料
●環境・エネルギー分野で活躍する電池材料

第6章 マテリアル産業を強くするデジタル技術
6-1 デジタル技術の統合により真価を発揮するマテリアルDX
●開発計画の精緻化で開発投資の意思決定をしやすく
6-2 材料開発を加速するマテリアルズ・インフォマティクス(MI)
●情報技術×材料データベース=開発速度向上
●社会ニーズに合わせたプロダクト提供を可能に ほか
6-3 量産プロセス開発を加速するプロセス・インフォマティクス(PI)
●MIとPIは材料開発の両輪
●製造プロセスの高度な最適化・効率化・品質向上が可能に
●秘密計算が後押しするPI活用 ほか
6-4 理想的な材料設計も可能にする量子コンピューター
●「このような電子状態を持つ材料が欲しい」に応える
●複数の技術方式が存在、熾烈な争いに
●2040年を見据えた、量子コンピューターのロードマップ ほか
6-5 実験を自動化するロボティクス
●データの量と質の向上でMI・PIが威力を発揮
●自動化はバイオ・製薬系から材料系へと進む
●材料開発効率で大きな成果上げるロボット活用 ほか

第7章 特許・論文から読み解く未来のキーマテリアル
7-1 自動車(構造材料)分野のマテリアル技術
●自動車分野の10のキーマテリアル
●キーマテリアル1:炭素繊維強化プラスチック
●キーマテリアル2:ガラス繊維強化プラスチック
●キーマテリアル3:天然繊維複合材料
●キーマテリアル4:高強度鋼板 ほか
7-2 半導体分野のマテリアル技術
●半導体分野の10のキーマテリアル
●キーマテリアル1:大口径シリコンウエハー
●キーマテリアル2:SOI・エピウエハー
●キーマテリアル3:ワイドギャップウエハー
●キーマテリアル4:高-K金属ゲート ほか
7-3 電子部品分野のマテリアル技術
●電子部品分野の10のキーマテリアル
●キーマテリアル1:高誘電率セラミック
●キーマテリアル2:ナノ結晶軟磁性材料
●キーマテリアル3:2D材料・CNT
●キーマテリアル4:導電性インク・接着 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mate-x

金融DX市場予測レポート2026-2030

主要73社のデジタル戦略を分析 投資・技術導入意向調査
市場規模予測── 生成AI、勘定系など5領域



【独自取材】先進73社の戦略レポート

全体戦略、取り組み事例、将来展望まで

DX投資意向調査2026【金融機関60社】

ヒアリングによる独自調査を実施。
各金融機関別の回答を掲載

市場規模予測・メガトレンド

成長分野はどこか。注目5分野の市場予測と
プレーヤー動向

AI/勘定系システム最前線・注目テクノロジー

全体動向、課題、主要プレーヤーの
取り組み事例を解説

■ 編集：日経クロステック　■ レポート：A4判、464ページ
■ 2026年1月30日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20906-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20908-8

金融DX市場を4つの視点で分析・展望
主要73社のデジタル戦略を深掘り
独自に投資・技術導入意向調査も展開

金融機関の生成AI（人工知能）や基幹システムのモダナイゼーション（近代化）などに対する需要は引き続き旺盛です。本レポートの最大の特徴は、金融機関など73社への独自取材から得た情報を基に、金融DX（デジタル変革）市場を展望している点です。本レポート編集チームによるヒアリングの重点ポイントは「DX戦略の進捗と今後の実行ポイント」「特徴的な取り組み事例」「今後のDX関連投資意向」「新たに導入を検討している技術・ソリューション」の4点です。三菱UFJフィナンシャル・グループや三井住友フィナンシャルグループ、みずほフィナンシャルグループなど個別企業ごとにDX戦略や具体的な取り組みをレポートとしてまとめたほか、金融機関60社ほどを対象に「独自DX投資意向調査」として全体を俯瞰（ふかん）できる回答一覧も収録しています。さらに、注目5領域（生成AI、Embedded Finance＝組み込み型金融、勘定系システム、デジタル証券、ロボアドバイザー）の2030年ごろまでの市場予測を本レポート編集チームと野村総合研究所（NRI）が共同でまとめています。こうした独自調査・分析に基づく展望と市場予測に加えて、注目技術やシステムの有識者による解説も丁寧にフォローしています。例えば、みんなの銀行が開発したクラウドネーティブの勘定系システムに関する同行CIO（最高情報責任者）による技術解説を盛り込んでいます。金融DX市場を見通し、一歩先を読み解くために必要な情報をふんだんに盛り込んだレポートです。ぜひご活用ください。

目次

第1章 メガトレンド
1-1 主要金融機関 独自DX投資意向調査
●エグゼクティブサマリー
1-2 4大トレンド
●Embedded Finance ●キャッシュレス
●Web3・デジタルアセット ●国際送金

第2章 デジタル金融市場規模予測
2-1 デジタル金融市場規模予測
●生成AI ●Embedded Finance
●勘定系システム ●デジタル証券 ●ロボアドバイザー

第3章 AI総括
3-1 全体動向
●AI～全体動向～
3-2 技術解説
●AIエージェント ●生成AI～実践編～

第4章 勘定系システム総括
4-1 全体動向
●勘定系システム～全体動向～
4-2 技術解説～事例～
●みんなの銀行のクラウド勘定系

第5章 主要プレーヤー73社
5-1 メガバンク
●三菱UFJフィナンシャル・グループ
●三井住友フィナンシャルグループ
●みずほフィナンシャルグループ
●りそなホールディングス ●ゆうちょ銀行
5-2 信託銀行
●三菱UFJ信託銀行 ●三井住友トラストグループ
5-3 地方銀行
●横浜銀行 ●ふくおかフィナンシャルグループ
●千葉銀行 ●しずおかフィナンシャルグループ
●北洋銀行 ●西日本シティ銀行
●ひろぎんホールディングス ●京都銀行 ●群馬銀行
●めぶきフィナンシャルグループ ●鹿児島銀行
●CCIグループ ●福島銀行 ●琉球銀行
●池田泉州ホールディングス
●東京きらぼしフィナンシャルグループ
●山口フィナンシャルグループ ●紀陽銀行
●いよぎんホールディングス
●十六フィナンシャルグループ
5-4 信用金庫／信用組合
●京都中央信用金庫 ●長野県信用組合
●信金中央金庫
5-5 インターネット銀行
●SBIホールディングス ●住信SBIネット銀行
●楽天グループ ●GMOインターネットグループ
●ソニー銀行 ●PayPay銀行
●auじぶん銀行 ●みんなの銀行
5-6 その他銀行
●セブン銀行 ●ローソン銀行
●イオンフィナンシャルサービス
●SBI新生銀行グループ ●オリックス銀行
5-7 証券会社
●日本取引所グループ ●野村ホールディングス
●大和証券グループ本社 ●SMBC日興証券
●マネックスグループ
5-8 保険会社
●東京海上ホールディングス
●SOMPOホールディングス
●あいおいニッセイ同和損害保険
●三井住友海上火災保険 ●日本生命保険
●第一生命ホールディングス ●住友生命保険
●明治安田生命保険
5-9 クレジットカード会社
●三井住友カード ●三菱UFJニコス ●クレディセゾン
●ビザ・ワールドワイド・ジャパン ●Mastercard
●ジェーシービー
5-10 通信事業者
●NTTドコモ ●KDDI ●ソフトバンク
5-11 ネット事業者
●LINEヤフー ●リクルートグループ ●メルカリグループ
5-12 一般事業者
●JALグループ ●ANAグループ ●トヨタグループ
●JR東日本 JR西日本

第6章 金融DXパートナー26社
6-1 SI会社／ITベンダー
●NTTデータ ●日本IBM ●富士通 ●日立製作所
●NEC ●野村総合研究所 ●TIS
●BIPROGY（旧日本ユニシス） ●SCSK
●Microsoft ●Amazon Web Services
6-2 国内FinTech企業
●マネーフォワード ●freee（フリー） ●インフキュリオン
●マネーツリー ●ウェルスナビ
●Finatextホールディングス ●Paidy ●MILIZE
●ネットプロテクションズ ●ペイルド
6-3 海外FinTech企業
●海外FinTech企業

第7章 注目テクノロジー解説
7-1 データ連係
●銀行API
7-2 ブロックチェーン
●ブロックチェーンの基礎
●ブロックチェーンの概要
7-3 Web3
●CBDC
●ステーブルコイン
●セキュリティートークン
7-4 セキュリティー
●FIDO認証（パスキー）
●AML
●eKYC
●デジタルアイデンティティー
7-5 金融ネットワーク
●Swift



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-findx-x

エンターテインメント・ビジネスの未来 2026-2035

先端技術で激変・進化する エンターテインメント業界のこれから10年を予測



AI（人工知能）が エンタメ業界の未来に 与える影響を予測分析

「映画」「放送」「音楽」 「スポーツ」「演劇」 などの未来像を提示

スーパープラットフォームを 目指すビッグテック企業の 戦略を展望

ビジネスモデルの変革を 支える先端テクノロジーを 分かりやすく解説

■ 著者：北谷賢司
■ レポート：A4判、416ページ
■ 2026年1月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20878-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20880-7

ビッグテックやAIがもたらす未来像と新たなビジネスチャンスを読み解く

エンタメ産業は、コロナ禍の危機から復活を遂げ、大きな飛躍を遂げています。Amazon.comやApple、Netflixといったビッグテック企業がスーパープラットフォームを目指して新手のサービスを次々に繰り出し、映画、放送、音楽など既存業界のビジネスモデルは崩壊。一方で、音楽ライブやプロスポーツなどのライブエンタメは、かつてない活況を呈しています。ビジネスモデルの変革を支えるのは、モバイルブロードバンドやIoT、AR/VRなどの先端テクノロジー。5年ぶりに全面改訂した本レポート『エンターテインメント・ビジネスの未来2026-2035』では、この数年で大きく進化した「AI（人工知能）」がエンタメ業界の未来に与える影響を詳説する章を新設しました。さらに、コロナ禍が残したもの・コロナ禍で失ったもの、エンタメビジネスを取り巻く世界の社会環境、エンタメ・スポーツ施設の未来の分析を新たに加え、「映画」「放送」「音楽」「スポーツ」「演劇」などの未来像やビジネスモデルの分析を刷新。激変・進化するエンタメビジネスの未来を予測し、多様な産業・業界で立ち上がる新たなビジネスを読み解きます。

エンターテインメント分野における技術とビジネスモデルの関係



エンタメ産業における主流メディアの変遷



AIなどの先端技術が エンターテインメント産業に及ぼす影響を予測

エンターテインメント産業は、AI、モバイルブロードバンド、IoT、AR/VRなどの先端技術の進歩がもたらす地殻変動の真っただ中にあり、業界構造は今後さらに急速に変化していきます。映画、放送、音楽、スポーツ、演劇などの未来像とビジネスモデルの変革を読み解きます。

目次

序章 エンターテインメントを取り巻く環境
0-1 総論
●世界の未来とエンターテインメント
●世界人口とGDPの拡大 ●注視すべきリスク要因
0-2 エンターテインメントにおける日本の立ち位置
●日本のエンタメ産業は衰退と再興の岐路に
●エンタメへの大きな期待 ●世界を魅了するコンテンツづくり
0-3 米国の変調とリスク
●トランプ政権のエンタメ産業への影響
●規制よりも脅しと忖度 ●報道もエンタメも保守寄りに ほか

第1章 メディア・エンターテインメントの未来
1-1 総論
●未来の方向性と他産業への影響 ほか
1-2 新旧のメディアが交代
●主役の移行が鮮明に ●ハリウッドもSVODが主力に ほか
1-3 業界再編を勝ち残る道
●二重の競争にさらされる ●ネットフリックスの強さの源 ほか
1-4 日本のメディアエンタメの未来
●日本もストリーミングが主役に ほか

第2章 ライブ・エンターテインメントの未来
2-1 総論
●ライブ・コンテンツの台頭 ほか
2-2 リアルならではのビジネス
●ライブ・エンタメの最大の価値 ほか
2-3 デジタル技術でファンを育成
●ファン層のロイヤルティーを高める ほか
2-4 エンターテインメント・シティ
●エンタメを中心とした都市づくり ほか
2-5 日本のライブ・エンタメの未来
●成長産業への期待 ●人口減を訪日客で補う ほか

第3章 エンターテインメントとAI
3-1 総論
●AIがエンタメ業界を翻弄 インターネットを超える衝撃
●最後はコンテンツ勝負
3-2 人間を超える知性を目指すAI
●AIの担当業務は拡大の一途
●多数のAIエージェントが活躍 ほか
3-3 AIと人間が共存共栄
●AI規制の行方は流動的 ●ナップスターを超える悪夢
●法的手段だけには頼れない ほか

第4章 映画の未来
4-1 10年後の産業像
●全体像 ●ハリウッドスタジオの転向 ほか
4-2 SVODと劇場映画が共存共栄
●ネットフリックスによる変革 ●SVODの優位性と限界 ほか
4-3 日本の映像制作の未来
●コンテンツの輸出を拡大 ●日本の強みが他国に波及 ほか
4-4 ハリウッドの強みと限界
●ハリウッドの構成 ●不動産と金融機能を提供 ほか
4-5 デジタルシネマの成功と3D映画の挫折
●新興勢力への対抗策 ●撮影、配給、興行を効率化 ほか
4-6 劇場再興への道筋
●映画館もサブスクに ●劇場ならではの体験 ほか

第5章 放送の未来
5-1 10年後の産業像
●全体像 ●地方局から苦境に ●台頭するメガメディア
5-2 米国放送産業の破壊的変化
●米国放送のSVOD化 ●テレビの凋落とデジタルの台頭 ほか
5-3 国内放送産業の現状と課題
●日本でも放送からネットへ ●コロナ禍で環境が一変 ほか
5-4 地方局から始まった再編
●地域密着コンテンツのハブに ほか
5-5 ネット時代の放送のあり方
●放送局の将来像 ●高視聴率からファンの育成へ ほか

第6章 音楽の未来
6-1 10年後の産業像
●全体像 ●デジタルとライブが役割分担 ほか
6-2 ストリーミングの現状と将来
●ストリーミングは寡占に ほか
6-3 日本における興行ビジネスの構造改革
●日本の興行ビジネスの転機 ほか
6-4 日本アーティストの海外進出
●アニメ頼りの人気獲得 ●米国市場の攻略と生かし方 ほか

第7章 演劇の未来
7-1 10年後の産業像
●全体像 ●ダイナミックプライシングが標準に ほか
7-2 目標としてのブロードウェイ
●国内演劇ビジネスの現状と方向性 ほか
7-3 ヒットを生む制作手法
●ブロードウェイにおけるヒットの威力 ほか

第8章 スポーツの未来
8-1 10年後の産業像
●スポーツビジネスの主流はネットに ほか
8-2 ライブ観戦とネットが融合
●プロスポーツは成長産業 ほか
8-3 日本と海外のプロスポーツ
●国内プロスポーツの現状 ほか

第9章 スタジアム・アリーナ/イマーシブ/IRの未来
9-1 10年後の産業像
●全体像
9-2 スタジアム・アリーナの未来
●スタジアムやアリーナが乱立 ほか
9-3 日本にもイマーシブの波
●多様な手法で没入感を高める ほか
9-4 日本版IR成功の条件
●国内IRへの期待と現実 ●海外カジノの構造変化 ほか
9-5 カジノを支えるビジネスモデルの発展
●ビジネスの全体像 ●反社会勢力とは絶縁 ほか

第10章 エンターテインメントの未来を支える基盤技術
10-1 総論
●先端技術とエンターテインメント
10-2 6G/Beyond 5G
●未来のシナリオ ●自由視点動画を高精細に ほか
10-3 IoTとスマートデバイス
●未来のシナリオ ●中核はクラウド上のAI ほか
10-4 AR/VRとメタバース
●未来のシナリオ ●IT大手による技術革新と課題
10-5 ブロックチェーンとNFT
●未来のシナリオ ●ライブ・エンタメで活用が進む

第11章 他分野・業界への影響
11-1 モビリティー×エンターテインメント
●10年後の姿 ●自動車がエンタメ空間に変わる ほか
11-2 都市計画×エンターテインメント
●10年後の姿 ●世界各地でエンタメ地区を整備 ほか
11-3 観光×エンターテインメント
●10年後の姿 ●日本版IRのコンテンツに疑問 ほか
11-4 消費財・リテール×エンターテインメント
●10年後の姿 ●コンテンツが店頭、アバターが販売員に ほか
11-5 広告×エンターテインメント広告×エンターテインメント
●10年後の姿 ●AIが広告を自動化



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-entb-x

ツーリズムビジネスの未来 2026-2035

10年後の未来シナリオと新たに生まれるビジネスチャンスを描く



世界と日本のツーリズム市場と様々な産業への影響を分析

PEST分析を軸に7つの未来トレンドを予測分析

未来トレンドを踏まえて25の未来シナリオを詳細解説

ツーリズムビジネスの変化が関連産業に与える影響を予測

インバウンドを超え、旅行・観光の急成長はこれからが本番 IT、流通、モビリティー、医療、エンタメまでを変革する巨大市場の未来を読む

訪日外客によるインバウンド需要が本格化するツーリズムビジネス（旅行・観光産業）。コロナ禍によって壊滅的な打撃を受けた旅行・観光業界は、再び急成長の軌跡を描き始めています。実は、初めて4000万人を超える訪日外客の需要は第一歩でしかありません。人々の価値観の変化、経済・生活のデジタル化、グローバル化などを背景に、今後10年でツーリズムビジネスは大きく変化し、ついに成長本番を迎えます。本レポートは、世界と日本のツーリズム市場の現状を分析、インバウンド需要にとどまらず、様々な産業に影響を与えるツーリズムビジネスの本質を明らかにします。PEST（政策・経済・社会・技術）分析を軸にツーリズムビジネスの拡大を支える多くの動向を7つの未来トレンドとして整理。それぞれの未来トレンドに関連する25の未来シナリオを詳細に描き出します。その背景にあるAIやXR、メタバースなどのデジタル技術の進化はもちろん、巨大市場となるインドなどのアジアの国々についても分析。IT、流通、自動車、医療、農林水産、エンタメなど様々な周辺産業で新たに生まれるビジネスチャンスを提示します。

■ 監修・著者：平林 知高（EYストラテジー・アンド・コンサルティング）
■ 著者（代表）：若竹 真亜久（EYストラテジー・アンド・コンサルティング）
■ レポート：A4判、約300ページ
■ 2026年3月3日発行予定
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20959-0
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20961-3

目次

※目次や内容は変更になる場合があります。

第1章 エグゼクティブサマリー
1-1 ツーリズムビジネスの未来
- 本レポートの概要
- 本レポートにおける未来トレンドと未来シナリオの考え方

1-2 本レポートの構成
- 10年後のツーリズムビジネスをひも解く7つの未来トレンド
- 未来トレンド①：グローバリゼーションの行方
- 未来トレンド②：人口動態・経済構造の変化
- 未来トレンド③：AIの進化と社会実装
- 未来トレンド④：テクノロジーによる体験価値の変化
- 未来トレンド⑤：気候変動の影響とサステナビリティーに対する意識の変容
- 未来トレンド⑥：日本のソフトパワー活用
- 未来トレンド⑦：価値観の変化とアナログへの回帰

第2章 世界と日本のツーリズムを取り巻く状況
2-1 世界のツーリズムを取り巻く状況
- 増加し続ける海外旅行者
- アジアが海外旅行者数の成長をけん引
- 観光消費が世界経済を牽引 ほか

2-2 日本のツーリズムを取り巻く状況
- 停滞する日本人のツーリズム市場
- 減少する日本人の海外旅行
- 増加し続けるインバウンド旅行者

2-3 日本におけるツーリズムの経済効果
- ツーリズムGDPの成長余地は大きい
- 堅調に推移する国内旅行消費
- インバウンド消費の飛躍的成長は中国人 ほか

第3章 政治・経済とツーリズムの未来
3-1 政治・経済分野の未来トレンドと未来シナリオ
- 概要 ●政治・経済×ツーリズムのポイント
- グローバリゼーションと5つの未来シナリオ ほか

3-2 グローバリゼーションの行方（未来トレンド①）
- 概要 ●ノーバウンダリー：曖昧化する境界
- リージョナリズムへの回帰：地域経済圏の深化 ほか

3-3 人口動態・経済構造の変化（未来トレンド②）
- 概要
- サービス経済化の進展と競争環境の激化 ほか

第4章 テクノロジーとツーリズムの未来
4-1 テクノロジー分野の未来トレンドと未来シナリオ
- 概要 ●テクノロジー×ツーリズムのポイント
- AIと8つの未来シナリオ ほか

4-2 AIの進化と社会実装（未来トレンド③）
- 概要 ●生成AIの性能向上と課題
- 今後10年の技術と社会構造の変化
- AIを用いた四つの事業戦略 ほか

4-3 テクノロジーによる体験価値の変化（未来トレンド④）
- 概要 ●IoT/センシング ●人間拡張/遠隔存在
- 3Dプリンティング/マテリアルズ・インフォマティクス（MI） ほか

第5章 社会の変化とツーリズムの未来
5-1 社会分野の未来トレンドと未来シナリオ
- 概要 ●社会の変化×ツーリズムのポイント
- サステナビリティーと2つの未来シナリオ
- 日本のソフトパワーと3つの未来シナリオ ほか

5-2 サステナビリティーからリ・ジェネレーションへ（未来トレンド⑤）
- 概要 ●「自分ごと化」の必要性：リ・ジェネレーション
- 自然環境などの破壊にどう向き合うか
- 社会の破壊にどう向き合うか

5-3 日本のソフトパワー活用（未来トレンド⑥）
- 概要 ●基幹産業へと変貌したコンテンツ海外市場
- 独自価値を持つ日本のウエルネス資本
- リアル体験価値の最大化 ほか

5-4 価値観の変化とアナログへの回帰（未来トレンド⑦）
- 概要 ●自己表現と偶発性への志向
- 超ニッチツーリズムの深化

第6章 グローバリゼーションの行方
6-1 海外資本を通じた地域のリデザイン、リブランディング
6-2 地政学リスクで変わる目的地選択と受け皿としての日本
6-3 政治経済とは分断された新たなツーリズム市場の形成

第7章 人口動態と経済構造の変化
7-1 アクティブシニア層の拡大と生涯学習ツーリズムの隆盛
7-2 富裕層シニア向け、超高付加価値旅行市場の形成
7-3 インド巨大市場の台頭
7-4 アンバンドル化の加速と地域のツーリズムビジネスの変化

第8章 AIの進化と社会実装
8-1 AIO時代の本格到来
8-2 AIによるツーリズムビジネスの構造変革とサプライヤーの民主化
8-3 AIエージェントによる旅行体験の超パーソナル化
8-4 AI時代のオペレーション革新と働き方
8-5 リアルタイム完全翻訳による言語障壁の消滅
8-6 観光データの権利化と新たな収益モデルの確立
8-7 「観光AIインテグレーター」の台頭と地域事業者の躍進

第9章 テクノロジーによる体験価値の変化
9-1 アシスティブ技術による「旅行寿命」の延伸
9-2 3Dプリント建築によるマイクロリゾートの増殖
9-3 自動運転による移動の効率化
9-4 ヒューマノイドロボットによるサービスの自動化
9-5 メタバース空間における新たな関係人口・経済圏の創出
9-6 常時接続ARグラスによるリアルタイム情報支援

第10章 気候変動の影響/日本のソフトパワー/アナログへの回帰
10-1 サーキュラーツーリズムが主導する域内循環の向上
10-2 日本の文化資本の世界的浸透と世界の「日本化」
10-3 日本のヘルスツーリズム市場の拡大
10-4 「共感」をターゲットにした超ニッチツーリズムの深化
10-5 セレンディピティー・ツーリズムの再評価

第11章 産業別のインパクト
11-1 自動車/モビリティー
11-2 エレクトロニクス/機械
11-3 建設/インフラ
11-4 IT/通信
11-5 エンターテインメント
11-6 医療/福祉
11-7 小売/流通/卸売
11-8 その他（金融・保険・教育・農林水産）



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-touri-x

グローバルシナリオ2040 全産業編



事業戦略立案に役立つ「3つの未来シナリオ」を提示する

2040年に世界が直面する未来の可能性を示すシナリオ集

40のトピックスに関して、未来の不確実性と新市場の可能性を分析

専門アナリストが、独自のシナリオプランニング手法を駆使

「シナリオカード」で新事業・サービスのアイデアを創出

■ 著者：未来舎
■ レポート：A4判、約350ページ
■ 付録：シナリオカード（A5判、123枚）
■ 2026年2月27日発行予定
■【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20958-3
※書籍のみの販売はありません。

人工知能（AI）、エネルギー技術、医療技術、環境政策、地政学と紛争、働き方、宇宙の商業化… AIの進化や社会の分断、グリーン戦略がもたらす、2040年の新市場を読み解く

本レポートは、2040年に世界が直面する未来の可能性を示すシナリオ集です。各分野の専門アナリストが、世界で起きている様々な事象をベースに専門知識と独自のシナリオプランニング手法を駆使。人工知能（AI）、エネルギー技術、医療技術、環境政策、地政学と紛争、働き方、宇宙の商業化など40のトピックスに関して、①AIを巡る覇権争いと社会の分断による未来を描いた「超知能による覇権競争」、②国家による中央集権が弱まり、地域や都市に分散化が進む未来を描いた「生活圏からの再構築」、③環境関連の取り組みで世界が団結する未来を描いた「グリーン資本主義」の「3つの未来シナリオ」を提示します。また、独自のScanning手法でとらえたシナリオ構築の背景となる数多くの「問い」や不確実性の高い事象による影響を提示し解説します。さらに、レポートの付録として、未来シナリオの概要などを記載した100枚を超える「シナリオカード」を同封しています。こちらを活用して、新たな事業機会の探索、新サービスアイデア創出などのワークショップを展開することができます。未来の不確実性と新市場の可能性を読み解き、経営・事業戦略立案に新たな視点を提供する未来シナリオ集です。



付録のシナリオカードを活用して、有望市場案出などのワークショップを展開することができます。

目次

※目次や内容は変更になる場合があります。

第1章 未来の洞察手法
1-1 未来を予測しない長期戦略立案：シナリオプランニング
●シナリオプランニングとは何か
●なぜ今、シナリオなのか ほか
1-2 外部環境の進展の想定
●シナリオプランニングの行程
●事業環境を変化させる「フォース」の発見 ほか
1-3 シナリオを使った戦略議論
●シナリオを使った三つの強制発想
●強制発想①：現行戦略の強み・弱みの理解 ほか
1-4 Scanning活動のビジネス環境観察視点
●はじめに ●過去の変化が積み上がって「今」がある
●二つの市場観察「Monitoring」と「Scanning」 ほか

第2章 グローバルシナリオ2040：「未来への質問」
2-1 意思決定事項
2-2 「政治・経済」のトピックと問い
●経済と金融 ●グローバリゼーションと貿易
●地政学と紛争 ●中国の影響力 ほか
2-3 社会的優先順位と人々の行動
●働き方 ●職場の自動化 ●日常生活の自動化
●コミュニティと多様性 ●健康とウェルネス ほか
2-4 テクノロジーの進展
●ICTのエコシステム ●人工知能
●ユーザーインターフェース ●先端材料技術 ほか

第3章 四つのトピック
3-1 総論
3-2 日本の少子高齢化
●「日本の少子高齢化」のポイント ●2040年の状態 ほか
3-3 中国の少子高齢化
●「中国の少子高齢化」のポイント ●2040年の状態 ほか
3-4 西ヨーロッパの少子高齢化
●「西欧の少子高齢化」のポイント ●2040年の状態 ほか
3-5 気温上昇
●「気温上昇」のポイント ●2040年の状態 ほか

第4章 ワイルドカード
4-1 総論
4-2 南海トラフ地震
●「南海トラフ地震」のポイント ●発生時の想定 ほか
4-3 首都直下型地震
●「首都直下型地震」のポイント ●発生時の想定 ほか
4-4 富士山の大噴火
●「富士山の大噴火」のポイント ●発生時の想定 ほか
4-5 東アジアにおける大規模な軍事衝突
4-6 国際的な大規模パンデミック
●「国際的な大規模パンデミック」のポイント ほか

第5章 グローバルシナリオ2040①：超知能による覇権競争
5-1 超知能による覇権競争の総論
●はじめに ●SS:概論
●SS:政治・経済/都市化/スマートシティ/GX
●SS:働き方/日常生活/高齢化/ヘルスケア/環境意識
●SS:テクノロジー/ブロックチェーン/量子技術/暗号技術
5-2 政治・経済情勢
●SS:経済と金融 ●SS:グローバリゼーションと貿易
●SS:地政学と紛争 ●SS:中国の影響力 ほか
5-3 社会的優先順位と人々の行動
●SS:働き方 ●SS:職場の自動化
●SS:日常生活の自動化 SS:コミュニティと多様性 ほか
5-4 テクノロジーの進展
●SS：ICTのエコシステム ●SS：人工知能
●SS：ユーザーインターフェース ●SS：先端材料技術
●SS：ロボットとドローン ●SS：スマートセンサーとIoT ほか

第6章 グローバルシナリオ2040②：生活圏からの再構築
6-1 生活圏からの再構築の総論
●はじめに ●DR:概論 ●DR：政治・経済/スマートシティ/グリーンエネルギー/循環型経済 ほか
6-2 政治・経済情勢
●BR:経済と金融 ●BR:グローバリゼーションと貿易
●BR:地政学と紛争 ●BR:中国の影響力 ほか
6-3 社会的優先順位と人々の行動
●BR:働き方 ●BR:職場の自動化
●BR:日常生活の自動化 ●BR:コミュニティと多様性 ほか
6-4 テクノロジーの進展
●BR:ICTのエコシステム ●BR:人工知能
●BR:ユーザーインターフェース ●BR:先端材料技術 ほか

第7章 グローバルシナリオ2040③：グリーン資本主義
7-1 グリーン資本主義の総論
●はじめに ●GC:概論
●GC:政治・経済/中国と新興国/化石燃料/循環型経済 ほか
7-2 政治・経済情勢
●GC:経済と金融 ●GC:グローバリゼーションと貿易
●GC:地政学と紛争 ●GC:中国の影響力 ほか
7-3 社会的優先順位と人々の行動
●GC:働き方 ●GC:職場の自動化
●GC:日常生活の自動化 ●GC:コミュニティと多様性 ほか
7-4 テクノロジーの進展
●GC:ICTのエコシステム ●GC:人工知能
●GC:ユーザーインターフェース ●GC:先端材料技術 ほか

第8章 シナリオカードを用いた未来ワーク①
8-1 総論
●シナリオカードの狙い
8-2 脅威確認ワークショップ
●ワークショップ全体の流れ ●ワークショップの準備
●ワークショップ当日 ●事後作業
8-3 有望市場案出ワークショップ
●ワークショップ全体の流れ ●ワークショップの準備
●ワークショップ当日 ●事後作業
8-4 有望市場選択ワークショップ
●ワークショップ全体の流れ ●ワークショップの準備
●ワークショップ当日 ●事後作業

第9章 シナリオカードを用いた未来ワーク①
9-1 シナリオカードのカスタマイズ
●カスタマイズの必要性と利点
9-2 シナリオ追加トピックスの作成方法
●意思決定事項設定とシナリオカード選択
●意思決定事項への影響と「もっと知りたいこと」
●追加トピックの質問構成 ●未来の状況記述

第10章 シナリオカード一覧
10-1 シナリオカードについて
●シナリオカードの種類
10-2 超知能による覇権競争のシナリオカード
●シナリオ概論カードA ●政治・経済情勢① ほか
10-3 生活圏からの再構築のシナリオカード
●シナリオ概論カードA ●政治・経済情勢① ほか
10-4 グリーン資本主義のシナリオカード
●シナリオ概論カードA ●政治・経済情勢① ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-ppgs-x

テクノロジー・ロードマップ
2026-2035 全産業編

今後10年間の「市場の姿」「登場する商品」「支える技術」を見通す



世界や日本の全体潮流を展望し、10年後の「市場(顧客や社会)」の期待を明確に描く

市場ニーズに合う「商品機能」を定義、10年間で登場する商品を提示する

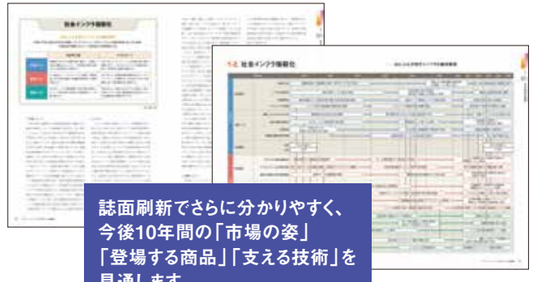
市場ニーズに合う商品やサービスの実現に必要な「技術」と10年間の進化を展望

未来が一目で分かるように10年後の姿とそこに至るマイルストーンを明記

■ 著者:出川通ほか97名
■ レポート:A4判、614ページ
■ 2025年10月31日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20887-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20889-0

刊行13年目の全面刷新。さらに分かりやすく、132の市場ニーズと商品・技術の進化を展望

「市場ニーズ」を展望し、それらを満たす「商品機能」を見出し、その機能を実現するための「技術」を提示する。『テクノロジー・ロードマップ　全産業編』はこのアプローチで、重要な技術テーマについて、今後10年進化していく「市場」「商品」「技術」の姿を展望しています。2013年の刊行以来、毎年アップデートを続け、これまでに2000を超える企業や研究機関に活用いただいています。今回、書式を刷新しました。未来像が一目で分かるように、市場・商品・技術の10年後の姿とそこに至るマイルストーンを明記した図版をすべてのテーマに入れています。取り上げる技術テーマ数は132。サプライチェーンBCM、社会インフラ強靱化、住宅のリスクガバナンスなどを加えます。
テーマの見直しと同時に、AIなど新技術の進展と実装を踏まえ、各テーマのロードマップをすべて改訂しています。「第1部　未来課題・業際編[ソーシャル・イノベーション]」では、社会や経済、環境あるいは人間そのものについてイノベーションを起こすテーマを取り上げ、「第2部　業種・業界編[インダストリー・イノベーション]」では「モビリティー」「医療」「健康」「ロボット」「エレクトロニクス」「情報通信」「材料/製造」「金融」などの業界でイノベーションを起こすテーマを選んでいます。技術系企業が競争優位に立つための戦略ツールとしてぜひ、ご活用ください。



誌面刷新でさらに分かりやすく、今後10年間の「市場の姿」「登場する商品」「支える技術」を見通します。

最新刊

目次

序章 「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法

第1部 未来課題・業際編[ソーシャル・イノベーション]

第1章 社会・経済安全保障
サプライチェーンBCM／社会インフラ強靭化／住宅のリスクガバナンス／安心・安全スーパーシティ／防災DX／人流データ活用(ロケーション・インテリジェンス)／台風制御/台風発電／サイバーセキュリティー／宇宙インフラストラクチャー／トレーサビリティー

第2章 ネイチャーポジティブ
インパクト情報管理／食の安心・安全／代替フード／環境保全型農業／サーキュラーエコノミー／森林産業

第3章 グリーンイノベーション
核融合エネルギー／有機系太陽電池／全固体電池

第4章 ヒトの能力拡張
AIとヒトの協働／変革(ゼロイチ)人材育成／リカレント教育／ウェルビーイング経営／エンゲージメント／シニア・ウェルビーイング

第5章 エンターテインメント
ITスポーツ／自由視点映像／観光地域づくり／シェアリングエコノミー／Web3.0/Web4.0／エンタメテック／香りビジネス／ブレインマーケティング

第6章 DX
デジタルツイン／自治体DX／製造DX／物流DX／マーケティングDX／デジタルID／教育とICT(EdTech)

第7章 無人化/省人化
熟練者の技のデジタル伝承／遠隔地からの業務遂行(遠隔オペレーション)／業務の自動化と自律化

第8章 時空/意識の超越
VR/メタバースの世界／基盤化するメタバース／生活を支えるAIエージェント／AIとの協調・融合による認知拡張／次世代インタフェース(新世代VR)／サイバーフィジカルな現実を生きる／メタバース内で生きる

第2部 業種・業界編[インダストリー・イノベーション]

第9章 モビリティー
eモビリティー時代の新基幹技術／空間伝送型ワイヤレス給電／スマートモビリティー／AIとモビリティー／遠隔運転／パーソナルモビリティー／空飛ぶクルマ／HEV/PHEV/BEV／ワイヤレス給電(EV/PHEV)／電化道路(走行中ワイヤレス給電)／ADAS-PM

第10章 医療
AIと医療／先制医療／機能補完/拡張医療／遺伝子解析医療／ゲノム編集／がん医療(予防・診断・治療)／在宅医療／遠隔医療/オンライン診療/デジタル療法／スマート治療室／先進医療機器

第11章 健康
未病対策・個別化予防／予防医療／見守り/宅内外センシング／認知症対策／AIプロテオミクス／ウイルス検査／体内時計とサーカディアンリズム／非侵襲型生体センサー

第12章 ロボット
ロボットフレンドリーシティ／コミュニケーションロボット／介護ロボット／協働ロボット／配達ロボット／ソフトロボティクス／新世代スマートコンパニオン

第13章 エレクトロニクス
次世代パワー半導体／次世代パワーエレクトロニクス／ヘッドマウントディスプレイ／ウエアラブル/ペースタブル／パーソナルセーフティー

第14章 情報通信
量子コンピューター／E4I(Edge for Industries)／次世代放送／ホームメンテナンス／プライベート5G／超高速無線通信／スマホ衛星通信

第15章 材料/製造
マテリアルズ・インフォマティクス／生分解性プラスチック／AIロボット駆動型ものづくり／スマートセル・バイオものづくり／3Dアディティブ・マニュファクチャリング(3D-AM)／Internet of Tools

第16章 金融
ブロックチェーン／株価予測／クレジットスコアリング／個人資産運用

第17章 農業/食品工業
健康食品／AgriFood Tech／細胞農業／バイオエコノミー／スマート農業／アグロメディカルフーズ

第18章 社会インフラ
気象・微気象情報インフラ／水素・アンモニア産業／電力産業／ガス・メタネーション産業／運輸・交通産業／水ビジネス産業

第19章 航空宇宙
軌道上サービス／宇宙居住技術／宇宙コンテンツ／超音速旅客機／太陽系探査／小型衛星／リモートセンシング／測位衛星システム／ロケット／スペースコマース／新世代ドローン(無人機)／グリーン旅客機



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-trall-x

テクノロジー・ロードマップ2026-2035 AI/ICT融合新ビジネス編

AI時代に生まれる新ビジネスの未来を見通す



パーソナルデータの活用を中心に、イノベーションを起こす50テーマを選定

10年後の「市場ニーズ」を提示し、市場レベルの未来像を明確化

市場ニーズに合わせた「商品機能」を定義、商品レベルの未来を提示

商品機能を実現するための「技術」を提示し、技術の進化を予測

■ 著者：緒方 真一 ほか50名
■ レポート：A4判、254ページ
■ 2026年2月13日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20890-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20892-0

「社会基盤」「マーケティング・広告」「医療・ヘルスケア」「教育」「経営・労働」「金融」「製造業」…様々な領域で生まれる新ビジネスを展望

『テクノロジー・ロードマップ2026-2035 AI/ICT融合新ビジネス編』は、AI（人工知能）の時代に生まれる新たなビジネスの将来像を見通すレポートです。AI活用の成否はAIに読ませるデータの種類・質・量にかかっています。本レポートは特にパーソナルデータの活用に注目し、「社会基盤」「マーケティング・広告」「医療・ヘルスケア」「教育」「経営・労働」「金融」「製造業」といった領域で生まれる新ビジネスに関する50テーマを取り上げます。各テーマについて今後10年間の「市場ニーズ」を展望し、ニーズを満たす「商品機能」を明確にし、機能を実現する「技術」の進展を展望します。パーソナルデータに注目するのは新ビジネスを生み出す期待が高いからです。個人が特定できない形でパーソナルデータの利用を促進するサービスや法制度が整いつつあります。新ビジネスの成否は技術に加え、社会すなわち個人と事業者の意向に大きく左右されます。そこでAIとパーソナルデータの利用に関するビジネスパーソン向けアンケートを実施、その結果を収録、利用者の意向も含めて今後10年を展望します。



今後10年間の「市場ニーズ」を展望し、ニーズを満たす「商品機能」を明確にし、機能を実現する「技術」の進展を展望します。

目次

序章 総論：データ活用とビジネス

第1章 基盤・社会インフラ
あらゆるデータ活用のための社会基盤が整備され、ハードインフラの整備や運用にもデータやAIの活用が進む。データ活用に向け、あらゆるものや人にIDを付与するデジタルIDが進む。これらのデータとAIの活用により、新事業創出や人間の新しい可能性が開かれる。
1-1 政府DX（AI政府）
1-2 インフラとAI
1-3 次世代社会インフラとIT
1-4 デジタルID
1-5 人流データ活用（ロケーション・インテリジェンス）
1-6 データ取引市場
1-7 データ連携

第2章 持続可能な地域社会
人口減少や少子高齢化といった地域社会の課題解決に向け、効率化や価値創出につながるデータ活用がそれぞれの地域に合わせた形で進む。そのベースとなる地域社会のDXのほか、地域交通をはじめとしたモビリティーや災害対応、不動産などにもデータやAIの活用が不可欠となる。
2-1 地域社会のDX
2-2 地域モビリティー
2-3 地域生活プラットフォーム
2-4 防災DX
2-5 価値多元化時代の不動産テック
2-6 インフラ老朽化対策

第3章 生活・消費者
それぞれの生活者の利便性や暮らしやすさ、ウェルビーイングにつながるデータやAI、ロボットの活用が進む。生活者や消費者の個人のデータを本人の判断に合わせて活用する。サイバー空間と現実空間の区別がシームレスとなり、誰もがAIを自在に使いこなし、個人の能力を十分に発揮できる世界が到来する。
3-1 ホームセキュリティー
3-2 見守り/宅内外センシン
3-3 生活を支えるAIエージェント
3-4 AIとの協調・融合による認知拡張
3-5 サイバーフィジカルな現実を生きる
3-6 フィジカルAIの活用による身体拡張
3-7 アシスティブテクノロジー（生活支援技術）
3-8 共生ロボット

第4章 マーケティング・広告・メディア
AIが顧客の感情や行動を予測し、最適な広告を自動生成するほか、AIエージェントが自律的に最適解を探す。ブレインマーケティングが一般化し、感情に訴えかける広告が主流に。SNSの進化はコミュニケーション・経済活動・情報流通の多様化・多機能化を促進する。
4-1 アダプティブマーケティング
4-2 マーケティングDX
4-3 ブレインマーケティング
4-4 マルチモーダル広告
4-5 没入型メディア
4-6 次世代SNS

第5章 医療・ヘルスケア
診療情報や日常データも含むデータ基盤の整備が進み、データやAIの活用により、患者個人にあった医療の提供が進むほか、医療機関の経営や地域医療の持続性にもつながる。日常の健康管理でもこれらのデータ活用が進み、医療にかかる前に健康を保つヘルスケア市場が大きく拡大する。
5-1 医療データ活用
5-2 医療機関のDX
5-3 AIで支える地域包括医療
5-4 医療LLM
5-5 ゲノム医療
5-6 ニューロテック
5-7 予防医療
5-8 Healthcare as a Service（HaaS）
5-9 ウェルネスタウン

第6章 教育
個人の学習情報などのデータ活用により、教育現場では誰もが自分に合った教育を受けられるようになる。AIを活用した学習サービスの提供が進む。学習歴やスキルのデジタル資格証明の普及により、国や地域を超えた学びや転職などもスムーズになる。
6-1 教育とAI
6-2 教育データ利活用
6-3 学術資格やスキル証明のデジタル化

第7章 経営・労働
労働力不足や高効率化への要望を背景に、製造業を中心にデータやAI、ロボットを活用した業務の自動化・自律化や、熟練者の技能のデジタル伝承などが進む。AIエージェントの活用などで、従業員のウェルビーイング向上の支援が進展する。
7-1 ウェルビーイング経営
7-2 熟練者の技のデジタル伝承
7-3 業務の自動化と自律化

第8章 金融
AI活用により金融市場を予測、最適な投資戦略を自動生成したり、リスクを管理し、安定的な資産運用を支援したりする動きが加速する。AIによるクレジットスコアリングが、個人の信用力を正確に評価する。
8-1 資産運用とAI
8-2 自律的金融エンタープライズAI
8-3 クレジットスコアリング

第9章 農業・製造業
人手不足や世界情勢の転換を背景に、データとAIを活用した生産性向上と供給網の強靭化が進む。AIとロボットの組み合わせによる、協調型ロボット基盤が進む。製造業ではPoint of Use（使用時点）情報のニーズが高まり、センシングやネットワークも組み合わせてデータ活用が進む。
9-1 スマート農業とデータ活用
9-2 スマートものづくり
9-3 製造とAI
9-4 意思駆動型ロボティクス
9-5 POUプラットフォーム

第10章 AIとパーソナルデータ利活用調査
AIの進展は早く今後10年の予測は難しいが、現時点のユーザーやビジネスパーソンの意見から、今後の方向が見えてくることもある。そこで、AIとパーソナルデータ利活用の現状と未来展望についてアンケート調査を行った。
10-1 AIとパーソナルデータ利活用調査の概要
10-2 パーソナルデータを提供する個人の立場としての姿勢や考え方
10-3 勤務先でのパーソナルデータ利活用
10-4 AIとパーソナルデータ利活用の課題と法制度
10-5 AIとパーソナルデータ利活用の未来展望



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-trict-x

未来調査 2026-2030 全産業編

経営者や次世代リーダー中心に5年半・55回・延べ3.9万人を徹底調査



「事業開発、商品企画、技術開発」戦略立案に役立つエビデンス集

「生成AI活用像」など、ビジネスシーンで関心の高いテーマを分析

「5年後の未来に関する調査」を分析した「5年後のビジネス」を解説

豊富なビジュアルデータを組み合わせて、「未来に向けたエビデンス」を提示

■ 監修：日経BP 総合研究所 未来ビジネス調査チーム
■ レポート：A4判、558ページ
■ 2026年1月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20953-8
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20955-2

生成AI、インドシフト、地政学リスク、賃上げ動向など122テーマを総力分析

36.3%――。今後5年間に生成AIを活用したビジネスを新規に立ち上げる予定はあるかとの調査質問に対して、「すでに立ち上げた」「立ち上げを準備・検討している」「立ち上げる可能性がある」のいずれかの回答をした人の割合です。生成AIが社内利用のみならず、顧客向けビジネスにおける活用も着々と進む“少し先の未来”が見えてきます。『未来調査2026-2030 全産業編』は、日経BP総合研究所の独自調査プロジェクト「5年後の未来に関する調査」をベースに分析したビジネスの未来像を豊富に掲載。今回の特集は「5年後の『生成AI活用』とテクノロジー」です。ビジネス立ち上げ意向のほか、作りたいコンテンツ、利用の課題など、5年後の生成AI活用像を浮き彫りにします。ほかにもインドシフトやカーボンニュートラル、地政学リスク、賃上げ動向、人材戦略など、122テーマの未来を読み解いています。そのベースは5年半・55回にわたり次世代リーダーを中心として延べ3.9万人に聞いた調査と、定量的・客観的な独自分析です。社会が不連続に変化するなか、企業経営、新事業や新商品、技術開発を取り巻く環境はどう変わっていくのか。400点を超える豊富なビジュアルデータを組み合わせて、「未来に向けたエビデンス」を提示します。



事業戦略立案や新規事業開発の推進で必要となる「未来のエビデンス（客観的な裏付け）」を網羅

最新刊

目次

第1章 総論
1-1 全体概要 ●はじめに ●「未来調査2026-2030 全産業編」の構成
1-2 「未来調査2026-2030 全産業編」のサマリー ●5年後の『生成AI活用』とテクノロジー ●世界のビジネス環境 ほか

第2章 特集：5年後の『生成AI活用』とテクノロジー
2-1 概論
2-2 顕在化する生成AIの課題
2-3 生成AI普及時に求められる人材像
2-4 生成AIで進化するビジネス
2-5 生成AI活用の未来
2-6 生成AIが淘汰するビジネスと加速するビジネス

第3章 世界のビジネス環境
3-1 概論 ●世界全体 ●日本／米国／欧州 ほか
3-2 世界全体 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
3-3 日本 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
3-4 米国 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
3-5 欧州 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
3-6 中国 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
3-7 新興国 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか

第4章 海外サプライチェーンとインドシフト
4-1 概論 ●全体概要 ●海外販売拠点 ●海外生産拠点 ほか
4-2 海外販売拠点 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
4-3 海外生産拠点 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
4-4 海外拠点として注目のインド ●5年後の未来 ほか
4-5 中国企業との取引と中国本土でのビジネス ●5年後の未来 ●社会の動き ●未来に向けたエビデンス
4-6 中国本土における生産拠点の撤退 ●5年後の未来 ほか

第5章 産業の成長と減退
5-1 概論 ●業界全体 ●製造業 ●建設/不動産/エネルギー ほか
5-2 製造業 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
5-3 建設/不動産/エネルギー ●5年後の未来 ほか
5-4 物流・運輸/小売/卸売・商社 ●5年後の未来 ほか
5-5 IT/通信 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
5-6 金融/教育/医療・福祉 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
5-7 旅行・観光/エンターテインメント ●5年後の未来 ほか
5-8 産業が成長する理由、減退する理由 ●概要 ●産業が成長する理由 ●産業が減退する理由

第6章 企業を取り巻く課題と取り組み
6-1 概論 ●注目のビジネスキーワードへの期待 ほか
6-2 注目のビジネスキーワードへの期待 ●5年後の未来 ほか
6-3 シェアリングサービスの成長 ●5年後の未来 ほか
6-4 サブスクモデルの台頭 ●5年後の未来 ほか
6-5 デジタルインフラと新規設備への投資 ●5年後の未来 ほか
6-6 研究開発への投資 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
6-7 新規事業/マーケティングへの投資 ●5年後の未来 ほか
6-8 円安がビジネスに与える影響 ●5年後の未来 ほか
6-9 円安をプラスにする施策 ●5年後の未来 ほか

第7章 人材戦略
7-1 概論 ●中途採用と人材流動の本格化 ほか
7-2 人材不足と求められる人材像 ●5年後の未来 ほか
7-3 中途採用と人材流動の本格化 ●5年後の未来 ほか
7-4 ダイバーシティー経営 ●5年後の未来 ほか
7-5 人材のダイバーシティー化における課題
7-6 企業向けウェルビーイングビジネス動向 ●5年後の未来 ほか
7-7 メンタルヘルスとウェルビーイング ●5年後の未来 ほか
7-8 国内における賃上げの本格化と期待 ●5年後の未来 ほか
7-9 賃金の上昇とモチベーション ●5年後の未来 ほか
7-10 トランプ関税と賃上げ動向 ●概要 ●プラス効果への期待 ほか

第8章 働き方/生活の変化
8-1 概論 ●テレワークの未来 ●オフィススペースの未来 ほか
8-2 テレワークの未来 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
8-3 オフィススペースの未来 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
8-4 働き方の多様化 ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
8-5 業務のリモート/ オンライン化動向と課題
8-6 業務のリモート/ オンライン化による生産性向上

第9章 都市のインフラとインバウンドビジネス
9-1 概論 ●都市化の進展と街のインフラ ほか
9-2 都市化の進展と5年後に住む場所 ●5年後の未来 ほか
9-3 街のインフラ ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
9-4 スマートシティとビジネス ●5年後の未来 ほか
9-5 インバウンドとオーバーツーリズム ●5年後の未来 ほか

第10章 カーボンニュートラルとサステナビリティー経営
10-1 概論 ●カーボンニュートラル実現へ向けた取り組みと目標 ほか
10-2 カーボンニュートラルへの取り組みとサーキュラーエコノミー ●5年後の未来 ほか
10-3 カーボンニュートラル目標達成時期 ●5年後の未来 ほか
10-4 カーボンニュートラルへの取り組みと変化の予兆
10-5 カーボンニュートラル推進における障壁とGX対策
10-6 グリーンエコノミーへの期待 ●5年後の未来 ほか
10-7 米国による環境・エネルギー政策の方針転換の影響
10-8 ESGへの取り組み ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
10-9 ソーシャルビジネスの取り組み ●5年後の未来 ほか
10-10 ソーシャルビジネス成長の障害 ●概要 ほか

第11章 地政学リスクと経済安全保障
11-1 概論 ●地政学リスク ●経済安全保障と法整備の影響 ほか
11-2 地政学リスク ●5年後の未来 ●社会の動き ほか
11-3 経済安全保障への取り組み ●5年後の未来 ほか
11-4 経済安全保障において重視する分野 ●5年後の未来 ほか
11-5 経済安全保障関連の法整備による影響 ●5年後の未来 ほか
11-6 経済安全保障にまつわる課題 ●概要 ほか

第12章 世界を変える100のテクノロジー
12-1 テクノロジー総論 ●テクノロジー100選 ほか
12-2 AI（人工知能）
12-3 エレクトロニクス・モビリティー
12-4 環境・エネルギー
12-5 IT・通信
12-6 建築・土木
12-7 メディカル・バイオ・食農
12-8 ライフスタイル・ワークスタイル

第13章 産業別の未来調査
13-1 自動車
13-2 エレクトロニクス
13-3 素材・材料
13-4 建設・不動産
13-5 IT・通信
13-6 物流・運輸/流通
13-7 医療・福祉

■付録・調査概要
付1.「5年後の未来に関する調査」全体像と概要（第47～55回）
付2.「5年後の未来に関する調査」の概要（第1～46回）
付3.「5年後の未来に関する調査」グラフ 集計サンプル数 一覧



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-rsc-x

未来調査2026-2035
先端テクノロジー編

多様な背景の技術専門家が分野の垣根を超えて分析



**技術調査に強みを持つ
リンカーズと日経BP
総合研究所の共同調査**

**先端テクノロジーの現在と
中長期の可能性を探る
エビデンス素材集**

**専門家の視点で「インパクト」
「課題解決力」「市場性」
「成熟度」を評価**

**「10年後の未来」
「技術開発や社会の動向」
「未来に向けたエビデンス」を分析**

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、416ページ
■ 2025年12月12日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20884-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20886-9

宇宙、モビリティー、医療・健康、AIなど47件の先端テクノロジーの10年後を総力調査

『未来調査2026-2035 先端テクノロジー編』は、素材や医療、エレクトロニクス、バイオ、機械など、様々な専門分野のバックグラウンドを持つ約100人の技術専門家が分野の垣根を超えて47件の先端テクノロジーを分析し、10年後の未来を見通すエビデンス素材集です。技術調査に強みを持つリンカーズと日経BP 総合研究所の共同調査で、先端テクノロジーの現在と中長期の可能性を詳細に探ります。「宇宙・地球・環境」「都市・交通・モビリティー」「医療・健康・食」など6分野・47件の注目度が高い先端テクノロジーをピックアップし、専門家の視点で評価した「インパクト」「課題解決力」「市場性」「成熟度」などをベースに、「10年後の未来」「技術開発や社会の動向」「未来に向けたエビデンス」「技術の未来に期待する理由」を分析。不連続に変化し、先行きが見えない社会の中で、先端テクノロジーの今、そして将来像はどう変化しているのか。調査に基づく約400の豊富なビジュアルデータと合わせて立体的に提示します。特定分野の専門視点はもちろん、分野の垣根を超えた様々な専門家による評価で、従来とは異なる角度の新たな視点で10年後の未来を描きます。



分野の垣根を超えた様々な
専門家による評価で、
従来とは異なる角度の新たな視点で
10年後の未来を描きます。

目次

第1章 全体概要
1-1 総論
1-2 47テクノロジーの選定と概観
1-3 回答者のプロフィールと調査の概要
1-4 先端テクノロジーの評価手法
1-5 エグゼクティブサマリー

第2章 先端テクノロジーと未来調査
2-1 集合知とテクノロジーの評価
2-2 総合評価と2035年の未来像
2-3 技術成熟度から見る2035年の社会
2-4 今後10年で取り組むべき社会課題
2-5 先端テクノロジーの類型化

第3章 宇宙・地球・環境
3-1 概論
3-2 カーボンリサイクル合成燃料
3-3 人工光合成
3-4 長距離エネルギー伝送
3-5 繰り返し使用可能なロケット
3-6 CCUS
3-7 ブルーカーボン吸収強化技術
3-8 低重力資源採掘ロボット/ISRU技術
3-9 衛星リモートセンシング
3-10 複合・混合素材の完全リサイクル

第4章 都市・交通・モビリティー
4-1 概論
4-2 自動運転
4-3 デジタルツイン都市
4-4 AR/VRによる遠隔空間体験
4-5 極限環境モビリティー
4-6 空飛ぶクルマ
4-7 スマートインフラ
4-8 高精度ローカリゼーション

第5章 医療・健康・食
5-1 概論
5-2 バイオセンシング
5-3 再生医療
5-4 合成生物学
5-5 マイクロバイオーム応用医療
5-6 ナノ医療
5-7 培養肉/細胞農業
5-8 個別化予防医薬
5-9 ワクチンプラットフォーム

第6章 生活・労働
6-1 概論
6-2 HMI/BMI
6-3 アバター労働/遠隔存在技術
6-4 身体拡張ウエアラブル
6-5 ヒューマノイドロボット
6-6 パーソナルAIエージェント
6-7 メタバース空間による労働・教育変革
6-8 バーチャルファッション/身体表現拡張

第7章 情報・通信・AI
7-1 概論
7-2 量子コンピューター
7-3 大気圏内光通信
7-4 汎用人工知能
7-5 分散型省電力AI基盤技術
7-6 マルチモーダル生成AI
7-7 フォトニクスプロセッサー
7-8 脳型AI
7-9 情報セキュリティー基盤技術

第8章 エネルギー
8-1 概論
8-2 小型モジュール炉/核融合発電
8-3 パワー半導体
8-4 全固体蓄電池
8-5 燃料電池
8-6 熱電変換/廃熱発電
8-7 仮想発電所
8-8 長寿命・高出力蓄電池
8-9 高温超伝導送電

第9章 産業別のインパクト
9-1 自動車
9-2 エレクトロニクス・機械
9-3 素材・化学
9-4 資源・エネルギー
9-5 医療・健康
9-6 ICT
9-7 小売り・物流
9-8 金融
9-9 建設・不動産
9-10 食品・農業



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-rese-x

世界水素ビジネス未来戦略

水素利活用640社・意向調査、コスト低減への道筋、市場規模、水素ビジネス・エコシステム 日経225企業分析



水素利活用・事業参入の実態・意向調査

640社の回答から解き明かす、
水素ビジネスの課題と展望

水素ビジネス市場規模推計
（2030年、2040年、2050年）

「機器・設備」「ソリューション」「環境価値」の
3市場について推計

水素「コストの壁」の本質と突破口

電力コスト、設備投資、インフラ別に
コストの壁を突破するポートフォリオ戦略を提示

水素ビジネス・エコシステム分析 日経225企業全調査

水素ビジネスへの関わり方と「本気度」を分析、
日経225企業をマッピング

■ 編集：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、612ページ
■ 2025年11月25日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20909-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20911-8

水素の社会実装は、どう進むのか？ 水素ビジネスの可能性を徹底検証

水素は、新たな成長機会の主役であり、未来の産業地図を塗り替える力を秘めています。しかし、市場の立ち上がりが見えないことで「このまま攻めるか、退くか」、新たな参入や利活用を進めるべきかどうかの判断に悩む企業も多いことでしょう。本レポートは、水素ビジネスに成長機会を見出したい企業に向けて、客観的なデータからその可能性について考察したものです。

●水素利活用、事業参入の実態・意向調査（640社が回答）
●市場規模推計（2030年、2040年、2050年）
●水素「コストの壁」の本質と突破口
●水素ビジネス・エコシステム分析（日経225企業全調査）
●世界の先端プロジェクト分析――成功と失敗に学ぶ

これらの観点から、自社の強みを生かせる事業領域と参入の好機を見定め、勝機を探り捉えるために役立つ、実践的な情報提供を目指しました。
まず、「水素利活用の意向調査」では回答企業640社の水素利活用にあたっての課題や活用意向などユーザー動向を分析。事業参入への関心、意向も調査しています。「水素ビジネス市場規模推計」では、2050年までの日本の水素市場について、成長する領域とタイミングを可視化しました。
また、「水素ビジネス・エコシステム分析」では、日経225企業を4グループ・16セクターに分類、独自分析し、企業間の連携や共創の可能性を解き明かしています。さらに、コストの課題を分析、価格差支援などの政策を追い風に、いつ、どのような投資判断を下せば採算ラインを越えられるのか。その実践的な解を共有します。
本レポートを、水素ビジネスの次の5年を照らす「道しるべ」としてご活用ください。

目次

第0章 エグゼクティブサマリー
水素が創る世界604兆円・日本28.5兆円市場：その構造と事業機会

第1章 水素利活用の実態・意向調査
640社の回答から解き明かす課題と展望
1-1 アンケート結果が示す、水素ビジネスの「壁」と「勝機」
1-2 アンケートの狙いと実施方法、回答者属性
1-3 水素利用に向けた取り組みと意欲
1-4 活用シーン別の水素利用に向けた取り組みと意欲
1-5 水素関連ビジネスの推進に向けた取り組みと意欲
1-6 水素の利用者及び関連事業者の見地からの水素活用促進のポイント

第2章 水素ビジネス・エコシステム分析
日経225企業①エネルギー転換と素材革命の中核企業群
2-1 本章の構成と分析アプローチ
2-2 公益事業セクターにおける水素戦略の多角的分析
2-3 化学セクターにおける水素戦略の多角的分析
2-4 鉄鋼・非鉄金属セクターにおける水素戦略の多角的分析
2-5 その他製造セクターにおける水素戦略の多角的分析
【分析対象企業】
東京電力ホールディングス、東京ガス、INPEX、出光興産、信越化学工業、旭化成、東海カーボン、資生堂、日本製鉄、DOWAホールディングス、帝人、TOPPANホールディングス、AGC ほか

第3章 水素ビジネス・エコシステム分析
日経225企業②水素社会を実装する技術企業群
3-1 本章の構成と分析アプローチ
3-2 機械セクターにおける水素戦略の多角的分析
3-3 エレクトロニクスセクターにおける水素戦略の多角的分析
3-4 自動車・輸送用機器セクターにおける水素戦略の多角的分析
3-5 精密機器・オフィス機器セクターにおける水素戦略の多角的分析
【分析対象企業】
三菱重工業、小松製作所、ダイキン工業、日本精工、東芝、富士通、SMC、ルネサス エレクトロニクス、村田製作所、デンソー、ヤマハ、トヨタ自動車、いすゞ自動車、ブリヂストン、SCREENホールディングス ほか

第4章 水素ビジネス・エコシステム分析
日経225企業③社会基盤を構築する連結企業群
4-1 本章の構成と分析アプローチ
4-2 建設・不動産セクターにおける水素戦略の多角的分析
4-3 運輸セクターにおける水素戦略の多角的分析
4-4 総合商社セクターにおける水素戦略の多角的分析
4-5 小売・食品・医薬品セクターにおける水素戦略の多角的分析
【分析対象企業】
大林組、日揮ホールディングス、大和ハウス工業、コムシスホールディングス、三井不動産、日本郵船、東日本旅客鉄道、ANAホールディングス、三井物産、サントリーホールディングス、ニッスイ ほか

第5章 水素ビジネス・エコシステム分析
日経225企業④変革を促す触媒・支援企業群
5-1 本章の構成と分析アプローチ
5-2 金融・情報セクターにおける脱炭素化支援戦略の分析
5-3 保険セクターにおける水素戦略の多角的分析
5-4 情報通信セクターにおける水素戦略の多角的分析
5-5 サービスセクターにおける水素戦略の多角的分析
【分析対象企業】
三菱UFJフィナンシャル・グループ、日本取引所グループ、東京海上ホールディングス、第一生命ホールディングス、野村総合研究所、日本電信電話、電通グループ、東宝 ほか

第6章 水素の社会実装・進展シナリオ
構造変化と経営課題
6-1 はじめに：技術開発主導から社会実装主導への転換
6-2 日本の水素戦略は「フェーズ2」へ
6-3 アジェンダ①：「ESG経営」の終わりと「ネットゼロ経営」の始まり
6-4 アジェンダ②：残された時間と事業判断の重要性
6-5 アジェンダ③：「外圧」の「内圧（成長戦略）」への転換
6-6 アジェンダ④：水素の位置付け：「万能薬」ではなく「最後の切り札」
6-7 アジェンダ⑤：国の役割の変化：「補助金」から「市場創造」へ
6-8 アジェンダ⑥：フェーズ2の鍵となる「需要創造」
6-9 結論：日本企業に求められる視点

第7章 企業に迫る4つの外部圧力と構造分析
「政策」「BtoBサプライチェーン」「BtoCブランド競争」「資本市場」
7-1 はじめに：四層構造の圧力と経営環境の変化
7-2 第1の圧力：政策―国境を越える「炭素コスト」の現実
7-3 第2の圧力：BtoBサプライチェーン―取引継続の条件としての脱炭素
7-4 第3の圧力：BtoCブランド競争―ネットゼロへの「物語」を求める市場
7-5 第4の圧力：資本市場―「ESG」を超えた資本の論理
7-6 結論：圧力構造の理解と経営変革の必要性

第8章 世界の先端プロジェクト分析
需要創出と成長戦略
8-1 はじめに：なぜ今、「需要創出」が決定的な一手なのか
8-2 世界の成功モデルから学ぶ「需要創出」の4つの型
8-3 失敗の教訓：「需要の質」を見誤った戦略の罠
8-4 結論：成功の鍵は「需要の戦略的創出」にあり
8-5 【補足分析】プロジェクト評価と日本の現在地

第9章 水素「コストの壁」の本質と突破口
大規模・集中と小規模・分散を組み合わせるポートフォリオ戦略
9-1 はじめに：水素社会の「踊り場」と構造的課題
9-2 水素サプライチェーンの現在地：輸入と国内製造
9-3 2025年のコスト：小規模モデルの高コスト要因分析
9-4 2030年のコスト：大規模モデルと政策支援の効果
9-5 2040年の目標：LNGパリティ達成への道筋
9-6 国内流通網の課題：パイプライン整備のボトルネック
9-7 既存戦略の課題と「第3の道」の可能性
9-8 需要サイドの開拓：セクター別ユースケースの分析
9-9 総括：水素社会の「構造的課題」とポートフォリオ戦略
9-10 結論：コストの壁を越えるための戦略的提言

第10章 水素ビジネス市場規模推計
（2030年、2040年、2050年）
10-1 推計する市場の項目と推計結果の位置付け
10-2 機器・設備市場の推計
10-3 ソリューション市場の推計
10-4 環境価値市場の推計
10-5 機器・設備・ソリューション・環境価値、それぞれの潜在市場から見た水素活用の拡大に向けた考察



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-whbfs-x

光電融合/シリコンフォトニクス未来戦略

技術・市場展望とビジネスチャンス
データセンターのデバイス設計・製造



**ロードマップ、市場動向と
ビジネス構造、ビジネスチャンス**

**市場・技術をリードする
プレーヤー動向と戦略**

**データセンター市場における
シリコンフォトニクス展望**

**エッジAI市場における
シリコンフォトニクスの可能性**

**シリコンフォトニクス設計技術、
光集積・製造技術の未来**

■ 編集:日経BP 総合研究所
■ レポート:A4判、360ページ
■ 2025年11月25日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20912-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20914-9

光電融合/シリコンフォトニクスへの投資が急拡大 研究・開発から、設計・製造、ビジネスモデルまで戦略立案に必要な情報をお届けします

光電融合/シリコンフォトニクスが一気に花開こうとしています。光通信技術の情報・コンピューティング領域への展開が始まり、ビジネスが本格化、投資が加速しています。

●エヌビディアがシリコンフォトニクス技術を採用、製品化へ
●GAFAMがシリコンフォトニクスの技術開発をリード
●台湾ファウンドリーは光パッケージ技術を次世代技術として注目
●中国の光技術への研究投資が活発化

このように、データセンター向けなど最先端の分野で、光電融合/シリコンフォトニクスの市場が大きく動き出そうとしています。
日本は光の要素技術で先行、デバイス技術・製造技術・材料技術では世界をリードしているものの、ビジネスモデル開発では後れを取っています。ここから一気に形勢を逆転するチャンスはどこにあるのか?どの切り口で戦えば、主導権を得られるのか?その戦略立案に必要な情報を網羅したのが、本レポート「光電融合/シリコンフォトニクス未来戦略」です。
まず、光電融合/シリコンフォトニクスが拓く未来を、技術の進展、市場の動向などから展望。次にコンピューティング、データセンター、エッジAI、製造技術、設計技術にフォーカスし、各章を割いてシステムレベルから、デバイス・プロセス・材料レベルまでの最新動向と課題、展望を解説します。また、主要プレーヤー別に開発の目的や戦略を分析しています。さらに、特許・論文分析から技術開発の方向性を分析、世界の地域別・研究開発動向も読み解きます。自社の強みを発揮できる戦略立案に、ぜひ本レポートをご活用ください。

目次

第0章 このレポートの読み方

第1章 光電融合のビジネス機会とエコシステム
1-1 シリコンフォトニクスのインパクト
1-2 メインターゲットはAIとデータセンター
1-3 適用領域とともに広がるビジネス機会
1-4 新たなエコシステムの形成が始まる
1-5 日本企業の挑戦

第2章 光×コンピューティングの将来
2-1 現状:デジタルシステムのハードウエアの技術ロードマップ
2-2 次世代:クラウドシステムを加速させる光技術
2-3 将来:クラウドシステムを激変させる光技術

第3章 データセンター×シリコンフォトニクス展望
3-1 光技術でデータセンターを革新
3-2 IOWNのロードマップおよびエコシステム
3-3 IOWNの要点、光電融合
3-4 PEC-1(長距離、メトロ網、データセンター間伝送)のキーテクノロジー
3-5 PEC-2~4(コンピューティング領域)のキーテクノロジー

第4章 エッジAI×シリコンフォトニクス展望
4-1 クルマとロボットのシリコンフォトニクス化に期待
4-2 チップレットでコスト削減
4-3 RISC-Vで低コスト化

第5章 光集積・製造技術
5-1 シリコンフォトニクスの技術全体像
5-2 シリコンフォトニクスの要素デバイス
5-3 シリコンフォトニクスの集積
5-4 シリコンフォトニクスの実装

第6章 シリコンフォトニクス設計技術
6-1 シリコンフォトニクスの必然性
6-2 光設計ツールと電子設計ツールの乖離
6-3 フォトニクス・電子設計・マルチフィジックスツールの融合
6-4 未来への展望

第7章 市場・技術をリードする企業の動向と戦略
7-1 シリコンフォトニクス利用の業界動向
7-2 シリコンフォトニクスの3用途:イーサネット、チップ間接続、計算
7-3 シリコンフォトニクス向けコンポーネント別で見た企業動向
7-4 光インターコネクトの標準規格動向
7-5 シリコンフォトニクス主要プレーヤー
7-6 チップ間接続の実現を目指すシリコンフォトニクス先端技術

第8章 特許・論文分析から見る世界の研究開発動向
8-1 特許・論文動向の全体概要
8-2 要素技術の特許・論文動向

[本レポートで登場する代表的な組織の名称]

製造系	設計系		ユーザー系
インテル	ブロードコム	アヤール・ラブズ	エヌビディア
TSMC	マーベル	ラノバス	クアルコム
STマイクロエレクトロニクス	アルファウエーブ・セミ	セレスティアルAI	富士通
ラピダス	アヴィセナ	ライトマター	NTT
サムスン電子	ADテクノロジー	IBM	シスコシステムズ
グローバルファウンドリーズ	ファラデー	シノプシス	
ASE	GUC	テンストレント	
アムコー・テクノロジー	メディアテック		
産業技術総合研究所	ソシオネクスト		



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-ph-x

AI未来シナリオ2030

AGI（汎用人工知能）／ASI（人工超知能）で激変するデジタル・事業戦略



AIは、これからどう進化していくのか

次世代AIの姿と、2030年までのロードマップを提示

2030年より先の未来シナリオ

AGI、ASI時代、3つの二極化シナリオ、企業が取るべき戦略を解説

生産性インパクト分析

金融、通信、自動車など14の産業別に、次世代AIが事業に与える影響を詳解

次世代AI導入技術上の重要ポイント

AI活用の実態・意向調査（企業607社）先進企業の活用・ユースケース50

■ 著者：アクセンチュア AIセンター長 保科 学世氏 他
■ 編集：日経クロステック　■ レポート：A4判、452ページ
■ 2025年12月16日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20900-2
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20902-6

AGI 、ASI…「次世代AI」の姿、2030年/それ以降のとるべき戦略を提示

生成AIは進化の速度を一段と増しています。DeepSeek-R1、GPT-5、Gemini 3など、高度な論理推論をこなすAIモデルが次々に登場。かつて人間しかできなかった知的作業や意思決定が、次々とAIに置き換わっています。2030年までに、人間並みに広範なタスクをこなすAGI（汎用人工知能）が到来するのは避けられないとの指摘もあります。AIエージェントシステムの普及とも相まって、企業の知的業務は大きく再編される見通しです。AIは単なる業務効率化のツールではありません。経営の在り方、ビジネスモデル、業界構造そのものを変革する力を持っています。次世代のAIの姿と活用への明確なビジョン無しに、5年先を見据えた経営・事業戦略は描けません。

本レポートは、AIのビジネス活用で世界の先端をいくアクセンチュアの知見を結集し、人間の役割を代替し能力を飛躍的に拡張させる次世代のAIの姿を明らかにします。AI進化のロードマップを示すとともに、AGI／ASI（人工超知能）がもたらすインパクトを3つの未来シナリオとして描出。経営層・事業部門・DX（デジタル変革）部門が今すぐ取り組むべき戦略と投資領域を提示します。また次世代AIが与える生産性・労働時間への影響を国別、産業別、機能／職種別に解説。さらにアクセンチュアと日経BPが共同調査した日本企業607社のAI活用の実態や50社の最新AI導入事例も紹介します。AIを「コスト削減の道具」と見るか「新たな成長の起爆剤」と捉えるか。いま、未来に向けた意思決定が迫られています。本レポートを通じ、AI時代に飛躍するための確かな視座を手にしてください。

目次

第0章 レポートの読み方
0-1 目的・想定読者・構成
●本レポートの目的 ●本レポートの想定読者と情報ニーズ
●本レポートの構成

第1章 次世代AI戦略総論
1-1 AIの進化と現在のユースケース
●AIの歴史を学び、未来に備える
●ChatGPT登場までのAIの進化と「失敗」の要因 ほか
1-2 止まらないAIの進化、注目の8大潮流
●8大潮流の相乗効果でAIの社会実装が加速
●潮流1「AIモデルのマルチモーダル化」で応用範囲が拡大
●潮流2「AIモデルの小型化」でエッジAIや特化型AIの開発が進む
●潮流3「AIモデルの高速化」で対話AIや医療AIが進化 ほか
1-3 2030年に実現する「次世代AI」のインパクト
●次世代AIのマイルストーン、AGI／ASIへの道筋
●AGI／ASIとは何か ●AGI／ASIの実現時期 ほか

第2章 次世代AIを企業に組み入れるための技術的要諦
2-1 第2章の読み方
●企業のAI導入へ、5つの重要な要素と4つの技術トレンドを知る
2-2 業務に組み込む上で考慮すべき5つの要素
●5つの要素の概要
●要素1:AIの急速な進化へ備える
●要素2:複数AIを組み合わせる ほか
2-3 次世代AI導入へ押さえるべき4つの未来トレンドと2030年予測
●自律型AIの台頭を踏まえた未来のトレンドを知る
●トレンド1:バイナリー・ビッグバン――自律型AIが推し進める爆発的なデジタル化 ほか
2-4 次世代AIの導入で成功する企業の未来像
●AIの潜在能力を引き出す5つの技術的提言
●提言1:変化を乗りこなす俊敏な神経系として、プラグ&プレイ型AIプラットフォームを構築せよ ほか

第3章 次世代AIで変わる14の業界動向、8つの機能別動向
3-1 LLMが日本国内の労働時間に与える影響の分析
●分析結果サマリー
3-2 次世代AIが生産性／労働時間にもたらすインパクト
●生成AIによって影響を受けやすいタスクとは
●生成AIによる労働時間への影響（国別）
●生成AIによる労働時間への影響（産業別）
●生成AIによる労働時間への影響（機能／職種別）
●生成AIによる労働時間への影響（職業別）
●生成AIが変化させるプロセス生産性とナレッジ生産性
●「技術革新は雇用を奪うものである」という見方への反論
3-3 日本国内の産業別生産性インパクト分析
●バブルチャートの見方
●（1）金融サービス（証券・保険・銀行）
●（2）ソフトウェア&プラットフォーム
●（3）通信・メディア
●（4）公共サービス
●（5）小売
●（6）ハイテク産業
●（7）旅行
●（8）ライフサイエンス
●（9）自動車
●（10）産業機器
●（11）ヘルスケア
●（12）エネルギー・ユーティリティ
●（13）天然資源・化学
●（14）消費財
3-4 グローバル調査に基づく日本の労働市場への示唆
●主要業界別のAI戦略的重点投資・上位5分野
●生成AIの重点投資分野は「共通」から「業界固有」に移行

第4章 企業のAI活用状況・意向調査
4-1 調査の概要
●調査の目的 ●回答者の属性（業種・従業員規模・役職）
4-2 AIサービスの利用実態と評価
●対話型AIサービスの利用状況:ChatGPTが市場を席巻
●独自基盤モデル・APIの利用状況:オープンモデルは使われず ほか
4-3 AI活用の現在地:守りの効率化と、攻めの遅れ
●AIの主要活用領域:「バックオフィス」と「IT部門」に集中、大企業は「研究開発」「顧客接点」にも活用 ほか
4-4 企業変革（Transformation）の実態と障壁
●変革の必要性への認識:「危機感」と「行動」の間に横たわる深刻なギャップ ほか
4-5 AIがもたらす未来:機会と脅威に対する認識
●変革インパクトへの期待:「ゲームチェンジャー」としての認識が市場のコンセンサス ほか
4-6 AI戦略成功の要諦
●AIプロジェクト成功の定義:「組織への定着」と「ROI」が絶対条件 ほか
4-7 実行段階における具体的な課題
●データ活用の二大障壁:「セキュリティ」と「品質」 ほか
4-8 AI導入で十分な成果を上げる「AI先進企業」の行動や考え方に学ぶ
●AI先進企業の定義 ほか

第5章 次世代AIに備える先進企業に学ぶ
5-1 概論
5-2 出光興産　AI配車プロジェクトと次世代物流への挑戦
5-3 関西電力 AIが変えるインフラ保全、水力発電DXの進化
5-4 ジンズホールディングス　接客AI「JINS AI」で顧客の“分からない”を解決
5-5 東洋エンジニアリング　生成AIの価値を最大化する企業アーキテクチャへの挑戦
5-6 日本航空　全国56の空港に「JAL-AI」導入で、AIと共に新しい働き方に挑戦
5-7 小売・消費財・旅行
5-8 メディア・エンターテインメント
5-9 その他サービス業
5-10 産業機械・自動車・航空宇宙／防衛・ハイテク
5-11 素材・化学
5-12 建築・建設
5-13 ソフトウェア&プラットフォーム
5-14 金融
5-15 ヘルスケア
5-16 エネルギー・電力／ガス／水道
5-17 その他

第6章 2030年の先を見据えた企業が取るべきアクション
6-1 3つの二極化シナリオ
●第6章の概要
●シナリオ1:AIと共存できる人間、淘汰される人間の二極化／AI時代に価値を生み出す人材像とは ほか
6-2 3つのシナリオを前提としたAI時代の未来戦略:トータル・エンタープライズ・リインベンション（TER）戦略
●TER戦略:再創造企業としての産業・社会変革への挑戦 ほか
6-3 TER戦略の核:デジタルツイン・エンタープライズ
●経営者向けAIエージェント:瞬時の意思決定と戦略的洞察／「AI社長」実現へのロードマップ ほか
6-4 TER戦略に沿った3つのトランスフォーメーション
●ビジネスのトランスフォーメーション／BPRに代わるゼロベースのアプローチ ほか
6-5 企業の明るい未来への提言
●TER戦略を成功に導く3つの核心要素



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-aifs-x

循環経済型ビジネス事業創出・参入戦略

**市場規模予測／参入機会分析／
循環経済で支える注目技術63／先行企業事例**



市場規模予測
2030年、2040年、2050年

製造業、建設、金融・保険、サービス業など
14産業分野別に予測

循環経済を実現する
注目技術63

開発動向、市場展望、商業化の動向などを
技術ごとに分析

世界各国の戦略と
政策・規制動向

国内外の政策と2050年に向けた
長期シナリオを提示

循環経済型ビジネスへの
参入機会分析

イノベーション、商流・物流、サプライヤー、
地政学リスクを起点に

■ 著者：三菱UFJリサーチ&コンサルティング、
キャップインターナショナル
■ 編集：日経クロステック／日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、492ページ
■ 2025年12月15日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20804-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20806-7

新たな経済発展モデル「循環経済」がもたらすビジネスチャンスの全貌を解き明かします

線型経済から循環経済へ――。この大転換は、企業にとって単なる環境対応ではなく、新たな成長の機会です。では、循環経済への移行は具体的にどんなビジネスチャンスを生み出すのか、どの分野でどれほどの市場が形成されるのか、参入を成功させるにはどんな戦略が有効なのか――。

本レポートは、循環経済型ビジネスの現状と今後の展開を多角的に分析し、企業の意思決定に資する情報を網羅しています。

国内の循環経済型ビジネス市場を14の産業分野に分類し、2024年から2050年までの市場規模を独自に推計。現在260兆円の市場が2050年には683兆円まで拡大する見通しを明らかにしました。さらに、循環経済型ビジネスへの参入機会を7つのパターンに類型化し、「新事業創出・イノベーション」から「在庫管理コスト低減」まで、動機別の成功戦略を先行企業の事例とともに解説しています。加えて、ペロブスカイト太陽電池や培養肉など、循環経済を支える63の注目技術のイノベーションと市場性も詳述しました。循環経済促進に向けた各国政府や日本政府の政策ロードマップ、有力企業による注目の循環経済型ビジネス先行事例やスタートアップの動向などの事例も多数収録しています。

皆様の業界では、どのような機会が待っているのでしょうか。循環経済型ビジネスへの参入や投資を検討する事業会社やスタートアップの方々、ESG投資や脱炭素戦略の策定に携わる金融・コンサルティング関係者の方々などに、役立つ一冊です。

目次

第0章 本レポートの読み方
- 0-1 本レポートの目的と想定読者
  - ●本レポートの目的と概要 ●本レポートの想定読者
- 0-2 本レポートの構成

第1章 循環経済という未来の社会デザイン
- 1-1 世界はなぜ循環経済に向かうのか？
  - ●循環経済は新たな経済発展モデル
  - ●資源効率性の向上が基盤
  - ●増加する世界人口と資源消費への対応
  - ●資源採掘量の増加と供給不安・廃棄物問題
  - ●脱炭素社会を実現する手段としての循環経済 ほか
- 1-2 循環経済が描く未来の社会像
  - ●製品やサービス設計のあり方
  - ●生産プロセスとエネルギー利用
  - ●シェアリングエコノミー
  - ●5R（再使用・修繕・改装・再製造・水平リサイクル）
  - ●効果的なインセンティブを含めた利用者との価値共創 ほか
- 1-3 各国・地域が目指す循環経済の方向性
  - ●国際動向 ●日本 ●欧州（欧州連合および英国）
  - ●米国 ●中国 ●ブラジル ●ASEAN ●グローバルサウス

第2章 循環経済型ビジネス市場推計2024―2050
- 2-1 2030・2040・2050年における循環経済型ビジネス市場
  - ●循環経済型ビジネス市場推計の考え方
  - ●全体動向
- 2-2 循環経済型ビジネス14産業分野別市場推計と展望
  - ●食品 ●鉄鋼 ●非鉄金属 ●樹脂 ●繊維 ●電池
  - ●自動車 ●電気電子機器 ●建設・不動産 ●廃棄物処理
  - ●卸・小売り・サービス ●金融 ●運輸
  - ●情報・コンサルティング

第3章 循環経済型ビジネスへの参入機会分析
- 3-1 循環経済型ビジネス参入3つのアプローチ
- 3-2 事業の多様化、売り上げ拡大狙う循環経済型ビジネス
  - ●新事業創出・イノベーションが動機
  - ●商圏・ターゲット拡大が動機
  - ●インフラやシステムの整備／商流・物流の効率化が動機
- 3-3 外部環境の変化を優位に変える循環経済型ビジネス
  - ●各種制度（規制を含む）や国内外政策への先行対応が動機
  - ●顧客・OEMの要請／サプライヤー提案の受け入れ／
    第三者によるコーディネートが動機
- 3-4 事業継続性の向上狙う循環経済型ビジネス
  - ●脅威国などからの原料調達リスク低減・分散が動機
  - ●供給途絶時に備えたストック強化／
    高年式部品の在庫管理コスト低減が動機

第4章 循環経済型ビジネスを推進する政策シナリオ
- 4-1 循環経済の必要性と政策
  - ●エネルギー・脱炭素における政策シナリオ
  - ●資源・廃棄物における政策シナリオ
  - ●食料における政策シナリオ
- 4-2 エネルギー・脱炭素分野の循環経済推進政策
  - ●背景：気象変動問題への対応と2050年カーボンニュートラル
  - ●現在地：2050年CN実現に向けた課題と対応
  - ●複数シナリオの重要性 ●CN実現に向けた全体シナリオ
  - ●再生可能エネルギー ●原子力 ●火力発電
  - ●水素・アンモニア燃料 ●CCS（CO_2回収・貯留）
  - ●CCUS／カーボンリサイクル ほか
- 4-3 資源・廃棄物分野の循環経済推進政策
  - ●日本の物質フロー ●廃棄物の排出量
  - ●循環的な利用の現状 ●最終処分場の状況
  - ●廃棄物焼却施設における熱回収の状況
  - ●有害廃棄物の越境移動
  - ●持続可能な社会づくりとの統合的取り組み ほか
- 4-4 食料分野の循環経済推進政策
  - ●農水省「みどりの食料システム戦略」とは
  - ●資源・エネルギー調達に関するロードマップ ほか

第5章 循環経済型ビジネスの注目技術63
- 5-1 循環経済型ビジネスで必要とされる技術とは？
  - ●エネルギー・脱炭素関連技術
  - ●資源・廃棄物関連技術
  - ●食料関連技術：生産・需給管理・流通
- 5-2 循環経済を支える新しいIT・メカニカル・ものづくり
  - ●人工知能（AI） ●IoT／分散型IoTプラットフォーム
  - ●ブロックチェーン ●拡張現実（AR）／仮想現実（VR）
  - ●ドローン ●ロボット ●3Dプリンター
- 5-3 循環経済型ビジネス注目技術63
  - ●ペロブスカイト太陽電池 ●タンデム太陽電池
  - ●宇宙太陽光発電（SBSP）
  - ●固体高分子形燃料電池（PEFC）
  - ●直接メタノール燃料電池（DMFC）
  - ●バイオ燃料電池 ●アンモニア燃料電池
  - ●メタン酸化電池 ●小水力発電（SHP）
  - ●小型原子力発電（SMR） ●核融合発電
  - ●バイオマス発電 ●廃棄物発電 ●熱電発電
  - ●圧電発電 ●発電細菌 ●全固体電池
  - ●新型リチウムイオン電池 ●ナトリウムイオン電池（SIB）
  - ●多価イオン電池 ●金属空気電池 ●水素燃料
  - ●メタン燃料 ●アンモニア燃料 ●再生燃料
  - ●磁気冷凍法（水素液化技術）
  - ●有機ハイドライド（水素輸送技術）
  - ●超高圧水素インフラ（水素ステーション）
  - ●CO_2を有効活用する技術（CCU）
  - ●人工光合成技術
  - ●バイオプラスチック（バイオベースプラスチック）
  - ●生分解性プラスチック ●生体吸収プラスチック
  - ●光分解性プラスチック ●ポリジケトンアミン
  - ●自己修復性金属材料 ●自己修復性セラミックス
  - ●自己修復性コンクリート ●自己修復性ガラス
  - ●自己修復する機能性ポリマー ●自己修復する多孔性結晶
  - ●自己修復性エラストマー ●蓄熱性材料
  - ●グリーンケミストリー ●低級アルカンの自在転換
  - ●多元素協働触媒 ●ダイヤモンド電極
  - ●原形質流動の人工制御 ●モノマテリアル ほか

第6章 循環経済型新ビジネス15分類と注目スタートアップ
- 6-1 循環型社会の新ビジネス領域を3×5に分類
  - ●新しいビジネスの種類と特徴
  - ●循環経済型ビジネスの分野と分布
  - ●循環経済型ビジネスを支える活動
- 6-2 エネルギー・脱炭素関連の新ビジネス
  - ●リサイクル・リユース
  - ●シェアリングエコノミー
  - ●製品の長寿命化
  - ●サービスとしての製品（PaaS）
  - ●循環型サプライチェーン
- 6-3 資源・廃棄物関連の新ビジネス
  - ●リサイクル・リユース
  - ●シェアリングエコノミー
  - ●製品の長寿命化
  - ●サービスとしての製品（PaaS）
  - ●循環型サプライチェーン
- 6-4 食料関連の新ビジネス
  - ●リサイクル・リユース
  - ●シェアリングエコノミー
  - ●製品の長寿命化
  - ●サービスとしての製品（PaaS）
  - ●循環型サプライチェーン



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-cetbiz-x

デジタルヘルス未来戦略
空間・拠点&ビジネス展望編

2040年の医療・健康・介護を支える10の空間・拠点、進化シナリオ
注目技術・開発トレンド分析／新たな医療・ヘルスケア体験



【10の空間・拠点×ヘルステック】未来シナリオ

どこが、どのような役割を担うのか?
ビジネスチャンスはどこにあるのか?

2040年の社会を創る技術トレンド分析

10の空間・拠点を創る注目技術・開発トレンドを
論文・特許データから分析

新たな体験・価値を提供する先端事例55

市場に提供、または投入計画上にある
先端事例を解説

有力スタートアップ92社調査

今後のデジタルヘルス社会を担う
スタートアップを調査・分析

■ 著者:鶴谷武親、リンカーズ ほか
■ 編集:日経クロステック／日経BP 総合研究所
■ レポート:A4判、504ページ
■ 2025年11月28日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20894-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-20896-8

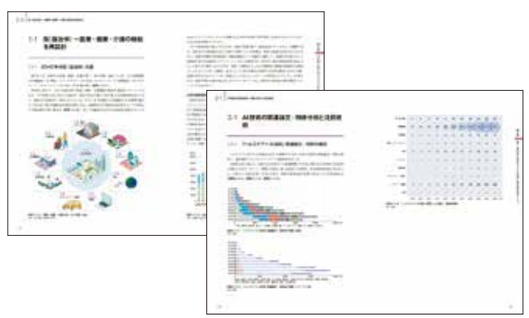
2040年の医療・健康・介護を担う“場”と提供価値、技術はここまで変わる!

医療は病院が担うもの――。そんな常識は近い将来、過去のものになります。代わって到来するのは、社会を構成するあらゆる空間・拠点が医療・健康・介護を担う“場”になる時代です。例えば、住宅や商業施設などの生活空間、自動車などの移動空間そのものが医療の中心地となります。

それが意味するのは、空間・拠点において様々な事業を展開しているあらゆるプレーヤーに、ビジネスチャンスがあるということです。同時に、業界・業種の枠にとらわれないあらゆるプレーヤーの共創も求められる時代になります。

本レポートでは、10の社会空間(街、医療機関、介護施設、薬局・ドラッグストア、住宅、オフィス、商業施設、モビリティー、サイバー、宇宙)別に医療・健康・介護を担う場としての将来展望を予測。それを創る技術や先行事例などを紹介します。さらに、10の空間・拠点と複数の技術軸をクロス分析することで、今後注目すべき技術開発トレンドを可視化。関連する開発事例も紹介します。有力スタートアップ92社の取り組みについても調査・分析しています。

既にヘルステック領域で事業を展開している皆様はもちろん、これから事業参入を検討する方に必携の一冊です。ぜひご活用ください。



目次

第0章 プロローグ
0-1 医療・健康・介護を担う空間・拠点が進化
●はじめに
●各章のコンテンツについて
●本レポートの想定読者と各章の情報ニーズとの対応

第1章 10の空間・拠点における2040年の未来像
1-1 街(自治体)～医療・健康・介護の機能を再設計
●2040年の街(自治体)の姿
●街(自治体)の空間の再定義
●街(自治体)の変化を支える技術 ほか
1-2 医療機関 ～医療提供の場が多様化
●2040年の医療機関の姿
●医療機関の空間の再定義
●医療機関のサービスの変化
●医療機関の変化を支える技術 ほか
1-3 介護施設 ～地域とつながる暮らしの拠点に
●2040年の介護施設の姿
●介護施設の空間の再定義
●介護施設のサービスの変化
●介護施設の変化を支える技術 ほか
1-4 薬局・ドラッグストア ～慢性疾患の管理・予防へ役割拡大
●2040年の薬局・ドラッグストアの姿
●薬局・ドラッグストアの空間の再定義
●薬局・ドラッグストアのサービスの変化
●薬局・ドラッグストアの変化を支える技術 ほか
1-5 住宅 ～健康維持や在宅医療を支えるインフラに
●2040年の住宅の姿
●住宅の空間の再定義
●住宅の変化を支える技術 ほか
1-6 オフィス ～健康・医療・生活と一体化した拠点に
●2040年のオフィスの姿
●オフィスの空間の再定義
●オフィスの変化を支える技術 ほか
1-7 商業施設 ～医療・健康関連の機能を積極導入
●2040年の商業施設の姿
●商業施設の空間の再定義
●商業施設の変化を支える技術 ほか
1-8 モビリティー(移動)～移動しながら健康管理
●2040年のモビリティー(移動)の姿
●モビリティー(移動)の空間の再定義
●モビリティー(移動)の変化を支える技術 ほか
1-9 サイバー(情報)
～人が生活する場に介入し支援する空間に
●2040年のサイバー(情報)の姿
●具体像1:AIバーチャル病院の定着
●具体像2:「ヒト・デジタルツイン」による先制医療の実現
●具体像3:XR・メタバースで物理的・身体的制約を超える
●具体的4:AI共生社会が生むソーシャル・ウェルネス ほか
1-10 宇宙 ～新規技術開発やイノベーションの実験室に
●2040年の宇宙の姿 ●地上技術の宇宙への応用 ほか

第2章 論文・特許分析に見る2040年の空間・拠点を創る技術トレンド
2-0 本章の分析手法
2-1 AI技術の関連論文・特許分析と注目技術
●「ヘルスケア×AI技術」関連論文・特許の概況
●ヘルスケア×AI技術×街(自治体) ほか
2-2 IoT/センシング技術の関連論文・特許分析と注目技術
●「ヘルスケア×IoT/センシング技術」関連論文・特許の概況
●ヘルスケア×IoT/センシング技術×街(自治体) ほか
2-3 クラウド/ビッグデータ技術の関連論文・特許分析と注目技術
●「ヘルスケア×クラウド/ビッグデータ技術」関連論文・特許の概況
●ヘルスケア×クラウド/ビッグデータ技術×街(自治体) ほか
2-4 ロボット技術の関連論文・特許分析と注目銘柄
●「ヘルスケア×ロボット技術」関連論文・特許の概況
●ヘルスケア×ロボット技術×街(自治体) ほか
2-5 バイオ技術の関連論文・特許分析と注目技術
●「ヘルスケア×バイオ技術」関連論文・特許の概況
●ヘルスケア×バイオ技術×街(自治体) ほか

第3章 2040年の10の空間・拠点に向けた先端事例55
3-0 事例の概要と進捗の分類
3-1 街(自治体)の先端事例
●DATAFLUCT社:衛星データ活用により大気と経済活動の関係を可視化 ほか
3-2 医療機関の先端事例
●Leuko Labs社:爪の毛細血管動画から白血球レベルを検出 ほか
3-3 介護施設の先端事例
●Norbert Health社:非接触型センサー活用による見守りシステム ほか
3-4 薬局・ドラッグストアの先端事例
●OnMed社:医療アクセス危機を解決するキオスク型診療所 ほか
3-5 住宅の先端事例
●Baracoda社:家族で使える「スマートバスマット」 ほか
3-6 オフィスの先端事例
●Compocity社:オフィスの廃棄物を肥料化するロボット ほか
3-7 商業施設の先端事例
●ゼネラ社:集客力を高めるAIスマートミラー
●アジラ社:防犯セキュリティーを高めるAIエンジン ほか
3-8 モビリティー(移動)の先端事例
●University of Glasgow:高齢者向け自動運転の安全性向上を目指す ほか
3-9 サイバー(情報)の先端事例
●Pukyong National University:深層強化学習で向上を図るサイバー攻撃防御 ほか
3-10 宇宙の先端事例
●KORA Industrie-Elektronik社:NASAも注目する体温モニタリングデバイス ほか

第4章 有力スタートアップ92社、2040年への事業戦略
4-1 有力スタートアップ、事業を展開する空間・拠点調査
●2040年に向けて新たに進出したい空間・拠点
4-2 有力スタートアップ92社、事業戦略・業務提携意向調査
●調査の概要
●92社調査データ
株式会社アイ・ブレインサイエンス、アイリス株式会社、アンター株式会社、株式会社医師のとも、株式会社医用工学研究所、株式会社インテグリティ・ヘルスケア、株式会社ウィルモア、株式会社ウェルモ、エーテンラボ株式会社、株式会社エクスメディオ、エコナビスタ株式会社、株式会社エビグノ、エルピクセル株式会社、株式会社カケハシ、株式会社カルディオインテリジェンス、株式会社グッドパトン(旧社名:Connected Industries株式会社)、株式会社グレースイメージング、株式会社サイキンソー、株式会社サウンドファン、サナメディ株式会社(旧社名:株式会社日本医療機器開発機構)、株式会社ジーンクエスト、株式会社シェアメディカル、株式会社ジャパンヘルスケア、シルタス株式会社、シンクヘルス株式会社(旧社名:H2株式会社)、株式会社ダンテ、株式会社テンクー、株式会社トータルブレインケア、ドクターメイト株式会社、株式会社ファミワン、株式会社フィッツプラス、株式会社ヘルスケアシステムズ、ヘルスビット株式会社、ミッドナイトブレックファスト株式会社、株式会社ミルウス、株式会社メディウィル、メディカルデータカード株式会社、メディフォン株式会社、メディホーム株式会社、株式会社メドコム、メドメイン株式会社、メロディ・インターナショナル株式会社、株式会社ユカシカド、ライトタッチテクノロジー株式会社、株式会社リモハブ、レバウェル株式会社、株式会社ワイズ・リーディング、株式会社ACCELStars、AMI株式会社、株式会社ARCH、株式会社asken、AuB株式会社、株式会社BiPSEE、株式会社CogSmar、CORESCOPE株式会社、Craif株式会社 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-dhtec-x

自動車産業2045

これから20年の変化は、これまでの100年以上



「CAST（China、AI、SDV、Trump）」の潮流を提示

これから20年間で起こる10の変化を徹底予測

主要プレーヤーの今後の事業戦略を分析

自動車産業の変化がもたらす周辺産業への影響を考察

■ 著者：鶴原 吉郎
■ レポート：A4判、228ページ
■ 2025年11月28日発行
■【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：770,000円（10％税込）、ISBN:978-4-296-20883-8
※書籍のみの販売はありません。

トランプ関税、中国の躍進、電動化の減速、AIの進化…激変する自動車産業と全産業分野への影響を読み解く

『自動車産業2045』は、大きな転換期にある自動車産業のこれから20年を予測するレポートです。転換期のキーワードは「CAST（China、AI、SDV、Trump）」。2025年1月に米国で発足した第2次トランプ政権はクルマの電動化政策の急速な転換と、関税率の大幅な引き上げで世界の自動車業界に大変革を迫っています。世界最大の自動車大国である中国は、電動化のみならず、自動運転に代表されるクルマの知能化でも世界の先端を走り始めています。AI（人工知能）やSDV（ソフトウエア・デファインド・ビークル）の分野は米中のつばぜり合いはもちろん、世界的な大競争の拡大が見逃せません。本レポートは、この「CAST」のトレンドを軸に前作の『自動車産業2043』で示した予測を全面刷新しました。世界の市場別の電動車の販売台数予測では、今後増加が見込まれるHEV（ハイブリッド車）について、米国や欧州、インドでの販売台数予測を追加したほか、新たにASEAN（アジア諸国連合）での電動車の販売台数予測を加えるなど、コンテンツを大幅に充実させました。自動車の世界生産台数、EV、自動運転、移動サービスなどに関する予測データを基に、これから20年間で起こる「変化の全貌」を考察します。さらに、完成車メーカー、メガサプライヤー、モビリティーサービス企業など主要なプレーヤーの戦略の調査分析では、中韓の重要企業を新たに追加するなど、取り上げる企業を大幅に入れ替えました。そして、こうした自動車産業の大変化が、全産業分野にどのような影響を与えるのかを予測します。

目次

第1章 「CAST」が破壊する自動車業界の旧秩序

1-1 根底から変化迫られる自動車産業のビジネスモデル
●自動車業界を大きく揺さぶる「CAST」
1-2 中国が変える自動車産業の勢力図
●世界を驚かせた2023年の上海モーターショー
●安さだけではない中国EVの強み
●完成車メーカーを「下請け」にするHuawei
●CASEをリードする中国
1-3 自動車産業を劇的に変えるAI
●AIが変えるのは自動運転だけではない
●AI分野でも中国が猛追
●デザインや設計にも広がるAIの応用
●クルマとの「コミュニケーション」が価値に ほか
1-4 SDVが変えるクルマの価値創造
●SDVの本質は「複層的な価値形成」
●SDVはこれまでのクルマと何が違うのか
●始まったビークルOSの搭載
●統合ECUの目的は？ ほか
1-5 トランプ関税が変える日本メーカーの“稼ぎ方”
●トランプ関税の「恒久税化」に備えよ
●日本は米国との関係を強めるしか選択肢がない
●中国は「配当で稼ぐ市場」に
●中国との距離を縮める欧州メーカー

第2章 世界の自動車産業「成長」の定義が変わる

2-1 2027年にピークを迎えるクルマの世界販売
●中国の人口減少が与える大きな影響
●日本は緩やかな減少が続く
●中国市場は労働人口の減少の影響が大
●米国市場では2026年からトランプ関税の影響が顕著に
●欧州市場は2030年以降に長期減少トレンドへ ほか
2-2 スローダウンするEV化のペース
●2045年の世界のEV化率は6割止まり
●中国のEV普及予測：PHEVがEVを抜く
●欧州のEV普及予測：欧州メーカーの中国との関係が強まる
●米国のEV普及予測：
HEVが想定以上の伸び、EVの普及は大幅に減速
●インドのEV普及予測：EV市場は2040年に400万台へ
●日本のEV普及予測：エンジン車の規制強化がHEV普及を促す
●ASEANのEV普及予測：
EVは2030年に新車販売の約3割に達する
●2030年ごろにエンジン車とHEVがほぼ同価格に
●国内でのEV価格はエンジン車の約2倍
●Tesla社が低価格EVの発売へ ほか
2-3 中国で始まった「自家用車の自動運転化」
●市街地でも自動運転可能なシステムが実用化へ
●プロパイロット2.0の価格は約50万円
●中国ではL2＋＋のシステム価格が約20万円
●L2＋＋の実用化で一歩先をいく米Tesla社
●高速道路限定のL3システムは96万円高 ほか
2-4 「タクシーは無人」が2030年には当たり前になる
●世界で拡大する無人タクシーの商業化
●Tesla社が目指す無人タクシーの価格破壊
●「レベル4」の移動サービスは2026年に本格化
●無人タクシーは180兆円を超えるビジネスに
●サービス収入の規模は45兆円
●広告ビジネスも22兆円規模に
●広告の新たなビジネスモデルも
●無人タクシーの車両売上も20兆円規模に
●自家用車用サービスに大きなポテンシャル ほか
2-5 2040年でも“エンジンを搭載したクルマ”は半分近く残る
●大型トラックの電動化は困難
●合成燃料のコストは下がらない
●合成燃料の課題はコストと効率 ほか

第3章 主要プレーヤーの今後の事業戦略

3-1 完成車メーカーの戦略
●トヨタ自動車 ●日産自動車 ●ホンダ
●Volkswagen ●Mercedes-Benz ●BMW
●General Motors ●Stellantis ●Tesla ●NIO
●BYD ●Geely ●Huawei Technologies
3-2 メガサプライヤーの戦略
●Robert Bosch ●デンソー ●Magna International
●Continental ●ZF ●Valeo ●Autoliv
3-3 モビリティーサービス企業の戦略
●Waymo ●Baidu
3-4 バッテリーメーカーの戦略
●CATL ●LG Energy Solution ●SK On
●Samsung SDI ●パナソニック
3-5 半導体メーカーの戦略
●NVIDIA ●Qualcomm Technologies
●Mobileye Global ●Infineon Technologies
●NXP Semiconductors ●ルネサスエレクトロニクス
●ON Semiconductor ●ソニーセミコンダクタソリューションズ
3-6 センサーメーカーの戦略
●RoboSense Technology ●Hesai Technology
●Innoviz Technologies ●Luminar Technologies
3-7 EVプラットフォームサプライヤーの戦略
●鴻海科技集団
3-8 空飛ぶクルマメーカーの戦略
●SkyDrive ●Joby Aviation

第4章 周辺産業への影響

4-1 自動車部品産業への影響
4-2 材料・加工メーカーへの影響
4-3 電機・電子産業への影響
4-4 IT業界への影響
4-5 物流業界への影響
4-6 タクシー業界への影響
4-7 地方自治体への影響
4-8 保険業界への影響
4-9 自動車整備業界への影響
4-10 ガソリンスタンド業界への影響
4-11 駐車場業界への影響
4-12 公共交通への影響
4-13 エンタテインメント業界への影響
4-14 旅行・観光業界への影響
4-15 住宅業界への影響
4-16 飲食・小売業界への影響
4-17 金融・ファイナンス業界への影響
4-18 医療業界への影響
4-19 土木・建築業界への影響
4-20 農林水産業界への影響



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-automo-x

未来技術2025-2034 先端AI/ICT編

AI/ICT分野の未来を創る「新興テクノロジー」を探し出す



「市場性」、「機微度」を評価し、今後10年間のインパクトを展望

活用される市場の広がりを示す「市場性」と安全保障への関連度合いなど「機微度」を評価。当該技術が今後10年間にもたらすインパクトを展望。

「成熟度」、「技術融合性」を評価し、今後の課題を分析

新興技術の「成熟度」とその技術が他の技術と組み合わせやすいかどうかを表す「技術融合性」を評価し、今後の課題を分析。

主要産業へのインパクトを展望

自動車、エレクトロニクス/機械、資源/エネルギー、金融など10の産業分野へのインパクトを予測。

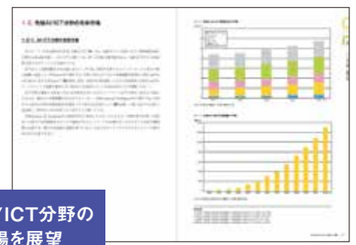
AI/ICTがもたらす企業の課題と解決策を考察

AI/ICTがもたらす日本産業や企業経営の課題、企業に求められる機能などを分析し、解決策を考察。

■ 著者：園田 展人、目黒 文子
■ レポート：A4判、428ページ ■ 2025年2月17日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20591-2
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20593-6

AI/ICT分野の未来技術40件を厳選し、独自評価　将来市場、世界の政策動向、インパクトを分析予測

「未来技術」シリーズに、最先端のAI/ICT分野に特化した『未来技術2025-2034 先端AI/ICT編』が登場しました。未来技術とは、革新的な発明に基づく初期研究の成果である「新興技術」と、その発展による新しい製品やビジネスモデルで産業に影響を及ぼす「破壊的技術」のことを指します。先端AI/ICT編では、「生成AI」「新発想AI」「脳拡張」「身体拡張」「量子技術」「次世代コンピューター」「セキュリティー」など10分野の未来技術40件を、独自の視点で選定・評価しています。未来技術のラインアップは「マテリアルズ基盤モデル」「自動運転基盤モデル」「AIヒューマノイドロボット」「量子コンピューター」「ブロックチェーン」など多様です。さらにAI/ICT分野の将来市場、世界の政策動向、AI/ICT分野のインパクト、AI/ICTがもたらす企業の課題と解決策などを一望し、技術シーズからどうビジネス戦略を立てていけばよいかをガイドします。『未来技術2025-2034 全産業編』と同様に、活用される市場の広がりを表す「市場性」、経済安全保障の論点であるデュアルユースの可能性を含む「機微度」、間もなく使えるのか研究開発の段階が続くのかを示す「成熟度」、他の技術と組み合わせやすいかどうかを表す「技術融合性」の4大指標で技術を評価。先端AI/ICT技術が、「自動車」「資源・エネルギー」「医療・健康」「金融」など10の産業分野に、どのような影響を与えるのかについても展望します。



先端AI/ICT分野の将来市場を展望

目次

序章 未来技術の姿
0-1 未来技術の選定
0-2 未来技術の定義と評価
0-3 未来技術の活用法
0-4 エグゼクティブサマリー

第1章 AI/ICTの新興・破壊的技術の未来
1-1 先端AI/ICT分野の概観
1-2 先端AI/ICT分野の将来市場
1-3 世界のAI/ICT政策
1-4 AI/ICT分野のインパクト
1-5 AI/ICT分野の歴史的俯瞰
1-6 AI/ICTがもたらす企業の課題と解決策
1-7 AI/ICTと次世代研究プロジェクト

第2章 生成AI
2-1 生成AI分野の未来技術
2-2 データ分析用生成AI
2-3 AIエージェント
2-4 たんぱく質言語モデル
2-5 マテリアルズ基盤モデル
2-6 小規模言語モデル
2-7 生成AIエッジコンピューティング
2-8 地域経済圏基盤モデル

第3章 新発想AI
3-1 新発想分野の未来技術
3-2 汎用AI
3-3 3Dデジタルゲーム AI
3-4 3Dサイバー考古学
3-5 質感AI

第4章 身体性AI
4-1 身体性AI分野の未来技術
4-2 ロボティクス基盤モデル
4-3 自動運転基盤モデル
4-4 AIヒューマノイドロボット
4-5 認知発達ロボティクス

第5章 身体拡張
5-1 身体拡張分野の未来技術
5-2 固有感覚技術
5-3 触覚テレイグジスタンス
5-4 余剰肢ロボティクス
5-5 クロスモーダルインタラクション

第6章 脳拡張
6-1 脳拡張分野の未来技術
6-2 双方向BMI
6-3 ブレーンデコーディング
6-4 自由エネルギー原理

第7章 量子技術
7-1 量子技術分野の未来技術
7-2 量子コンピューター
7-3 量子暗号
7-4 量子ネットワーク解析

第8章 次世代コンピューター
8-1 次世代コンピューター分野の未来技術
8-2 次世代スーパーコンピューター
8-3 リザバーコンピューティング
8-4 光コンピューター
8-5 分子コンピューター
8-6 バイオコンピューター
8-7 ブレーンウエア・コンピューター

第9章 次世代通信ネットワーク
9-1 次世代通信ネットワーク分野の未来技術
9-2 チップ間光通信
9-3 空間多重・マルチバンド光通信
9-4 複雑ネットワーク

第10章 ブロックチェーンとプラットフォーム技術
10-1 ブロックチェーンとプラットフォーム分野の未来技術
10-2 デジタルツイン
10-3 ブロックチェーン
10-4 Web3
10-5 データ共有圏プラットフォーム

第11章 セキュリティー
11-1 セキュリティー分野の未来技術
11-2 コンフィデンシャル・コンピューティング
11-3 ベリファイアブル・クレデンシャル

第12章 産業別のインパクト
12-1 自動車
12-2 エレクトロニクス・機械
12-3 素材・化学
12-4 資源・エネルギー
12-5 医療・健康
12-6 ICT
12-7 小売り・物流
12-8 金融
12-9 建設・不動産
12-10 食品・農業



各技術テーマについて「オーバービュー」、「未来へのインパクト」、「研究開発や市場投入への課題」、「将来動向」を約5ページで解説。重要事項を一望できる全体像を1ページに集約。



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mteca-x

製造業DX調査レポート 2025-2035

393社のデータ・技術基盤の実態と投資意向、現場3000人が挙げる課題



【独自調査①】
製造業393社調査
DX基盤の整備と投資の意向

【独自調査②】
現場3000人調査
現場が挙げた課題と今後

DXベンダー
主要14社の戦略レポート

先進企業の事例分析、
世界各国の産業政策、業界動向

■ 編集：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボ／日経クロステック
■ レポート：A4判、440ページ
■ 2025年2月17日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20704-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,078,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20706-0

「企業393社」と「現場3000人」への調査からDXを支える環境の整備動向や直面する課題を多角的に分析

DXが不可避という認識が製造業に定着し、多くの企業の中長期の事業戦略に事業変革への取り組みが盛り込まれるようになりました。そこで本レポートでは、DX推進のために必要な環境をめぐる企業の動向を、投資に関する意向なども含めて、製造業の393社と現場3000人の独自アンケート調査などを基に明らかにします。
企業や組織がDXの実現に向けた取り組みを効果的かつ継続的に推進するために必要な環境を「DX推進基盤」と名づけ、組織、人材、データ、情報システム、デジタル技術、企業連携（パートナー／エコシステム）の大きく6つの観点から、その構築の進捗状況、課題や投資の動向を明らかにしました。さらに、製造業DXをめぐる動きに影響を与える世界各国の産業政策と関連する業界動向や製造業のDXに向けた技術・サービスを提供する主要ベンダーの最新戦略や、DX先進企業の取り組みなど、製造業DXに関する事業戦略の策定に役立つ情報をまとめました。是非ご活用ください。



DXスキルに対する現場の意識まで踏み込んで調査

目次

第1章 イントロダクション
1-1 本書の読み方
●本書の構成 ●情報ニーズと各章の対応 ほか

第2章 製造業393社に聞いたDX推進基盤の実態と動向
2-1 調査概要
●調査の目的と実施概要
2-2 DXをめぐる企業の取り組みの実態
●DXに取り組む企業は9割 ほか
2-3 投資動向に見る企業の取り組み姿勢
●当面の投資は「やや増加」
2-4 DXを支援する企業・組織への関心
●選ばれるのは業界を理解している企業・組織
2-5 DXの取り組みに関する企業のコメント
●難航するDXに問題点の指摘が続々
2-6 DX推進基盤の現状と今後
●構成要素となる6つの基盤の整備状況 ほか
2-7 組織基盤整備の重点
●まずは業務プロセスの効率化
2-8 人材基盤整備の重点
●重視するのは組織内の「調整力」 ほか
2-9 データ基盤整備の重点
●高度なデータ活用を約7割が意識 ほか
2-10 IT基盤整備の重点
●データ活用のシステム強化が加速
2-11 デジタル技術基盤整備の重点
●7割がクラウドを活用
2-12 パートナーシップ／エコシステム基盤整備の重点
●外部との連携は「特にない」が4割
2-13 スタートアップ／ベンチャー企業への期待度
●「利用する」は3割強
2-14 DX推進基盤をめぐる企業の思い
●DX推進基盤に対する企業の生の声

第3章 現場3000人に聞いたDX推進基盤の実態と動向
3-1 調査概要
●調査の目的と実施概要
3-2 現場から見たDXの実態と今後
●現場から見えるDXの取り組み状況 ほか
3-3 DXを支援する企業・組織に対する現場の関心
●製造業と特定業務プロセスに知見のある企業にニーズ
3-4 現場がDXに必要と考える技術
●DXに役立つITとデジタル技術
3-5 DXに必要なスキル
●所属企業のDXに貢献するための知識やスキル
3-6 DXに取り組む現場のコメント
●DXに関する現場の悩みと展望
3-7 現場から見たDX推進基盤の現状と今後
●構成要素となる6つの基盤の整備状況 ほか
3-8 現場目線で捉えた組織基盤整備の重点
●現場は部門間の連携と役割分担を重視
3-9 現場目線で捉えた人材基盤整備の重点
●DX推進を担う人材に必要な能力・スキル ほか
3-10 現場目線で捉えたデータ基盤整備の重点
●高度なデータ活用に対する現場の意識 ほか
3-11 現場目線で捉えたIT基盤整備の重点
●IT基盤の現状と今後
3-12 現場目線で捉えたデジタル技術基盤整備の重点
●現場から見たデジタル技術活用の実態
3-13 現場目線で捉えたパートナー／エコシステム基盤整備の重点
●外部企業との連携強化をめぐる現状と今後
3-14 ベンチャー／スタートアップ企業の活用
●現場が考えるベンチャー／スタートアップ企業との連携

第4章 製造業DXに関連する世界の産業政策・プロジェクトの動向
4-1 総論
●デジタル変革を後押しする政策・プロジェクト
4-2 EUの産業政策・プロジェクト
●EUにおける産業政策の枠組み ほか
4-3 ドイツの産業政策・プロジェクト
●Industrie 4.0 ●国家産業戦略 2030
4-4 フランスの産業政策・プロジェクト
●未来の産業 ●グリーン製造業法 ほか
4-5 英国の産業政策・プロジェクト
●デジタル開発戦略 2024-2030 ほか
4-6 米国の産業政策・プロジェクト
●CHIPS法 ●先進製造パートナーシップ ほか
4-7 中国の産業政策・プロジェクト
●中国製造2025 ●互聯網＋（インターネットプラス） ほか
4-8 インドの産業政策・プロジェクト
●メイク・イン・インディア ほか
4-9 アジアで展開されている産業政策・プロジェクト
●メーキング・インドネシア4.0 ●タイランド4.0 ほか

第5章 製造業DX先進企業の戦略分析
5-1 アイシン
●電動化への対応と成長領域へのシフトを目指す ほか
5-2 ミスミグループ本社
●3Dデータの活用で部品調達のDXを推進 ほか
5-3 三菱重工業
●技術基盤を構築して事業価値を創出 ほか
5-4 ドイツSiemens
●DXに向けて工場の「自律化」を推進 ほか

第6章 製造業DX関連ベンダーのビジョンと戦略
6-1 アマゾン ウェブ サービス
●データによる事業変革を支援 ほか
6-2 オートデスク
●現場担当者の共同作業を支援するクラウド基盤 ほか
6-3 ダッソー・システムズ
●仮想環境のフル活用による変革を推進 ほか
6-4 富士通
●ブランドを軸に事業体制を強化 ほか
6-5 Google Cloud
●国内の製造業向け人員を倍増 ほか
6-6 日立製作所
●セクター連携でDXを支援 ほか
6-7 日本IBM
●80年にわたる製造業での経験を生かすDX推進 ほか
6-8 マイクロソフト
●生成AIで製造業のDX支援を強化 ほか
6-9 三菱電機
●事業部の垣根を越えたDXサービス推進へ変革進む ほか
6-10 NEC
●社会価値創造型企業へと転換、DX支援強化 ほか
6-11 NTTコミュニケーションズ
●経営統合を契機に製造業のDX支援を強化 ほか
6-12 PTC
●製品ライフサイクルを網羅する基盤でDXを支援 ほか
6-13 SAP
●ERPを核にしたソリューションでDXを支援 ほか
6-14 横河電機
●社内で実績のあるDXを社外へ提供 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-sdx3-x

SIビジネス未来戦略 2025-2028

AI時代の全課題・成長分野分析 産業別システム化動向



SIビジネスで勝ち残るための8の提言

激変する市場で勝ち抜くために
どう対応するのか

産業別、アプリ・業務機能別の市場動向

産業別、アプリ・業務機能別に
システム化のトレンドを分析

企業タイプ別生き残り戦略

12タイプ別に勝ちパターンを見極める

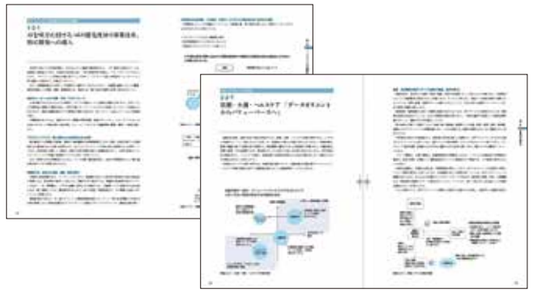
国内外の人材市場やオフショアリングの実態

SI事業者の人材戦略、
オフショアリング対象国別戦略を提示

■ 著者：桑津 浩太郎　■ レポート：A4判、304ページ
■ 2025年1月31日発行
■【書籍のみ】価格：330,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20707-7
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：495,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20709-1

AI時代のSIビジネスはどう変化し、どこにビジネスチャンスがあるのか、市場規模はどこまで伸びるのか…

SIビジネスは今、大きく変貌しつつあります。
1つには生成AIの登場。社内AI環境構築のビジネスが活況を呈する一方、要件定義から設計、プログラミングまで、SIの価値創造モデルに大きな変革をもたらしつつあります。
もう1つはコンサルティング企業の台頭。DX案件の増加とともに、超上流から顧客にアプローチするコンサルティング企業の優位性が高まり、優秀な人材が大移動。既存のSI企業のビジネスを脅かしつつあります。
本レポートはSIビジネスを取り巻く現状を分析するとともに、SI企業が取るべき戦略について、「大手SIビジネス事業者、商社系SIビジネス事業者」などの企業タイプ別、「金融［銀行・証券等］、製造業」などの産業別、「ERP、CRM」などのアプリ・業務機能別の市場動向を多彩な切り口で解説します。
競争がますます苛烈になるSI事業で生き残り、成長するための必携の一冊です。



目次

第1章 SIビジネスの市場動向サマリー
1-1 エグゼクティブサマリー
●深刻化する人材不足と向き合うためにもAI、オフショアリングへの取り組みを
1-2 SIビジネスで勝ち残るための8つの提言
●AIを味方に付けろ/AIの優先度はSI事業自身、特に開発への導入
●海外事業とオフショアリングの統合へ 三国オフショアリングに活路を
●外資コンサルモデルへの対抗が内製化対応につながるコンサル協業と自社コンサル要員育成
●SAPモダナイゼーションとFit too Japan（造語）の後始末
●人手不足を成長の機会に変える/DX後半戦、ベテラン人材・マイスター人材、リスキリング
●人材戦略はビジネスの要 SI事業者は魅力ある働き方ができることを訴求すべき
●フロンティア領域は「非オフィス」農業、セキュリティー、運輸
●データセンターをどうするか AIデータセンター、GPUキャンプへの対応は

第2章 産業別市場動向
2-1 産業別市場動向
●産業別システム化動向
2-2 システムトレンド分析
●金融業「フィンテックは続く、AIによるオルタナティブに機会」
●流通業「労働力不足は限界越え。DX後半戦待ったなし」
●運輸業・物流業「2025年に向けて最もデジタルでホットな業種」
●官公庁・自治体 「デジタル庁対応の一巡」
●製造業「さらに進むデジタル化。AIへの期待も強まる」
●不動産・住宅「総需要のダウントレンドとAIブラックボックスと高親和性」
●医療・介護・ヘルスケア「データオリエントからバリューベースへ」
●農業 「大規模化か、都市部の植物工場か」
●セキュリティー 「AI時代の成長産業」
●教育産業 「生成AIがブレークスルーを起こす」

第3章 アプリ別・業務機能別市場動向
3-1 アプリ別・業務機能別市場動向
●ERP「SI企業対コンサルティングファームの主戦場」
●CRM「対コンサルの重要戦場かつAI有望領域」
●SCM「スループットの最適化から、レジリエンスの最適化へ」
●HRM「AI活用、コンサル視点の両方で有望なフロンティア」
●データセンター「AIデータセンターというよりGPUフロア、GPUキャンプ」

第4章 重点項目別市場動向
4-1 社会DXとカーボンニュートラル
●社会DX 「DX後半戦は、AIと残された社会DX」
●カーボンニュートラルとGX
●生物多様性

第5章 AI戦略
5-1 AI技術動向と実装動向
●AI技術動向と生成AI
●AI実装動向
●AI導入の課題と取り組み
5-2 SI事業者への影響とAI重点施策
●AI重点施策

第6章 人材戦略
6-1 人的資源がなければどんな戦略も絵に描いた餅
●SI業界の高齢化
●新卒と中途採用
●中高年を対象にしたリスキリング
●戦略型ITマネジャー
●チームフォーメーション リモート、異なる働き方を交えたチームへ

第7章 オフショアリング対象国別戦略
7-1 マクロ分析
●オフショアリングの転換点
7-2 個別分析10カ国
●中国 米中対立リスクは拡大傾向だが、完全な代替先は見当たらない
●ベトナム ポスト中国の一番手の位置を固めつつある
●シンガポール 日本以上の先進国、レガシー対応には不適
●マレーシア 英語、中国語を含む他言語評価の高まり
●インドネシア 長期視点で見れば最も魅力的
●ミャンマー カントリーリスクはあるが平時のオペレーションに問題なし
●フィリピン 人材供給力増し、再評価の段階へ
●タイ 製造業の蓄積がネットベンチャーに波及
●インド ITの実力は日本以上、メンタリティーの違いが大きい
●アイルランド 欧州のBPOアウトソーシング、データセンター拠点

第8章 SI事業者のタイプ別事業戦略
8-1 企業タイプ別SI事業者戦略
●技術系SIベンチャー／情シス部門をバイパス
●SaaS系SIベンチャー／顧客から勝つ場面、状況を切り出す
●中堅SI事業者／クラウド優位でのSaaSプライムへの展開
●大手SI事業者／対外コンモデル、AI、海外事業の3点セット
●金融子会社系SI事業者／DXの最終コーナーでAIへのバトンタッチ
●製造子会社系SI事業者／親会社本業のAI取り組みへの関与
●事務機器子会社系SI事業者／ポストクラウドのフロンティア
●流通・サービス子会社系SI事業者／AIエージェントは長期戦に
●通信子会社系SI事業者／6Gに向けたネットワークへのAI組み込みへ
●電力・鉄道子会社系SI事業者／現場にAIが入りやすいことに留意
●商社系SI事業者／CTC・伊藤忠モデルか、従来アプローチか
●設備・工事系SI事業者／自社のAIによる労働力不足対策を追求

第9章 SI事業者の中期計画
9-1 中期計画のためのポイント
●マクロ環境動向「目先業績への懸念は少ないが、中期的には課題山積み」
●競合環境
●これまでの中期計画主要テーマの変遷



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-sib3-x

半導体チップレット未来戦略

ビジネスチャンスと技術・用途拡大ロードマップ サプライチェーンの全貌ー設計・装置・材料・ソフトウエア



未来シナリオ 技術ロードマップ

AIが主導するアプリケーションごとの進化の方向性、技術実装ロードマップを提示

ビジネスモデル、サプライチェーンはこう変わる

チップレットがもたらす産業構造の変化と新プレーヤーの出現

チップレット製造技術と設計技術の要諦

各社のチップレットを支える設計技術、製造技術を詳解

AIソフトウエアの現状と課題、参入戦略

GPU向けAIソフトウエア環境の成り立ちと現状

■ 著者・編集：日経BP 総合研究所、日経クロステック
■ レポート：A4判、446ページ
■ 2024年12月13日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20619-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20621-6

半導体のサプライチェーン、設計、装置、材料、ソフトウェアはチップレット勃興でどう変わるのか？用途、市場はどこまで広がるのか？

未来の半導体市場を創る「チップレット革命」が始まっています。「チップレット」は、AIやデータセンター、自動車、モバイル機器、エッジデバイスなど、あらゆる分野で新たな競争優位を築くカギであり、半導体とその関連産業の在り方を根底から変える力を持っています。

2030年に1兆ドル（140兆円）の市場規模を目指す半導体産業は、50年に一度の変革期を迎えました。その中心にあるのが「チップレット」です。「微細化技術」が曲がり角を迎え、次を担う技術として台頭してきたチップレットは、単なる半導体のパッケージ形態の進化ではありません。半導体を造る企業も使う企業もビジネスモデルが変わり、製造技術、設計技術、ソフトウエア環境も変化を免れません。今こそ新規参入のチャンスであり、実際、多くの企業がチップレット関連の新事業を模索し始めています。

本レポートでは技術の詳細からビジネスへの応用までを網羅し、戦略構築の指針を提供します。半導体ユーザーはもちろん、半導体事業を強化したい方、関連事業への進出を検討する方にとっても不可欠な情報を収めています。この技術のインパクトと影響範囲、ビジネスモデル変革の本質、必要な投資と戦略構築のポイントなどさまざまな疑問に答えられるようにしています。

半導体チップレットのビジネスの現状と未来を読み解く本レポートは、半導体関連の事業者はもちろん、半導体のユーザー、これから事業参入を検討する方に必携の一冊です。

目次

第0章 このレポートの読み方
0-1 本レポートの目的と想定読者
●本レポートの目的
●本レポートの想定読者
●情報ニーズと各章の対応
0-2 本レポートの構成

第1章 チップレットが生み出す新事業と新産業
1-1 チップレットで広がる可能性
●設計・製造だけでなく半導体ビジネス全体の変革に
●最大のドライブ要因は急拡大するAI
●性能向上のニーズに半導体の進化が追いつかない ほか
1-2 拡大する市場と激変するサプライチェーン
●チップレット向け新技術がサプライチェーンの広がりを生む ほか
1-3 チップレットで主導権を握るには？ 日本企業の課題と挑戦
●日本の技術開発力を世界へ展開 ほか

第2章 未来シナリオとロードマップ
2-1 AIが主導するアプリケーションの進化とチップレット
●現代社会の2大メガトレンドとチップレットの貢献
●応用領域での技術・ビジネスのトレンドに伴うチップレットへの要求 ほか
2-2 クラウドとチップレットの未来
●生成AIなどAIの普及と高度利用が半導体開発に及ぼす影響
●演算器とメモリーの融合が進展、それを支援する半導体技術が求められる ほか
2-3 エッジ端末とチップレットの未来
●近未来のエッジ端末に搭載される機能
●人と機械の関わりをより緊密にするための半導体の進化
●エッジ端末の利用シーンを拡大するためのエネルギーハーベスティング ほか
2-4 自動車とチップレットの未来
●SDVのE/Eアーキテクチャーとそこで求められる半導体像
●ゾーン型アーキテクチャーでのチップレットに対する要求
●電動化の進展に伴って求められるパワエレ向けチップレット技術 ほか
2-5 産業/社会システムとチップレットの未来
●DX、GXの推進にデジタルツインをフルに活用
●製造業では、OTとITの両面で高度な情報処理技術の投入が求められる ほか
2-6 チップレットおよび半導体実装技術のロードマップ
●情報技術の高速化に向けたチップレット技術のロードマップ
●ヘテロインテグレーション（HI）への対応に向けた技術ロードマップ ほか

第3章 ビジネスモデルとサプライチェーン、新プレーヤーの出現
3-1 チップレット時代の産業構造とビジネスモデル
●半導体振興政策の鍵を握るチップレット
●既に始まる標準化争い、相次ぐ国家プロジェクト
●ポスト5G基金によるチップレット統合技術開発
●ポスト5G基金によるチップレット要素技術開発 ほか
3-2 生産ラインのシミュレーション
●チップレット時代に向けた新たな生産体制を提案
3-3 チップレットの市場規模の見積もり
●チップレットが生み出す市場規模は、10兆～20兆円
3-4 新プレーヤーの出現と業種別からの主導権争い
●スタートアップから商社まで、参入企業は多種多様
3-5 日本が取るべき勝ち筋、業界構造再編のシナリオ
●生成系AIに注目、日本の半導体強化につながる分野
●多様な半導体を詰め込んだ「幕の内弁当」が日本の勝機
3-6 付録1 生産ラインシミュレーションの詳細
●前・後工程の融合を短TAT生産に利用することを提案
●チップレット効果を考慮した短TAT生産
●短TAT生産のシナリオ別シミュレーション
3-7 付録2 ポスト5G基金事業の全容
●「半導体・デジタル産業戦略」を推進するための技術開発を推進 ほか

第4章 チップレットの製造技術
4-1 チップレット製造トレンドと今後
●多様化するチップレットパッケージの形態
●チップレットパッケージの将来トレンド
4-2 構造・組み立て・製造・材料技術
●チップレット技術の全体像
●有機基板層
●インターポーザー層（1）シリコンインターポーザー型
●インターポーザー層（2）ガラスインターポーザー型
●インターポーザー層（3）有機インターポーザー型
●インターポーザー層（4）シリコンブリッジ型
●インターポーザー層（5）縦方向配線 ほか

第5章 チップレットの設計技術
5-1 エッジAIの可能性と大脳への挑戦
●注目されるエッジAIへの取り組み
●GPU中心のAI処理の限界 ほか
5-2 EDAツールの進化が支えるチップレット、1nmを超えて
●現状の設計環境
●3Dにおける設計技術の変化
●チップレット設計
●今後の開発予定 ほか
5-3 設計・開発コストの削減に挑む
●スケーリング則の限界
●目的特化型のDSAの必要性
●DSAの開発コスト削減に有効なチップレット
5-4 熱設計・冷却設計の課題と突破口
●チップレットの熱的な構造
●チップレットの放熱で上面が重視される理由
●有機インターポーザー採用で放熱性はどう変わるか
●放熱に貢献するダミーダイ、優位性低いガラス基板
●裏面電源供給のチップレット熱設計への影響 ほか

第6章 AIソフトウエアの現状と課題、参入戦略
6-1 GPUはなぜAI処理に向くのか
●エヌビディアの優位性を築いたソフトウエアへの投資
●GPUの誕生とAI処理への流れ
●GPUハードウエアの仕組みとプログラム実行
6-2 AIプログラミング環境とAIフレームワーク、AIコンパイラー
●低レベルソフトウエア開発環境
●プログラミングモデルの分類
●LLVM／MLIRコンパイラー基盤技術 ほか
6-3 ハードメーカーが考えるべきAIソフト戦略
●エッジデバイスへのAIモデルデプロイ
●ハードベンダーのAI参入事例と今後の課題

第7章 市場・技術をリードする企業の動向と戦略
7-1 設計・製造プレーヤーの動向と戦略
●チップレットとマルチダイソリューションの違い
●初期のチップレット実装
●インテルのチップレット実装
●チップレットのメリットを活用するAMD ほか
7-2 世界のキープレーヤー50社の動向と戦略
●チップレット関連ビジネスを分類
●どの企業がどの分野のチップレット事業に参入できるのか
●ファウンドリー：台湾・台湾積体電路製造（TSMC）
●ファウンドリー：韓国サムスン電子 ファウンドリー事業
●ファウンドリー：米インテル・ファウンドリー ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-scchip-x

DXサーベイ 2025-2027

936社の課題分析、成功・失敗の要因と投資意向
生成AI活用／GX・SX／データドリブン経営



936社デジタル化実態調査

企業の現状と課題、成功と失敗の要因、
投資意向などを分析

生成AI活用、GX・SX、データドリブン経営の実態と課題

今後のDXの主テーマになる3領域の実態から、
自社の強み・弱みを分析

成功/先進企業のDX戦略レポート

トヨタ自動車、アシックス…
成功の要諦と次の一手を知る

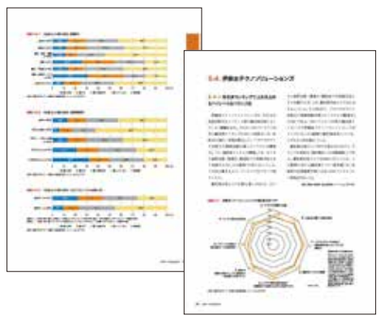
ITベンダー顧客満足度・期待度調査

8つの評価軸でランキング。
どこと組むべきか見極める

■ 著者：日経BP クロスメディア編集部 編集委員 浅川 直輝、
日経BP 総合研究所 イノベーションICTラボ 上席研究員 渡辺 享靖
■ レポート：A4判、428ページ
■ 2024年10月31日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20611-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,078,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20613-1

936社のデジタル化実態調査、先進企業の戦略、ITベンダー/コンサルの顧客満足度、期待度調査…「攻めのDX」で成果を上げるための指南書です

デジタルトランスフォーメーション（DX）は2025年、新たな段階に入ります。
ChatGPTの登場以来、急速に進化しつつある生成AI。企業活動による環境影響の可視化が求められるグリーントランスフォーメーション（GX）／サステナビリティートランスフォーメーション（SX）。基幹システムを刷新し「2025年の崖」を越えた先に見えるデータドリブン経営。2025年からの「DX3カ年計画」を策定するうえで、これら3領域の最新トレンドを押さえることは不可欠です。
本レポート『DXサーベイ 2025-2027』は、生成AI活用／GX・SX／データ経営の実態と展望を含め、全国の企業936社のDXを多面的に調査・分析することで本質を明らかにし、「攻めのDX」で成果を上げるための勘所を示した指南書です。「現状と課題を知る」「成功企業に学ぶ」「適切なDXパートナー（ITベンダー／コンサルティング会社）を見極める」という3要素について、豊富なデータと事例に基づき徹底解説した「DX成功への必携の書」と言える一冊です。



目次

第1章 デジタル変革を巡る変化、未来への針路
1-1 エグゼクティブサマリー
●生成AIブームが示すDX成功企業の条件
1-2 DX投資動向
●DX投資は企業の4割超が増額へ ほか
1-3 DXの見直し・強化策
●DXの2大強化策、DX人材の育成と組織風土改革 ほか
1-4 「2025年の崖」問題の深刻度
●「2025年の崖」問題、半数以上の企業が「深刻」と回答 ほか
1-5 DX領域で採用・育成すべき人材像
●DX領域で採用・育成を強化すべき人材像、
変革リーダーは不動の首位
1-6 生成AIの活用状況
●生成AIの「全社活用」は大企業が中小企業の15倍 ほか
1-7 GX／SXへの対応動向
●スコープ3算定の仕組み、4割の企業が構築に前向き
1-8 「データドリブン経営」への取り組み
●データドリブン経営、4割が実現に前向き ほか

第2章 936社独自調査、DXの課題と展望
2-1 デジタル化実態調査の概要
2-2 7大経営課題の緊急度
2-3 DXの推進状況
2-4 DXの目的
2-5 「DXの重要性」の変化
2-6 DXに関する経営トップの姿勢
2-7 DXを主導するリーダーに求められる資質
2-8 DXプロジェクトの成果
2-9 DXへの理解・協力が不足している部門
2-10 DXを推進するための見直し・強化策
2-11 生成AI時代を見据えたDX投資動向
2-12 DX投資を増やす理由
2-13 ITシステム4領域のウェイト配分
2-14 DX関連技術・ソリューション24項目の導入状況と重視度
2-15 データ収集・分析の導入状況
2-16 生成AIの導入状況
2-17 認識・予測AIの導入状況
2-18 クラウドの導入状況
2-19 ERPの導入状況
2-20 ノーコード／ローコード開発の導入状況
2-21 アジャイル手法の導入状況
2-22 不正検知／ゼロトラストの導入状況
2-23 IoTシステムの導入状況
2-24 DXパートナーの選定基準と重視度ランキング
2-25 DX領域で採用・育成すべき人材像
2-26 DX人材の育成策
2-27 「2025年の崖」問題の深刻度
2-28 基幹系システムの今後

第3章 936社のDX施策、生成AI活用／GX・SX／データ経営の実態と課題
3-1 生成AIの活用状況
3-2 生成AI活用の理由
3-3 生成AIを活用している業務
3-4 活用／試用している生成AI関連サービス
3-5 生成AI技術／サービス選定時に重視する項目
3-6 生成AI活用における工夫
3-7 生成AI活用における課題
3-8 生成AIを導入していない理由
3-9 「スコープ1・2」算定の仕組みの整備状況
3-10 「スコープ3」算定の仕組みの整備状況
3-11 温暖化ガス排出量の算定・抑制に向けたIT部門の施策
3-12 「データドリブン経営」への取り組み
3-13 データドリブン経営に向け実践している項目
3-14 データドリブン経営推進へ投資を増やしている
IT製品／サービス
3-15 データドリブン経営の導入を阻む要因

第4章 成功企業／先進企業15社のDX戦略
4-1 アシックス
4-2 荏原製作所
4-3 大林組
4-4 花王
4-5 クレディセゾン
4-6 JFEスチール
4-7 中外製薬
4-8 東京エレクトロン
4-9 TOPPANグループ
4-10 トヨタ自動車
4-11 日清食品グループ
4-12 日本郵船
4-13 パナソニックグループ
4-14 三井物産
4-15 三菱重工業

第5章 主要ITベンダー／コンサル19社の顧客満足度
5-1 領域別のDXパートナー満足度ランキング
●委託実績に基づくDXパートナーの満足度を集計
●「A.デジタル化戦略の立案」領域の顧客満足度ランキング
●「B.生成AIの導入・活用支援力」領域の顧客満足度ランキング
●「C.クラウドやデータ分析など最新技術を使った
システムの構築力」領域の顧客満足度ランキング
●「D. 基幹系システムの構築」領域の顧客満足度ランキング
●「E. ビジネス変革支援・推進力」領域の顧客満足度ランキング
●「F. 総合力」領域の顧客満足度ランキング
●「G. グローバル対応力」領域の顧客満足度ランキング
●「H. サービス料金の妥当性」領域の顧客満足度ランキング

第6章 主要ITベンダー／コンサル19社の顧客期待度
6-1 領域別のDXパートナー期待度ランキング
●「委託したい」と思うDXパートナーを8領域別に集計
●スコア合計の総合期待度ランキング順位
●「A.デジタル化戦略の立案」領域の期待度ランキング
●「B. 生成AIの導入・活用支援力」領域の期待度ランキング
●「C. クラウドやデータ分析など最新技術を活用した
システムの構築力」領域の期待度ランキング
●「D. 基幹系システムの構築」領域の期待度ランキング
●「E. ビジネス変革支援・推進力」領域の期待度ランキング
●「F. 総合力」領域の期待度ランキング
●「G. グローバル対応力」領域の期待度ランキング
●「H. サービス料金の妥当性」領域の期待度ランキング

第7章 主要ITベンダー／コンサル15社のDX方法論
7-1 アクセンチュア
7-2 アビームコンサルティング
7-3 NEC
7-4 NTTデータ
7-5 KPMGコンサルティング
7-6 シグマクシス
7-7 セールスフォース・ジャパン
7-8 TIS
7-9 デル・テクノロジーズ
7-10 日本オラクル
7-11 野村総合研究所
7-12 PwCコンサルティング
7-13 BIPROGY
7-14 日立製作所
7-15 富士通



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-dxs4-x

AIビジネス事業創出・参入戦略 2025-2028

有望27領域のビジネスチャンスと市場予測
業種／業務機能／事業タイプ／機能要素別



AI市場の動向
技術、海外市場、AIのリスクや規制まで詳解

主要16業種別 ビジネスチャンス
市場規模予測や成功事例など参入を検討するために必要な情報を提示

業務別/技術別の市場予測
AI活用のニーズとソリューションを解説

AI分野の パートナーシップ選定戦略
パートナー企業の選び方やメリット・留意すべき点を解説

AI活用でどのようなビジネスチャンスが考えられるのか？ 市場規模はどこまで伸びるのか？ 拡大するAIビジネスへの参入、新規事業を検討される方に必携の一冊です

生成AIの登場で、導入の拡大が続くAI市場。本レポートは、AI市場の最新動向の把握や市場への参入、関連する商品・サービス開発などに挑戦する企業・担当者に向けて、市場の動向や市場規模の推移、ビジネスチャンスを独自の視点でまとめたものです。

本レポートでは、主な16業種（農業、畜産業、製造業、運輸業、小売業、建設業、医療など）を取り上げ、それぞれにおけるAIビジネスの現状や市場の規模及び予測、現在のキープレーヤーや成功事例、そしてビジネスの参入チャンスを具体的に解説しています。また業種だけではなく、領域別や機能要素別（AI技術別）、事業タイプ別の視点からも、市場動向や2028年までの市場予測等を分析しています。

パートナー企業の選び方や付き合い方についても解説。AIベンチャー企業やSI事業者相手だけではなく、異業種のユーザー企業と組む場合も想定しています。またAI市場のマクロ動向や周辺環境動向、ビジネスモデルの変化なども詳細に解説しています。

豊富な図表でマクロ及びミクロの両面からAIビジネスの現状と未来を読み解く本レポートは、AIビジネスへの参入を検討する方に必携の一冊です。

■ 著者：桑津浩太郎　■ 編集：勝村幸博（日経クロステック）
■ レポート：A4判、494ページ　■ 2024年9月13日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20372-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20374-1

目次

第0章 エグゼクティブサマリー
0-1 AI事業・投資の可能性
●AIが世の中を変える
0-2 本レポートの使い方
●想定読者 ●本レポートの読み方

第1章 AI市場のマクロ動向
1-1 AI市場のマクロ動向
●生成AIによる「AIの民主化」
●深層学習までのAIと生成AIの相違
●生成AIがAI市場に与える影響 ●世界のAI市場規模 ほか
1-2 AI技術の動向
●生成AIの大規模化 ●生成AIの最適化
●分散アーキテクチャー ●マルチモーダル化
●AI向け半導体の動向 ●ポスト生成AIの動向 ●AIリスク

第2章 AI市場の周辺環境動向
2-1 労働力不足とAI
●AIが果たす役割 ●移民による労働力減少の解決
●リスキリングによる労働力減少の解決 ほか
2-2 海外市場の動向
●米国のAI市場 ●中国のAI市場 ●欧州のAI市場
2-3 AIリスク及び規制の動向
●倫理領域におけるAIリスク ●社会領域におけるAIリスク
●米国のAI規制 ●欧州のAI規制 ●中国のAI規制
●日本のAI規制 ●軍事利用に関する規制

第3章 ビジネスモデルの変化
3-1 AI導入の現状
●AIがもたらす職業代替の危機意識
●AIが代替可能な職業
●AIが変える労働と業務 ほか
3-2 AI導入の課題と対応
●自動運転における課題と対応策
●AIやロボットに対する固定観念
●100点のシステムを狙わない ほか

第4章 業種別AI市場の動向・市場規模予測（2022～2028年）
4-1 農業
4-2 畜産業
4-3 製造業（組立）
4-4 製造業（プロセス）
4-5 セキュリティーサービス
4-6 運輸業
4-7 小売業
4-8 卸売業
4-9 金融業
4-10 エネルギー業
4-11 通信業
4-12 建設業
4-13 不動産業
4-14 教育産業
4-15 医療
4-16 広告業

第5章 業務機能別AI市場の動向・市場規模予測（2022～2028年）
5-1 フィールド
●フィールドAIの市場規模
●フィールドAIにおける自動認識
5-2 マーケティング
●AIで変わるマーケティングの常識
●マーケティング領域におけるAI活用
5-3 オフィス
●オフィス領域における生成AI
●生成AIの圧倒的な存在感

第6章 機能要素別AI市場の動向・市場規模予測（2022～2028年）
6-1 画像認識
●画像認識の市場予測 ●画像認識の市場動向 ほか
6-2 音声認識
●音声認識の市場動向 ●音声認識の市場規模 ほか
6-3 翻訳
●翻訳の市場規模 ●翻訳の技術動向と生成AI
6-4 コンテンツ生成
●コンテンツ生成の市場動向 ●コンテンツ生成の課題 ほか
6-5 AIキャラクター
●AIキャラクターの市場動向 ●AIキャラクターの市場予測 ほか
6-6 操縦
●操縦の市場動向 ●操縦の市場予測 ●操縦の技術動向
6-7 ハンドリング
●ハンドリングの市場動向 ●ハンドリングの市場予測 ほか
6-8 学習・モデル化
●学習・モデル化の投資動向 ほか

第7章 事業タイプ別の課題と戦略分析
7-1 AIベンチャー企業
●AIベンチャー企業における課題 ほか
7-2 製造業
●製造業におけるAIの課題 ほか
7-3 インフラ系企業
●インフラ系企業におけるAIの課題 ほか
7-4 金融業
●金融業におけるAIの課題 ほか
7-5 運輸業・流通業
●運輸業・流通業におけるAIの課題 ほか
7-6 ITソリューション（独立系）
●ITソリューション（独立系）におけるAIの課題 ほか
7-7 ITソリューション（子会社系）
●ITソリューション（子会社系）におけるAIの課題 ほか

第8章 AI分野のパートナーシップ選定戦略
8-1 AIベンチャー企業
●AIベンチャー企業に対する課題
●AIベンチャー企業とのパートナーシップ
8-2 総合SI・コンサルティング事業者
●総合SI・コンサルティング事業者に対する課題
●総合SI・コンサルティング事業者とのパートナーシップ戦略
8-3 異業種パートナーシップ
●パートナーシップ形成時の業種別留意点
●広告代理店とのパートナーシップ戦略
●インフラ系事業者（電力・ガス・鉄道等）とのパートナーシップ戦略
●不動産業・デベロッパーとのパートナーシップ戦略
●商社とのパートナーシップ戦略
●自動車メーカーとのパートナーシップ戦略
●金融業とのパートナーシップ戦略
●自治体とのパートナーシップ戦略

【10の切り口で業種別に解説します】
- サマリー
- AI導入の現状
- AI及びAIソリューション市場規模予測
- AI化を実現・促進する代表的な技術・動向
- 生成AIのインパクトや活用状況
- 顕著な成功事例、注目事例やビジネスモデルの転換例
- 当該分野の有力企業
- AI導入に向けた課題（技術・環境・投資）
- AI化指標（AIによる代替、想定ポテンシャル等）
- イノベーションの展望と参入チャンス



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-aibiz-x

ロボット未来予測2033

AIで激変する活用・開発ロードマップ 市場規模／企業の導入・投資意向調査



市場の成長シナリオ・市場規模予測

AIで超進化するロボット6選 &技術ロードマップ

ロボット関連の5大AI技術

ロボット導入・投資意向調査

市場成長シナリオ・市場規模予測からAIで激変するロボット6選の解説まで

本レポートで実施した調査によると、「AIロボットの導入の可能性がある」と回答する企業が7割に及びました。大規模言語モデルや機械学習といった人工知能の進歩が、ロボット技術に大きな発展をもたらし始めています。導入時のティーチングが簡単になる、さまざまな状況に合わせて臨機応変に動作を変える、より人に近い動きができる、などこれまでにない能力を備えたAIロボットに対し、導入企業の期待が大きく高まっています。
労働力不足を解消する切り札となる協働ロボットや配送ロボット、建設ロボット、倉庫物流ロボット、家庭ロボット、自動運転車などが注目を浴びています。本レポートでは、すでに工場などで活用されている産業用ロボットを含めて2033年までの各ロボット市場を展望しながら市場規模を予測するとともに、各市場への事業機会を最新情報により分析し、AIロボットの技術動向と活用イメージを予測します。さらにロボット導入企業など469社と、現場686人のそれぞれに導入時期と投資の意向について調査した結果も収録しています。ロボットの開発戦略の策定に必要な情報を網羅した一冊です。

■ 著者：園田展人、目黒文子
デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
■ 編集：日経クロステック　■ レポート：A4判、456ページ
■ 2024年2月22日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20363-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20365-9

目次

第1章 ロボット市場予測
市場拡大への技術見通し ●社会課題に対応するロボットとクラウド／**主要ロボットの成長シナリオ・市場規模予測** ●産業用ロボット（要約、市場概観、成長シナリオ、普及動向）／**産業用ロボット普及の業界別動向・市場規模予測** ●今後ロボット導入の増加が期待される業界 ほか

第2章 AIで変貌し始めたロボット
なぜ今、AIロボットなのか ●ロボット大変革への対応が急務に ほか／**注目すべき5つのAI技術と6つのロボット** ●協働ロボットや自動運転車などを選定 ●開発目標を特定しロードマップを提示

第3章 ロボットに影響を与える5大AI技術
大規模モデルによるロボティクス基盤モデル ●大規模モデルが起こす2つのブレークスルー／**模倣学習・深層強化学習** ●ロボティクス分野に新たな展開／**Sim-to-Realとデジタルツイン** ●シミュレーターと現実世界のギャップ／**生成エージェント** ●ロボット導入前に生産性や安全性を評価 ●人間のように振る舞う25人のエージェン／**MCS-AI動的連携モデル** ●街で活躍するロボットとメタAIが連携 ●メタAIで人間とロボットが融和 ほか

第4章 AIで超進化するロボット6選
協働ロボット ●協働ロボットの定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ
配送ロボット ●配送ロボットの定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ
建設ロボット ●建設ロボットの定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ
物流倉庫ロボット ●物流ロボットの定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ
家庭ロボット ●家庭ロボットの定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ
自動運転車 ●自動運転の定義 ●環境分析 ●技術開発ロードマップ ほか

第5章 ロボット導入・投資意向調査【企業469社＆現場686人】
調査概要 ●調査概要［企業調査・現場調査］／**ロボット利用と満足度の現状** ●ロボット利用状況［企業調査］／**今後のロボットの導入意向** ●今後のロボット増設・導入の予定・計画［企業調査］／**今後3年間のロボットへの投資意向** ●ロボットへの投資・事業判断の決定権者［企業調査］／**AIロボットへの期待** ●AIロボットへ何を期待するか［企業調査・現場調査］／**AIロボットの現場活用イメージと課題** ●AIロボット導入・活用の可能性［現場調査］／**AIロボットへの投資と導入時期** ●AIロボットに対する3年後の投資額［企業調査］／**AIロボットの課題と相談先** ●AIロボットの課題［企業調査・現場調査］ ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-rob-x

IoTセンサー未来戦略2035

活用実態・満足度調査、市場規模、開発トレンド



ユーザー企業 選定理由・満足度調査

IoTセンサーの 市場規模予測

次世代技術・ 開発トレンド分析

IoTセンサー総覧 機能・特徴分析

「競争力」のカギを握る「センサー」選定や開発、事業構想に必要な情報が一冊に

ICT（情報通信技術）の進化とともに、社会のあらゆる領域で「データ」が大きな役割を担う時代を迎えました。こうした中、IoT（Internet of Things）の概念を実践するためのキーデバイスであるセンサーの重要性が高まっています。こうした「IoTセンサー」が、データの収集および活用の可能性を大きく左右するからです。いまやIoTセンサーを巡る動向は、研究開発の領域では当然のこと、社会やビジネスの新たな構想を描くうえでも見過ごすことができなくなってきました。そこで本レポートでは、様々なIoTセンサーを調査を基に分類し、種類別の特徴や用途を解説。さらに、種類別の市場や応用の動向、IoTセンサーの活用実態・満足度およびIoTセンサーの開発動向に関する独自調査の分析、特許情報を可視化する手法による次世代技術の動向分析など、IoTセンサーの現状を把握し、今後の動きを先取りするために役立つ情報を、豊富なデータとともに掲載しました。IoTセンサーを利用・導入する企業とIoTセンサーの開発する企業のいずれの方にも、今後の戦略や構想を練るうえで役立つ情報が一冊に凝縮されています。

■ 編集：日経クロステック、日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、414ページ　■ 2023年10月31日発行
■【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20239-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,078,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20241-6

目次

第1章 イントロダクション
本レポートの使い方 ●本書の概要

第2章 IoTセンサー総覧／機能・特徴分析
はじめに ●測定対象と種類のマッピング／**測定項目にみるセンサーの種類と特徴** ●振動をはかる ●歪み（ひずみ）をはかる ●圧力をはかる ●回転をはかる ●照度をはかる ●距離をはかる ●モノの有無をはかる ／**センサーの種類別特徴** ●可視光センサー（受光素子） ●照度センサー ●光電センサー ／**IoTセンサーの代表的メーカー** ●世界の主なメーカー268社一覧 ほか

第3章 IoTセンサー11種類の市場規模・応用動向分析
全体動向 IoTの普及とともに拡大するセンサー市場 ／**3-2～3-12 センサータイプ別の市場動向／応用動向** 可視光イメージセンサー（CCD／CMOS）／磁気センサー／加速度センサー／慣性計測ユニット／圧力センサー／湿度センサー／角速度センサー／赤外線センサー／ガスセンサー／流量センサー／赤外線イメージセンサー

第4章 選定理由・満足度調査 全回答分析
調査概要 ●調査手法と期間 ／**IoTセンサーの選定理由・満足度・導入計画／IoTセンサー開発動向調査** ほか

第5章 次世代技術の開発トレンドと応用動向
特許にみるIoTセンサーの開発動向 ●デジタル変革のカギを握るセンサー ／**特許情報の俯瞰解析から読み解く IoTセンサーの開発・応用動向** ●俯瞰図から見える開発の動き ●IoTセンサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●LiDARの開発トレンドと注目企業の動向 ●赤外線センサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●変位センサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●加速度センサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●角速度センサー開発トレンドと注目企業の動向 ●バイオセンサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●音波・超音波センサーの開発トレンドと注目企業の動向 ●温度センサーの開発トレンドと注目企業の動向 ／**IoTセンサーを巡る米5大IT企業の動向** ●俯瞰図から見える米5大IT企業の独自戦略 ●LiDARを巡る米5大IT企業の動向 ●赤外線センサーを巡る米5大IT企業の動向 ●角速度センサーを巡る米5大IT企業の動向 ●バイオセンサーを巡る米5大IT企業の動向 ／**IoTセンサーの特許公開動向** ●特許公開件数の上位企業と年間公開件数の推移 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-iot2-x

GXビジネス 事業創出・参入戦略

脱炭素・ネイチャーポジティブを実現する技術138
ゲームチェンジを迫る分野別ビジネス機会分析
世界各国の戦略・政策動向



GX関連市場で、「ビジネスチャンスがどこにあるか」がわかる

有望138の技術の成熟度・有望度とロードマップを提示

GX関連技術を実装する際のエコシステム／サプライチェーンを提示

企業が切り開いていくべき事業領域、参入機会を分析

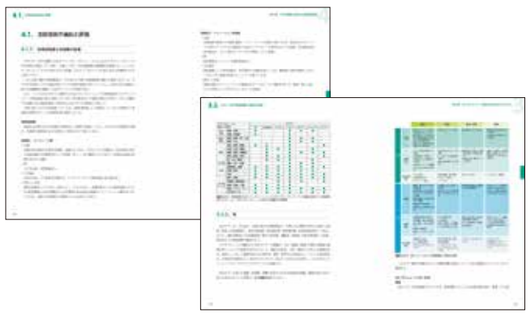
脱炭素ビジネスで有望な138の技術を個別に独自分析、潜在的なビジネス機会を業種別に解説します

スコープ3までを視野に入れた脱炭素への取り組み、生物多様性に貢献する取り組みなど、いわゆるサステナビリティ経営に取り組む企業に向け、[GX]をキーワードとしたビジネス機会を見いだして事業成長につなげていくための戦略のヒントを提示するレポートです。

GXの対象になる技術分野を細分化し、それぞれの技術の成熟度・有望度と、そのロードマップ、周辺技術などを含めたエコシステムとそこに潜在するビジネス機会を解き明かします。

国際イニシアティブや社会情勢、投資家・社会からの要請、各国の規制をはじめとした動向など、最新の背景情報をまとめつつ、取り組みとビジネス機会を業種ごとに分析。ビジネス機会とテクノロジーをひも付けて分析することで、多様なビジネス機会をできるだけ具体的に示し、著名企業や斬新な取り組みを見せる企業の事例も提示します。

拡大するGXビジネスへの参入、新規事業を検討される方に必携の一冊です。



■ 著者：シグマクシス ■ レポート：A4判、306ページ
■ 2025年4月21日発行
■ 【書籍のみ】価格:660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20622-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:990,000円（10%税込）、
ISBN:978-4-296-20624-7

目次

第1章 GXの背景とゲームチェンジの要素

1-1 エグゼクティブサマリ
1-2 気候変動の進行と脱炭素
- GXの背景として重要性を増すCOP
- 脱炭素の大枠を決めたパリ協定
- 低炭素、脱炭素、次は? ステージ移行は続く
- 脱炭素ビジネスはエネルギー、モビリティ、情報通信、食へと広がる
- 気候変動の「緩和」も「適応」もビジネス機会
- 脱炭素に向かって強まる世界のコミットメント
- 責任投資原則に沿ったESG投資が拡大
- イニシアティブがGXへの企業の取り組みを評価

1-3 気候関連財務情報開示の動向
- 「投資家向けの気候変動情報の開示方法」を示したTCFD提言
- 日本での開示も進む、27年3月期からプライム市場上場企業への義務化検討
- 進むサステナビリティ開示基準の整備

1-4 GXとともに進展するゲームチェンジ
- 発電コストの経済性を帯び再生可能エネルギー導入が拡大
- 経済性と規制の綱引きで揺れるEVの導入拡大
- エネルギー効率性向上、省エネの重要性は変わらず
- 現行システムとの相性よく、注目集まるCO_2の吸収・回収
- 水素社会＋アルファ

1-5 脱炭素を促す規制や仕組み
- 課金で行動を促すカーボンプライシング
- 環境証書の購入で電力を実質再生可能エネルギー化
- CO_2削減量を取引可能にするカーボンクレジット
- Scope1・2

1-6 拡大の方向性・サプライチェーン脱炭素
- LCA規制
- Scope3
- 先進企業による脱炭素要求の実態と拡大の理由
- 選ばれる企業
- 企業の脱炭素リソース選択

1-7 地球環境保全、ネイチャーポジティブ
- 危機的状況にある生物多様性、天然資源
- 将来の供給不足のリスクもあり進む資源循環
- 自然資本関連の情報開示求めるTNFD
- サステナビリティ経営が主流になる時代へ

1-8 不確実性の要因・地政学リスク
- ウクライナ侵攻・中東紛争でエネルギー価格が激動
- エネルギー安全保障が再生可能エネルギーを後押し
- 経済安全保障で注目、脱炭素サプライチェーンのチャイナリスク
- 物価・人件費の高騰で再生可能エネルギーのコストが変動

1-9 脱炭素と既存電源の進化の影響
- 現実的選択肢としての次世代火力+CCS
- クリーンなベースロード電源として期待される原子力・SMR

第2章 各国の動向

2-1 エグゼクティブサマリ
2-2 欧州
- 最新動向 ●宣言・ロードマップ ●戦略・政策 ●カーボンプライシング ●開示 ●脱炭素動向 ●資源循環 ●日本への影響

2-3 米国
- 最新動向 ●宣言・ロードマップ ●戦略・政策 ●カーボンプライシング ●開示 ●脱炭素動向 ●資源循環 ●日本への影響

2-4 日本
- 最新動向 ●宣言・ロードマップ ●戦略・政策 ●カーボンプライシング ●開示 ●脱炭素動向 ●資源循環

第3章 サプライチェーン視点で捉えるGXビジネス

3-1 ビジネス機会の捉え方
- 【攻めの方策】変化に伴う機会を捉えた新たな収益源の獲得

3-2 セクター別の環境影響と代表的な施策
- セクター別GXビジネス機会の読み方 ●食 ●生活用品 ●アパレル ●ハイテク機器 ●街づくり ●ユーティリティ ●リテール

3-3 先進企業事例
- Tesla／仮想発電所のプラットフォームを提供
- Verdigris Technologies／AI搭載のスマートメーターで電力需要を高精度予測
- ノベルクリスタルテクノロジー／高出力・高効率のパワー半導体
- 積水化学工業／コストを抑えてペロブスカイト太陽電池を製造
- エネコート・テクノロジーズ／ペロブスカイト太陽電池で世界最高水準の発電効率
- Energy Vault／非揚水式重力発電でビルを巨大な蓄電システムに
- アルバトロス・テクノロジー／風力でも潮流でも海流でもタービンによる発電を推進
- 商船三井／ゼロエミッション海運の実現に奮闘
- 日本電気硝子／オール酸化物全固体ナトリウムイオン二次電池を開発
- Oxford PV／ペロブスカイトとシリコンのタンデム型太陽電池を開発
- Hystar／グリーン水素製造を可能にする高効率のPEM型電解槽を開発
- Ineratec／再生可能エネルギーで合成燃料、合成化学品を製造
- 鹿島建設／牛のゲップのメタンガスを抑制するカギケノリの培養技術を確立
- ウミトロン／AIやIoTを活用した養殖支援サービスを展開
- Verdox ／エレクトロスイング吸着法でCO_2を分離回収

第4章 GXの実現に資する注目先端技術

4-1 注目技術の抽出と評価
4-2 カーボンニュートラル関連技術
- 技術マップ
- エネルギーマネジメントシステム
- 次世代パワー半導体
- ペロブスカイト太陽電池
- 浮体式洋上風力
- エネルギー固定化技術
- CO_2分離・回収
- 次世代燃料
- 小型モジュール炉

4-3 ネイチャーポジティブ関連技術
- 技術マップ
- 排気・排水処理技術
- 低環境負荷染色
- バイオレメディーション
- リサイクル技術（プラスチック・レアメタル）
- ライフサイクルアセスメント（LCA）
- バイオマス産業化
- 低環境負荷食料生産



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-gxbiz-x

ウェルビーイング市場を拓く技術開発戦略

幸福・快適・満足をもたらす有望技術356と産業別の商品・サービスコンセプト



ウェルビーイングの実現につながる有望技術を抽出

商品・サービスコンセプト132

用途・業界別のビジネスチャンスがわかる

ウェルビーイングを実現する技術ロードマップ

幸福・満足・安心を生み出す新たなビジネスは、ここから始まる有望技術から導く「商品・サービスコンセプト」がこの一冊に

本レポートでは「ウェルビーイング」の観点から、新規事業の創出にアプローチしました。2030年～2040年前後の社会を見据えて、これから先に私たちの生活を変え得る9つの有望な技術領域を取り上げ、どのような新しい価値を生み出せるか、様々な観点からウェルビーイングにつながる商品・サービスのコンセプトを導き出しています。

9つの有望な技術領域ごとに、技術の内容や動向の解説、有望な技術特許リスト、想定できる商品・サービスのコンセプト、販売チャネル、各技術テーマの発展の進化の方向性など、様々な視点からその市場性を考察しています。さらに、商品・サービスコンセプトを用途・産業別にも整理。どのような参入機会があるのかを掴むことができます。

ウェルビーイングとは何か、その概念の解説から、生活別、産業別のウェルビーイングソリューション・サービス市場まで予測する一冊です。ぜひご活用ください。

■ 企画・編集・執筆：日経BP 技術プロダクツユニット（日経クロステック）、同 総合研究所
■ 調査・執筆・取材協力：ソニーデザインコンサルティング、博報堂、VALUENEX、CAMI&Co.、新庄貞昭
■ レポート：A4判、318ページ ■ 2023年3月24日発行
【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20101-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：825,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20103-7

目次

第1章 エグゼクティブサマリー
未来の社会と新市場への道を拓く「ウェルビーイング」
本書の目的／なぜ今、ウェルビーイングなのか／本書のアプローチ

第2章 スマートファブリック
スマートファブリックによってもたらされるウェルビーイング ほか

第3章 ソフトロボティクス
ソフトロボティクスによってもたらされるウェルビーイング ほか

第4章 テレイグジスタンス
テレイグジスタンスによってもたらされるウェルビーイング ほか

第5章 感情コントロール
感情コントロールによってもたらされるウェルビーイング ほか

第6章 バイオミメティクス
バイオミメティクスによってもたらされるウェルビーイング ほか

第7章 パワーアシスト
パワーアシストによってもたらされるウェルビーイング ほか

第8章 アンビエントインテリジェンス
アンビエントインテリジェンスによってもたらされるウェルビーイング ほか

第9章 ファインバブル
ウルトラファインバブルなどによってもたらされるウェルビーイング ほか

第10章 ドローン
ドローンによってもたらされるウェルビーイング ほか

第11章 用途・産業別：商品・サービスコンセプト
2用途・8産業のウェルビーイング ●［用途］生活・コミュニケーション ●［用途］働き方 ●［産業］食品・外食 ●［産業］小売り・アパレル・日用品 ●［産業］防犯・防災 ●［産業］建築・住宅・まちづくり ●［産業］医療・ヘルスケア・介護 ●［産業］農林水産業 ●［産業］モビリティー・製造 ●［産業］教育・エンターテインメント



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-wel-x

ウェルビーイングテック最前線

先進企業・組織が手掛ける注目ソリューション100



世界の先進事業を調査 注目事業・ソリューション100

ウェルビーイング事業の開発トレンド33

10の注目技術

❶NFT・ブロックチェーン	❻ヘルスケアテック
❷XR・メタバース	❼ロボティクス
❸生成AI	❽IoT/住宅・建設テック
❹フードテック	❾気候テック
❺スポーツテック	❿ダイバーシティーテック

自社が狙うべき領域はどこか？「ウェルビーイング」商品・サービス開発に必携の一冊

「ウェルビーイング」に注目が集まっています。しかし、その概念は広範にわたり、どんな技術を使ってどのようなウェルビーイングを提供するのか、という問いに対して考えるべき選択肢が非常に多いのが実情です。そこで本レポートは、ウェルビーイングを訴求した新製品・サービス・施策の企画を担当するビジネスパーソンに向けて、具体的なヒントを提供することを目的にまとめました。ウェルビーイングに関連する10の注目技術キーワードを取り上げ、ウェルビーイングテックとしてどのように利活用されているのかを、国内外の100の先進事例で紹介しています。同時に、それら100の先進事例が、どのようなウェルビーイングの実現に役立っているかを「10のウェルビーイングテック提供価値」に整理して分類しました。提供価値と実現技術が複雑に絡み合うウェルビーイングを先進事例から俯瞰できる決定版レポートです。

■ 監修：リンカーズ オープンイノベーション研究所
■ レポート：A4判、190ページ
■ 2023年7月31日発行
■ 【書籍のみ】価格：440,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20271-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20273-7

目次

第1章 総論
ウェルビーイングテックの定義／ウェルビーイング市場の特徴 ほか

第2章 NFT・ブロックチェーン
NFT・ブロックチェーンを用いた事業開発トレンド ほか

第3章 XR・メタバース
XR・メタバースを用いた事業開発トレンド ほか

第4章 生成AI
生成AIを用いた事業開発トレンド（ex. バーチャルヒューマン） ほか

第5章 フードテック
フードテックを用いた事業開発トレンド（ex. 食品廃棄物の削減） ほか

第6章 スポーツテック
スポーツテックを用いた事業開発トレンド ほか

第7章 ヘルスケアテック
ヘルスケアテックを用いた事業開発トレンド ほか

第8章 ロボティクス
ロボティクスを用いた事業開発トレンド（ex. 生活に寄り添うロボティクス） ほか

第9章 IoT/住宅・建設テック
IoT/住宅・建設テックを用いた事業開発トレンド ほか

第10章 気候テック
気候テックを用いた事業開発トレンド ほか

第11章 ダイバーシティテック
ダイバーシティテックを用いた事業開発トレンド ほか

第12章 提供価値で探す注目先進事例
提供価値で探す先進事例INDEX



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-wellbe-x

カーボンニュートラル最前線

世界のテックベンチャー100社の注目技術



最先端の開発を進めるテックベンチャー100社の注目技術とカーボンニュートラルの最新動向を調査・分析

「CO_2回収/再利用」「CO_2排出削減/水素化」「低炭素材料/素材/リサイクル」「環境汚染の低減/希少資源の有効活用」の4つの技術分野にフォーカス

日進月歩で進化する世界の技術を捉え、脱炭素の戦略立案に生かす

カーボンニュートラル技術の最新動向を捉える決定版レポート

地球温暖化対策が国際ルールとして厳格化しつつあります。企業においても「カーボンニュートラル」への取り組みが強く求められ、対応できない企業は市場価値を失い、事業の存続すら危うくなることが懸念されています。カーボンニュートラルの実現には、再生可能エネルギーの利用や電動化/水素化の促進、消費エネルギーの削減、低炭素材料/素材の利用、エネルギーマネジメントなど多岐にわたる技術を組み合わせる必要があり、各技術領域において日進月歩の研究開発が進められています。本レポートは、カーボンニュートラルのテクノロジーにフォーカスし、「CO_2回収/再利用」「CO_2排出削減/水素化」「低炭素材料/素材/リサイクル」「環境汚染の低減/希少資源の有効活用」の4つの技術分野において最先端の開発を進めるテックベンチャー100社の注目技術を分析しました。さらに、カーボンニュートラルの全体的な動向をはじめ、各国の取り組み状況や大手企業の取り組み、主要技術の開発動向を解説しています。

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、146ページ
■ 2023年3月1日発行
■【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：770,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20173-0
※書籍のみの販売はありません。

目次

第1章 総論
全体概要 ●はじめに／●「カーボンニュートラル最前線」の構成 ●注目技術の選定／各国の取り組み ●概要／●米国／●EU／●中国／●日本／大手企業の取り組み ●概要／●SBT（Science Based Targets）／●RE100／カーボンニュートラルの主要技術分類 ●概要／●CO_2回収/再利用／●CO_2排出削減/水素化／●低炭素材料/素材/リサイクル ほか

第2章 CO_2回収/再利用
CO_2回収の最新動向 ●全体概要／●CO_2の液体吸収剤の動向
CO_2の液体吸収剤 ●Carbon Clean Solutions／●Inno Sepra
CO_2の固体吸着剤 ●Global Thermostat Operations／●Susteon
吸収/吸着以外のCO_2回収技術 ●Aqualung／●High Hopes Labs
CO_2の輸送/貯蔵/固定化 ●44.01／●Carbon8 Systems
CO_2の再利用 ●Twelve／●OCOchem／●Prometheus Fuels ほか

第3章 CO_2排出削減/水素化
CO_2排出削減/水素化の最新動向 ●再生可能エネルギーの動向／再生可能エネルギー ●Vortex Bladeless／エネルギー貯蔵 ●Polar Night Energy／水素の製造/利用 ●HY2GEN／アンモニアの製造/利用 ●Starfire Energy／廃熱の利用 ●Nostromo Energy／エネルギーマネジメントシステム ●PATHION／●Green Power Labs／仮想発電所 ●Generac Power Systems／電力取引システム ●Power Ledger ほか

第4章 低炭素材料/素材/リサイクル
低炭素材料/素材/リサイクルの最新動向 ●バイオ燃料の動向／バイオ燃料／●VIRENT／バイオプラスチック ●Made of Air／微生物由来食品 ●Deep Branch Biotechnology／CO_2吸収コンクリート/セメント ●CarbonCure Technologies／プラスチック類のリサイクル ●gr3n／ゴム類のリサイクル ●Pyrum Innovations／廃棄物由来の燃料/アルコール ●Licella Holdings／廃棄物由来のプラスチック/複合材料 ●Mogu ほか

第5章 環境汚染の低減／希少資源の有効活用
環境汚染の低減/希少資源の有効活用の最新動向 ●廃棄物の減容の動向／廃棄物の減容 ●サステイナブルエネルギー開発／水/土壌の清浄化 ●Biomicrogels Group／空気の清浄化 ●Daphne Technology／水環境の可視化 ●Kando／空気環境の可視化 ●Oizom／水の節約 ●Hydraloop／●RainStick／●Water Harvesting ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-canes-x

「望ましい未来」をつくるSDGsテック未来戦略

知財3500万件と17ゴールを相関分析/課題解決に貢献する36技術と有望企業170



調査「SDGsテック」を選定

3500万件の特許×17のゴールを相関分析

「SDGsテック」36個の全貌を明らかに

SDGsへの貢献／技術・研究開発・関連特許の動向

SDGsテック関連知財を保有する有望企業170

技術クラスターとの関係性／特許の取得情報／アライアンス活動

SDGsの目標達成に貢献する有望技術を選定・解説

近年、国連が推進する「SDGs（持続可能な開発目標）」への関心が高まりを見せ、企業は、自社の活動がSDGsの目標にどのように貢献しているのか、ステークホルダーに説明することを求められています。自社のすべての活動が対象となりますが、本レポートが注目しているのは企業が保有する「技術」です。SDGsに必要なのは、現状を大きく変えるイノベーションです。イノベーションにおいて大きな役割を果たすのは「技術」であるからこそ、本レポートは技術に注目しているのです。世界中の技術知財情報を集め、SDGsの目標達成に貢献できる技術を分析し、特に注目すべき技術「SDGsテック」を選定しました。また、有望技術の知財を多く保有する企業、有望技術が創り出す「望ましい未来」、有望技術の中で特に注目したい知財を、それぞれ深掘りしています。
有望技術でイノベーションを創出し、SDGs達成に貢献する事業戦略を策定するために、ぜひ本書をお役立てください。

■ 監修・著者：PwCコンサルティング
■ レポート：A4変型判、424ページ ■ 2022年3月23日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11051-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11053-7

目次

第1章 世界の知財情報から導く「SDGsテック」
プロローグ／調査方法と結果
●調査方法 ●選定結果 ●本書を活用する際の留意点

第2章 技術と未来
「望ましい未来」
●SDGsテックがつくり出す「Future of Sustainability / サステナビリティーの未来」 ●既に描かれている「望ましい未来」と「SDGsテック」の関係性

第3章 詳説SDGsテック
銀行業務に関するデータ処理・方法／公共事業、社会福祉事業に特に適合したシステムまたは方法／農業用テクノロジー、農業のデジタル化／非アルコール飲料用乾燥組成物や凝縮物／医療診断テクノロジー／医療診断・医療データに適合したICT／学習用デジタルコンテンツ／教育用デジタルテクノロジー／高速・大容量のデータ通信技術／多視点空間画像信号の発送、遠隔コントロール／電解・照射による多段式水処理／溶解物質除去を行う水処理／太陽光発電のモジュール／水力・風力発電の原動機／支払処理における認証テクノロジー/支払い処理における機器・装置／管理・経営の予測・最適化と資源、ワークフローなどの管理／交通インフラへの衝撃防止・緩和の措置や技術／小電力の無線通信システム／金融、保険、税戦略、法人税または所得税の処理／建物の床の構造や材質、パネルの固定／機械式駐車場の製造／好気性水処理プロセス／分離工程を用いた水処理／廃棄物の無害化処理、再生原材料の回収／EV用を中心としたエネルギー貯蔵装置、エネルギー管理／プラスチック成形材の物理的処理/プラスチックと他の材料の分離／温室栽培の技術／水耕栽培の技術／公益事業または観光業に関するシステム（政府または公共事業）／公益事業または観光業に関するシステム（法律業務）／ゴール17のSDGsテック

第4章 知財保有企業と主要技術クラスター
SDGsテック別知財保有企業／国別のSDGsテック知財保有企業／主要技術クラスター1000



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-sdgt-x

カーボンディスクロージャー未来戦略



改訂TCFD対応の要諦を解説
企業が求められる情報開示の枠組みと指標

カーボンニュートラル実現プランを提示
Scope1～3排出量削減策とシナリオ移行計画

先進30社の実例調査を基に戦略分析
各社の施策やアプローチ、表現をレポート

改訂TCFDの要諦、Scope3対応から先進企業の実例分析まで削減シナリオ・情報開示戦略の策定に必携の一冊！

脱炭素社会に向けた変革が世界的な潮流となった今、日本企業にとってもカーボンニュートラルを踏まえた情報開示が待ったなしの状況です。現在でも、環境に配慮しない企業は投資家に「価値の低い企業」と見なされますが、その傾向はますます強くなっていくに違いありません。情報開示は企業戦略と表裏一体であり、その戦略策定に役立つのが本書です。

本書では、2021年10月に改訂されたTCFD対応のポイント、Scope1～3排出量削減手段・削減シナリオから国内外のカーボンディスクロージャー先進企業の事例研究まで、情報開示戦略の策定に役立つ情報を網羅しています。

■ 企画・編集：日経クロステック／
　調査・執筆：みずほリサーチ&テクノロジーズ、QUICK
■ レポート：A4変型判、392ページ
■ 2022年2月21日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
　ISBN：978-4-296-11124-4
　【書籍とオンラインサービスのセット】
　価格：990,000円（10%税込）、
　ISBN：978-4-296-11126-8

目次

第1章 カーボンニュートラルの時代
カーボンディスクロージャーという新課題／本書の構成と用語

第2章 カーボンディスクロージャーQ&A
カーボンディスクロージャーに取り組む前に ●【Q】なぜカーボンディスクロージャーが必要なのか？／●【Q】何を開示すればよいのか？／TCFD開示へのよくある疑問 ●【Q】プライム市場に残るTCFD対応のレベルとは／●【Q】業種によって対応すべきTCFD開示項目は違うのか？ ほか

第3章 改訂TCFD詳説 カーボンディスクロージャー枠組み研究
TCFD開示項目 ●TCFD提言の概観／●中核的開示要素1「ガバナンス」／●中核的開示要素2「戦略」／●「戦略」の一つである「シナリオ分析」／改訂TCFD対応の要諦 ●改訂TCFDの概要／●改訂TCFD対応の要諦（1）「7指標」への対応／●改訂TCFD対応の要諦（2）財務影響評価の高度化 ほか

第4章 カーボンニュートラル実践手段 ファイナンス編
トランジション・ファイナンス ●トランジション・ファイナンスを巡る動き、事例／●トランジション・ファイナンス実施時に検討すべき事項

第5章 カーボンディスクロージャー戦略プラン シナリオ・削減手段・移行計画
排出量削減の考え方 ●排出量を削減する取り組みの概要／Scope1排出量削減手段 ●エネルギー需要企業のScope1削減策／Scope2排出量削減手段 ●電力由来のScope2削減策／Scope3排出量削減手段／●Scope3排出量の算定方法／サプライヤーエンゲージメント ●サプライヤーエンゲージメントとは／炭素クレジット ●除去の意味合い／移行計画の策定と実現に向けての取り組み ●移行計画とは何か、なぜ必要か、何を記載するのか／●移行計画の作り方（1）排出量の把握と分析 ほか

第6章 先進30社 カーボンディスクロージャー戦略分析
エネルギー ●ENEOSグループ／●JERA／●INPEX（インペックス）
素材&建設 ●BASF／●スリーエム／●三井化学／●住友大阪セメント
運輸（自動車OEMを含む） ●川崎汽船／●トヨタ自動車／●フェデックス
農業&飲食料&日用品 ●花王／●ユニリーバ／●ネスレ／●味の素
エレクトロニクス ●アップル／●シュナイダーエレクトリック／●シーメンス ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-cd-x

脱炭素ビジネス未来戦略

有望事業と市場動向／世界の技術知財分析にみる注目領域／
GHG削減目標・実績 204社調査／カーボンニュートラル全ファクトデータ



有望7事業の市場予測・技術分析

世界の特許にみる注目領域

GHG（温室効果ガス）削減目標・実績　204社調査

戦略策定に必要な全ファクトデータを収録

市場予測、業界別の動向、特許分析から、将来を見通すためのファクトデータまで「脱炭素ビジネス」の事業戦略立案に必要な全情報がここに

「脱カーボンの流れは一過性のもの」と考えていると、容赦なく「価値の低い企業」と見なされてしまいます。世界中の投資家は「気候変動対応への姿勢」で企業価値を判断しており、この流れは変わらないでしょう。

これから、「脱炭素ソリューション」の提供という新市場にどう挑むのか。本レポートでは、脱炭素に関連する世界の関連特許分析から今後有望な「メジャー技術」16領域を特定。そこから日本のゼロカーボン社会を描き、強みを生かせる有望事業・市場規模を提示しました。さらに、業種別CO_2排出量とビジョン、国内外の動向など、事業戦略立案に必要な全ファクトデータを、国立環境研究所ほか第一線の研究者がデータ収集・調査・執筆。戦略策定に必要な全情報を網羅しました。ぜひ、本レポートを貴社の戦略立案にご活用ください。

■ 企画・編集：日経クロステック
■ レポート：A4変型判、336ページ
■ 2022年2月18日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
　ISBN：978-4-296-11054-4
　【書籍とオンラインサービスのセット】
　価格：990,000円（10%税込）、
　ISBN：978-4-296-11056-8

目次

第1章 カーボンニュートラル全ファクトデータ［1］ 世界と日本
脱炭素社会に向かう企業が知らねばならない事実 ●気候変動リスク管理の世界システム／実質ゼロ排出に向けた国内外の動向 ●日本の実質ゼロ排出宣言／脱炭素社会に向けた国際的動向 ●パリ協定およびその後COPでの動き／脱炭素社会に向けた国内動向 ●日本のエネルギー消費量の推移 ほか

第2章 カーボンニュートラル全ファクトデータ［2］ 計画・制度
脱炭素社会実現に向けた計画 ●地球温暖化対策計画／●エネルギー基本計画／脱炭素社会実現に向けた制度 ●カーボンプライシング ほか

第3章 カーボンニュートラル全ファクトデータ［3］ 業種別CO_2排出量とビジョン
企業活動におけるCO_2排出量と脱炭素目標・ビジョン ●企業活動におけるCO_2排出量／エネルギー転換部門 ●電気業（事業用発電）／製造業・建設業部門 ●鉄鋼業／業務部門・運輸部門 ●サービス業／●輸送業 ほか

第4章 カーボンニュートラル全ファクトデータ［4］ 脱炭素技術の現状と見通し
概要 ●脱炭素技術と実質ゼロ排出／エネルギー消費量の削減・エネルギー源の転換技術 ●住宅・建築物の高断熱化、省エネ性能向上／再生可能エネルギー ●太陽光／CO_2回収・貯留・利用技術 ●CO_2回収・貯留技術 ほか

第5章 カーボンニュートラル全ファクトデータ［5］ 企業調査、Scope1～3削減目標／実績
調査概要 ●調査項目の読み方／削減目標のマクロ分析 ●Scope1+2中期削減目標／削減実績のマクロ分析 ●Scope1+2中期削減目標に対する達成度合い／企業調査 削減目標・達成率の詳細データ ●204社の調査結果 ほか

第6章 カーボンニュートラル 未来に広がる有望技術・市場
脱炭素ニッポンの姿 ●脱炭素ビジネスと日本企業／カーボンニュートラルをつくり出す基本指針 ●ゴールは「温室効果ガス96%削減」／脱炭素ビジネス7つの注目事業：市場規模・技術概要・研究開発動向 ●風力発電 ほか

第7章 カーボンニュートラル技術知財分析
調査対象 ●カーボンニュートラル関連特許の推移と国別件数／技術特許分析1 メジャー技術・注目技術の特定／技術特許分析2 各国のニーズ／シーズ（中国・インド・米国・欧州・韓国・日本）／技術特許分析3 実用に近い技術 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-de-x

デジタル&データマーケティング市場分析 2025-2027

先進137事例／生成AI活用の未来／マーケティングテクノロジー



生成AIで変わるデジタル&データマーケティング

どう活用し、成果を上げるのか。
最新動向を解説

データマーケティングテクノロジー&メディア最新動向

主要なテクノロジー、メディア、サービスについて、
選び方や注意点を解説

先進企業137社のマーケティング事例

豊富な事例から、
自社にあった打ち手を探し出せる

データソース一覧/ファースト・パーティー・データ活用法

マーケティングの精度向上に効く、
データ活用の成功事例を解説

■ 著者：日経クロストレンド、その他外部著者
■ 編集：日経クロストレンド
■ レポート：A4判、570ページ ■ 2024年11月8日発行
■ 【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20628-5
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：825,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20630-8

先進137社の事例から生成AI活用、注目技術まで デジタル&データマーケティングの戦略立案に必携の一冊！

デジタル&データマーケティング市場は転換期を迎えています。本レポートではデジタル&データマーケティング領域の高度化を受け、特に生成AIがマーケティングにもたらす変化を中心に、豊富なケーススタディー（日米中137例）、データソース（約300）、注目すべきテクノロジーやソリューションなどを解説しています。

特にケーススタディーは、業務、KPI・目的、テクノロジー・手段などで分類し、自社にあう事例を探しやすく編集。競合企業の事例を探したり、特定のマーケティングテクノロジーを活用した事例を逆引き索引で探し出すことも可能です。 生成AIの実用化によって顧客接点のつくり方が大きく変化し、「生成AIのマーケティングへの活用」は、避けて通れません。企業が生成AIを業務にどの程度活用しているかという実態調査（広告、小売り、ゲーム業界ほか）など、デジタルマーケティングにおける生成AI活用についても重点的に解説。また、クッキー規制の強化や欧米で進む個人情報保護の流れに伴い、さらに重要度が増す（企業が）直接取得する「ファースト・パーティー・データの活用」も重要テーマとして取り上げています。顧客が期待する成果（収益増、ブランド価値向上など）を得るために必要な知識を一冊で得られるレポートとなっています。

目次

第1章 マーケティングの未来
1-1 拡大し続けるデジタル&データマーケティング市場
1-2 デジタル&データマーケティングを理解する
1-3 本書の構成
1-4 3章ケーススタディーの読み方

第2章 生成AIで変わるデジタル&データマーケティング
2-1 生成AIをどう活用するか
2-2 生成AIの市場規模と活用の進捗
2-3 生成AIで変わる広告業界
2-4 生成AIで変わる小売り業界
2-5 生成AIで変わる自動車業界
2-6 生成AIで変わるゲーム業界
2-7 生成AIで変わる金融業界
2-8 生成AIで変わる教育業界
2-9 生成AI活用の実態調査

第3章 ケーススタディー
3-1 逆引き索引
3-2 ケーススタディー（国内）
国内100事例
（山洋電気、パナソニック、日立製作所、ポケトーク、アソビュー、一休、イングリウッド、クラシコム、サイバーエージェント、ディップ、トレンダーズ、DROBE、Freee、LIFULL、タカラトミー、トヨタ自動車、BYD Auto Japan、ボルボ・カーズ、ミスミ、ヤマハ発動機、NTTコミュニケーションズ、NTTドコモ、セールスフォース日本法人、TOPPANホールディングス、アサヒビール、伊藤園、おやつカンパニー、木村屋総本店、キユーピー、キリンビール、サントリー、タカキベーカリー、日清食品、日本コカ・コーラ、ハウス食品、Mizkan、雪印メグミルク、UCC上島珈琲、I-ne、アシックス、アディダス ジャパン、アース製薬、王子ネピア、資生堂、タビオ、Dr.ルルルン、はせがわ、マンダム、山善、ラコステ ジャパン、ラッシュジャパン、イオン、グッデイ、セブン-イレブン・ジャパン、高島屋、東武ストア、バルコ、パン・パシフィック・インターナショナルホールディングス、ビオセボン・ジャパン、ファミリーマート、三菱食品、ユナイテッドアローズ、ヨドバシホールディングス、銀座ルノアール、エターナルホスピタリティグループ、日本ビザハット・コーポレーション、ビーケージャパンホールディングス、BLOOM、丸亀製麺、物語コーポレーション、アメリカン・エキスプレス・インターナショナル、住友生命保険、Black Card I、三井住友カード、三井住友銀行、ライフネット生命保険、伊藤忠商事、グッドパッチ、GKデザイングループ、スタッコ、マイナビ、明光ネットワークジャパン、よみうりランド、mederi、RIZAPグループ、レバレッジ、サンリオ、GENDA、ソニー・ミュージックレーベルズ、テレビ東京、フジテレビジョン、ANA X、JR西日本、東急、東京地下鉄、アクセンチュア、東急不動産、マイホム、三井不動産、レオパレス21）

3-3 ケーススタディー（国外）
海外30事例
（アップル、ソノス、オッターAI、ショッピファイ、メタ・プラットフォームズ、テスラ、スターシップテクノロジーズ、Cashi Cake、Coca-Cola、Ramen Hero、イート・ジャスト、フェンダー・ミュージカル・インストゥルメンツ、ロレアル、アマゾン・ドット・コム、ウォルマート、キャピタル・ワン・フィナンシャル、Cosme Hunt、スティッチフィックス、ヨーカイ・エクスプレス、McDonald's、ペイパル、オーラヘルス、キンサ、ウォルト・ディズニー、サンフランシスコジャイアンツ、ネットフリックス、ロブロックス、ウーバー・テクノロジーズ、デルタ航空、eXpワールド・ホールディングス）

3-4 中国のBATH先端事例
中国主要事例
（バイドゥ、アリババ集団、テンセント、ファーウェイ、センスタイム、アイフライテック、バイトダンス）

第4章 データマーケティング
4-1 データマーケティングの時代
4-2 ファースト・パーティー・データ活用法
4-3 ゼロ・パーティー・データにも目を向けよ
4-4 顧客が満足するパーソナライズ
4-5 マーケティングに活用できるデータソース

第5章 マーケティングテクノロジー&メディア
5-1 マーケティングテクノロジー利用実態調査
5-2 マーケツール導入/乗り換えの極意
5-3 生成AI
5-4 クッキーレスソリューション
5-5 MAツール
5-6 マーケティングリサーチ
5-7 メールマーケティング
5-8 DM（ダイレクトメール）
5-9 プレスリリース
5-10 UGCマーケティング
5-11 テレビ広告
5-12 音声メディア
5-13 リテールメディア／デジタルサイネージ
5-14 SNS活用 YouTube
5-15 SNS活用 LINE
5-16 SNS活用 TikTok
5-17 SNS活用 Instagram



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-dmdx2-x

シニア成長市場分析&事業創出戦略

有望7市場の構造／シニア1000人インタビューに
基づくインサイト解剖／マーケティングメソッド／成功事例



- シニア層がターゲットとなる有望7市場
- シニアビジネス開発メソッド
- シニアビジネス先進7社のケーススタディー
- シニアデータ集と「AgeTech」

7つの有望・成長市場を示して徹底解説 シニア特有の事情を踏まえた事業開発メソッドを提示

デジタルを活用する新たなシニア層の拡大により、新たなビジネスの機会、市場の拡大が見込まれます。実際、シニア向け商品・サービスを検討、強化する企業は増加の一途ですが、成功には、シニア特有のインサイトを理解して取り組む必要があります。本レポートの著者は、会員40万人が利用するシニア向けコミュニティーサイト「趣味人（しゅみーと）倶楽部」の運営やシニア向けビジネスのコンサルティングを手掛けるオースタンス（東京・渋谷）。これまで培った知見と独自のデータを基に、シニア向けビジネス開発のノウハウを解説しています。

「健食ウェルエイジング市場」「ビューティーシニア市場」など7つの有望・成長市場を提示。マーケットの構造、関連データ、先駆事例を紹介し、攻略法を解説しています。シニア特有の思考、バイアス、他世代との違いを理解した上で実践する事業開発メソッドも提示。シニアマーケット攻略に必携の一冊です。

■ 著者：オースタンス ■ 編集：日経クロストレンド
■ レポート：A4判、264ページ
■ 2024年11月14日発行
■【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20316-1
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：825,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20318-5

目次

第0章 序章：シニアの定義と市場参入の意義
シニアの定義／シニア各世代の消費の特徴／高齢化の現状と予測 ほか
第1章 親子3世代消費市場
親子3世代消費市場の姿／親子3世代消費市場の構造・消費シーン ほか
第2章 健食ウェルエイジング市場 健食ウェルエイジング市場の姿 ほか
第3章 アクティブ旅行シニア市場 アクティブ旅行シニア市場の姿 ほか
第4章 ビューティーシニア市場 ビューティーシニア市場の姿 ほか
第5章 通販デジ活シニア市場 通販デジ活シニア市場の姿 ほか
第6章 プチ贅沢シニア市場 プチ贅沢シニア市場の姿 ほか
第7章 ミドルシニア再活性化市場 ミドルシニア再活性化市場の姿 ほか
第8章 「AgeTech」最前線
AgeTechとは何か？／国内外のAgeTechの事例を知る
第9章 シニア向け事業開発フレームワーク
シニアに対して抱いているバイアス／事業開発の基となる「ジョブ理論」 ほか
第10章 シニア向けマーケティングメソッド
シニア向け新規集客施策／シニア向けコミュニティー開発 ほか
第11章 企業事例編
鎌倉新書／LIFULL senior／メディカルノート／日本ロレアル ほか
第12章 シニアデータ集
高齢化の進展／シニアの健康、病気／シニアを襲うフレイルの実態 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-srm-x

女性活躍戦略レポート2025

日経WOMAN「企業の女性活躍度調査」徹底分析
D&I推進企業の施策と課題、未来展望



- 「企業の女性活躍度調査2024」調査結果を深堀り解説
- 「理系」キャリア女性の働き方・意識　調査
- 女性活躍推進の進め方・具体的な手順、先進企業の事例
- 東証プライム企業上位500社の「女性取締役」1002人の人名録

女性活躍を推進する企業で、有効な施策を考察する羅針盤となるレポート

女性社員の活躍推進は大企業のみならず、中小企業にとっても重要な経営戦略となっています。機関投資家のESG（環境・社会・企業統治）や人的資本経営への注目度が高まる中、女性管理職比率や女性取締役の登用は、投資家に選ばれる企業であるための必須条件といえます。企業の取り組みにはバラつきがあり、欧米並みに進んでいる企業もあれば、まだ手探りの段階にある企業も少なくありません。

本レポートは、日経BP独自の最新調査データと分析、女性活躍を企業経営に生かす方法をまとめた唯一無二の調査レポートです。30余年の歴史を誇る「日経WOMAN 企業の女性活躍度調査」の最新結果を分析し、業種別、企業別の課題をあぶり出します。調査協力企業115社の具体的な施策のレポートや、「理系」職種の人材に焦点を当てた約2400人のキャリア・働き方意識調査で、働く女性の“本音”をレポート。女性取締役1002人の人名録など独自データを満載し、自社で次に取り組むべき施策が明確になる、女性活躍を進める上で羅針盤となる一冊です。

■ 編集：日経xwoman、日経WOMAN
■ レポート：A4判、355ページ ■ 2025年2月7日発行
■【書籍のみ】価格：198,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20701-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：297,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20703-9

目次

第1章 2024年 企業の女性活躍の現状と課題
―「企業の女性活躍度調査2024」結果分析
「女性活躍推進」の現在地と未来展望 ほか
第2章 大手企業115社の女性活躍施策と成果
2024年「企業の女性活用度調査」
回答企業115社の女性活躍推進策と実績
第3章 組織の女性活躍の実態を測定する4つの指標と分析ポイント
日経WOMAN「企業の女性活用度調査」の
測定項目に見る女性活躍の進め方 ほか
第4章 「理系」で働く女性のキャリア、働き方意識調査
「同業他社に転職したい」理系女性は3倍
職場の課題、企業に求めるキャリア支援策は？ ほか
第5章 東証プライム上場企業500社の女性取締役の現状
女性取締役比率ランキング1位は大和証券G本社
東証プライム500社で取締役女性比率は2.6pt増 ほか
第6章 「女性活躍施策」総点検 2024
24年に女性活躍企業の潮目変わる理由
3つの障壁を突破する方法、提案します ほか
第7章 「管理職になりたくない」からのマインドシフト
女性管理職535人が回答、悩んでいることは？
管理職未経験の女性は5割が「なりたくない」 ほか
第8章 変化を生み出した企業がしたこと 本気の一歩
女性を「意識的」に役職に就かせる理由とは？
ANA ホールディング会長　片野坂真哉 ほか
第9章 育児休業、働き方改革…「少子化対策」企業が今できること
なぜ少子化止まらない？ 出生率1.20　企業に対策求める声多数 ほか
第10章 2024年「企業の女性活躍度調査」調査票
2024年 企業の女性活躍度調査 調査票



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-jyos2-x

宇宙ビジネス 事業創出・参入戦略



有望領域・市場規模/事業の具体例75/
参入の手引き/企業の参入意向調査

- 有望領域と市場規模予測
- 業界別の宇宙利活用
- 新規参入への戦略
- 世界の宇宙ビジネス動向
- キープレーヤーの戦略分析
- 独自調査 日本企業の参入意向

宇宙ビジネスへの挑戦、参入検討に役立つ情報を網羅　事業機会を具体的に解説しています

宇宙ビジネスにおける新たな事業機会が次々と生まれています。2017年に約40兆円だった宇宙ビジネス市場は2040年までに120兆円規模にまで膨らむと見られています。打ち上げロケットや人工衛星の市場は、国や政府からSpaceXなど民間企業へ急速に移行しています。中でも人工衛星によるデータの利活用は、成長の目玉といえるでしょう。

本レポートは急速に拡大する宇宙ビジネスを俯瞰して、「宇宙環境における事業」と「地上環境における事業」の2つの分野に整理。有望な事業領域9つのビジネスモデルやユースケースを紹介し、ロケット打ち上げ、衛星製造、宇宙旅行など重要領域の市場規模の予測も試みました。一方の地上環境のビジネスでは、農業や環境・資源、運輸、情報通信、保険など9産業をピックアップし、製品・サービス動向を詳説しています。

加えて新規参入の戦略と手引き、独自調査・分析など、新規事業の立ち上げに必要な情報をそろえました。中・長期の経営計画の立案や新製品・サービスの企画・開発に役立つ一冊です。

■ 著者・編集：DigitalBlast、日経クロステック
■ レポート：A4判、322ページ　■ 2023年12月8日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20313-0
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20315-4

目次

第1章 エグゼクティブサマリー（4事業を紹介）
宇宙ビジネスを俯瞰する ●「宇宙」が全産業共通の事業創出トピックに／●地上から深宇宙まで広がる事業領域／●宇宙へのアクセスコストが低下●地上ビジネスで衛星の利活用が進む／●広告・エンタメ領域にも広がる ほか

第2章 企業における宇宙ビジネス参入の意向調査
341社の調査概要／事業全体の現状と課題●現在の参入状況・意向／宇宙環境におけるビジネス ●宇宙環境におけるビジネスへの参入意向／地上環境におけるビジネス ●地上環境におけるビジネスへの参入意向 ほか

第3章 宇宙利活用が進む注目9産業（36事業を紹介）
人工衛星や宇宙特有環境を利活用／農業／環境・資源／建設・土木・インフラ／情報通信／保険／運輸／エンタメ・レジャー／製造／医療

第4章 新規参入の手引き（3事業を紹介）
新規参入への戦略 ●戦略立案の6つのポイント／●資金流入と収益の実態／●官民連携スキーム／●宇宙ビジネスとDXの融合／宇宙ビジネス新規参入への手引き／●大手企業が参入する際の具体的手順 ほか

第5章 宇宙環境の有望事業9選と重要市場規模（26事業を紹介）
ロケット製造から宇宙旅行まで／ロケット製造／衛星製造・運用／打ち上げ・射場／軌道上拠点／探査・資源開発／軌道上サービス／地上局ビジネス／衛星データ分析／宇宙旅行／市場規模で見る宇宙ビジネス

第6章 宇宙ビジネスのキープレーヤー15選（5事業を紹介）
オールドスペースからニュースペースへ ●事業領域別に見るキープレーヤー一覧 SpaceX／Rocket Lab／Planet Labs／ICEYE／Synspective／QPS研究所／Axiom Space／ispace／Amazon Web Services（AWS）／インフォステラ／アストロスケール／Orbital Insight ／天地人／Virgin Galactic ／岩谷技研

第7章 世界の宇宙ビジネス動向（1事業を紹介）
米国の取り組み ●米国政府による宇宙政策の変遷／欧州の取り組み ●欧州の宇宙政策／日本の取り組み ●宇宙基本法と宇宙基本計画／中国およびインドの取り組み ●「宇宙開発先進国」入りする中国とインド ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-sbiz-x

メタバース事業・構築戦略 調査編



企業／個人の活用実態と意向調査
利用シーン70選、実装への課題分析

- ［企業調査］440社調査 メタバース活用の実態と可能性
- ［個人調査］ビジネスパーソン3000人 メタバース活用意識調査
- メタバース市場の展開シナリオから投資規模、課題分析まで
- 有望な利用シーン70事例
- 主要技術解説・バリューチェーン

事業でどう活用できるのか 今後の利用意向、ポテンシャル、課題まで明らかに

どこまで現実的にビジネスに展開できるのか、手探りな部分が多いメタバース活用。本レポートでは、メタバースのビジネスへの導入意向・活用実態に迫るため、企業に対して独自調査を実施。440社からの回答を基に、メタバースの浸透状況や活用実態、期待する効果や今後の投資意向について、業界別、会社規模別、部門別などで分析しました。同時に、ビジネスパーソン「個人」にも自社や自身の仕事における活用実態や今後の利用意向などを調査。ビジネス現場から見た現状と課題、期待を明らかにしました。

また、メタバースの市場規模や投資動向、社会実装に向けた課題、先行する企業の狙いや戦略、コア技術、バリューチェーンなど、メタバースを使った新事業の構築や検討に役立つ情報を網羅。メタバースで事業機会を捉えるための戦略立案に、ぜひご活用ください。

■ 編集：日経クロステック
■ 調査・執筆・取材協力：デロイト トーマツ コンサルティング、リンカーズ、アクセンチュア
■ レポート：A4判、304ページ　■ 2023年2月13日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20056-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20058-0

目次

第1章 メタバースが拓く社会の未来図
メタバースの技術、ビジネス、投資動向を俯瞰する／B2Cメタバースの現在地と未来／インダストリアルメタバース／B2C領域でメタバースが生み出す新たな事業機会／インダストリアルメタバースで生まれる新たな事業機会／メタバースが変える消費者体験／メタバースが変えるビジネス環境

第2章 新ビジネスにつながるメタバース利用シーン
有望カテゴリー26の利用シーン73選 ●アバターを活用したVR会議／●バーチャルオフィス／●2Dバーチャル展示会／●3Dバーチャル展示会／利用分野11のソリューション・プロジェクト・実験56選 ●アバター会議／●アバター試着／●バーチャルイベント／●バーチャルショップ/マーケット／●バーチャルスタジオ ほか

第3章 新バリューチェーンを生み出すメタバース技術・デバイス・プレーヤー
有望カテゴリー16の技術・プレーヤー48選 ●カメラ画像を使ったアバター作成技術／適用分野13の個別技術・デバイス・システム97選 ●3Dモデル/アバター作成技術／●バーチャルヒューマン／●VR/AR用画像処理 ほか

第4章 企業と個人に聞くメタバース意向調査
440社が明かすビジネス活用の現状と課題 ●調査概要と回答者のプロフィル／ビジネスパーソン3000人が答える現場の実態と展望 ●調査概要と回答者の属性／メタバースの社会実装へ向けた課題 ●理想と現実のギャップをもたらす3つの要因 ほか

第5章 メタバースの進化を支えるコア技術進展シナリオ
コア技術のセレクトと進展シナリオ／HMD（ヘッドマウントディスプレー）／触覚技術／3D CG／5G/B5G/6G／ブロックチェーン

第6章 主要ITベンダー/コンサルのメタバース対応力
メタバースパートナーの選択に必要な項目 ●調査の概要 ／19社のメタバース陣容/ソリューション/人材 ●日本IBM／●NEC／●NTTデータ／●NTTコノキュー/NTTドコモ／●エヌビディア●クラスター／●KDDI／●サイバーエージェント／●大日本印刷／●デロイト トーマツ コンサルティング／●電通グループ／●東芝／●凸版印刷／●野村総合研究所／●博報堂／●日立製作所／●PwCコンサルティング／●富士通／●日本マイクロソフト



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-meta-x

蓄電池ビジネス戦略レポート

市場予測／政策／サプライチェーン／ビジネスモデル／プレーヤー分析／技術開発



蓄電池ビジネスへの参入検討に必要な情報を網羅

市場予測、政策、サプライチェーン、ビジネスモデル、プレーヤー分析、技術動向まで

日本・欧米・中国などの市場動向、将来予測を掲載

車載用蓄電池の2035年市場予測、定置用蓄電池の2030年市場予測などを市場動向と共に提示

各国の政策、サプライチェーン、先端技術の動向を分析

複雑なサプライチェーンをプロセス別に分析、世界の産業政策、技術開発動向も解説

先行するビジネスモデルやプレーヤー事例を多数紹介

系統用蓄電池、業務・住宅用蓄電池のビジネスモデルを解説。世界55社の動向を調査

■ 企画・編集：日経BP 総合研究所 三好 敏、山根 小雪
■ 著者：大串 康彦、高木 裕登、アーサー・ディ・リトル・ジャパン
■ レポート：A4判、434ページ ■ 2024年11月29日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10％税込）、
ISBN：978-4-296-20608-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10％税込）、
ISBN：978-4-296-20610-0

市場予測から産業政策、サプライチェーン、ビジネスモデル、技術開発動向まで蓄電池ビジネス戦略のエッセンスが一冊に！

目下、急成長を続ける蓄電池市場の周辺では、新しいビジネスが続々と生まれつつあります。こうした蓄電池ビジネスに関わる企業や、蓄電池ビジネスへの投資、新たなビジネスへの参入を検討する様々な業種の企業が必要とする情報を一冊にまとめたのが本レポートです。

系統用、業務用、住宅用を含む定置用（エネルギービジネス向け）や車載用といった主要な用途を網羅する形で、

- 市場予測――車載用、定置用蓄電池の市場予測
- 産業政策――中国、欧州、北米、韓国、日本
- サプライチェーン分析
- ビジネスモデル解説
- キープレーヤーの分析
- 技術開発動向

という、多様な観点で蓄電池ビジネスをひも解きました。

蓄電池の分野では、モビリティの進化やエネルギー革新の波に乗り新しい技術や応用が次々と登場する一方で、世界各国が経済安全保障の焦点として重視するようになったこともあり、その動向を把握することが難しくなっています。こうした中で、蓄電池を巡る動きを包括的に把握するために必要な情報をまとめて分析した本レポートは、蓄電池を巡る事業や関連する研究開発の戦略策定に役立つはずです。ぜひご活用ください。

【こんな方にお勧めです】

●建設会社やプラントメーカー、不動産会社、金融機関、コンサルティング会社などで蓄電池ビジネスへの投資を検討している企業

●新たなビジネスへの参入を検討する様々な業種の企業（エネルギー企業、電機メーカー、自動車関連企業、インフラの構築・運用に関わる企業など）

目次

第1章 本書について

第2章 蓄電池の市場予測
2-0 イントロダクション
2-1 カーボンニュートラルがけん引する蓄電池市場
●CN化の動きと蓄電池市場の全体感
●車載用と定置用で全体の動きを読む
2-2 車載用蓄電池市場の展望
●2035年予測の前提や考え方
●地域別・PT別の乗用車の販売/生産台数の2035年予測
●車載用蓄電池の2035年に向けたトレンド予測
●地域別・PT別の車載用蓄電池市場（容量、金額）の2035年予測
2-3 定置用蓄電池市場の展望
●2030年予測の前提や考え方
●市場予測の推計ロジック
●日本の定置用蓄電池市場の2030年予測
●米国の定置用蓄電池市場の2030年予測
●欧州の定置用蓄電池市場の2030年予測
●2030年予測の総括

第3章 蓄電池を巡る世界の政策
3-1 世界の蓄電池関連政策の概要
●世界各国が蓄電池関連政策を打ち出している背景
●世界の蓄電池政策の全体動向と展望
●政策分析の対象と前提
●コスト競争力と経験曲線
3-2 中国の蓄電池関連政策
●中国の中心戦略
●サプライチェーンの掌握
●製造能力への大規模投資と価格競争力
●補助金など経済インセンティブによる国内需要の創出
●輸出規制による重要原材料の供給制限 ほか
3-3 欧州の蓄電池関連政策
●欧州の中心戦略
●電池規則の目的と蓄電池産業への影響
●電池規則の概要と主な要件
●欧州の情報インフラプロジェクトの概要
●バッテリーパスポートとGlobal Battery Alliance（GBA）
●産業データ連携「Gaia-X」と「Catena-X」
●EU重要原材料法
●中国製BEVに対する関税引き上げ ほか
3-4 北米の蓄電池関連政策
●米国の中心戦略
●インフレ抑制法「IRA」の概要
●IRAの蓄電池産業に対する4つの施策
●海外資本と技術をコントロールする方法
●蓄電池サプライチェーンに賭けるカナダ ほか
3-5 韓国の蓄電池関連政策
●韓国の中心戦略 ●安定的なサプライチェーンの確保
●先端技術の開発 ●民間の国内投資を支援
●国内産業エコシステム基盤の整備 ほか
3-6 日本の蓄電池関連政策
●日本の中心戦略 ●国内製造基盤の確立
●日本の具体的な施策 ほか
3-7 その他の国・地域の蓄電池関連政策の動向と展望
●インド ●オーストラリア

第4章 蓄電池のサプライチェーン分析
4-1 蓄電池のサプライチェーン概観
●サプライチェーンの基本構造
4-2 蓄電池サプライチェーンのプロセス別分析
●原料採掘から加工まで
●蓄電池構成部品の製造
●セル・モジュール・パックの製造
●蓄電池メーカーからEVメーカー
●リサイクル・リユース
4-3 原材料の調達を巡る動向
●全体動向
●サプライチェーンの垂直統合
●脱中国サプライチェーン構築

第5章 定置用蓄電池のビジネスモデル
5-1 系統用蓄電池
●系統用蓄電システムの構造
●系統用蓄電池事業のプレーヤー
●プロジェクト構造
●マーチャント市場とPPA
●系統用蓄電池の用途
●用途①送配電インフラ関連サービス
●用途②再エネの系統への統合
●用途③電力供給（裁定取引）
●用途④アンシラリーサービス
5-2 業務・住宅用蓄電池
●業務・住宅用蓄電池の基礎知識の整理
●業務・住宅用蓄電池の用途
●業務・住宅用蓄電池のビジネスモデル

第6章 蓄電池産業キープレーヤーの分析
6-1 イントロダクション
●キープレーヤーの概観
6-2 蓄電池メーカー
●蓄電池メーカーの概観
●中国・寧徳時代新能源科技（CATL） ほか
6-3 自動車メーカー
●自動車メーカーの概観
●中国・比亜迪汽車（BYD Auto） ●米Tesla
●ドイツVolkswagen Group ほか
6-4 定置用蓄電システムインテグレーター
●定置用蓄電システムインテグレーターの概観
●米Fluence Energy
●中国・陽光電源（Sungrow Power Supply） ほか
6-5 サービス・プロバイダーおよび販売事業者
●サービス・プロバイダーおよび販売事業者の概要
●米Sunrun ●米Sunnova Energy International
●ドイツsonnen ●伊藤忠商事 ほか
6-6 蓄電池リサイクル事業者
●蓄電池リサイクル事業者の概要
●米Redwood Materials
●カナダLi-Cycle Corporation
●米Ascend Elements
●米Cirba Solutions ほか
6-7 蓄電池リユース事業者
●蓄電池リユース事業者の概要
●フォーアールエナジー（4Rエナジー）
●ドイツMercedes-Benz Energy
●米B2U Storage Solutions
●カナダMoment Energy ほか

第7章 蓄電池の技術開発
7-1 蓄電技術の開発動向
7-2 リチウムイオン電池の概要
7-3 液系リチウムイオン電池
7-4 全固体電池
7-5 半固体電池
7-6 リチウム硫黄電池
7-7 リチウム空気電池
7-8 リチウムイオン電池の材料
7-9 ナトリウムイオン電池
7-10 水系電解質を用いた金属負極電池
7-11 レドックスフロー電池
7-12 ナトリウム硫黄電池
7-13 蓄熱式蓄電
7-14 力学的蓄電



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-batt-x

電力調達・再エネ活用戦略レポート

電気料金の削減方法／効果的な再エネ活用
電力調達の実態・再エネ導入意向800社調査



電力調達の戦略が立てられる

複雑な原価構造や料金変動の要因から、具体的な料金削減方法までを詳解。戦略立案に必要な情報を網羅

電気料金削減、調達最適化の方法がわかる

具体的な「契約電力」「使用量」「単価」の削減ノウハウを解説。最適化の方法が掴めます

再エネ電力の調達方法がわかる

自社が直接関与する方法のほか、3つの調達方法を解説。ESGと料金抑制を両立するノウハウがわかります

独自調査 企業・自治体の「電力調達の実態と投資計画」

電力調達状況や課題、再エネの導入状況や投資計画など、企業568社と自治体229件が回答

電気料金の削減、再エネ導入をどう実現するか？電力調達の最適化に必要な情報を網羅

電気料金の高騰が企業経営に深刻なダメージを与えています。実態調査では約800の企業や団体のうち、85.6%が電気料金値上げに直面し、経営に悪影響をおよぼしていると回答しました。

脱炭素や戦争などを背景に、電力会社の原価のボラティリティーが高まっており、料金の先行きを見通すのが難しい時代になりました。予測の難しい電気料金の変動は、収益の見通しを大きく狂わせる企業リスクとなったのです。さらに、ESG対応で多くの企業が再エネの導入を進めています。再エネを取り巻く制度やテクノロジーは目まぐるしく変わっており、料金削減と再エネ導入を両立する方法を導くのは簡単ではありません。

では、どうするか。電気料金の原価構造や影響因子を正確に理解し、自社に適した戦略を立案したうえで電力調達を実行する必要があります。

そこで本レポートは、電気料金の構造などの基礎的情報から変動因子、調達戦略の立案方法、料金削減の具体的な手法、高度な管理方法、再エネの選択法まで電力調達の最適化に必要な実務情報を網羅しました。難易度を増す電力調達の攻略に、ぜひお役立てください。



85.6%が値上がりしたと回答

● 2022年度の電気料金が
前年度と比べてどの程度変動したか
（回答者全体、企業、自治体、第二次産業、第三次産業別）

■ 著者：青柳聡史 ■ 監修：日本省電 ■ 企画・編集：山根小雪（日経エネルギーNext）
■ レポート：A4判、386ページ ■ 2024年2月13日発行
■【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20386-4
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,320,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20388-8

目次

第1章 【戦略編】電気料金の上昇要因・今後の見通し
- 1-1 800社調査結果:電力調達実態
  - ●数年で2倍も 電気料金高騰が経営を直撃
- 1-2 電気料金高騰の要因と今後の見通し
  - ●統計でみる電気料金高騰の実態
  - ●電力の原価構造と高騰要因
  - ●高騰要因① 燃料価格 ほか
  - ●原価上昇の結果生じた事象
  - ●電気料金の今後の見通し
- 1-3 脱炭素・ESGへの対応
  - ●ESG対応が電力調達を複雑化する

第2章 【戦略編】電力調達・削減戦略の考え方
- 2-1 電力調達戦略の策定
  - ●電力調達戦略とは何か
  - ●電力調達戦略の高度化イメージ
- 2-2 電気料金削減の3つの考え方
  - ●電気料金の構造と3つの削減方法
- 2-3 電気料金の主な削減手法
  - ●削減手法の概要① 電力契約の見直し
  - ●削減手法の概要② 省エネ
  - ●削減手法の概要③ 再エネの活用
  - ●削減手法の概要④ 卸電力価格の活用

第3章 【実践・基本編】電力調達の最適化①電力契約の見直し
- 3-1 調達の基本は大手電力の標準メニュー
  - ●5つの料金パターン
  - ●大手電力の標準料金メニューを基準に検討 ほか
- 3-2 電力調達の10ステップ
  - ●方針決めから実績管理までの全体像
- 3-3 ステップ① 電力調達戦略の立案
  - ●社内関係者の調整
  - ●電力調達の「対象範囲」の決定 ほか
- 3-4 ステップ② 電力データの収集・整理
  - ●見積もり依頼用データの上手な集め方
- 3-5 ステップ③ 電力会社への見積もり依頼
  - ●電力会社の選択方法
  - ●絶対に成功するRFPの作り方
- 3-6 ステップ④ 見積もり提案の評価
  - ●電力契約見直し時のコスト削減手法
  - ●電力会社に良い見積もりをもらう方法 ほか
- 3-7 ステップ⑤ 価格協議・契約条件協議
  - ●契約条件の精査ポイント
  - ●精査ポイント① 燃料費調整額 ほか
- 3-8 ステップ⑥ 切り替えに関する社内承認
  - ●スムーズな稟議のポイント
- 3-9 ステップ⑦ 申し込み手続き、契約切り替え
  - ●面倒な手続きを簡単に済ませるコツ
- 3-10 ステップ⑧ 実績モニタリング・評価
  - ●請求書を精査し検算する
- 3-11 ステップ⑨ 契約更新・切り替え
  - ●やぶ蛇にならない値上げ要請への対処法
- 3-12 ステップ⑩ 契約・実績データ管理
  - ●実績管理は電力会社の手を借りる

第4章 【実践・基本編】電力調達の最適化②省エネ
- 4-1 契約電力・使用電力量削減の基本
  - ●省エネポテンシャルは大きい
  - ●契約電力削減の考え方 ほか
- 4-2 契約電力・使用電力量の削減方法
  - ●効果のある削減方法は決まっている
  - ●受変電設備 ●照明 ●空調・換気・冷凍・冷蔵 ほか
- 4-3 電気料金単価の削減方法
  - ●安価な季節・時間帯に電力需要をシフト
  - ●蓄熱 ●蓄電池 ほか

第5章 【実践・基本編】電力調達の最適化③再エネ導入とESG対応
- 5-1 なぜ再エネ電力が必要なのか
  - ●根源的な理由は気候変動
- 5-2 企業に再エネ導入を迫る4要因
  - ●要因① 非財務評価のリスク低減 ほか
- 5-3 再エネの種類と特徴
  - ●発電方法で特徴が大きく異なる ●太陽光発電 ほか
- 5-4 再エネの評価軸
  - ●再エネの価値は同じではない ●追加性 ほか
- 5-5 再エネ電力調達の基礎
  - ●再エネ電力とは「電力＋環境価値」
- 5-6 再エネ電力調達のアプローチ
  - ●再エネ電力調達の検討範囲は広い
  - ●再エネ電力調達の3ステップ
- 5-7 政府の支援制度（FIT／FIP）
  - ●再エネ導入の起爆剤となったFIT制度
  - ●新たに始まったFIP制度
- 5-8 環境証書
  - ●3つの証書の違い ●非化石証書 ほか
- 5-9 再エネ電力メニュー
  - ●再エネ電力メニューの特徴
- 5-10 需要家が再エネ電源に直接関与
  - ●導入スキームの比較とコスト構造
  - ●自己所有型／オンサイトPPA ほか

第6章 【実践・上級編】電力調達の最適化④卸電力価格の活用
- 6-1 卸電力価格活用の考え方
  - ●卸調達を実現する3つの手法
  - ●JEPXスポット市場の特徴 ほか
- 6-2 市場価格連動料金
  - ●市場価格連動料金のメリット・デメリット
  - ●JEPXの価格決定セオリー ほか
- 6-3 社内新電力
  - ●社内新電力をめぐる変化
  - ●社内新電力のメリット・デメリット ほか
- 6-4 需要シフトを伴えば太陽光の活用に
  - ●昼間の安いJEPX活用は再エネ出力抑制を減らす

第7章 【実践・上級編】電気料金の高度な管理
- 7-1 高度な管理が必要な理由
  - ●高度管理しなければコストは適正化できない
  - ●社内共通のマスターデータを作成
- 7-2 管理項目の設定
  - ●契約データと実績データに大別できる
  - ●具体的な管理項目リスト ほか
- 7-3 目的に応じた管理の実際
  - ●予実管理・評価① 予実管理・評価とは何か
  - ●昨年度対比の評価 ●市場相場との比較評価 ほか

第8章 【調査編】電力調達の実態・再エネ導入意向800社調査
- 8-1 調査概要
  - ●調査の概要
- 8-2 企業・自治体への電気料金高騰の影響
  - ●2021年度と2022年度の電気料金比較 ほか
- 8-3 電気料金高騰対策の実態
  - ●電気料金高騰を受けて実施した対策 ほか
- 8-4 電力調達の実態
  - ●大手電力か、新電力か ●自家発電機の活用状況 ほか
- 8-5 再エネ調達の状況
  - ●再エネ導入実態 ●手法別の再エネ導入状況 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶

nkbp.jp/hj-rates-x

世界洋上風力ビジネス 全体動向編

製造・金融・サービス業に50兆円規模の新市場



洋上風力市場のポテンシャルを提示

発電コスト低減で、爆発的な拡大が見込める市場を俯瞰

期待の浮体式洋上風力、その社会実装シナリオを解説

港湾を核に地域活性化へ寄与、関連産業への経済効果を分析

世界の関連ビジネス動向を網羅

世界のプロジェクトやサプライチェーンを解説

既存プロジェクトの動向から浮体式の社会実装シナリオまで欧米中韓台日のプロジェクトを総括、サプライチェーンも分析

世界的にカーボンニュートラルの切り札とされる洋上風力発電。日本政府も2040年に45GW（原発45基分）の導入を目指す。これにより国内には、建設市場だけでも年間1兆～2兆円、波及効果まで含めればさらに巨大な規模の産業が生まれることになります。本レポートでは、総論でこうした国内外の洋上風力を巡る状況を概観。2章では、洋上風力先進地域の欧州のほか米中韓、台湾、日本の動向を解説します。国内の洋上風力は、入札効果により当初から予想よりも低コストでの建設・運営が求められており、洋上風力ビジネスで十分な利益を得るには、世界市場を視野に入れる必要があります。国・地域別動向で紹介する各国の施策・プロジェクト、サプライチェーン動向は、海外への参入検討に役立つはずです。3章では要素技術の解説、4章では注目される浮体式洋上風力の社会実装シナリオ、5章では先行する欧米のサプライチェーン市場規模を取り上げ、洋上風力の可能性を把握できる一冊となっています。

国	ゾーニング・地元調整・各種調査	洋上変電所・海底送電・系統連系	買取制度
英国	王室資産管理会社のCrown Estateがゾーニング、海域リース権入札。地元調整、風況・海底調査、環境アセスメントは民間の開発事業者が実施	洋上変電所およびエクスポートケーブルを所有・運用するOFTO（洋上送電事業者）を入札で決定	RO（再生可能エネルギー義務）制度からスタート。2017年から入札によるCfD（差額決済契約）へ移行
ドイツ	ドイツ政府機関（BSH：連邦海運・水路庁）がゾーニング、地元調整は事業者が担当。風況・海底調査、環境アセスメントは政府機関が予備調査、開発事業者が詳細調査を実施	TSOのTenneT、50HertzがEEZ（洋上変電所、エクスポートケーブルの建設・運用、系統連系を担当	FIT（固定価格買取制度）からスタート。2014年にFIP（フィードインプレミアム）、2015年からカライク（基準）価格を入札で決める方式に移行
オランダ	オランダ政府機関（経済・気候政策省）がゾーニング、地元調整は経済・気候政策省とTSOのTenneT、風況・海底調査、環境アセスメントもTenneTが担当	TenneTがEEZ（洋上変電所・エクスポートケーブルの建設・運用、系統連系を担当	FITからスタート。2011年改正で、FIP制度「SDE Plus」を導入。ストライク価格を入札で決定
デンマーク	デンマーク政府機関（エネルギー庁）がゾーニング、地元調整はエネルギー庁と事業者が実施。風況・海底調査、環境アセスメントはTSOのEnerginetが実施	事業者がEEZ（洋上変電所、エクスポートケーブルを建設・運用。Energinetが陸上変電所からの系統連系を担当	FITからスタート。2009年以降はFIP制度を導入。ストライク価格を入札で決定
米国	BOEM（連邦海洋エネルギー管理局）がゾーニング、海域リース権入札を実施して事業者を選定。地元調整、風況・海底調査、環境アセスメントは事業者が実施	事業者がEEZ（洋上変電所、エクスポートケーブル、陸上変電所、陸上ケーブルの建設・運用を担当	各州が小売事業者とのPPA（電力購入契約）またはORECs（洋上風力再エネ証書）価格を決める入札を実施
中国	国家発展改革委員会および国家エネルギー局（能源局）が洋上風力含めた再エネの導入計画を策定。各省が海域の選択や集うた区域	事業者がEEZ（洋上変電所、海底ケーブルなどの設備を建設。国家電網が洋上風力全体と再エネ需要地へ送るための送電網を整備	2021年末までに特別な案件には買取価格0.85元/kWhのFITを適用。それ以降は「グリッドパリティ」になるとして、入札や自由な価格制度を検討
台湾	台湾政府がセンシティブな海域を除いた「ポテンシャル海域」を特定。地元調整、風況・海底調査、環境アセスメントは事業者が実施	洋上変電所、エクスポートケーブル、陸上ケーブルは事業者が建設・運用。TSOの台湾電力公司が所	FIT制度を導入していたが、2018年
日本	港湾区域は港湾法に基づき港湾管理者が公募で占用計画を認定。一般海域は再エネ海域利用法に基づき都道府県・国交大臣が長期事業に適合した「促進区域」を指定、地元調整、各種調査は事業者が行うが、「日本版セントラル方式」を議論中	事業者がEEZ（洋上変電所、エクスポートケーブル、陸上ケーブルの建設・運用を行う。原則建設のようは海域を送電事業者が運用化する検討も始まる	FIT/FIPからスタート。2021年に「日本版CfD」を導入。ストライク価格を入札で決定

出所：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボが資料から作成

各国の洋上風力向けの補助・支援策・買取制度の概要

国	～2019年	2020～2022年	2023～2024年	2025年～
米国	Race Bank -6.0、Walney Extension-7.0、Beatrice-7.0	Hornsea 1-7.0、East Anglia 1-7.0	MoreyEast-9.5、Triton Knoll-9.5、Seagreen-10.0、Dogger bank A, B-13.0	Sofia-14.0、Dogger bank C-14.0MW
ドイツ	Borkum Riffgrund 2-8.0、Hohe See-7.0	Albatros-7.0	Gode Wind 3-11.0	Borkum Riffgrund 3-11.0、He Dreiht-15.0
オランダ	Gemini-0.0	Borssele I, II-8.0、Borssele III, IV-9.5	Hollandse Kust(Zuid)（Noord）-11.0	
デンマーク	Horns Rev 3-8.3	Kriegers Flak-0.0		
英国	Block Island-6	Coastal Virginia 1-6.0	South Fork-11.0、Sunrise Wind -8.0、Vineyard Wind 1-13.0、Ocean Wind 1-12.0	Coastal Virginia 2-14.0、Skipjack-12、Revolution Wind-11.0、Atlantic Shores-13.6、Empire Wind-15.0
中国	上海東海大橋-3	中広核陸江市麒麟-5.5、三峡広東陽江沙朗-6.5、華潤5-6号-6.0、江蘇如東H3-4.5、大連庄河-6.2	Fujian Changle Area-10	Shanghai Electric Shantou Qingeng Ⅱ-7.0、Yuchuan Yongqiang Qingzhou 2-5.5
台湾	Formosa 1-6.0	Changfang 1-2a-8.0、Yunlin1, 2-8.0	Changfang/ Xidao-9.5、Zhong Neng	
日本		秋田-能代-8.4.2	石狩湾新港-0	

稼働年（予定含む）ごとに見た世界の代表的な洋上風力プロジェクトと採用タービンの単機出力（単位：MW）

出所：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボが資料から作成

■ 調査・編集：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボ
■ レポート：A4判、374ページ ■ 2022年11月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20043-6
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：825,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20045-0

目次

第0章 エグゼクティブサマリー
表1 世界各国の洋上風力の導入目標と導入実績（2021年末時点）、2026年、2030・31年、2050年の導入予測例
表2 各国の洋上風力向けの補助・支援策・買取制度の概要 ほか

第1章 総論
1-1 カーボンゼロに向けた洋上風力の位置づけ
●温暖化対策とエネルギー政策の動き
図1 大気中のCO_2濃度と気温の変化 ほか
●主要国における大量導入の動き
図1 大陸上及び洋上風力発電の年度別推移 ほか
●コスト動向並びにコスト低減の取り組み
図1 欧州における運用風のウィンドファームTop10
図2 建設中の大規模洋上ウィンドファーム ほか
●日本における期待と課題
図1 日本における風力導入の推移 ほか
●経済波及効果
図1 GE Haliade-X 12MW 風力発電設備 ほか
1-2 分析編
●世界の施策・市場動向
表1 世界各国・地域におけるカーボンニュートラル・再エネと洋上風力の導入目標 ほか
●世界のプロジェクト
表1 各国の代表的な着床式洋上風力発電プロジェクト（出力・稼働年） ほか
●世界のサプライチェーン
表1 洋上風力向けサプライチェーンのタイプと主要企業（本レポートの第2章で取り上げた企業） ほか

第2章 国・地域別動向
2-1 欧州
●欧州の施策・市場動向
表1 欧州における洋上風力・新海洋エネルギーの2021年末時点の累計実績と2030年・2050年における導入目標 ほか
●欧州のプロジェクト
表1 英国における稼働中の500MW超の代表的な着床式洋上風力発電所 ほか
●欧州のサプライチェーン
表1 欧州における代表的な洋上風力発電事業者の事業概要・実績・主要プロジェクト ほか
2-2 米国
●米国の施策・市場動向
表1 米国連邦政府における洋上風力推進の方針（2021年2月発表） ほか
●米国のプロジェクト
表1 米国で稼働しているユーティリティースケールの着床式洋上風力発電所 ほか
●米国のサプライチェーン
2-3 中国
●中国の施策・市場動向
図1 中国のエネルギー設備構造の割合（2020年） ほか
●中国のプロジェクト
図1 中国の洋上風力発電の新規設備容量と累計設備容量の実績と予測（単位：万kW、0.01GW） ほか
●中国のサプライチェーン
2-4 韓国
●韓国の施策・市場動向
表1 韓国の再生エネルギー別発電割合目標（%） ほか
●韓国のプロジェクト
図1 新安郡洋上風力発電団地で使用中の海底ケーブル専用敷設船「GL2030」 ほか
●韓国のサプライチェーン
2-5 台湾
●台湾の施策・市場動向
図1 台湾海峡で開発可能な風力発電潜在能力 ほか
●台湾のプロジェクト
表1 第1段階のモデル事業の奨励および第2段階の風力発電所の建設候補地 ほか
●台湾のサプライチェーン
2-6 日本
●日本の施策・市場動向
図1 洋上風力マップ ほか
●日本のプロジェクト
表1 港湾区域の洋上風力発電所 ほか
●日本の企業戦略

第3章 主要技術解説
3-1 風力発電技術
●全体像
図1 再生可能エネルギーの発電量の約半分を占める風力発電 ほか
●着床式
図1 着床式洋上風力発電の一般的な支持構造 ほか
●浮体式
図1 浮体式の各国政府の導入目標と開発計画 ほか
3-2 ハードウエア
●洋上風力システム
図1 洋上風力発電システムの主な構成要素 ほか
●ローター系部材（ブレード、ローター軸、ハブなど）
図1 洋上風力でのローター径の大型化のトレンド ほか
●ドライブトレイン（増速機、発電機など）とナセル
図1 ドライブトレインの方式の一例 ほか
●支持構造系部材（タワー、基礎など）
図1 風力発電用タワーの設置 ほか
●送電設備（送電ケーブル、変電設備など）
図1 ウィンドファームに欠かせない付帯設備 ほか
3-3 サービス・ソフトウエア・ソリューション・コンサルタント
●輸送・設置
図1 14MW級風車の設置に対応するSEP船 ほか
●O&M（運用管理と保守点検）
図1 O&Mコストを削減するための3つのアプローチ ほか
3-4 新海洋エネルギー技術
●波力
図1 波力発電システムの例 ほか
●潮力
図1 潮力発電システム ほか
●海洋温度差
海洋温度差発電の実証プラント「SUAR SHAKTHI」 ほか

第4章 浮体式の社会実装シナリオ
4-1 先行事例：英国に学ぶポテンシャル
●日本の経済再生に向けた切り札
図1 世界で最初の洋上風力発電所
●浮体式のテクノロジー
図1 日本周辺の洋上風況マップ
図2 浮体式洋上風力発電のポテンシャル調査の結果 ほか
●洋上風力の市場規模
図1 世界の新規洋上風力設置予想（地域別）
図2 2020年までの洋上風力発電の新規設置量 ほか
●浮体式のサプライチェーン
図1 洋上風力発電所の基礎のタイプ別実績
図2 風車メーカーのマーケットシェア ほか
●雇用創出と地域への経済波及効果
図1 事業段階における職業別労働配分
図2 洋上風力発電のO&Mにおける活動内容と構成要素 ほか

第5章 欧米に見るサプライチェーンの市場規模
5-1 セグメント別市場規模分析
●サプライチェーンのセグメント
図1 サプライチェーンのセグメント
●市場価値と市場規模
図1 世界の洋上風力タービンの製造能力（2021年）
図2 英国の洋上風力市場のサプセクター別市場価値：2020年と2030年 ほか
●欧州事業者インタビュー



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-wowp-x

世界EV総覧＆技術戦略レポート2025



日米欧中韓印34社の動向解説と 280車種の特長・40項目の諸元表

世界主要34社の技術戦略を解説
各社が狙う市場やプラットフォーム開発動向

EV280車種のラインナップ・スペック一覧
車種別の特徴を解説・40項目の諸元表を掲載



オンラインサービスのセットご購入の場合、諸元表をExcel形式でダウンロード可能です。

日米欧中韓印34社の戦略・280車種の車両仕様を総ざらい EVの今を知るのに必携の一冊です

電気自動車（EV）の普及が遅々として進まない日本にいると、世界のEVシフトの動きに鈍感になりがちです。EV減速といったニュースも多く見かけますが、踊り場にさしかかっただけで、世界はEVに向けて大きく動いています。中国では、2023年の新車販売台数の約38%を新エネルギー車（EV、プラグインハイブリッド（PHEV）を含む）が占めました。世界においても、2035年には全世界の新車におけるEVの割合が5割を超えると予測されています。では世界の自動車メーカーはこのEVシフトに向けてどのような戦略を描き、どのような車両を市場投入しているのか。

本レポートは日本、米国、欧州、中国、韓国、インド、ベトナムの主要メーカー280車種のプロフィル、ブランド、技術、プラットフォームなどの戦略と、車両の特徴およびスペックを網羅的に調査・分析し、まとめました。メーカー34社の技術戦略と動向解説は日経クロステック記者7名が執筆。世界のEV市場を知るために必須の一冊です。

■ 編集：日経クロステック
■ レポート：A4判、618ページ
■ 2024年10月31日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20567-7
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）
ISBN：978-4-296-20569-1

目次

※目次や内容は変更になる場合があります。

第1章 日本メーカー
トヨタ自動車／ホンダ／日産自動車／マツダ　／スバル／三菱自動車

第2章 米国メーカー
テスラ／フォード／GM／リビアン／ルーシッド／ファラデーフューチャー／フィスカー及びカルマ・オートモーティブ

第3章 欧州メーカー
VWグループ／ステランティス／ルノー／BMW／メルセデス・ベンツ／ボルボ／ジャガーランドローバー

第4章 中国メーカー
BYD／広州汽車集団／吉利グループ／上海汽車集団／上汽通用五菱汽車／長安汽車／上海蔚来汽車（NIO）／合衆新能源汽車／小鵬汽車／奇瑞汽車

第5章 その他メーカー
現代自動車グループ／タタ自動車／マヒンドラグループ／ビンファスト

［280車種・40項目の諸元表 掲載項目］

■会社名　■車種　■モデルグレード　■出荷開始時期　■定員
■車両プラットフォーム　■寸法・質量　■EV性能　■Euro NCAP
■駆動用電池　■モーター　■走行装置　■熱マネジメントシステム
■自動運転システム　■価格　■備考

［掲載280車種の例］

トヨタ自動車：bZ4Xなど　ホンダ：アキュラZDXなど
テスラ：サイバートラックなど　フォード：Mustang Mach-Eなど
VWグループ：ID.Buzzなど　ステランティス：プジョーE-208など
BYD：SEAL（海豹）など　吉利グループ：銀河E5、Zeekr001など
上海汽車：MG 4 EV、MG Cyberster、MAXUS MIFA 9など



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-wev-x

EV未来予測 世界5社の開発戦略



ソニー・ホンダモビリティ、BYD、Apple、Tesla、Waymo 新しい体験を実現する自動運転・デザイン・UI・電池・熱マネ

注目5社の個社分析と EVの将来予測

147パターンの図表で 分析結果を「見える化」

電動化関連の世界トップ14社 の簡易分析も収録

アップルの戦略や BYDの強さの秘密に迫る

ソニー・ホンダモビリティ、BYD、Apple、Tesla、Waymo 知財解析から5社の開発戦略、EV市場の未来を予測

次世代電気自動車（EV）企業として世界の注目を集めるソニー・ホンダモビリティと中国BYD、米Waymo、米Apple、米Tesla。知財分析から各社の開発戦略をあぶり出し、EVの未来を予測したのが本レポートです。IPランドスケープと呼ばれる知財情報解析を活用して、自動運転・デザイン・UI・電池・熱マネなどの新しい体験を実現する技術を深掘り分析し、将来の予測まで行っています。具体的な事例や関連記事を多用し、かつ全ての分析結果を図にまとめて視覚化しているので、開発部門から経営企画、マーケティング部門まで理解、活用いただけます。さらに、トヨタ、Volkswagen、Hyundai、Fordなど世界トップメーカー14社の全体分析結果も収録しています。ぜひ、本レポートを貴社の経営戦略、事業開発戦略の策定にご活用ください。

■ 調査・分析：知財ランドスケープ
代表取締役社長CEO 山内 明
■ レポート：A4判、614ページ
■ 2023年12月20日発行
■【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20310-9
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：825,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20312-3

目次

第1章 本書目的ならびに各社注目ポイント

第2章 分析対象となる母集団の設定

第3章 マクロ分析（注目プレイヤーのグローバル俯瞰）
出願人×IPCマトリクスマップに基づく全体俯瞰／各社傾注技術の俯瞰 ほか

第4章 個社分析：ホンダ編
自動運転分析（自動駐車×ワイヤレス給電への傾注／事業上の狙い） ほか

第5章 個社分析：ソニー編
センサフュージョン分析①（鍵はソニーセミコンダクタソリューションズ） ほか

第6章 個社分析：BYD編
重要特許分析①（ブレードバッテリーの競争力を支える特許群） ほか

第7章 個社分析：Waymo編
自動運転分析①（全方位戦略）／自動運転分析②（重要特許一覧） ほか

第8章 個社分析：Apple編
ソフト／ハード関連仕分け、ソフト関連分析 自動運転／通信関連仕分け ほか

第9章 個社分析：Tesla編
傾注分野特定、Tesla:HVAC／熱マネジメント分野の関連の重要特許一覧 ほか

第10章 世界5社将来予測
世界5社の将来予測 総まとめ、世界5社の将来予測 ほか

第11章 電動化関連のグローバル14社分析
トヨタ自動車／Hyundai Motor／ホンダ／BYD／Ford Motor ほか

第12章 テーマ別分析
アップルカー開発行為の「見える化」／電池交換式ビッグ3の要注目特許紹介（Aulton、Geely、NIO）／BYDのデザイン力の源泉分析 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-evls-x

生体センシング最前線2030

モビリティー編

自動車・モビリティー分野を100年に1度の変革に導く生体センシング技術



これからの10年を担う可能性があるスタートアップ67社、大手・中小・大学33社を選定

各社の概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報、資金調達状況などを分析

車載センサー、カメラ、シート/ハンドル、小型端末、ウエアラブルの5つの領域に分類、分析

2030年に向けた生体センシングの市場トレンドと関連する市場の成長を解説

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、180ページ　■ 2024年10月10日発行
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20599-8 ※書籍のみの販売はありません。

自動運転やMaaSの革新を支える生体センシング技術　2030年を担う注目企業100社の技術と動向を展望

生体センシングは、2030年に向けて自動車・モビリティー分野の変革を支える中心技術です。開発競争が加速する自動運転やMaaSはもちろん、物流や配送のビジネスでも、生体センシングの最新動向を知らずして未来を語れなくなりました。例えば、車外のヒト・モノの存在をセンシングし、危険を回避する技術は自動運転に必須の技術。運転者の健康状態をリアルタイムにモニタリングし、眠気・疲労・体調やストレス・感情、アルコール摂取などを検知するDMS（運転者監視システム）は、交通事故数の低減はもちろん、長距離運転業務に携わる従業員の管理など、2024年問題でクローズアップされる様々な社会問題の解決に寄与します。本レポートは、モビリティー分野におけるセンシング技術を提供形態別に車載センサー、カメラ、シート/ハンドル、小型端末、ウエアラブルの5つの領域に分類。各領域で2030年に向けた新ビジネスを担う可能性があるスタートアップ企業67社、大手・中小企業や大学33社、合計100社を選定し、各社が開発するテクノロジーの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などをまとめています。



2030年を担う注目企業100社を選定。各社が開発するテクノロジーの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などを集約。

目次

特別編集版に収録されている「目次：2 車載センサー～6 ウエアラブル」には、企業名と各企業が開発する技術やサービスなどの特徴（見出し）が併記されています。ぜひ、特別編集版をダウンロードして、内容をご確認ください。

第1章 総論
1-1 対象産業
●はじめに ●ヘルスケア分野 ●モビリティー分野
1-2 センシング対象
●概要 ●血糖値 ●心電・心拍 ●血圧 ●栄養
●組織・臓器 ●汗・唾液・尿 ●呼気 ●体温
●体動 ●脳 ●睡眠 ●ストレス・感情
●生体音 ●フェムテック
1-3 センシング技術の手法
●概要 ●光学 ●電気信号 ●機械量 ●音
●生化学／電気化学 ●磁気 ●電磁波 ●その他
1-4 注目スタートアップ企業の選定方法
●選定基準
1-5 技術開発の直近動向
●概論 ●センシング技術の高度化
●自動運転の普及への対応
1-6 2030年に向けた技術開発の方向性と市場トレンド
●2030年の生体センシング
●資金調達を指標とした市場トレンド

第2章 車載センサー
2-1 【車載】スタートアップ企業：米国
●Origin Wireless社 ●Voyant Photonics社
●PreAct Technologies社 ●Ubicept社 ほか
2-2 【車載】スタートアップ企業:イスラエル
●Vayyar Imaging社 ●Opsys Tech社
●Neteera Technologies社 ほか
2-3 【車載】スタートアップ企業:日本
●ArchiTek ●ひびきの電子
●ハイパーデジタルツイン ほか
2-4 【車載】スタートアップ企業:その他の国・地域
●Novelda社
●Hangzhou Luowei Technology社 ほか
2-5 【車載】中小企業／大手・中堅企業
●Eye-Net Mobile社 ●パル技研 ●アイシン
●Ford Motor社 ●村田製作所 ほか
2-6 【車載】大学
●Columbia University
●Texas Tech University ほか

第3章 カメラ
3-1 【カメラ】スタートアップ企業：米国
●Kodiak Robotics社 ●Phantom AI社
●GreenRoad Technologies社 ほか
3-2 【カメラ】スタートアップ企業:日本
●ティアフォー ●アジラ ●ナノルクス
●TakumiVision
3-3 【カメラ】スタートアップ企業：その他の国・地域
●Binah.ai社 ●Eyeware Tech社
●emotion3D社
3-4 【カメラ】中小企業
●Cipia Vision社 ●Datik社 ●FMSi社
●Smart Eye社 ●Traclogis社
3-5 【カメラ】大手・中堅企業
●BHTC社 ●IAV社 ●Opel Automobile社
●三菱電機 ●トリプルアイズ
3-6 【カメラ】大学
●Rice University ●Ud'A
●Universität St.Gallen

第4章 シート／ハンドル
4-1 【シート／ハンドル】スタートアップ企業
●Footfalls Smartex社
●POSH WELLNESS LABORATORY
●フューチャーインク
●CurveSYS社
●CardioID Technologies社
4-2 【シート／ハンドル】大手・中堅企業／大学
●JUKI
●トヨタ紡織
●Southwest Petroleum University

第5章 小型端末
5-1 【小型端末】スタートアップ企業
●Owlstone Medical社
●Inovise Medical社
●Kintsugi Mindful Wellness社
●Occuity社
●Avicena社
●KHN Solutions社
5-2 【小型端末】中小企業／大手・中堅企業
●ACS社
●SOBR Safe社
●Dräger社
●大日本印刷

第6章 ウエアラブル
6-1 【ウエアラブル】スタートアップ企業:米国
●Element Science社
●Linus Health社
●Feel Therapeutics社
●Cardiac Insight社
●Strados Labs社
●Neurava社
●Milo Sensors社
●Arborsense社
●BlyncSync Technologies社
●Vail Industries社
●Aquilx社
●mPath社
6-2 【ウエアラブル】スタートアップ企業:その他の国や地域
●Grapheal社 ●RDS社 ●Senti Tech社
●PulseOn社 ●Rooftop Resilience社
●Marina Race社 ●アフォードセンス
●Palmens ●Nuanic社
6-3 【ウエアラブル】中小企業／大手・中堅企業
●Alcohol Monitoring Systems社
●Safety Biometrics社
●Audi社
●Goldtek Technology社



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-biosm-x

テクノロジー・ロードマップ2023-2032 自動車・エネルギー編



2032年までの「市場の姿」を提示

2032年までの世界（または日本）における市場レベルの全体潮流、潮流に関連した市場ニーズや市場規模を示し、未来像を明確に

市場ニーズに合わせた「商品機能」を定義

市場レベルと関連付けて、商品/サービスの期待機能や予定製品を時系列で示し、商品レベルを作成

商品機能を実現するための「技術」を提示

商品/サービス機能を実現するための個別の重要技術を整理し、どのタイミングでどのような技術が必要になるかを時系列で提示

本当のモビリティー革命が、これから始まる。今後10年間の「技術の進化」と「市場の姿」を描く

新型コロナウイルスがもたらしたパンデミックの長期化、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、そして、これらに伴って起こった世界のサプライチェーンの混乱やエネルギー価格の高騰は、世界の自動車産業に大きな影響をもたらしています。同時に、CASEに代表されるクルマの電動化や知能化は、ますます加速しています。こうした時代の変化を背景に、本レポートは『テクノロジー・ロードマップ2021-2030 自動車・エネルギー編』を2年ぶりに全面刷新し、汎用EVプラットフォーム、ビークルOS、UL4600、新世代モーター、太陽光発電、風力発電など、新たな9つの技術テーマを含む、自動車・エネルギー分野における68の重要テーマについて、これから10年の技術進化を予測します。

■ 著者：出川 通、ほか36名
■ レポート：A4判、360ページ　■ 2023年1月31日発行
■ 【書籍のみ】価格：495,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20095-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：742,500円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20097-9

目次

序章 ●「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法 ●サマリー
第1章 エンジン技術 ●ガソリンエンジン ●ディーゼルエンジン ほか
第2章 電動化技術 ●ハイブリッド車 ●EV（電気自動車） ほか
第3章 変速機技術 ●DCT（デュアル・クラッチ・トランスミッション） ほか
第4章 モーター・制御系 ●PM（永久磁石）モーター ほか
第5章 電池技術 ●リチウムイオン電池 ●全固体電池 ほか
第6章 運転支援システム ●UL4600 ●ヘッドランプ ほか
第7章 センサー ●ミリ波レーダー ●車載イメージセンサー ほか
第8章 クルマの知能化 ●次世代コンピューター ほか
第9章 コネクテッドカー ●車載OS ●プライベート5G ほか
第10章 クルマの開発手法 ●EMC対策 ほか
第11章 材料・加工技術 ●高張力鋼板 ●アルミ化 ほか
第12章 エレクトロニクスと開発手法 ●車載ECU ほか
第13章 次世代モビリティ ●ロボットタクシー ●配送ロボット ほか
第14章 エネルギー ●太陽光発電 ●高温ガス炉 ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-trmob-x

世界モビリティ新ビジネス調査レポート

海外スタートアップが拓く BaaS・V2G・MaaS・自動運転の新サービス



注目5分野の最新動向と新ビジネスモデルを解説

主要プレーヤー40社の動向
各社の戦略やサービス、顧客等が明らかに

主要企業連携マップ
企業グループ形成で、統合サービス実現へ

注目の実証プロジェクト
主体企業や組織、成果をレポート

BaaS、V2G、自動運転… 世界でモビリティ関連の新ビジネスが続々登場　事業創出、戦略策定に必携の一冊です

スタートアップを中心に参入企業が急増し、世界で「モビリティ」の新しいビジネスモデルが次々に生まれています。本レポートでは、注目の5分野について、新たなビジネスモデルを調査し、商用化に向けた現状や課題など、最新動向を解説しています。主要プレーヤー40社について、そのサービスやアライアンス、参加プロジェクトなど最新動向と戦略を解説したほか、V2G、MaaS、自動運転の注目の実証プロジェクトについても、参加企業や成果・ビジネスモデルなどを整理しました。また、より利便性が高く、高付加価値のサービスが必要とされるなか、企業間の連携を強化してビジネスモデル統合を進め、事業拡大を図る動きも出てきています。本レポートでは、こうした動きを、主な企業の連携マップとして収録し、解説しています。
今、スマートシティ、エネルギー、EV（電気自動車）などのサービスは「モビリティ」を核に融合する様相を呈しています。本レポートは、そうして登場してきた新ビジネスモデルの全体像を明らかにすることで、今後のモビリティビジネスの戦略策定に役立てていただけるものとなっています。

■ 調査・編集：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボ
■ レポート：A4判、226ページ　■ 2023年9月29日発行
■ 【書籍のみ】価格：440,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20284-3
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20286-7

目次

第0章 エグゼクティブサマリー
第1章 分析編
ビジネスモデル
●BaaS ●エネルギー・V2G・VPP ●MaaS・マルチモーダル
●オンデマンド・シェアリング ●自動運転
主要企業連携マップ
●Deutsche Bahnグループ ●Intelグループ
●Nuvve/EDFグループ ●Enelグループ ●TIER Mobilityグループ
第2章 BaaS
主要企業詳解と注目プロジェクト ●Gogoro ●Bounce ほか
第3章 エネルギー・V2G・VPP
主要企業詳解 ●Nuvve ●DREEV ほか
注目プロジェクト ●Parker Project
●Cajon Valley Union School District Project ほか
第4章 MaaS・マルチモーダル
主要企業詳解 ●Fluidtime Data Services ●MaaS Global ほか
注目プロジェクト ●Smart Aarhus ●Nordic Open Mobility and Digitalization ほか
第5章 オンデマンド・シェアリング
主要企業詳解と注目プロジェクト ●Via Transportation ●Swat Mobility ほか
第6章 自動運転
主要企業詳解 ●Waymo ●Mobileye ほか
注目プロジェクト ●Waymo One ●RMV Autonomous On-Demand Project ほか



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mwms-x

グローバル モビリティ スタートアップ

EV化に伴う新規事業立案に不可欠な一冊



新しいモビリティビジネスを牽引する世界のスタートアップ202社を紹介

グローバルカンパニーの出資動向を個別企業の投資ラウンドごとに明らかに

貴社が投資すべき新たな有望12領域と提携・投資すべき新興企業がわかる

投資動向から有力企業を厳選！次の注目テクノロジーと12の有望市場を描き出す

モータリゼーションの勃興から100年。自動車産業を取り巻く環境は劇的に変化しつつあります。2021年10月に開かれた国連気候変動枠組み条約締約国会議は、自動車分野に関しては2040年までに世界のすべての新車販売について、電気自動車（EV）等、二酸化炭素を排出しないゼロ・エミッション車とすることを目指す共同声明を打ち出しました。世界の企業は走行時だけでなく、ゼロ・エミッション車を製造する過程も含めたLCA（ライフサイクルアセスメント）の観点に立って解決策を講じる対応が急務となっています。
これを受けてグローバルモビリティ時代の自動車産業はESG/SDGsという切り口から急ピッチでその姿を変えつつあり、すでに世界中で無数の有力プレーヤーが勃興しています。モビリティビジネスを牽引する新興企業に先鞭をつけられるかどうかは、新たな事業展開成否のカギを握ります。本レポートでは、世界の投資動向から最新テクノロジーと12の有望市場を描き出すとともに、欧州データベースの最新情報を翻訳、200社超の世界各地におけるグローバルモビリティ関連の有力スタートアップ企業を12の有望領域に分けて紹介します。

目次

第1章 モビリティをめぐるグローバル投資動向
ベンチャーキャピタルの投資動向／大手企業の投資動向／国・地域別の投資動向／投資トレンドの変化／モビリティ業界のユニコーン

第2章 モビリティとその関連領域の技術・市場動向
ゼロ・エミッション・スマートシティ（ソフトウエア）／ゼロ・エミッション・スマートシティ（ハードウエア）／温室効果ガス削減／LCA最適化／注目スタートアップの選定方法と分類

第3章 ゼロ・エミッション・スマートシティを支えるソフトウエア：52社
充電データマネジメント（23社）
●Driivz社 ●Alteco社 ●eDRV社 ●Wallbox社 ほか
交通インフラ制御（29社）
●Nexar社 ●Kodiak Robotics社 ●Lightmatter社 ほか

第4章 ゼロ・エミッション・スマートシティを支えるハードウエア：59社
充電インフラ（14社）
●FreeWire Technologies社 ●ChargePoint社 ほか
バッテリー、燃料（18社）
●H2Pro社 ●StoreDot社 ●Sila Nanotechnologies社 ほか
eバイクと新しい乗り物（27社）
●Rivian Automotive社 ●Urban Aeronautics社 ほか

第5章 温室効果ガス減少に挑む：24社
運送における温室効果ガス削減（8社）
●Hype taxi社 ●Airmee社 ●Vivacity Labs社 ほか
EV化などによる温室効果ガス削減（12社）
●Seurat Technologies社 ほか
空輸技術における温室効果ガス削減（4社）
●AutoFlight社 ●Limatech社 ほか

第6章 ライフサイクルアセスメント最適化で輝くサービス：67社
マイクロモビリティ（シェアバイク、シェアスクーターなど）（18社）／MaaS（スーパーアプリ）（16社）／新しい買い方、売り方（12社）／駐車場の役割（4社）／その他（17社）

■ 著者：グローバルイノベーションプラットフォーム
■ レポート：A4判、424ページ ■ 2023年1月31日発行
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：770,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20138-9 ※書籍のみの販売はありません。



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-gmss-x

中国EV 市場調査

技術動向・サプライヤー分析
モーター/インバーター/車載充電器/電池



部品サプライヤーの中国市場シェア サプライチェーン相関図

電動部品の 調達方針と電池設計トレンド

新エネ車の販売動向と 市場需要予測

自動車技術ロードマップと 政策・規制

中国特有の部品調達や設計思想から主要メーカー・製品・需要予測まで、中国EV市場の全体像が掴める

現在、自動車業界では100年に1度といわれる大変革が進んでいます。変革の時期は、既存の事業を失う危機が訪れる一方で、新しい分野に進出するチャンスでもあります。電気自動車（EV）化の流れに乗って何か新しい事業をつくりたいのであれば、世界最大の市場であり、新しいものづくりのやり方が生まれる場所である中国市場を知らなければなりません。
本書は、日産自動車でEV「リーフ」や、ハイブリッドシステム「e-POWER」などの開発の中心にいた技術者らが立ち上げたブルースカイテクノロジーが、中国の電動化車両市場を分析しました。
中国の電動車市場の全体像を知りたいが、まずは何を調べればよいか。そんなニーズに応える一冊となっています。是非、ご活用ください。

目次

第1章 中国EV関連の政府規制と市場動向
技術ロードマップ
●中国の自動車技術ロードマップ（1）ハイブリッド車への転換 ほか
燃費規制 ●デュアルクレジット規制 ●新NEV規制 ほか
NEV車販売動向 ●増加するNEV車販売 ほか

第2章 EVコンポーネントの技術とサプライチェーン
モーター/インバーターおよびe-アクスル
●中国OEM各社のe-アクスル調達方針 ほか
モーター/インバーター主要サプライヤー
●蔚然動力（XPT） ●蜂巣易創（HYCET） ●比亜迪（BYD） ほか
車載充電器（OBC）の技術とサプライチェーン
●中国OEM各社のOBC（車載充電器）調達方針 ほか

第3章 中国の電池技術と市場動向
中国自動車メーカーの電池調達 ●2021年上半期中国電池市場概要 ほか
中国自動車メーカーの電池設計トレンド ●中国電池関連法規 ほか
中国市場における設計思想 ●一般的な自動車開発の流れ ほか
電池実装の比較 ●バッテリーモジュールの実装 ほか

第4章 中国の電池材料サプライヤー
国際競争状況
●車載用リチウムイオン電池出荷量の電池メーカー国別シェア（2020年） ほか
中国電池メーカー競争状況
●車載用リチウムイオン電池出荷量（MWh）の中国電池メーカーシェア（2020年） ほか
リチウムイオン電池原材料
●リチウム原料の産出国別生産量（2020年）
●コバルト原料の産出国別生産量（2020年） ほか

■ 著者：ブルースカイテクノロジー
■ 企画・編集：日経クロステック
■ レポート：A4判、108ページ ■ 2022年2月7日発行
■ 【書籍のみ】価格：330,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11130-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：495,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11132-9



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-cev-x

テスラ「サイバートラック」徹底分解 全体編

自動車産業に革新を起こすテスラの新型EVを徹底分析



インバーター、電池、ECUなど各部品の画像を掲載、分かりやすく解説

ステア・バイ・ワイヤ対応の操舵システムの構造を調査分析

ギガキャストを用いた大型アルミ鋳造部品を徹底調査

電池パックの構造から電池セルの材料分析まで詳細解説

数々の先端技術を導入した「サイバートラック」テスラの設計思想と開発方針を読み解く

数々の先端技術を導入した、テスラ「サイバートラック」を分解調査しました。最大の特徴は、ステアリングシャフトがなく、ステアリングの切れ角を電気信号で伝達し、操舵する「ステア・バイ・ワイヤ」を採用していること。車体は、前後に「ギガキャスト」と呼ばれる大型アルミ鋳造品を用いたほか、大部分を鋳造品で構成。車体の下部は電池パックを構造部材として配置し、電池パック上面がフロアとなっています。電池パックは「4680」と呼ぶ円筒型セルを用いたリチウムイオン二次電池を採用。四輪駆動車の分解車両の駆動ユニットは、リアは永久磁石式、フロントは誘導式のモーターを採用するものの、外観上の違いはなく、部品の共有化を図っています。インバーターやPCS（車載充電器/DC-DCコンバーター）は、驚異的に小型化されていたモデル3よりも一回り小さくなり、PCSはアルミ電解コンデンサーレスを実現。電装品では、48V車載ネットワークを新たに構築し、電流値とハーネスの重量を大幅に低減させています。電子制御ユニット（ECU）は中央集権化を進めた「ゾーン型」を進化させ、電子部品に合わせて48Vや12Vなど各電圧で作動する新たなアーキテクチャーを採用しています。自動運転支援システムは、LiDARは用いずにカメラのみで対応しているほか、車内に室内カメラと乗員検知用のレーダーを装備しています。



分解したら、ここまで分かる

■ 監修：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、652ページ ■ 2025年5月29日発行
■【書籍のみ】価格：1,100,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20541-7
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,650,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20543-1

目次

第1章 総論
1-1 全体概要
●サイバートラックの仕様 ●サイバートラックの特徴
1-2 モデル3との比較
●概要 ●駆動ユニット ●モーター ●インバーター
●PCS ●電池セル
1-3 ステア・バイ・ワイヤのフェールセーフ試験
●概要 ●試験結果

第2章 パワートレーン
2-1 パワートレーン概略 ●概要
2-2 パワートレーンの電気的接続 ●概要
2-3 フロント駆動ユニット ●概要 ●ユニットの構成
2-4 リア駆動ユニット ●概要 ●ユニットの構成
2-5 フロントモーター
●概要 ●フロントモーターのステーター
●フロントモーターのローター ●レゾルバ
2-6 リアモーター
●概要 ●リアモーターのステーター
●リアモーターのローター
2-7 フロントインバーター ●概要
2-8 リアインバーター
●概要 ●内部の構成 ●冷却器
2-9 フロント減速機 ●概要 ●内部の詳細
2-10 リア減速機
●概要 ●高圧端子台と冷却配管
●電磁式デフロックユニット
2-11 高電圧ユニット ●概要 ●内部の構成
2-12 PCS（車載充電器/DC-DCコンバーター）
●概要 ●内部の構成
2-13 OBCの電源回路シミュレーション
●概要 ●電源回路の構成
●マトリックスコンバーターの動作原理
●トランスと共振インダクター ●PCSの電子部品
●OBCの動作をシミュレーターで解析
2-14 電池パック
●車体からの取り外し ●電池パックの概要
●内部の構成 ●電池セル監視基板
2-15 電池セル
●電池セルの概要 ●電池セルのX線CT像
●電池セルの分解 ●正極材の分析
●正極単体での充放電特性 ●負極材の分析
●負極単体での充放電特性 ●セパレーターの分析
●電池セルの充放電特性
●電池セルの高率放電/充電曲線
●電池セルの充放電サイクル試験
●電池セルのI-V特性（10秒放電）
●ナイキストプロット測定
2-16 熱マネジメントシステム
●概要 ●スーパーマニフォールドV2
●オクトバルブ ●ヒートポンプ用コンプレッサー
2-17 外部充電ユニット
●概要 ●配線の詳細

第3章 シャシー
3-1 シャシー概略 ●概要
3-2 エアサスペンション ●概要
3-3 フロントサスペンション ●概要
3-4 リアサスペンション ●概要
3-5 ステア・バイ・ワイヤ ●概要
3-6 室内操舵ユニット ●概要 ●制御基板付きモーター ほか
3-7 前輪転舵ユニット ●概要 ●アクチュエーターユニット
3-8 後輪転舵ユニット ●概要
3-9 ブレーキシステム ●概要
3-10 フロントブレーキ ●概要
3-11 リアブレーキ ●概要
●電動パーキングブレーキ用モーターユニット
3-12 ペダル ●アクセルペダル ●ブレーキペダル
3-13 タイヤとホイール ●概要

第4章 車体
4-1 車体概略 ●概要
4-2 プラットフォーム（ギガキャスト骨格） ●概要
4-3 ギガキャストとアルミ鋳造品の分析 ●成分分析 ●組織分析
4-4 ステンレス外板 ●成分分析 ●外側パネルの結晶構造 ほか
4-5 フロントドア ●概要
4-6 リアドア ●概要
4-7 フロントフード ●概要 ●前面パネル
4-8 テールゲート ●概要
4-9 フロントフェンダー ●概要
4-10 リアフェンダー ●概要
4-11 荷台 ●概要 ●荷台シャッター
4-12 フロントバンパー ●概要
4-13 リアバンパー ●概要

第5章 内装
5-1 内装概略 ●概要
5-2 インストルメントパネル ●概要
5-3 センターコンソール
●概要 ●スマートフォン用ワイヤレス充電器
5-4 ステアリング周辺 ●概要
5-5 フロントシート ●概要 ●内部分解
5-6 リアシート ●概要
5-7 ステアリングメンバー ●概要
5-8 フロアマット ●概要

第6章 電装品
6-1 電装品概略 ●概要
6-2 フロントカメラユニット ●概要 ●ADAS用2眼カメラ
●GPS/GNSSマルチバンドアンテナ基板
6-3 下部フロントカメラユニット ●概要
6-4 リアカメラ ●概要
6-5 フェンダーカメラ ●概要
6-6 Bピラーカメラ ●概要
6-7 室内カメラユニット ●概要
6-8 室内ミリ波レーダー ●概要
6-9 センターディスプレー ●概要
6-10 リアディスプレー ●概要
6-11 キーレスシステム ●概要 ●Bluetooth/UWB受信機
●NFC内蔵Bピラーカバー
6-12 オーディオシステム ●概要 ●スピーカーの搭載場所
6-13 空調システム ●概要 ●HVAC
6-14 エアバッグシステム ●概要 ●エアバッグ用ECU
6-15 ヘッドライト ●概要 ●メインヘッドライト ●ヘッドライトバー
6-16 リアライト ●概要 ●メインリアライト ●リアライトバー
6-17 48V系蓄電池（リチウムイオン電池） ●概要
●電池ユニット分解 ●電池セルの分析

第7章 ECU
7-1 ECU概略 ●概要 ●主要ECUの搭載位置と配線
7-2 車載コンピューター ●概要 ●マルチメディア用基板
●自動運転支援用基板
7-3 レフトボディコントローラー ●概要 ●基板の詳細
7-4 ライトボディコントローラー ●概要 ●基板の詳細
7-5 リアボディコントローラー ●概要 ●基板の詳細
7-6 ドアコントローラー ●概要 ●基板の詳細
7-7 TCU（テレマティクス・コントロール・ユニット）
●概要 ●内部の詳細 ●基板の詳細
7-8 トレーラーECU ●概要 ●基板の詳細



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-cyba-x

テスラ「サイバートラック」徹底分解 ECU編

ECUの機能・搭載IC・コストを分析、
サプライヤーのトレンドも解説



主要な電装品を2019年製「モデル3」と徹底比較

オンラインサービスでは、部品表に基づいた推定原価31点をエクセル形式でダウンロード可能

CATEGORY	FUNCTION	MANUFACTURER	PARTS NUMBER	QTY	PRICE (USD)	REMARK
CONTROLLER	MICROPROCESSOR	TI	SITARA AM6421	1	13	
	POWER MANAGEMENT	TI	TPS65219-Q1	1	5	
	A/D CONVERTER	TI	ADS131B04-Q1	2	3.9	
	DC-DC CONVERTER	TI	LM5013-Q1	1	3	
	DC-DC CONVERTER	TI	LM5160-Q1	1	3	
	STEP-DOWN CONVERTER	TI	TPS62810-Q1	1	0.2	
	LOW-DROPOUT REGULATOR	TI	TPS7A69-Q1	3	1.5	
	ULTRA-LOW DROPOUT REGULATOR	TI	TPS745-Q1	1	0.15	
	QUAD-CHANNEL DIGITAL ISOLATOR	TI	ISO7741-Q1	4	2.4	
	PHOTOCOUPLER	TOSHIBA	TLP3300	2	0.3	

サイバートラックの電装品とECUを分解調査 機能、システム内での役割、搭載場所、部品構成、推定原価が明らかに

サイバートラックのECU（電子制御ユニット）を中心に、30個以上に及ぶユニットを分解調査しました。サイバートラックは、新たに48V低電圧電源システムやEthernetを採用したECUを搭載し、自動運転の実現を可能にする水冷式車載コンピューターや、巻線トランスをなくしたインバーター基板など新技術を積極的に導入しています。本レポートでは、サイバートラックの電装品とECUを分解調査し、機能やシステム内での役割、搭載場所、外観、分解画像、基板の電子部品情報、基板の部品構成表と推定原価などを掲載しています。また、日経BPが分解した2019年製「モデル3」の主要な電装品との比較分析も実施し、設計変更した部分や技術進化のポイント、電子部品のサプライヤーの採用動向についても解説しています。5年間でどのようなサプライヤーが力を付けているのか、その動向を把握することが可能です。ユニット単体の分解調査では、今後の自動車業界に大きな影響を与えるECUや電装品の動向を知るうえで、有用な情報が満載です、ぜひご活用ください。

■ 監修:フォーマルハウト・テクノ・ソリューションズ、日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、538ページ
■ 2025年9月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：1,760,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20829-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：2,640,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20831-9

目次

第1章 総論
全体概要／サイバートラックの電装品とECUの概要

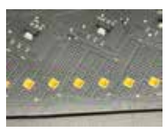
第2章 2019年製「モデル3」との徹底比較
ECU全体の傾向／車載コンピューター／ボディコントローラー／車載カメラ／センターディスプレー

第3章 情報系・安全系
車載コンピューター／フロント2眼カメラ／下部フロントカメラ／リアカメラ／フェンダーカメラ／Bピラーカメラ／室内カメラ／室内ミリ波レーダー／TCU（テレマティクス・コントロール・ユニット）／BLUETOOTH/UWB受信機／NFC/Bluetooth/UWB受信基板／センターディスプレー／リアディスプレー

第4章 車体制御・安全系
レフトコントローラー／ライトコントローラー／リアコントローラー／ドアコントローラー／トレーラーコントローラー／エアバッグECU／熱マネジメントECU

第5章 電源・駆動系
PCS（Power Conversion System）基板／高電圧制御ユニット基板／電池セル監視基板／インバーター基板／外部充電ポートモジュール

第6章 電装品
FM/HDチューナー／FMアンプ／スマートフォンワイヤレス充電器／コンソールコントローラー／メインヘッドライト／メインリアライト




詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-cybe-x

吉利汽車「ZEEKR 007」徹底分解 全体編

15分急速充電、
中国製SiCインバーター、LiDAR…
分解すれば、ここまで分かる



中国EVの今後の開発方針や設計思想が分かる

技術習熟度など知っておくべき情報を多数掲載

分解工程が分かる映像を収録したDVDが付属

購入者限定「分解部品の無料見学会」を開催

Volvoの親会社 吉利汽車の最新EVを分解調査　専門家が注目する技術力と開発の方向性を読み解く

Volvoの親会社である中国・吉利汽車（Geely）が電気自動車（EV）展開を本格化させています。EVブランドとして「Zeekr」を2021年に立ち上げ、テスラ対抗車である最新EV「ZEEKR 007」を2024年1月に発売。テスラやBYDに真っ向勝負を挑むブランドとして注目され、2025年には日本進出も表明しました。特徴は15分で急速充電できる自社開発・内製のリチウムニ次イオン電池と800V充電システムを搭載していること。分解車両の四輪駆動車は出力475kWで、リア駆動ユニットのインバーターには中国製SiCパワー半導体、車体はリアフロアに7200トン級のギガキャストを用いた大型アルミダイキャストを採用。電装品は、LiDARに加えて、カメラ12個、ミリ波レーダー5個を用いて、水冷車載コンピューターにより独自のADASを実現しているほか、最新の自動駐車システムを装備。また、片側800個以上のLEDを組み込んだディスプレイをヘッドライトに装備し、外部にいる人や車に向けて映像や文字を表示して新たなコミュニケーションツールを提案しています。

■ 監修：日経BP 総合研究所　■ レポート：A4判、656ページ
■ 付属DVD：1枚（分解映像を収録）
■ 2024年10月31日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）
ISBN：978-4-296-20506-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）
ISBN：978-4-296-20508-0

目次

第1章 総論
全体概要／テスラやBYDとの比較

第2章 パワートレーン
パワートレーン概略／パワートレーンの電気的接続／フロント駆動ユニット／リア駆動ユニット／フロントモーター／リアモーター／フロントインバーター／リアインバーター／フロント減速機／リア減速機／車載充電器/DC-DCコンバーター／電池パック／電池セル／熱マネジメントシステム／外部充電口

第3章 シャシー
シャシー概略／フロントサスペンション／リアサスペンション／電動パワーステアリング／ブレーキシステム／フロントブレーキ／リアブレーキ／ペダル／タイヤとホイール

第4章 車体
車体概略／プラットフォーム／フロントドア／リアドア／フロントフード／フロントフェンダー／ルーフ/リアフェンダー／テールゲート／フロントバンパー／リアバンパー

第5章 内装
内装概略／インストルメントパネル／センターコンソール／ステアリング周辺／ルーフヘッドライニング／フロントシート／リアシート／ステアリングメンバー/シャフト／フロアマット

第6章 電装品
電装品概略／LiDAR／フロントミリ波レーダー／後側方ミリ波レーダー／フロントカメラユニット／イルミ付きフロントカメラ／フェンダーカメラ／サイドミラー／リアカメラ／運転者モニタリングカメラ／超音波センサー／センターディスプレイ／液晶メーター／ヘッドアップディスプレイ／オーディオシステム／キーレスシステム／空調システム／エアバッグシステム／ヘッドライト／テールライト／ヒューズ/ジャンクションボックス／12V系蓄電池（リチウムイオン電池）

第7章 ECU
ECU概略／車載コンピューター／ゲートウエイECU／通信用ECU／情報系ECU／ボディ系ECU／パワー系ECU



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-zeeka-x

2輪車にもやってきた電動化の波
世界の動向と設計思想が明らかに

電動モビリティー徹底分解

ハーレー/Super Soco/BMW/Segway-Ninebot



ハーレーダビッドソンが開発した電動バイク「LiveWire ONE」。フラッグシップの電動バイクを詳細解説

中国電動バイクのパイオニアSuper Soco。その量販価格帯の電動バイク「TC WANDERER」の実力を探る

BMWが四輪EVで培った技術を注ぎ込んだ電動スクーター「CE04」を分解調査、その詳細を徹底分析

次世代モビリティーの代名詞である電動キックボードSegway-Ninebot「D-air」。その構造や設計思想を分析

世界の電動モビリティーを分解調査、今後のトレンドを読む

世界的な脱炭素化への取り組みは、自動車だけでなく、すべてのモビリティーに電動化への対応を求めています。2輪車でもハーレーダビッドソンが電動ブランド「LiveWire」を創設し、「LiveWireONE」を市場投入するなど電動化への動きが加速しています。本レポートでは電動バイクとして「LiveWireONE」と、先行する中国で製造されている普及価格帯の電動バイク「Super Soco」を分析・調査しました。また、スクータータイプとしてBMWの電動スクーター「CE04」の主要部品を特別編として収録しています。このほか、次世代モビリティーとして市場が拡大している電動キックボードに注目し、Segway-Ninebotの「D-air」についても徹底分析しています。各製品のパワートレーン、車体、電装品、ECU、外装（BMWを除く）などに関して、構造や接続から、素材、サプライヤーなどのデータを掲載し、多数の画像を交えて解説します。

■ 監修：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、510ページ
■ 2024年1月19日発行
■【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20232-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20234-8

目次

第1章 総論
電動モビリティーの動向●全体概要／分解調査した車両の位置付け●分解車両 ●技術的な傾向

第2章 LiveWire ONE（ハーレー製電動バイク）
車両概要●仕様と特徴／パワートレーン●全体概要／●モーターユニット／車体 ●全体概要／●メインフレーム／●リアフレーム／電装品 ●ヘッドランプ●液晶クラスター／ECU ●BCM（ボディコントロールモジュール）／外装●全体概要／●トップカバー／●フレームカバー／●バッテリーカバーA ほか

第3章 TC WANDERER（中国製量販電動バイク）
車両概要●仕様と特徴／パワートレーン●全体概要／●モーターユニット／●ステーター／車体●全体概要／●メインフレーム●フットレスト／●リアフォーク／電装品●ヘッドランプ／●メーター／●DC-DCコンバーター／●アラーム/無線受信ユニット／ECU●BCM（ボディコントロールモジュール）／外装 ●全体概要／●ウインドシールド／●フロントフェンダー／●ストレージボックスカバー ほか

第4章 特別編：BMW CE04（電動スクーター）
車両概要 ●仕様と特徴／パワートレーン ●全体概要／●モーターユニット／●ステーター／●ローター／●磁気センサー／●減速機／車体●全体概要／●メインフレーム／●ステアリングフォークブリッジ／●リアフォーク／●リアショックアブソーバー ●リアホイール／●フロントフォーク／●フロントホイール／電装品 ●ヘッドランプ／●液晶クラスター／●ABS／●傾斜角センサー／●ハンドルスイッチ類／ECU ●ベースモジュールECU／●ライトモジュールECU ／外装（一部のみ掲載）／●全体概要／●ヘッドライトカバー／●ウインドシールド／●ヘルメットストレージ ほか

第5章 Segway-Ninebot D-air（電動キックボード）
車両概要 ●仕様と特徴／パワートレーン ●全体概要／●モーターユニット／●ステーター／●ローター／●インバーター／●電池パック／●電池セル／●ACアダプター／車体／●全体概要／●メインフレーム／●デッキ／●リアホイール ●フロントホイール ●ブレーキシステム／●リアフレーム／●ハンドル／●サイドスタンド／●バックミラー／電装品／●ヘッドランプ／●メーター／ECU●BMU（電池管理ユニット）／外装／●全体概要／●フロントホイールカバー／●フロントフォークカバー／●リアホイールカバー／●デッキカバー



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-evbike-x

テスラを追い抜き、世界一のEVメーカーへ
その実力が明らかに

中国BYD「SEAL（海豹）」徹底分解［全体編］



BYDのEV専用プラットフォーム「e-platform 3.0」を徹底分解

モーター制御から双方向コンバーターまで8つの機能を統合したパワーユニット

電池パックをボディ構造に電池モジュールレスの「ブレードバッテリー」

最新EVの「技術力」と「開発の方向性」を読み解く

中国BYDの電気自動車（EV）である「SEAL（海豹）」を分解調査しました。最大の特徴は、モーターと減速機、インバーターの主要3部品に加えて、車両コントローラー、電池管理システム（BMS）、DC-DCコンバーター、車載充電器、ジャンクションボックスを一体化した“8in1”と呼ぶパワーユニットを採用していること。さらに、「ブレードバッテリー」と呼ぶ新構造の車載電池や統合化した熱マネジメントシステムを搭載したほか、車内電装品の集中制御も大手自動車メーカーを大きく先行しています。中国市場向けの量産車としてだけではなく、テスラ対抗馬として2024年6月、日本での販売を開始した世界基準のEVです。中国企業の開発・設計思想をはじめ、材料や部品の形状や使用状況について、多彩な画像と解説から理解を深めることができる一冊です。

■ 監修：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4判、494ページ
■ 付属DVD：1枚（分解映像を収録）
■ 2023年9月15日発行
■【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20229-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20231-7

目次

第1章 総論
全体概要／テスラとの比較

第2章 パワートレーン
パワートレーン概略／パワートレーンの電気接続／フロント駆動ユニット／リア駆動ユニット／フロントモーター／リアモーター／フロントモーターコントローラー／リア統合モーターコントローラー／減速機／電池パック／電池セル／熱マネジメントシステム／外部充電ユニット

第3章 シャシー
シャシー概略／フロントサスペンション／リアサスペンション／電動パワーステアリング／ブレーキシステム／フロントブレーキ／リアブレーキ／ペダル／タイヤとホイール

第4章 車体
車体概略／プラットフォーム／フロントドア／リアドア／フロントフード／フロントフェンダー／ルーフ/リアフェンダー／バックドア／フロントバンパー／リアバンパー／アンダーカバー

第5章 内装部品
内装概略／インストルメントパネル／センターコンソール／ステアリング周辺／ルーフヘッドライニング／シート／ステアリングメンバー／フロアマット

第6章 電装品
電装品概略／フロントカメラユニット／フロントミリ波レーダー／アラウンドビューモニター／室内カメラ／後側方レーダー／超音波センサー／空調システム／PM2.5測定器／中央ディスプレイ／液晶メーター／ヘッドアップディスプレイ／オーディオシステム／カラオケユニット／キーレスシステム／アンテナユニット／エアバッグシステム／ヘッドランプ／テールランプ／サイドミラー／車両接近通報装置／TPMS／ヒューズボックス／12V蓄電池（リチウムイオン電池）

第7章 ECU
ECU概略／ボディコントローラー（レフト/ライト/リア）／マルチメディアコントローラー



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-bydall-x

トヨタ自動車「新型MIRAI（Advanced Drive）」徹底分解



新型燃料電池（FC）システムの構成や工夫、部品の詳細が分かる

高度運転支援技術「Advanced Drive」を実現した部品群を丸裸に

初採用※のSiC MOSFETを活用したDC-DC昇圧コンバータを分析

※日経クロステック調べ

トヨタ自動車の2大戦略技術、「燃料電池」と「Advanced Drive」がこの一冊でわかる！

トヨタ自動車の燃料電池自動車「新型MIRAI」を徹底分解しました。新型MIRAIは、同社が次世代モビリティ用エネルギー源の柱の1つと位置づける最新の燃料電池（FC）を搭載した車両です。同社は、このFCを、乗用車のみならず、トラックやバスなどの大型車、船や鉄道などのモビリティや定置用発電機などでも活用することを狙っています。本書では、このFCを構成する要素を分解し、冷却水、ガスの流れといったシステムレベルから、燃料電池スタック、昇圧DC-DCコンバータ、吸気ポンプといったパーツを可能な限り、詳細に分析しました。今回分解した車両は、2021年4月に発表された高度運転支援技術「Advanced Drive」を搭載しており、この機能を実現するシステムや部品についても、調査しています。Advanced Driveは自動車専用道路での運転において、ドライバ監視の下、実際の交通状況に応じて車載システムが適切に認知、判断、操作を支援し、車線・車間維持、分岐、レーンチェンジ、追い越しなどを実現するトヨタの自動運転に向けた最新技術です。今後の同社の開発方針や設計思想を知る上での必読の書です。

■ 監修：日経クロステック　■ レポート：A4判、354ページ
■ 2021年12月24日発行
■ 【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11048-3
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,320,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-11050-6

目次

第1章 新型MIRAI概要
新型MIRAIの位置付け／燃料電池（FC）システム／車両分解

第2章 燃料電池（FC）システム
燃料電池部／水素供給系／吸排気系／冷却系

第3章 電動駆動システム
電動駆動システム概要／EVサプライバッテリASSY／パワーコントロールユニット（インバータ）／トランスアクスル／降圧DC/DCコンバータ／駆動系冷却システム／駆動系高圧ハーネス

第4章 シャーシ
シャーシ概略／フロントアクスル／リアアクスル／ステアリング／ブレーキシステム／ペダル／タイヤ/ホイール

第5章 車体
車体全体像／プラットフォーム／フロントドア／リアドア／フロントフード／ラゲッジドア／フロントバンパ／リアバンパ／アンダカバー

第6章 内装部品
インテリア／インストルメントパネル／センタコンソール／ステアリング周辺／ルーフヘッドライニング／シート／ステアリングメンバ／防音・制振・異音対策

第7章 EVコントロール
EVコントロール全体像／EVコントロール用主要ECU

第8章 Advanced Drive／先進安全運転支援
先進運転支援機能 ●先進運転支援機能概要／●先進運転支援用ECU/部品構成／●ミリ波/準ミリ波レーダ／●環境認識カメラ／●ライダ／先進運転支援用ECU/部品詳細 ●アドバンストドライブコンピュータ／●アドバンストドライブエクステンションコンピュータ　ほか

第9章 車載情報システム
車載情報システム全体像 ●情報提示システム／●構成ECU／車載情報システム用主要ECU ●コンビネーションメータ／●メータミラー／●マルチディスプレイ／●インテグレーションコントロール／●ラジオレシーバ／●ナビゲーションコンピュータ／●テレマティクストランシーバ



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mirai-x

4脚歩行ロボ「Spot」徹底分解



米Boston Dynamicsの「Spot」を世界で初めて※分解・分析

※日経クロステック調べ（2021年8月31日時点）

「全体構造」「歩行機構」「制御」「冷却」の要素別に設計思想と工夫を解説

実運用のための注意点や今後必要な改善点がわかる

4脚歩行ロボットが活躍する時代が到来 その先駆けとなる「Spot」を徹底分解し、必要な技術要素を明らかに

センサーとAI、電動化技術の進展によって、小型の運搬機械、掃除機などさまざまなロボットが身の回りに浸透しつつあります。ただ、これまでのロボットは、移動に車輪を使うため、行動範囲が平面的な場所に限られていました。床にがれきなどが散乱した場所や、階段など、人であれば難なく歩ける場所でも稼働することができません。この状況を打破した初めての商用ロボット※、米Boston Dynamicsの「Spot」です。4脚をもち、犬のように歩くことで、建設資材が散乱する工事現場、階段、山道、砂場など、ほぼどこへでも行けます。Boston Dynamicsが4脚歩行ロボットを商用品として実現できることを示したことで、ロボット利活用の空白地帯ともいうべきこの領域が一気に熱を帯びつつあります。今後、参入が相次ぐ可能性は高いといえるでしょう。複雑な4脚歩行をいったいどのような機構で実現しているのか。どのようなセンサー、モーター、減速機が必要なのか。軽量化や剛性はどのように確保しているのか。改善すべき点はどこにあるのか。分解から、こうした疑問を明らかにしたのが本書です。

■ 監修：日経クロステック　■ レポート：A4判、212ページ
■ 2021年9月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：550,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-10792-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：825,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-10794-0

目次

第1章 Spot概要
全体像と諸元／操作方法●外部操作機器との接続方法／外部拡張機能●全体像／●搭載用レール／●外部インターフェース／●拡張用ペイロード

第2章 ソフトウエア開発基盤
全体像●動作モデル／●サービス群／サービス●GraphNav／●Mission／●ChoreoGraphy／●Docking／●State／●Control／●Data／プログラミング●プログラミング環境／●サンプルプログラム　ほか

第3章 動作モデル
通常時動作●可動部の構成／●歩行方法／異常時動作●異常が起こるケース／●異常時のリカバリー動作

第4章 全体構造
概略●分解手順／●全体構成／●カバー／●冷却構造／メインフレーム●メインフレーム全体／●フロントフレーム／●センターフレーム／●リヤフレーム／●アッパーパネル／脚部●脚部全体像／防水防塵対策●想定される使用環境／●各部シーリング／●課題

第5章 メカ部品
全体像●レッグドライブアセンブリ構成概要／Kneeドライブユニット●Kneeドライブ全体構成／●ボールねじ部／●ロードセル基板／●Kneeドライブ用モーター／●コネクションロッド周辺／●直動アクチュエーターケース周辺／Y軸ドライブユニット●Y軸ドライブ構成／●Y軸ドライブ用モーター／●Y軸ドライブ用トルクセンサー基板／●ハーモニックドライブ／●周辺回転部品／X軸ドライブユニット●X軸ドライブ構成

第6章 エレクトロニクス部品
電気接続●接続位置／●外部インターフェース／●ハーネス／構成部品●コネクションボード／●深度カメラ／メインコンピューター●搭載位置と搭載方法／●マザーボード／レッグドライブアセンブリ●搭載位置と搭載方法／●モータードライブ基板／●ロードセル基板／電池パック●外観と仕様／●内部構造／コントローラー●外観と仕様／●内部構造／●メイン基板　ほか

第7章 ペイロード
入手したペイロード●概略／Spot Cam●外観／●基板搭載位置／●搭載基板／EDGE CPU●外観／●基板搭載位置／●搭載基板／LIDAR●外観／●基板搭載位置／●搭載基板



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-sp-x

フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解【全体編】



- EV専用のプラットフォームや部品の詳細が分かる
- 電動パワートレーンと電池パックの構造が分かる
- 統合化された熱マネジメントシステムを詳細に解説
- 快適性で差異化を目指す最先端の電装品を徹底分解
- センターディスプレイ、メーター、HUDの表示系すべてを分解調査
- 自動運転支援システムやECUの詳細が分かる

フォルクスワーゲンの最新EVを分解調査 世界戦略車の「技術力」と「開発の方向性」を読み解く

フォルクスワーゲンの最新EV「ID.3」を徹底分解し、EV専用プラットフォームをはじめ、インバーター、モーター、電池パック、内装品、電装品、ECUに至るまで詳細を調査しました。量産性と低コスト化を両立させたEV専用部品の開発やガソリン車との部品共通化など、フォルクスワーゲンの設計面での様々な工夫の跡が見て取れます。さらに、現状のフォルクスワーゲンが進めているECU統合化の進展具合を把握できます。ソフトウエア重視の姿勢を打ち出し、車体制御/ゲートウエイ統合ECU「ICAS1」と情報/HMI系統合ECU「ICAS3」を搭載しています。また、ID.3には最新の自動運転支援システムが搭載されており、その部品構成やシステム概要を調査しました。今後の開発方針や設計思想を把握する上で、知っておくべき内容を多数掲載しています。

■ 監修:日経BP 総合研究所
■ レポート:A4判、336ページ ■ 2021年7月30日発行
■ 付属DVD:1枚、54分(分解映像を収録)
■ 【書籍のみ】価格:880,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-10844-2
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:1,320,000円(10%税込)、
978-4-296-10846-6

目次

第1章 全体概要
全体概要／自動運転支援システム
第2章 パワートレーン
パワートレーン概略／パワートレーンの電気接続／車載充電器
インバーター／モーター／減速機／電池パック／DC-DCジャンクション
降圧用DC-DCコンバーター／熱マネジメントシステム／外部充電ユニット
第3章 シャシー
シャシー概略／フロントサスペンション／リアサスペンション
電動パワーステアリング／ブレーキシステム／フロントブレーキ
リアブレーキ／ペダル／タイヤとホイール
第4章 車体
車体概略／プラットフォーム／フロントドア／リアドア／フロントフード
フロントフェンダー／ルーフ/リアフェンダー／バックドア
フロントバンパー／リアバンパー／アンダーカバー
第5章 内装部品
内装概略／インストルメントパネル／センターコンソール／ステアリング周辺
ルーフヘッドライニング／シート／ステアリングメンバー／フロアの異音対策
第6章 電装品
電装品概略／フロントカメラユニット／リアカメラ／ミリ波レーダー
後側方レーダー／超音波センサー／空調システム／ディスプレイユニット
メーター／ヘッドアップディスプレイ／オーディオ／キーレスシステム
通信モジュール／eCALLユニット／エアバッグシステム／ヘッドランプ
テールランプ／サイドミラー／車両接近通報装置／ヒューズボックス
第7章 ECU
ECU概略／車体制御/ゲートウエイ統合ECU／情報/HMI系統合ECU
駆動系ECU



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-vwall-x

フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解【インバーター/モーター/電池編】



- 平角線を用いたモーター
- 独自の冷却構造を持つインバーター
- 出力11kWに対応した車載充電器
- 低背化を実現した降圧DC-DCコンバーター
- 電池モジュールでの充放電試験を実施
- 材料分析から放熱挙動まで電池セルを調査

今後の世界基準となる電動パワーユニットを徹底調査 電池パックはセルまで分解し、材料や電気的特性を分析

本レポートでは、ドイツ・フォルクスワーゲンが量産車として開発した最新EV「ID.3」を徹底分解し、『フォルクスワーゲン「ID.3」徹底分解【全体編】』よりさらに踏み込んで、モーターやインバーター、車載充電器、降圧DC-DCコンバーター、電池パック、電池モジュール、電池セルなどを専門家とともに詳細に分析しました。量産EVとして今後のフォルクスワーゲンの中核を担うID.3の電動パワーユニットについて、構造や方式、技術的な特徴を調査しています。さらに、電池パックについては電池モジュールでの充放電曲線をはじめ、電池セルの充放電や内部抵抗、サイクル試験、発熱・放熱挙動を調査したほか、セルを分解して材料分析の結果を解説しています。

■ 監修:日経BP 総合研究所
■ レポート:A4判、236ページ ■ 2022年2月14日発行
■ 付属DVD:1枚、54分(分解映像を収録)
■ 【書籍のみ】価格:1,320,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-11025-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格:1,980,000円(10%税込)、
ISBN:978-4-296-11027-8

目次

第1章 総論
全体概要 ●ID.3の特徴 ●パワーユニットの特徴
第2章 モーターユニット
モーター ●駆動ユニットの全体像 ●外装ケース ●ステーター
●ローター ●回転角センサー
第3章 電力変換ユニット
インバーター ●インバーターの全体像 ●構造 ●ゲートドライバー基板
●IGBTパワー半導体モジュール ●水冷ジャケット
●平滑用フィルムキャパシター
車載充電器 ●車載充電器の全体像 ●パワー基板
●パワー部受動部品及びゲート駆動基板 ●PFC用チョークコイル
●OBCの回路図詳細 ●ゲート駆動基板
降圧DC-DCコンバーター ●降圧DC-DCコンバーターの全体像
●DC-DCコンバーターの回路詳細
●ゲート駆動回路 ●出力側の結合インダクター
第4章 電池ユニット
電池パック ●電池パックの全体像 ●内部構造 ●冷却部
電池モジュール ●電池モジュールの全体像 ●内部構造
●電池モジュールの充放電曲線 ●電池モジュールの内部抵抗
●電池モジュールの温度別の放電曲線
電池セル構造 ●電池セルの全体像 ●電池セルの分解
正極分析 ●正極表面分析 ●正極断面分析
●元素マッピング/XRDパターン ●顕微ラマン分光分析 ●微小部X線分析
●深さ方向元素分析 ●正極単体での充放電曲線 ●正極分析のまとめ
負極分析 ●負極表面分析 ●負極断面分析 ●元素マッピング
●顕微ラマン分光分析 ●微小部X線分析 ●深さ方向元素分析 ほか
セパレーター分析 ●セパレーターの表面分析 ●セパレーターの断面分析 ほか
電極タブ分析 ●正極タブの表面分析 ●正極タブの溶接部分析 ほか
電池セルの電気的特性 ●高率充放電特性 ●各温度におけるI-V特性 ほか
電池セルの釘刺し試験 ●釘刺し安全性試験 ●釘刺し試験のまとめ



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-vwin-x

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解【全体編】



テスラの開発した電気自動車の独自構造が分かる

モデルSからモデル3で進化した部分が分かる

電池パックの構造が分かる

ECUの個数と搭載位置が分かる

各部品の構造、サプライヤー、素材、接続などを調査・分析 モデル3とモデルSの違い、テスラの設計思想が明らかに

本レポートは、「テスラモデル3」「テスラモデルS」をユニットごとに分解し、インバーター、モーター、電池、シャシー、車体、内装部品、電装品、ECUなど各部品を、自動車部品メーカーや材料メーカーの専門家を交えて調査、分析、比較。300点以上の写真を掲載し、各部品の概略、サプライヤー（判明分のみ）、構造、素材、接続などをわかりやすく解説します。そして、モデル3とモデルSの機能や構造、素材の違いを分析することで、テスラの設計思想を明らかにしていきます。



■ 監修：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボ、日経クロステック
■ レポート：A4判、400ページ　■ 2019年12月5日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-10381-2
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-10377-5

目次

第1章 全体概要と自動ブレーキ試験
1-1 概要　1-2 自動ブレーキ試験

第2章 パワートレーン
2-1 パワートレーン概略　2-2 パワートレーンの電気接続
2-3 車載充電器と高電圧関連部品　2-4 インバーター ほか

第3章 シャシー
3-1 シャシー概略　3-2 フロントサスペンション
3-3 リアサスペンション　3-4 電動パワーステアリング ほか

第4章 車体
4-1 車体概略　4-2 プラットフォーム　4-3 フロントドア
4-4 リアドア　4-5 フロントフード　4-6 フロントフェンダー ほか

第5章 内装部品
5-1 内装概略　5-2 インストルメントパネル
5-3 センターコンソール　5-4 ステアリングメンバー ほか

第6章 12V電力系
6-1 12V電力系概略　6-2 降圧DC-DCコンバーター
6-3 ボディコントロールユニット　6-4 ヒューズボックス

第7章 電装品
7-1 電装品概略　7-2 空調システム　7-3 ヘッドランプ
7-4 テールランプ　7-5 ドアノブ　7-6 サイドミラー ほか

第8章 ECU
8-1 ECU概略　8-2 車内情報システム（IVI）　8-3 メーター
8-4 通信モジュール　8-5 キーシステム ほか

第9章 分解工程
9-1 モデル3パワートレーン　9-2 モデル3自動運転ユニット



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-tesla-21a

分野を絞ったより詳細な情報をお求めの方は、
こちらの三冊とあわせてお読みいただくことをお勧めします。

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解【ECU編】



■ 著者：フォーマルハウト・テクノ・ソリューションズ
■ レポート：A4判、620ページ　■ 2019年12月30日発行
■ 【書籍のみ】価格：1,320,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10379-9
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,980,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10375-1

テスラならではの大型ディスプレーをはじめ、自動運転を実現可能にするECUなどを徹底分析。全体概要をはじめ、ユニットごとに電装品単体としての機能やシステム内での役割、搭載場所、外観、分解画像、基板の電子部品情報、ブロック図、電子部品点数、推定原価などを、モデル3とモデルSのそれぞれについて掲載しています。

詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-teslaecu-21a

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解【インバーター/モーター編】



■ 著者：山本真義（名古屋大学・未来材料・システム研究所 教授）、テスラモータ分解班
■ レポート：A4判、204ページ　■ 2020年3月16日発行
■ 【書籍のみ】価格：1,100,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10380-5
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,650,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10376-8

モデルSには誘導モーターと独自設計のインバーターが搭載されています。モデル3では大量生産を想定してインバーターを大幅に変更しました。モーターも永久磁石式モーターが採用されるなど進化を遂げています。本レポートでは、新旧のモーターとインバーターを徹底的に比較分析しました。さらに、車載充電器や降圧用DC-DCコンバーターの分析調査も併せて実施しています。

詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-teslainv-21a

テスラ「モデル3/モデルS」徹底分解【電池編】



■ 監修：日経BP 総合研究所 クリーンテックラボ、日経クロステック
■ レポート：A4判、169ページ　■ 2020年3月16日発行
■ 【書籍のみ】価格：1,100,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10382-9
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：1,650,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10378-2

電池パックからの分解調査をはじめ、電池セルの充放電特性や高レート特性、サイクル特性、高温保存特性など様々な特性を評価しました。また、分析装置メーカーや専門家の協力を得てセルを構成する正極と負極、セパレーターの材料分析を実施しています。さらに、5万kmを走行したモデルSに搭載されていた電池セルの分析調査も併せて実施し、劣化要因についても分析しました。

詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-teslaele-21a

建設テック未来戦略 2025-2035

AI、自動化、BIMで激変する建設業界の将来像
100の有望テックと技術ニーズ・開発動向調査



建設テックが変える 建築・土木の将来像

建設業界の課題分析
技術導入ロードマップ2025-2035

30の技術課題を解決する 有望技術リサーチ

「測量・調査」「計画・設計」「施工・施工管理」
などで使える注目テックの活用事例や開発動向を解説

【独自調査】建設テック 導入状況・意向調査

建築・土木の各企業や現場が
「課題解決に使いたい」技術を明らかに

建設業界が求める 次世代技術とRFP

次の5年に来る、次に使いたい
新技術・製品の仕様と要件

■ 編集：日経BP 総合研究所 野中 賢
■ レポート：A4判、516ページ
■ 2024年12月12日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20625-4
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20627-8

建設業界の“課題・ニーズ”と“解決できる技術”を建築・土木別に明らかに

建設業界の人手不足が深刻化さを増すなか、いわゆる「2024年問題」で残業時間の規制も始まりました。少ない人数で、短い労働時間で、より多くの仕事をこなさなければならないという苦しい状況を乗り切るには、生産性を向上させるほか道はありません。

その救世主として期待を集めているのが建設テックです。ロボットが人の「力」を肩代わりし、AI（人工知能）が人の「頭脳」を補う――。建設業界は他産業に比べ、技術の進展が遅いと言われますが、課題が深刻化していくなかで、これまでにないスピード感で新たな技術が開発・導入されています。次の10年、建設業界はITで激変します。勝ち残るのか、取り残されるのか。建設テック活用・導入は、どの企業もまさに「待ったなし」です。

本レポートでは、続々と登場する「生産性向上に効く建設テック」を網羅して解説しています。プレーヤーの種類が多い建設業界において、悩みは人手不足に限らず多岐にわたります。そこで、建設会社に対するアンケート調査や有識者への取材などを基に、建設業界が建設テックに対して何を期待し、どんな技術や製品を欲しているかといった「建設業界のニーズ」を徹底分析しました。

さらに、2035年に向けて建設テックのロードマップを描きました。「建設業界が建設テックを使いこなすため」「IT・ロボティクス業界が建設業界のニーズをつかむため」の情報を網羅した本レポートを、ぜひ貴社の戦略の立案と実行にお役立てください。

目次

第0章 イントロダクション
- 本レポートの読み方
  - ●本レポートの目的と想定読者 ●本レポートの構成
- 実施した調査の目的と概要 ●調査の種類と目的
  - ●企業調査の概要 ●個人調査の概要

第1章 建設業界が直面する課題
- 建設業界を取り巻く情勢の変化と「建設テック」
  - ●働く人が足りない ●やるべき仕事が山積
  - ●まだ終わらない「2024年問題」 ●厳しさ増す国際情勢 ●課題解決と「建設テック」
- 企業が直面する課題・調査結果 ●調査の目的と概要 ●企業が直面する課題［建築分野］●企業が直面する課題［土木分野］
- 個人が直面する課題・調査結果 ●調査の目的と概要 ●個人が直面する課題［建築分野］ ●個人が直面する課題［土木分野］

第2章 企業の建設テック導入意向と開発状況・調査結果
- 企業調査の目的と概要 ●企業調査の目的と概要 ●建設業界が解決したい「30の技術課題」
- 企業の建設テック導入意向 ●企業の建設テック導入意向［建築分野］●企業の建設テック導入意向［土木分野］
- 企業の「IT化サポート企業」活用意向 ●企業の「IT化サポート企業」活用意向［建築分野］ ●企業の「IT化サポート企業」活用意向［土木分野］
- 企業の「技術課題別」建設テック導入状況と意向 ●企業の「技術課題別」建設テック導入状況と意向［建築分野］ ●企業の「技術課題別」建設テック導入状況と意向［土木分野］

第3章 個人の建設テック導入意向と期待・調査結果
- 個人調査の目的と概要 ●個人調査の目的と概要
- 個人の建設テック導入意向 ●個人の建設テック導入意向［建築分野］ ●個人の建設テック導入意向［土木分野］
- 個人の「IT化サポート企業」活用意向 ●個人の「IT化サポート企業」活用意向［建築分野］ ●個人の「IT化サポート企業」活用意向［土木分野］
- 個人の「技術課題別」建設テックへの期待 ●個人の「技術課題別」建設テックへの期待［建築分野］ ●個人の「技術課題別」建設テックへの期待［土木分野］

第4章 「テック別」建設業界の有望市場・調査結果
- 課題を解決する14の「建設テック」●14の「建設テック」一覧
- ドローンの有望市場 ●ドローンの有望市場［建築分野］
  - ●ドローンの有望市場［土木分野］
- 3Dスキャナー／SAR（合成開口レーダー）の有望市場 ●3Dスキャナー／SAR（合成開口レーダー）の有望市場［建築分野］●3Dスキャナー／SAR（合成開口レーダー）の有望市場［土木分野］
- モバイル端末／スマートフォンの有望市場 ●モバイル端末／スマートフォンの有望市場［建築分野］ ●モバイル端末／スマートフォンの有望市場［土木分野］
- 識別系AIの有望市場 ●識別系AIの有望市場［建築分野］
  - ●識別系AIの有望市場［土木分野］
- 生成AIの有望市場 ●生成AIの有望市場［建築分野］
  - ●生成AIの有望市場［土木分野］
- BIM／CIM／デジタルツインの有望市場 ●BIM／CIM／デジタルツインの有望市場［建築分野］ ●BIM／CIM／デジタルツインの有望市場［土木分野］
- ICT建機の有望市場 ●ICT建機の有望市場［建築分野］
  - ●ICT建機の有望市場［土木分野］
- ロボットの有望市場 ●ロボットの有望市場［建築分野］
  - ●ロボットの有望市場［土木分野］
- 3Dプリンターの有望市場 ●3Dプリンターの有望市場［建築分野］
  - ●3Dプリンターの有望市場［土木分野］
- センサー／IoT技術の有望市場 ●センサー／IoT技術の有望市場［建築分野］ ●センサー／IoT技術の有望市場［土木分野］
- VR／AR／MR の有望市場 ● VR／AR／MRの有望市場［建築分野］ ●VR／AR／MRの有望市場［土木分野］
- 映像／画像の有望市場 ●映像／画像の有望市場［建築分野］
  - ●映像／画像の有望市場［土木分野］
- データプラットフォームの有望市場 ●データプラットフォームの有望市場［建築分野］ ●データプラットフォームの有望市場［土木分野］
- 通信／インターネットの有望市場 ●通信／インターネットの有望市場［建築分野］ ●通信／インターネットの有望市場［土木分野］

第5章 30の技術課題を解決する有望技術・総覧
- 30の技術課題と14の建設テックの関係性
  - ●30の技術課題と14の建設テックのマトリクス
- 100の注目テック ●100の注目テック一覧
- 全プロセス・業務共通の課題 ●働き方改革・人手不足への対応 ●業務コストの削減 ●プロセス間・関係者間でのデータ共有 ●カーボンニュートラルへの対応 ●技術・技能の伝承
- 調査・測量フェーズの課題 ●構造物や地形の計測・測量の遠隔化・高精度化 ●水中の測量の遠隔化・高精度化 ●地質の推定の簡素化・高精度化
- 計画・設計フェーズの課題 ●施設・構造物の企画・計画の自動化 ●基本設計・詳細設計の簡素化・自動化 ●図面・書類の整合性チェックの簡素化・自動化 ●積算の自動化 ●発注者・施主や住民へのプレゼンの視覚化
- 施工・施工管理フェーズの課題 ●人力施工の無人化・合理化（作業ロボット利用など） ●機械施工の無人化・合理化（ICT 建機利用など） ●施工計画立案の簡素化・自動化 ●工程管理の簡素化・合理化 ●出来形管理や検査の遠隔化・合理化 ●写真・書類管理の簡素化・自動化 ●現場巡回の遠隔化・合理化 ●働く人の健康管理（バイタル管理など）の遠隔化 ●現場の安全管理（建機との接触防止など）の遠隔化 ●購買・調達の簡素化・自動化
- 維持管理フェーズの課題 ●構造物の点検・モニタリング・劣化調査の遠隔化・高精度化 ●構造物の劣化予測の簡素化・高精度化
- 供用後の利用者支援フェーズの課題 ●建物供用後の省エネ化 ●利用者や住民の生活支援（健康管理・家事支援など）
- 防災フェーズの課題 ●防災計画作成の簡素化・合理化 ●防災情報の官民共有の合理化・視覚化 ●災害時の被害予測・被害把握の簡素化・高精度化

第6章 建設業界が求める次世代技術の仕様と要件（RFP）
- 全プロセス・業務共通のRFP
  - ●全プロセス・業務共通で有望な製品・機能のRFP
- 測量・調査フェーズのRFP
  - ●測量・調査フェーズで有望な製品・機能のRFP
- 計画・設計フェーズのRFP
  - ●計画・設計フェーズで有望な製品・機能のRFP
- 施工・施工管理フェーズのRFP
  - ●施工・施工管理フェーズで有望な製品・機能のRFP
- 維持管理フェーズのRFP
  - ●維持管理フェーズで有望な製品・機能のRFP
- 供用後の利用者支援フェーズのRFP
  - ●供用後の利用者支援フェーズで有望な製品・機能のRFP
- 防災フェーズのRFP ●防災フェーズで有望な製品・機能のRFP

第7章 建設テックのロードマップ
- 建設テックのロードマップ
  - ●建設テックの分野別ロードマップ2025-2035



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-contm3-x

グリーン・デジタル社会をつくる

インフラ事業構築＆市場予測 2025-2050

有望26分野の市場規模・企業動向・政策／国内外プレーヤー分析／リスク・トラブル事例



有望26分野 2030年、2040年、2050年の市場規模・資産規模予測

民間企業が参画できる成長分野がわかる

有望分野別の最新動向／政策動向

注目事業の中身や先進企業の実績、政府の推進策は?

主要プレーヤーの戦略・動向

参考となる企業・ビジネスモデルは?
どのような事業が進められている?

リスク・トラブル124事例 稼ぎ方・事業スキーム

リスクの種類、発現時期、対処法、具体事例
参入計画に必要な事業化手法から収益特性までを解説

急進展するグリーン・デジタル社会。民間企業に大きなビジネスチャンスが有望分野、市場規模、企業動向など、参入・投資に役立つ情報を揃えました

日本は今、グリーン・デジタル社会の実現に向け、脱炭素をはじめとする様々な環境対策の実施や、ものやサービスのデジタル化を推進しています。そこでは、太陽光発電や洋上風力発電、水素サプライチェーン、データセンター、通信タワー・基地局といった新しいインフラが不可欠です。それだけではありません。既存のインフラであっても、新しい社会の形に合わせて変化していくことが求められています。

本書は、こうしたインフラニーズの高まりをビジネスチャンスと捉え、企業のインフラビジネスへの参画を支援します。具体的には、グリーン/エネルギー、ソーシャル/スポーツ、モビリティ、デジタルの中から26の有望分野を抽出し、2030年から2050年にわたって各分野の「資産規模」と、そのうち民間による投資や流動化が予想される「市場規模」を独自に推計しています。これまでにも、単独分野の推計は様々ありますが、これだけ多くの分野にわたる推計は類を見ません。

さらに、インフラビジネスを後押しする政策動向や開発投資動向、参入方法、リスク・トラブル事例、国内外の主要プレーヤーの動向など、事業戦略立案に役立つ情報を網羅してお届けします。インフラへの投資、構築・運用・保守などを新規事業として検討する企業の経営企画部門や調査部門、投資部門には欠かせない一冊です。

■ 著者：三井住友トラスト基礎研究所 浅川 博人、内田 力
インフラビジネスパートナーズ共同代表 平島 寛、菅 健彦
■ 編集：日経クロステック ■ レポート:A4判、664ページ
■ 2024年11月15日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20616-2
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20618-6

目次

第0章 エグゼクティブサマリー 市場の成長を企業の発展に取り込むために
0-1 なぜ今、インフラ事業への対応が必要なのか
0-2 インフラ事業のリスク・リターン特性と参画方法
0-3 レポートの活用方法

第1章 政策/市場展望
1-1 「新しい資本主義（2024改訂版）」と「骨太の方針2024」
1-2 国土形成計画
1-3 インフラ投資に関わる全体潮流

第2章 インフラ資産規模・市場規模の将来推計
2-1 数字で見るインフラの未来
2-2 太陽光発電（10kW以上）
2-3 陸上風力発電
2-4 洋上風力発電
2-5 バイオマス発電
2-6 系統用蓄電池
2-7 EV急速充電設備
2-8 送配電網
2-9 公営電気事業
2-10 水素サプライチェーン
2-11 燃料アンモニアサプライチェーン
2-12 CCS関連施設
2-13 上水道
2-14 下水道
2-15 工業用水道
2-16 スポーツ施設
2-17 文化・社会教育施設
2-18 大学施設
2-19 MICE施設
2-20 空港
2-21 道路
2-22 クルーズ船向け旅客ターミナル
2-23 空飛ぶクルマ関連施設
2-24 宇宙関連施設
2-25 データセンター
2-26 通信タワー・通信衛星・基地局
2-27 スマートポール

第3章 グリーン/エネルギー
3-1 グリーン/エネルギー全体動向
3-2 太陽光発電
3-3 風力発電（陸上風力、洋上風力）
3-4 バイオマス発電
3-5 系統用蓄電池
3-6 EV充電装置
3-7 地域間送電網
3-8 水力発電
3-9 水素・アンモニア・合成メタン
3-10 CCS（二酸化炭素回収・貯留）

第4章 ソーシャル/スポーツ
4-1 ソーシャル/スポーツ全体動向
4-2 上工下水道
4-3 スポーツ施設
4-4 文化・社会教育施設
4-5 大学施設
4-6 MICE施設
4-7 インフラ維持管理・更新

第5章 モビリティインフラ
5-1 モビリティ全体動向
5-2 空港
5-3 道路
5-4 クルーズ船向け旅客ターミナル
5-5 空飛ぶクルマ
5-6 宇宙関連施設
5-7 鉄道

第6章 デジタルインフラ
6-1 デジタル全体動向
6-2 データセンター動向
6-3 通信タワー・基地局
6-4 スマートポール、スマート機器
6-5 通信海底ケーブル

第7章 PPP/PFI/コンセッション
7-1 官民連携事業の全体像
7-2 PPP/PFI推進アクションプラン
7-3 PFI導入促進のための環境整備
7-4 コンセッション事業の実績
7-5 主要コンセッション事業の収支
7-6 展望：これからのコンセッション事業

第8章 ファンド/ファイナンス動向
8-1 インフラファンドの役割と仕組み
8-2 インフラ投資に影響を及ぼす政策
8-3 インフラファンドの市場規模と投資家の意向
8-4 国内インフラファンドの動き

第9章 国内注目プレーヤーの収益・投資状況分析
9-1 中長期計画に見るインフラ事業戦略
9-2 主要な投資家・企業の取り組み

第10章 海外注目プレーヤーの収益・投資状況分析
10-1 全体動向
10-2 総合インフラサービス事業者
10-3 グリーン/エネルギー事業者
10-4 デジタルインフラ企業
10-5 海外インフラ資産運用会社
10-6 海外ファイナンシャルインベスター（機関投資家）

第11章 リスク・トラブル
11-1 最近のリスク・トラブル事例解説
11-2 リスク・トラブル事例一覧
11-3 リスクコントロール手法

第12章 インフラ投資の事業スキームと収益特性
12-1 4つの視点から見るインフラ事業スキーム
12-2 インフラ投資の収益特性



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-dginf-x

インフラビジネスレポート2023 vol.2

事業開発／運営／提携／投資の最新動向
注目プレーヤーの投資・収益分析── 海外企業編



海外注目プレーヤーの投資・収益分析
インフラ企業・投資家27社を選定。
企業戦略や投資動向を解説

政策・技術・投資トレンド
インフラビジネスの最新動向を解説

主要インフラプロジェクト・ファンド調査
コンセッション&洋上風力発電の進捗状況、
主要ファンドの目的や投資家の属性をレポート

注目事業スキーム研究
政府が拡大目指す「ウォーターPPP」。
先行事業の成果と課題を分析

市場将来予測
市場規模や戦略立案に役立つデータを整理

リスク・トラブル95事例
リスクの5W1Hを理解し、低減・回避策を知る

拡大する400兆円・成長市場、インフラビジネスの最新動向が掴める一冊です さらに、注目すべき海外勢の動きも収録

インフラビジネスは国内外から資金が流れ込む、有望な成長領域です。洋上風力発電や水素・アンモニアサプライチェーンといった「グリーンインフラ」や、データセンター、通信基地局などの「デジタルインフラ」の開発が急務になっています。これらは企業にとって収益拡大の絶好の機会であり、取り組みを通して社会課題の解決にも貢献できます。本レポートは、インフラビジネスに携わる方が「今、知っておくべき」、政策や投資のトレンド、注目事業の最新動向などを一冊に凝縮した好評レポート「インフラビジネスレポート2023」の続編です。2022年12月に発行した前作を最新情報にアップデートしたほか、海外の注目プレーヤー27社を取り上げ、大型買収による業容拡大の動向や、売上・収益情報、投資戦略などを分析・解説しています。事業機会や投資機会の発掘、成長市場への挑戦に、ぜひご活用ください。

関連レポートもぜひご活用ください。

前作も好評発売中



インフラビジネスレポート2023
事業開発／運営／提携／投資の最新動向
- ●本作だけの掲載プロジェクト
  愛知有料道路コンセッション／秋田洋上風力発電
- ●本作だけの掲載企業
  日本工営／ジャパン・リニューアブル・エナジー／JTOWER／年金積立金管理運用独立行政法人

■ 著者：インフラビジネスパートナーズ共同代表 平島寛、菅健彦／三井住友トラスト基礎研究所 浅川博人／日経不動産マーケット情報 瀬川滋
■ レポート：A4変型判、314ページ ■ 2023年6月23日発行
■ 【書籍のみ】価格：198,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20236-2
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：297,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-20238-6

目次

第0章 エグゼクティブサマリー インフラビジネスの可能性
- 0-1 なぜ今、インフラビジネスなのか
  - ●成長と社会貢献の一挙両得
  - ●インフラビジネス成功の要件
- 0-2 最新情報のキャッチアップが欠かせない
  - ●追い風吹く市場、変化は激しい
  - ●知っておくべき情報を収集・選別

第1章 政策・技術・投資トレンド
- 1-1 政策／市場展望
  - ●インフレ局面で発揮されるインフラのディフェンシブ性とインフレ感応性
  - ●政策／市場展望のニュースダイジェスト
- 1-2 PPP／PFI／コンセッション
  - ●出番待つコンセッション事業候補
  - ●改定PFI法の実務への影響
  - ●「PFI事業化可能性調査の前段階からサポートする」
  - ●みやぎ型管理運営方式の水道水"濁度上昇事故"の波紋
  - ●PPP／PFI／コンセッションのニュースダイジェスト
- 1-3 グリーン／エネルギー
  - ●インフラを発電所に変える「ペロブスカイト太陽電池」実装への道
  - ●洋上風力発電事業の公募開始、浮体式を展望した企業買収・提携の動きも
  - ●水素・アンモニアの需要拡大とサプライチェーン構築
  - ●グリーン／エネルギーのニュースダイジェスト
- 1-4 デジタル／スマートシティ
  - ●投資対象としてのスマートポールの可能性
  - ●東京圏に集積するデータセンター、地方への分散が課題
  - ●デジタル／スマートシティのニュースダイジェスト
- 1-5 ファンド／ファイナンス
  - ●脱炭素系ファンドへの資金流入続く、風力や水素へと投資多様化
  - ●ファンド／ファイナンスのニュースダイジェスト
- 1-6 経営／戦略
  - ●JR東日本と東急不動産HD、「再エネ開発ノウハウ×土地・建物資産」
  - ●大和エナジー・インフラ、キャピタルリサイクリングへの取り組み
  - ●経営／戦略のニュースダイジェスト
- 1-7 海外／グローバル
  - ●米ペンシルベニア州で6橋架け替えのコンセッション事業
  - ●豪インフラ投資会社Plenary Groupと日本企業がパートナーシップ
  - ●デンマークCIPが洋上風力などの再エネからブルーアンモニアまで取引活発化
  - ●独PATRIZIA運用ファンドがイタリア道路照明会社、スペイン通信会社を買収
  - ●海外／グローバルのニュースダイジェスト

第2章 注目事業スキーム研究
- 2-1 須崎市下水道コンセッション
  - ●供用中の管きょに運営権を初めて設定
  - ●経費回収率16.7%、「下水道事業の継続は困難」
  - ●要求水準とリスク分担
  - ●付帯事業と任意事業

第3章 インフラプロジェクト・インフラファンド調査
- 3-1 コンセッション事業
  - ●2023年4月時点で42事業が進行
  - ●不調になったコンセッション事業も
- 3-2 インフラファンド
  - ●金融庁届出者リストに見る主なインフラファンド
  - ●主要ファンドの目的と投資家の属性
- 3-3 洋上風力発電事業
  - ●全国の再エネ海域や港湾区域で19.5GWの計画・運転

第4章 海外注目プレーヤーの投資・収益分析
- 4-1 全体動向
  - ●大型買収で業容拡大するストラテジックインベスター
  - ●インフラ資産が1年で3400億ドル増のフィナンシャルインベスター
- 4-2 総合インフラサービス事業者
  - ●VINCI（フランス）：エネルギー会社を買収して売上高600億ユーロ超に
  - ●Bouygues（フランス）：売上高138億ユーロのエネルギー会社を獲得
  - ●ACS Group（スペイン）：コンセッション事業子会社が増益に貢献
  - ●Ferrovial（スペイン）：空港や有料道路事業を相次いで売買
  - ●Transurban（豪州）：道路運営で売上高34億豪ドルを確保
- 4-3 グリーン／エネルギー事業者
  - ●Ørsted（デンマーク）：洋上風力が新規受注含め22GWに
  - ●Iberdrola（スペイン）：40GWの再エネ発電施設を保有
  - ●RWE（ドイツ）：洋上風力で5～9%のIRR目標
  - ●SSE（英国）：丸紅とともに大規模浮体式洋上風力
  - ●Enel Green Power（イタリア）：年間5GWの再エネ導入
  - ●NextEra Energy（米国）：2026年までに最大42GWを建設
  - ●Veolia Environnement（フランス）：水処理などの同業他社を買収
- 4-4 デジタルインフラ事業者
  - ●American Tower（米国）：25カ国に22万の通信サイト
  - ●Crown Castle International（米国）：通信インフラをリース
  - ●Equinix（米国）：データセンターで増収増益
  - ●Digital Realty（米国）：三菱商事とも合弁事業
- 4-5 ファンド運用会社
  - ●Macquarie Infrastructure & Real Assets（英国）：インフラに2000億豪ドル
  - ●Brookfield Asset Management（カナダ）：インフラと再エネの上場ファンド
  - ●KKR（米国）：日立物流の買収を完了
  - ●Global Infrastructure Partners（米国）：870億米ドルを運用
  - ●IFM Investors（豪州）：年金基金など640超の投資家
- 4-6 機関投資家
  - ●CPPIB（カナダ）：インフラで10.8%のリターン
  - ●CDPQ（カナダ）：再エネの成長で好成績
  - ●OMERS（カナダ）：約2割をインフラ分野に投資
  - ●CalPERS（米国）：インフラ含む実物資産で24%のリターン
  - ●CalSTRS（米国）：リスクに応じて3～9%のIRR目標
  - ●AustralianSuper（豪州）：非上場インフラにも直接投資

第5章 データで読み解くインフラ投資市場
- 5-1 市場将来予測
  - ●インフラ投資に関わる全体潮流
  - ●グリーン・エネルギー分野の普及目標と市場規模
  - ●デジタル・スマート・モビリティ分野の普及目標と市場規模
  - ●2050年カーボンニュートラルに向けたGX投資
- 5-2 市場関連データ
  - ●再エネ電源のFIT、FIP価格と想定IRR
  - ●再エネ全体は2025年初頭に、太陽光は2027年に石炭を抜く
  - ●世界の風力発電は年平均15%、136GWの成長
  - ●投資家が保有・運用するインフラ資産は1.28兆米ドル
- 5-3 リスク・トラブル事例一覧
  - ●国内外の主なリスク・トラブル事例95件
  - ●事例に応じたリスク低減・回避策



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-infrs-x

医療・健康ビジネスの未来2025-2034

AI/ヘルステックがもたらす、これから10年の大変化



激変する「医療機関、医療機器、薬局・ドラッグストア、製薬」の未来を描く

世界のメガトレンド、医療・介護の制度改定などを多面的に分析し、10年後の医療・健康業界の姿を予測。

あらゆる業界の新たなビジネスチャンスを分析

ICT、食品、保険、不動産、自動車、人材などのキートレンドを抽出し、医療・健康周辺業界の未来を調査分析。

医療・健康ビジネスを支える17の注目テクノロジーを解説

AI、ロボティクス、IoTなど17テーマのテクノロジーが切り開く、今後10年の未来像を解説。

ヘルステック企業、国内外の100社を超える注目企業をピックアップ

国内外の注目のヘルステック企業100社以上を、八つのカテゴリー区分し調査分析。

■ 著者:鶴谷 武親(早稲田大学ビジネススクール客員教授、K.I.T.虎ノ門大学院客員教授)
■ レポート:A4判、520ページ ■ 2024年12月13日発行
■【書籍のみ】価格:660,000円(10%税込)
ISBN:978-4-296-20605-6
【書籍とオンラインサービスのセット】価格:990,000円(10%税込)
ISBN:978-4-296-20607-0

新たなプレーヤーの参入 激変する業界構造 テクノロジーがけん引する未来の新ビジネスを描く

10年後の世界の医療・健康産業は、現在のICT産業や自動車産業をはるかに上回る極めて大きな市場規模に成長します。背景にあるのは、かつてない勢いで加速する医療・健康ビジネスの変革です。AIやロボティクスなどによる新しい「医療・健康×テクノロジー(ヘルステック)」が次々と生まれ、医療業界における従来の常識を塗り替えていきます。本レポートでは、世界のメガトレンド、医療・介護の制度改定、テクノロジーの進化、社会や価値観の変化などを多面的に分析し、医療機関や医療・健康業界、そして医療・健康ビジネスが多様な産業に与える影響を提示します。さらに「医療運営支援」「デジタル予防/治療薬」「診療支援」などヘルステックの8分野について、100社を超える国内外の注目企業を総覧。また、GAFAのようなメガプラットフォーム企業が医療・健康分野に本格参入する未来や、医療DXをはじめとするイノベーションの方向性、AIが医療・健康分野に与える影響、医療を巡る経済安全保障などを徹底分析。大きな変革期を迎える医療・健康ビジネスの動向を見通し、今後10年間の200を超える未来像を描き出します。



世界のメガトレンド、医療・介護の制度改定、テクノロジーの進化、社会や価値観の変化などを多面的に分析し、医療機関や医療・健康業界、そして医療・健康ビジネスが多様な産業に与える影響を提示。

目次

第1章 医療・健康ビジネスを取り巻く環境
1-1 医療・健康市場の拡大
1-2 世界の人口動態
1-3 医療・健康と社会経済構造の変化
1-4 疫学上のトレンドとパンデミックの影響
1-5 経済安全保障と医療・健康
1-6 医療・健康と地球環境・気候変動
1-7 テクノロジーの進化
1-8 社会変化・価値観の変化

第2章 日本の社会保障制度の未来
2-1 全世代型社会保障
●全世代型社会保障の概要 ほか
2-2 全世代型社会保障を具体化する10年
●2025年問題から2040年問題へ ほか
2-3 診療報酬・介護報酬の改定スケジュール
●医療計画と介護保険事業計画 ほか
2-4 障害福祉サービス
●障害福祉サービスへの報酬 ほか

第3章 2025～2034年の診療報酬改定
3-1 全世代型社会保障に向けた診療報酬の活用
●診療報酬改正、七つの方向性 ほか
3-2 医療ニーズの抑制・低減
●高齢者の活躍推進 ほか
3-3 高額薬剤・医療技術への対応
●対処療法から根治療法へ ほか
3-4 医療費の見直し
●給付率の見直し ほか
3-5 医療分野の社会的ニーズへの対応
●少子化対策 ほか
3-6 医療DXの推進
●マイナンバーカード活用 ほか
3-7 プライマリー・ケア・シフト
●かかりつけ機能の推進 ほか
3-8 医師の不足・偏在対策
●開設許認可による対策 ほか

第4章 2025～2034年の介護報酬改定
4-1 介護報酬改定、五つの方向性
●2024年の介護報酬改定 ほか
4-2 介護報酬の予防シフト
●フレイル対策
4-3 負担と給付の見直し
●保険料は所得・資産に応じた負担増へ ほか
4-4 介護分野の社会的ニーズへの対応
●認知症対策 ほか
4-5 介護分野におけるICTの活用と効率化
●経営情報の可視化と効率化 ほか
4-6 医療機関と介護施設の連携強化
●医療と介護の連携強化 ほか

第5章 医療機関の未来
5-1 厚生労働省が考える医療システムの未来
●医療の役割分担と医療圏 ほか
5-2 病院の未来～ビジネスモデルの変容
●機能の明確化と取捨選択 ほか
5-3 病院の未来～先端テクノロジーの深化
●再生医療の可能性 ほか
5-4 デジタルホスピタル
●AI/RPA ほか
5-5 診療所の未来～コンビニ化する診療所
●診療所市場の現状 ほか
5-6 歯科診療所の未来
●国民皆歯科検診 ほか

第6章 医療・健康業界の未来
6-1 医療機器業界の未来
●医療機器業界を取り巻く環境 ほか
6-2 薬局・ドラッグストア業界の未来
●調剤薬局を取り巻く環境 ほか
6-3 製薬業界の未来
●製薬業界を取り巻く環境 ほか

第7章 ヘルテックスの未来
7-1 ICTを取り巻く環境
●IoT:すべてのものがつながる
●通信速度:10年後には1万倍に
●AI:性能向上を支える膨大なデータ ほか
7-2 テクノロジーの未来
●IoT(M2M)
●エッジコンピューティング
●5G/6Gサービス ほか
7-3 AIと医療・健康
●AI×医療・健康の現在
●AIの現在と進化
●AIブームの変遷 ほか

第8章 ヘルステック企業総覧
8-1 ヘルステック企業の定義
●ヘルステック概論 ほか
8-2 医療運営支援
●Ada Health社 ●Athelas社 ●Cedar Cares社
●Care.ai社 ●Eleos Health社 ほか
8-3 疾患管理(デジタル予防/治療薬)
●Akili社 ●Biofourmis社 ●Cognoa社
●Elemy社 ●HealthSnap社 ほか
8-4 検査
●BillionToOne社 ●BostonGene社
●Cleerly社 ●Exo Imaging社 ほか
8-5 診療支援
●Caresyntax社 ●Medipixel社
●Memora Health社 ほか
8-6 AI創薬
●BigHat Biosciences社 ●Deep Genomics社
●Google DeepMind社 ●ICON社 ほか
8-7 個人向け医療サービス
●23andMe Holding社 ●KareHero社
●Cityblock Health社 ●DayTwo社 ほか
8-8 ウエルネス&健康管理
●Calm社 ●Caraway社 ●DexaFit社
●Headspace社 ●Limeade社 ほか
8-9 データインフラ
●Commure社 ●IOMED社
●Komodo Health社 ●Tempus AI社 ほか

第9章 医療・健康周辺産業の未来
9-1 食品×医療・健康
9-2 金融・保険×医療・健康
9-3 不動産×医療・健康
9-4 自動車×医療・健康
9-5 観光・旅行×医療・健康
9-6 人材×医療・健康
9-7 大学・政府×医療・健康

※第1章、第9章の詳細はホームページをご覧ください。



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mhbiz-x

生体センシング最前線2030 ヘルスケア編

新ビジネスのタネとなる基礎研究から、商品・サービスの普及が期待される技術まで



これからの10年を担う可能性がある スタートアップ72社、大手・中小・大学28社を選定

各社の概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報、資金調達状況などを解説

血糖値、心電・心拍、血圧・栄養、呼気、脳、睡眠、生体音など11分野に分類、分析

2030年に向けた生体センシングの市場トレンドと関連する市場の成長を解説

■ 監修：リンカーズOI研究所
■ レポート：A4判、212ページ ■ 2024年10月10日発行
■【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20596-7 ※書籍のみの販売はありません。

ヘルステックの中核となる生体センシング技術 2030年に向けた先進企業100社の技術と動向を俯瞰

生体センシングは「ヘルステック（医療・健康×テクノロジー）」を実現し、2030年に向けてヘルスケア分野に革新をもたらす中核技術です。開発技術は多岐にわたります。継続的にバイタルサインをリアルタイムにモニタリングすることで、個人の健康管理から、疾患の予防や早期発見、治療・診断に至るまで、医療・健康分野の様々な領域を支える極めて身近な存在となるからです。多様なセンシング技術と、AI（人工知能）技術を駆使しながら、睡眠の質の可視化やフィットネスのような健康用途をはじめ、個別化医療（パーソナライズド・メディシン）の提供や手術時の臓器の状態把握といった高度な医療用途も含めて、大小多くの企業による新しい価値の提供を目指す競争が激化しています。本レポートは、生体センシング技術を血糖値、心電・心拍、血圧・栄養、呼気、脳、睡眠、生体音など11分野に分類。各分野で、2030年に向けた新ビジネスを担う可能性があるスタートアップ企業72社、大手・中小企業や大学28社、合計100社を選定し、各社が開発するヘルステックの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などをまとめています。



2030年を担う注目企業100社を選定。各社が開発するヘルステックの概要、注目ポイント、技術開発の進展度、主な論文情報などを集約。

目次

特別編集版に収録されている「目次：2 血糖値～12 フェムテック」には、企業名と各企業が開発する技術やサービスなどの特徴（見出し）が併記されています。ぜひ、特別編集版をダウンロードして、内容をご確認ください。

第1章 総論
1-1 対象産業
1-2 センシング対象
1-3 センシング技術の手法
1-4 注目スタートアップ企業の選定方法
1-5 技術開発の直近動向
1-6 2030年に向けた技術開発の方向性と市場トレンド

第2章 血糖値
2-1 【血糖値】スタートアップ企業
●GlucoModicum社 ●Nutromics社
●Provigate ●DiaMonTech社
●EzeRx Health Tech社 ●HME Square社
●Apollon社
2-2 【血糖値】中小企業
●DexCom社 ●GlucoTrack社
2-3 【血糖値】大手・中堅企業
●Actxa社 ●DarioHealth社
2-4 【血糖値】大学
●North Carolina State University
●早稲田大学

第3章 心電・心拍
3-1 【心電・心拍】スタートアップ企業
●InfoBionic.Ai社 ●Qardio社
●HUINNO社 ●Xenoma
3-2 【心電・心拍】中小企業
●iRhythm Technologies社

第4章 血圧／栄養
4-1 【血圧】スタートアップ企業
●Aktiia社 ●Caretaker Medical社
●Nanowear社
4-2 【栄養】スタートアップ企業
●FiNC Technologies ●Segterra社
●FoodMarble Digestive Health社
●ウェルナス ●Linkerverse社
4-3 【栄養】大手・中堅企業／大学
●カゴメ ●Clemson University

第5章 組織・臓器
5-1 【組織・臓器】スタートアップ企業
●Exo Imaging社 ●Endotronix社
●Olive Healthcare社 ●DermaSensor社
●Bruin Biometrics社
●Orpyx Medical Technologies社
●Bodygram社 ●Sencure社
●Injectsense社 ●Leuko Labs社
●Oncoustics社
5-2 【組織・臓器】大手・中堅企業／大学
●花王 ●TU Delft ●MIT

第6章 汗・唾液・尿
6-1 【汗・唾液・尿】スタートアップ企業
●Autonomous Medical Devices社
●Withings社 ●DFree ●Nix Biosensors社
●Epicore Biosystems社 ●Vivosens社
●イムノセンス ●NeoDocs Technologies社
●Lura Health社
6-2 【汗・唾液・尿】中小企業
●ファーストスクリーニング ●ヘルスケアシステムズ

第7章 呼気
7-1 【呼気】スタートアップ企業
●Meta Flow社 ●Atmo Biosciences社
●BIOMETRY社 ●Breathe BioMedical社
●Imspex Diagnostics社
7-2 【呼気】中小企業
●Fossil Ion Technology社

第8章 体温／体動
8-1 【体温】スタートアップ企業
●Withings社 ●Ultrahuman Healthcare社
●Inova Design Solutions社
8-2 【体動】スタートアップ企業
●Artisight社
●Active Protective Technologies社
●All Inspire Health社 ●Tellus You Care社
●Portabiles HealthCare Technologies社
8-3 【体動】中小企業／大学
●BTS Bioengineering社 ●MIT Media Lab

第9章 脳
9-1 【脳】スタートアップ企業
●エルピクセル ●Beacon Biosignals社
●Altoida社 ●Inner Cosmos社
●Earable Neuroscience社
●EMOTIV社 ●CyberneX
9-2 【脳】大手・中堅企業／大学
●Artinis Medical Systems社
●RUHS Medical Center ●筑波大学

第10章 睡眠／ストレス・感情
10-1 【睡眠】スタートアップ企業
●Onera Technologies社 ●S'UIMIN
●Nomics社 ●Sleepiz社
10-2 【ストレス・感情】スタートアップ企業
●Feel Therapeutics社 ●Emteq Labs社
●Mindpax社
10-3 【ストレス・感情】中小企業／大手・中堅企業
●Eye-Minders社 ●三菱電機

第11章 生体音
11-1 【生体音】スタートアップ企業
●MICIN ●Sonde Health社 ●M3DICINE社
11-2 【生体音】中小企業／大手・中堅企業
●オンキヨー ●Respiri社
●サントリーグローバルイノベーションセンター
11-3 【生体音】大学
●Northwestern University
●University of Cambridge

第12章 フェムテック
12-1 【フェムテック】スタートアップ企業
●Bellabeat社 ●Eli Science社
●Hangzhou Bangtang Network Technology社
12-2 【フェムテック】中小企業
● iXensor社



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-biosh-x

デジタルヘルス未来戦略 有望市場・調査分析編



健康・医療・介護の市場予測・開発動向分析
「デジタル医療」生活者・医療従事者14000人の利用意向
主要プレーヤーの戦略・動向、有力スタートアップ100社調査

有望15分野の市場予測・開発動向

「デジタル医療」14000人調査 生活者／医療従事者の認知度と利用意向

主要プレーヤーの動向・事業戦略レポート

有力スタートアップ100社調査

デジタル医療の実用化がさらに加速 有望市場「デジタルヘルス」で新たなビジネスチャンスが生まれています

健康・医療・介護の現場に最新技術の導入が進み始めたことで、医療機器メーカーや製薬会社など既存のプレーヤーに加え、住宅や食品、スポーツ、旅行、保険、電機といった業界が「デジタルヘルス」分野において、従来にない発想で、それぞれの強みを生かした新たなビジネスの創出に動いています。

本レポートでは、ヘルスケア関連の新ビジネス創出を狙う皆さまに役立つ、技術や市場、企業の動きをさまざまな角度から分析、整理しました。まず、今後の有望分野として15のテーマを選定し、市場規模を予測。また、生活者5000人と医療従事者9000人を対象に、「PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）」「治療用アプリ」「ゲノム医療」「がんスクリーニング」など、15の分野について認知度や利用意向を調査、両者間のギャップも分析しています。

また、デジタルヘルス分野の開拓を図る、注目プレーヤー10社について、その事業戦略を分析。さらに、有力スタートアップ100社の取り組みについても調査・分析しています。拡大するデジタルヘルス市場での事業計画立案にお役立ていただける一冊です。

目次

第0章 プロローグ
異業種参入が待ち望まれるデジタルヘルス市場

第1章 有望15分野の市場予測・開発動向分析
「医療DX」への期待と現実／オンライン診療／オンライン薬局／PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）／ゲノム医療／再生医療／がんスクリーニング／治療用アプリ／メンタルヘルス対策／認知症対策／リハビリ支援／不妊治療支援／画像診断支援AI／ウエアラブル医療機器／手術支援ロボット／体内埋め込みデバイス

第2章 「デジタルヘルス」15分野 生活者5000人の認知度・利用意向調査
最新技術・サービス普及のヒントを探る／5000人の健康・病気への不安意識を分析／デジタルヘルス15分野の全体分析／デジタルヘルス15分野の認知度と利用意向

第3章 「デジタルヘルス」15分野 医療従事者9000人の認知度・利用意向調査
デジタルヘルス15分野の全体分析／デジタルヘルス15分野の認知度と有用性、利用意向／生活者と医療従事者の比較分析

第4章 注目プレーヤーの動向・事業戦略分析
【動向分析】製薬企業／中外製薬／武田薬品工業／【動向分析】生命保険企業／日本生命保険／第一生命保険／【動向分析】IT企業／NTTグループ／ディー・エヌ・エー／【動向分析】商社／住友商事／伊藤忠商事／【動向分析】製造業/電機メーカー／富士通／帝人

第5章 有力スタートアップ100社、2030年への事業戦略
有力スタートアップ100社、事業領域・マッピング分析／有力スタートアップ100社、事業戦略・業務提携意向調査

■ 編集：日経BP 総合研究所
■ レポート：A4変型判、480ページ　■ 2023年12月20日発行
■【書籍のみ】価格：880,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20389-5
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：1,078,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20391-8



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-dhfs-x

テクノロジー・ロードマップ2023-2032 医療・健康・食農編



「生活の質の向上」「社会的課題の解決」「ビジネス機会の拡大」という三つの視点を設定

AIと医療、遠隔治療、AI創薬、腸内デザイン、フードテック、スマート農業など注目テーマの技術進化を予測

デジタルとライフサイエンスの融合で生まれる新ビジネスが分かる

デジタルとライフサイエンスの融合で生まれる新ビジネス イノベーションを起こす 80テーマを選定、今後10年の技術進化を予測する

ウィズコロナ/アフターコロナの時代において、医療、健康、食料・農業の分野では、デジタルトランスフォーメーション（DX）などのデジタル技術とライフサイエンスの融合による新たな価値の創造が期待されます。この変化を捉え、本レポートはイノベーションを起こす80テーマについて、「生活の質の向上」「社会的課題の解決」「ビジネス機会の拡大」という三つの視点を設定し、分析を深めました。「介護IT」「生殖医療支援」「手術DX」「3Dフードプリンティング」「スマートセルインダストリー」「香りビジネス」「BMI（Brain Machine Interface）」などを新規テーマに加え、市場価値と時流の変化に合わせて進化する今後10年の技術の変遷を予測します。

■ 著者：出川 通、ほか83名
■ レポート：A4判、394ページ
■ 2023年3月1日発行
■【書籍のみ】価格：495,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20168-6
【書籍とオンラインサービスのセット】
価格：742,500円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20170-9

目次

序章 「テクノロジー・ロードマップ」の考え方と活用法

第1章 健康
1. 生活の質の向上 ●AIプロテオミクス ●予防医療 ●見守り/宅内外センシング ●EBH（Evidence Based Healthcare） ●アンチエイジング/からだ年齢診断 ●健康寿命 ●リハビリテーション ●アシストスーツ ●サーカディアンリズム ●睡眠 ●環境と体調変化 ●口腔ケア ●腸内デザイン ●介護ロボット
2. 社会的課題の解決 ●ウイルス検査 ●先制医療 ●認知症対策 ●疲労科学 ●介護IT ●健康ステーション ●プライマリケアシフト ●健康経営
3. ビジネス機会の拡大 ●ホーム医福食農テック ●ウエアラブル/ペースタブル ●POCT（Point Of Care Testing） ●非侵襲型生体センサー ●スマートウエア ●ゲノムビジネス ●スポーツビジネス ●インシュアテック

第2章 医療
1. 生活の質の向上 ●精密医療 ●再生医療 ●がん免疫療法 ●脳梗塞/心筋梗塞対策 ●糖尿病対策 ●遺伝子解析医療 ●再生臓器 ●体内埋め込み型デバイス ●BMI（Brain Machine Interface） ●人工網膜
2. 社会的課題の解決 ●AIと医療 ●がん医療 ●生殖医療支援 ●医療ビッグデータ ●医療情報アプリ ●スマートホスピタル ●手術DX ●ゲノム編集 ●スマート治療室 ●在宅医療 ●遠隔医療/オンライン診療/デジタル療法
3. ビジネス機会の拡大 ●多がん早期検出 ●先進医療機器 ●画像診断 ●手術支援ロボット ●内視鏡 ●AI創薬 ●DNAチップ/シーケンサー/PCR ●医療インバウンド ●医療情報システム/医療ソフトウエア ●薬局マネジメント

第3章 食料/農業
1. 生活の質の向上 ●高齢化と食 ●健康/運動と食 ●加工食品 ●機能性食品 ●個別化食
2. 社会的課題の解決 ●食の安心・安全 ●食品トレーサビリティー ●環境農業／●食育/地域活性化 ●食（穀物）のエネルギー利用
3. ビジネス機会の拡大 ●代替フード ●スマート農業 ●スマートセルインダストリー ●アグロメディカルフーズ ●細胞農業 ●バイオエコノミー ●AgriFood Tech ●3Dフードプリンティング／●香りビジネス



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-trmhfa-x

消費トレンド2040 市場予測・ロードマップ

次の15年に生まれる商品・サービス 173



新たに生まれる 15の消費市場を独自に定義

2040年までの社会トレンドを読み解き分析。
これから生まれる15の有望市場を定義。

新市場の「市場規模」「市場イメージ図」を提示

2025年、2030年、2040年の市場規模を推計。
新市場の構造をイメージ図から理解できる。

実現が予測される 商品・サービスの例がわかる

どのような新商品・サービスが実現されるのか。
商品・サービスのコンセプトを具体的に例示。

「ロードマップ」で 2040年までの市場を展望

いつ頃どのような消費トレンドとなっているかを
5年刻みで解説。市場進展の全貌が掴める。

前作（2022年2月発行）からここがパワーアップ！

- 地政学リスクや生成AIなど、2022年以降に顕在化した社会や技術の大きな変化を踏まえて、市場予測を刷新。
- ロードマップや図版がさらに充実、全ページをカラー化。

次に生まれる商品・サービスは何か 市場規模はどこまで広がるか 激変する消費市場を分析します

世界情勢の変化によりサプライチェーンは転換点を迎え、ChatGPTの登場で生成AIが社会や生活の場に急速に浸透、原料高による商品・サービスの値上げが進むなど消費者の価値観の変化や行動は、今まで以上に未来が見通しにくくなっています。次にどのような消費市場が勃興し、市場規模はどこまで広がるのか。

本レポートでは2040年をゴールに見据えて、消費の動向をマクロ視点で俯瞰しつつ、ミクロの視点でもヒットを予感させる商品やサービスを具体的に予測しています。有望な15の新市場を独自に定義し、市場規模を具体的なロジックに基づいて試算。

新製品やサービスの創出において、戦略立案のヒントとなる、173のサービスコンセプトを例示しています。さらに、市場がどのように成長・推移していくのかをトータルで見渡す「変化予測ロードマップ」では、自社が持つ既存技術や顧客セグメントを踏まえて、アドバンテージをどの市場で、どう生かせるかを検討することができます。未来の消費トレンドをつかむための全ての情報が一冊に凝縮されたレポートになっております。



2040年までの変化をロードマップで提示

グラフィックレコーディングで市場を視覚化

■ 著者：D4DR Future Perspective Research Center
■ 編集：日経クロストレンド、日経クロステック
■ レポート：A4判、648ページ　■ 2024年2月13日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20369-7
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、
ISBN：978-4-296-20371-0

目次

序章 「本書の読み方」、「商品・サービスのコンセプト」×「技術」逆引き表
「2040年を見通す視点 - イーロン・マスクのビジネスチェーンと未来社会にもたらすインパクト」など

【第1章～第15章】15の新市場について、9つの視点で詳解

①市場の姿　②市場の展望　③市場の構造　④市場の規模　⑤ターゲット
⑥商品・サービスのコンセプト　⑦関連技術・トレンド　⑧関連データ　⑨ロードマップ

第1章 ウェルネス市場
これまでのヘルスケア市場の概念に加えて、さらに精神的な幸福のための健康にまで拡張され、さらなる巨大市場になっていくことが予想される有望市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●ウェルネスツーリズム　●運動やアクティビティープログラム など

第2章 フーディング市場
より高機能かつ高付加価値化が進む上、世界的には食糧問題も進むことを受けて、テクノロジーによるイノベーションが進む市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●食品のトレーサビリティー（産地や生育状況などの可視化、安全の担保）
●スマートホームや次世代モビリティーを活用した食品宅配サービス など

第3章 個人の拡張市場
テクノロジーにより生活者個人を起点とした多くのビジネスが誕生し、従来の常識にとらわれない新しい価値観のもとで個人の身体や精神的な能力が拡張し、個を超えた集合知がもたらす可能性まで見据えた市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●BMIによる拡張情報や体験の脳への同期
●ウエアラブルデバイスによる拡張とインプットの最適化 など

第4章 自己表現市場
シンギュラリティーの時代、単純労働から人類は解放され、週休3日なども進む中で、スポーツやエンタメ、アートなどの自己表現が人間の自己実現のためにもより重要なものになる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●トレーニングのマネジメントや最適化
●XRやアバターロボットによる遠隔指導サービス など

第5章 人生学習・メタワーク市場
これまでのように一つの場所で一つの組織に属して生きている人たちが解放され、マルチな働き方によって教育が一生学び続ける学習の一部になり、多様な仕事のため、広くスキル形成を続けていくための市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●学習者やワーカーのコミュニティー
●テレプレゼンスやバーチャルスペースの提供 など

第6章 新移民市場
少子高齢化の進展の中ですでに国策として動き出した移民政策が生み出す巨大市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●生活支援サービス(住宅の提供、受診支援など)
●日本語学習の支援サービス など

第7章 超富裕層市場
世界的に二極化が進むことで、これまでよりもさらに資産を持つような人が現れる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●資産運用の管理や評価サービス
●芸術品販売やオークション、芸術家とのマッチング、芸術家支援 など

第8章 デジタルBOP市場
新興国に新しいデジタルインフラが整う中で生まれる新しいビジネスチャンスの市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●海底ケーブル、低軌道衛星群、気球、無人飛行機などによる通信ネットワーク整備
●モバイルデバイス販売や貸与サービス など

第9章 相互扶助・コモンズ市場
中流の崩壊によって、多くの所得に不安を持つ人たちが増え、生きていくためには一億総中流社会として生み出された個が再びコミュニティーとしての社会システムを求める市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●個人のスキルや資産の可視化とマッチング、同じ目的を持つ人同士のコミュニティー形成や運営
●自給自足生活の推進と収入源確保の支援 など

第10章 マルチコミュニティー市場
コロナ禍を経たニューノーマル時代によって、時間と場所の制約からの解放が劇的に加速し、その結果として様々な場所に自由に住む多拠点生活をしながらこれまでの企業や家族に縛られない多様なコミュニティーに所属しながら多様な仕事をするという多元的なライフスタイルを選択する市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●防災や防犯サービス（コミュニティー形成を通して、人のつながりを生かす）
●住まいのIoT化 など

第11章 ネオモビリティー市場
自動運転車やパーソナルモビリティーが普及し、次世代交通サービス（MaaS）の世界が見えてくる中、個別縦割りの交通の概念を変えるばかりか、都市のあり方そのものも変えていく市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●モビリティーのシェアリングサービス
●オンデマンド型移動サービス など

第12章 個人リソースマネジメント市場
テクノロジーにより様々なリソースをID管理できる社会になることで個人の資産を管理しやすくなる市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●個人の資産の統合データ化や管理
●個人の信用スコアリング など

第13章 社会リソースマネジメント市場
社会の資産がシェアリングエコノミーや情報銀行などによって、多くの社会システムの構造的変化をもたらす市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●調査や測定の効率化、IoTによるモニタリング、ID管理
●インフラの流動的な利活用やマネジメント など

第14章 都市OSデータ活用市場
都市OS（基本ソフト）化し、様々なデータが公共財化して活用可能になる中でデジタルツインなど大きく生まれる新市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●センサー標準化
●データオープン化を活用した、最適化を目指すサービス など

第15章 モノの統合サプライ市場
企業の枠を超えてサプライチェーンがいよいよ社会で全体最適化されていく市場
【商品・サービスのコンセプト例】
●モノのクラウド管理サービス
●モノの移動、在庫状況、引き当てのリアルタイム可視化 など



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-stre-x

未来技術 2025-2034 全産業編

未来を変える「新興テクノロジー」を探し出す



新興技術の目利きが世界の研究を精査

専門家チームが米国を筆頭に中国、EUなど世界の研究を探索し、有望かつ重要な技術を100件超を抽出し、詳細解説。

「市場性」、「機微度」を評価し、今後10年間のインパクトを展望

活用される市場の広がりを示す「市場性」と安全保障への関連度合いなど「機微度」を評価。当該技術が今後10年間にもたらすインパクトを展望。

「成熟度」、「技術融合性」を評価し、今後の課題を分析

新興技術の「成熟度」とその技術が他の技術と組み合わせやすいかどうかを表す「技術融合性」を評価し、今後の課題を分析。

主要産業へのインパクトを展望

探索した100件超の新興技術が持つ応用の可能性を主要産業ごとに分析。

■ 監修・著者：生天目 章（東京理科大学上席特任教授、防衛大学校名誉教授）
■ 著者：井上 孝司（テクニカルライター）ほか15名
■ レポート：A4判、664ページ ■ 2024年12月27日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10％税込）、
ISBN：978-4-296-20588-2
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10％税込）、
ISBN：978-4-296-20590-5

ビジネスの将来を左右する「新興技術」100件超を世界の産官学研究から探索 可能性と課題、主要産業へのインパクトを独自に評価

未来を変える「新興技術（クリティカル&エマージング・テクノロジー）」を100件超探し出し、将来性を独自に評価したレポートです。様々な技術テーマごとに、今後10年間、あるいはその先を展望したとき、実用化によって社会やビジネスに大きなインパクトがもたらされるシーズを選んでいます。こうした技術シーズは「すでに起こっている未来」と言えます。技術でビジネスをする企業は現行の事業や所属する業界にこだわらず、多様な技術シーズに目配りする必要があります。取り上げた技術テーマは「サイバーフィジカルシステム」「人間増強・ハプティクス」「次世代半導体」「ロボット・自律システム」「ライフサイエンス」「サステナビリティ」「宇宙・航空」など18の領域を展望しています。探索先として、米DARPA（国防高等研究計画局）のように国が主導し、巨額の投資をしているシーズに注目、米国だけではなく中国やEUが取り組む技術シーズも視野に入れています。企業単独では投資できないこうしたシーズから、イノベーションが起きることがあるからです。技術の評価軸は4点。活用される市場の広がりを示す「市場性」、経済安全保障にかかわるデュアルユースの可能性を含む「機微度」、間もなく使えるのか研究開発の段階が続くのかを示す「成熟度」、その技術が他の技術と組み合わせやすいかどうかを表す「技術融合性」です。2023年2月に発刊した『未来技術2023-2032 全産業編』に比べ、技術テーマを拡大し、評価軸をより詳しくし、その技術の特徴と可能性を一望できる図表を加えており、解説文はすべて刷新しています。

目次

第0章 本レポートの使い方
未来技術の定義と評価／未来技術の探索

第1章 技術融合が開く未来
技術融合の意義／技術融合を起こす7つの基軸

第2章 データ・IoT・通信
プログラマブルネットワーク／エッジAI／AIoT（Artificial Intelligence of Things）／ブロックチェーン・データ保護／ブロックチェーン・サプライチェーン／WBAN（Wireless Body Area Network）／光通信／オープンIPプロセッサー

第3章 サイバーフィジカルシステム
サイバーフィジカルシステム／ミッション・エンジニアリング／デジタルツイン／モデルベース開発／LVC（Live,Virtual,and Constructive）／ソフトウエア自動検証

第4章 身体の活用
ウエアラブルグラス（認知・制御支援）／身体センシング・制御技術／IoB（Internet of Bodies/Behaviors）／BMI（Brain Machine Interface）／メタバース・デジタルツイン融合

第5章 人工知能（AI）
AI基盤モデル／マルチモーダルAI／汎用AI／AIによるシステム開発／AIによるコード生成／AIによる設計支援

第6章 人間増強・ハプティクス
パワード・スーツ／体内増強／認知操作／認知補完／五感技術

第7章 脳・ニューロ
BCI（Brain Computer Interface）／脳波センシング／脳波によるロボット制御／脳・神経科学の応用

第8章 ロボット・自律システム
ヒューマノイド・ロボット／追随型ロボット／医療・応急治療自律ロボット／家庭用ロボット／レーザー遠隔伝送・充電システム

第9章 セキュリティー
トラステッドマイクロエレクトロニクス／セキュアネットワークシステム／生成AI・セキュリティー／コグニティブセキュリティー／ブロックチェーン・サイバーセキュリティー

第10章 量子
量子技術／量子レーダー／量子ラジオセンサー／量子シミュレーター／量子通信／量子暗号／量子インターネット／量子コンピューター

第11章 先端製造
デジタル・ファブリケーション／フレキシブルマニュファクチャリング／クラウド製造／3D/4Dプリンター／半導体製造

第12章 次世代半導体
フォトニック集積回路／パワー半導体／ダイヤモンド半導体／有機半導体／カーボンナノチューブ半導体

第13章 先進材料
マテリアルズ・インフォマティクス／自己修復機能材料／複合材料（構造材料）／多孔性金属錯体／エンジン材料・耐熱材料／バイオプラスチック

第14章 エネルギー
核融合／次世代二次電池／エネルギー貯蔵炭素繊維／二酸化炭素の回収・利用・貯留／クリーン水素の製造・輸送・貯蔵／SAF（Sustainable Aviation Fuel）

第15章 バイオ
バイオセンシング／AIバイオテクノロジー／次世代遺伝子工学／バイオ医薬品製造／サイボーグトンボ／バイオマスエネルギー生成システム／合成生物学／オルガノイド／多病原体ワクチン／爆発物発見バイオセンサー

第16章 ライフサイエンス
スキンパッチバイオセンサー／筋肉・骨・神経迅速再生／集中持続力を高める栄養剤／核酸医薬／mRNA医薬／マイクロバイオーム活用／幹細胞治療（再生医療）／オプトバイオロジー／人間の寿命延長

第17章 サステナビリティ
地球環境のリモートセンシング／気候変動予測／生物多様性の評価・予測／気象データの高解像度化／プラスチックリサイクル

第18章 海洋
次期船舶自動識別システム／沖合養殖／水中量子計測／水中無線通信／水上ロボット／水中ロボット／スワーム型海洋ロボット／アクアバイオロボット／Ocean of Things

第19章 宇宙・航空
GNSS抗堪性向上・代替／無人機の自律制御・群制御・近接飛行／人工衛星の軌道上メンテナンス・組み立て／小型・超小型衛星／小型ロケットによる人工衛星迅速打ち上げ／衛星間光通信／大気圏内光通信／ゼロカーボン航空機／極超音速／再使用型極超音速／宇宙太陽光発電

第20章 産業別のインパクト
展望／電機・電子・機械産業への影響／自動車産業への影響／化学産業への影響／小売・物流業への影響／金融業への影響／サービス産業への影響／情報通信産業への影響／ヘルスケア・ライフサイエンス産業への影響／公共事業・公共関連産業への影響／農林水産業への影響／防衛・セキュリティー産業への影響

第21章 グローバルイノベーション時代の技術戦略
ブレークスルー型シーズ研究／新興技術開発力の国際比較／先端技術と国際標準化競争／経済安全保障の要請／中国の技術標準化戦略／中国の技術戦略／ゲームチェンジ戦略



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-mtech-x

未来ビジネス 2024-2033 全産業編

新事業企画に役立つ厳選30のビジネスアイデア



生活者の「4大メガシフト」で生まれる「10年後の新しいビジネス」を提示

様々な領域で境界が曖昧になる「ノーバウンダリーシフト」など、生活者の変化（シフト）で生まれる30の新ビジネスを予測

10年後のビジネスを支える「人間中心の技術」として7領域のテクノロジーを分析

生成AI/量子コンピューター、人間拡張/遠隔存在など、人間の可能性を高める働きを持つ7領域のテクノロジーを分析

10年後のビジネスが企業にもたらす影響を、産業別に掘り下げて調査分析

未来ビジネスが企業にもたらす影響を、自動車、エレクトロニクス/機械、医療/福祉など10領域の産業別に掘り下げて分析



生活者の行動や価値観の変化を調査分析し、10年後の新ビジネスを描き出す

変化が激しく不確実性の高いVUCA（変動性、不確実性、複雑性、曖昧性）の時代。10年後に向けた新しいビジネス、すなわち「未来ビジネス」を見通すためには、社会を取り巻く大きなトレンドと、様々なところで芽吹いている未来を探索することが欠かせません。本レポートでは、世界で個人の影響力が増していることに着目し、生活者の行動や価値観の変化を探索の起点としました。様々な領域で境界が曖昧になる「ノーバウンダリーシフト」、自分なりの幸福を目指す傾向が強まる「セルフシフト」、他者の概念や関係性をこれまで以上に柔軟に捉える「リレーションシフト」、環境や社会とのつながりを強く意識し持続可能性を重視する「サステナブルシフト」の4大メガシフトをベースに、10年後のビジネスの基本テーマとなる「リ・ジェネレーション」の概念を提示します。これに独自の生活者調査を交えた分析で、30の未来ビジネスを厳選。それぞれの未来ビジネスのアイデアを「新規性」「市場性」「社会的インパクト」「技術的革新性」の4項目で評価し、「10年後の未来像」と「社会的背景」とともに提示します。また、社会に広く影響を与える「人間中心の先端テクノロジー」を7領域に分類し、「生成AI」「自動運転」「メタバース」「ブロックチェーン」などの16技術の可能性を探ります。さらに、未来ビジネスの影響を「自動車/モビリティー」「IT/通信」「医療/福祉」など10の産業別に分析。今後の10年で新たに生まれるビジネスの方向性を提示する、未来ビジネスの決定版レポートです。

今後10年の社会や技術の未来像を描き、どのようなビジネスが新たに生まれるのかを読み解いた一冊です。経営企画、新規事業開発、マーケティングのご担当者におすすめします。

■ 監修・著者：平林 知高（EYストラテジー・アンド・コンサルティング ストラテジックインパクト Data Driven Re-Design Strategy Teamリーダー/パートナー）
■ 著者：山田 悠生 ■ レポート：A4判、356ページ ■ 2024年2月29日発行
■【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、ISBN:978-4-296-20436-6
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、ISBN:978-4-296-20438-0

目次

第1章 エグゼクティブサマリー
1-1 未来ビジネスを導く考え方
1-2 「未来ビジネス2024-2033 全産業編」の構成

第2章 未来ビジネスの4大メガシフト
2-1 総論：生活者主導で進む4つの変化
●生活者の価値観に影響を及ぼすトリガー
●トリガー①：社会の成熟と世代の移り変わり ほか
●生活者の価値観の4大シフト
2-2 ノーバウンダリーシフト：境界のない世界の出現
●概要：生活のあらゆる側面で境界がなくなる
●背景要因①：経済・社会規範の流動化 ほか
●10年後の生活者①：ライフスタイルの自由化 ほか
2-3 セルフシフト：ウエルビーイングを自在に追求
●概要：自分に向くベクトル
●背景要因①：長寿命化・社会不安による健康意識の向上 ほか
●10年後の生活者①：「手段」としての最適な健康の実現 ほか
2-4 リレーションシフト：他者との豊かな共生関係の構築
●概要：自分の"近く"に向くベクトル
●背景要因①都市化・高齢化が生む課題 ほか
●10年後の生活者①：自由で柔軟な関係の構築 ほか
2-5 サステナブルシフト：自然と実現する持続可能性
●概要：自分の"遠く"に向くベクトル
●背景要因①：「人新世」での環境悪化と社会課題の出現 ほか
●10年後の生活者①：激甚リスクを当然視する生活 ほか
2-6 未来ビジネスを貫くリ・ジェネレーションと企業の役割
●リ・ジェネレーションの概念
●生活者にとってのリ・ジェネレーション
●企業にとってのリ・ジェネレーション
●コミュニティーにとってのリ・ジェネレーション
●「リ・ジェネレーター」としての企業の役割
●企業の役割変化①：生活者の多様な選択を支える企業 ほか

第3章 ノーバウンダリーシフトと8つの未来ビジネス
4大メガシフトのうち「ノーバウンダリーシフト」によって生まれる未来ビジネスを取り上げる。あらゆる場面、領域で境界や制約がなくなっていく中で、生活者のライフスタイルや消費選択における自由度は高まっていく。企業は多様化する生活者のニーズや、自分の人生を自在に設計したいというニーズに応えるビジネスを展開する必要がある。
3-1 総論
3-2 使用者が完成させる製品づくり
3-3 欲しいものをその場で受け取れる物流・小売り
3-4 自然環境に戻る家づくり
3-5 自動運転がもたらす自由な住まい
3-6 大衆化する空中移動
3-7 BMIやアバターロボットがサポートする自由な働き方
3-8 人生シミュレーター
3-9 将来の姿を可視化し意思決定をアシストする小売り

第4章 セルフシフトと7つの未来ビジネス
4大メガシフトのうち「セルフシフト」によって生まれる未来ビジネスを取り上げる。生活者の自分自身への関心は、肉体面だけでなく、精神面を含めた全人的なウエルビーイングに広がる。医療分野の技術革新などによって、個人の状態に応じたリアルタイムの健康増進の取り組みが可能になる。
4-1 総論
4-2 いつの間にか健康診断
4-3 オンデマンド完全栄養食
4-4 自然に感情をケアするトランステック商品
4-5 住人の最適環境を実現する家
4-6 ホログラフィック遠隔医療
4-7 学習効率を高める教育支援サービス
4-8 小型マルチモビリティー

第5章 リレーションシフトと8つの未来ビジネス
4大メガシフトのうち「リレーションシフト」によって生まれる未来ビジネスを取り上げる。生活者の周囲の人々や組織・地域など「他」との関係は従来に比べて格段に柔軟で互恵的になる。生活者が人間関係やコミュニケーションを通じて、他者からの承認に満足を覚えたり、逆に他者に貢献することの価値を重視したりするようになる。
5-1 総論
5-2 ツーリズムを核とした地域課題の解決
5-3 地域ぐるみで食品や生活財のシェアリング
5-4 マルチロール自走店舗
5-5 見守りや生活支援に役立つロボットインフラ
5-6 言葉にできない本音や塩梅を基に企画する商品
5-7 使い心地を伝送できる店
5-8 コミュニケーションハブとなる製品
5-9 バーチャル市民サービス

第6章 サステナブルシフトと7つの未来ビジネス
4大メガシフトのうち「サステナブルシフト」によって生まれる未来ビジネスを取り上げる。企業は、生活者の環境や社会の持続可能性への意識の高まりに応え、無理なく持続可能性（サステナビリティー）に貢献可能な製品やサービスを提供していく。
6-1 総論
6-2 セルフリペアパーツのデザイン販売
6-3 サブスクで完全循環する製品
6-4 自己修復する都市空間
6-5 広域環境センサー網による防災や減災
6-6 レジリエントな農水工場
6-7 ゲームとミッションで環境や社会の課題を解決するビジネス
6-8 職人ロボットとの協業

第7章 未来ビジネスを支えるテクノロジー
7-1 総論
7-2 情報処理技術（生成AI/量子コンピューター）
7-3 IoT/センシング
7-4 人間拡張/遠隔存在
7-5 アディティブ・マニュファクチャリング（AM）/マテリアルズ・インフォマティクス（MI）
7-6 自動運転/スマートモビリティー
7-7 ロボティクス
7-8 6G/メタバース/XR/Web3/ブロックチェーン

第8章 産業別に見る未来ビジネス
8-1 自動車/モビリティー産業
8-2 エレクトロニクス/機械産業
8-3 建設/インフラ産業
8-4 IT/通信産業
8-5 エンターテインメント産業
8-6 医療/福祉産業
8-7 小売/流通/卸売産業
8-8 金融/保険産業
8-9 教育産業
8-10 農業/林業/水産業



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-futbiz-x

「望ましい未来」をつくる技術戦略

社会課題の解決に貢献する有望技術105 望ましい2040年へのシナリオ



「より望ましい未来」実現に向けた「12の未来シナリオ」

2040年を見据え、「おそらく起こる未来」と「より望ましい未来」を提示

「望ましい未来」の実現に貢献する「有望技術105」を掲示

技術の適用可能な産業、進展シナリオ、市場化の課題などを解説

SDGsの観点から、日本の社会課題を整理

[より良い未来]－[社会課題]－[技術]の相関を図解

より望ましい未来像、それに貢献する有望技術と進展シナリオ… 持続可能な社会に貢献するための情報がここに

企業が持続可能な発展を続けるためには、社会課題の解決を自社のビジネスに組み込み、より良い未来につながる製品・サービスを開発することが必須です。そして、そこで大きな役割を果たすのが「テクノロジー」です。大切なのは、「より良い未来につながる」という視点からテクノロジーを選定し、新たな事業開発につなげること。そのためには、事業戦略を現状の延長線上ではなく、「実現したい未来」を起点に立案しなければなりません。本書では、2040年をターゲットに「12の望ましい未来」を描き、SDGsのどの目標が達成できるかも示しています。さらに理化学研究所など日本を代表する研究機関で取り組んでいる技術研究から、社会課題の解決に貢献し得る有望な105の技術を抽出。技術解説や研究の動向を示したうえで、将来生み出す市場、その規模、市場化の課題を分析し、それぞれの技術が貢献する「望ましい未来」へのシナリオを示しています。

目次

第1章 2040年へ、日本の社会課題と解決策
SDGs視点で捉える日本の社会課題と解決策
●SDGsと「日本の社会課題」、その現在地と今後の方向性
●社会課題を乗り越える有望技術と未来シナリオ

第2章 望ましい未来
「望ましい未来」の全体構造 ●未来シナリオを描くプロセス
●「未来を読み解くキーワード」と「共通の世界観」
12の未来シナリオ ●Future_of_Augmented_Society／人間拡張社会の未来 ●Future_of_City_and_Mobility／都市とモビリティーの未来
●Future_of_Circular_Economy／循環型経済の未来
●Future_of_Manufacturing／ものづくりの未来 ●Future_of_Energy／エネルギーの未来 ●Future_of_Food_Ecosystem／フードエコシステムの未来
●Future_of_Healthcare／ヘルスケアの未来 ●Future_of_Death／死の未来 ●Future_of_Media_and_Entertainment／メディアとエンターテインメントの未来 ●Future_of_Trusted_Info_and_Communication／信頼の未来
●Future_of_Innovation_Ecosystem／イノベーションエコシステムの未来 ほか

第3章 新市場を生み、未来をつくる「有望技術105」
適用可能な産業と研究開発動向、59の技術進展シナリオ、市場規模、市場化の課題から有望技術を解説
ヘルスケア分野の有望な技術 ●遺伝子治療／ゲノム編集 ●iPS細胞（人工多能性幹細胞） エネルギー分野の有望な技術 ●ポストリチウムイオン電池
●水電解法 エコテクノロジー分野の有望な技術 ●CO_2を有効活用する技術（CCU） ●人工光合成技術 コンピューティング・セキュリティー分野の有望な技術 ●マテリアルズ・インフォマティクス（MI） ●脳ビッグデータ解析／脳情報・脳信号解析 ロボティクス・オートメーション分野の有望な技術 ●生活支援ロボット ●自在化身体／人機一体 IoT・計測・センシング分野の有望な技術 ●非破壊イメージング技術 ●インフラモニタリング 農林水産分野の有望な技術 ●スマート農業 ●陸上養殖 ほか

■ 監修・著者：PwCコンサルティング
■ レポート：A4変型判、552ページ ■ 2020年12月7日発行
■ 【書籍のみ】価格：660,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10713-1
【書籍とオンラインサービスのセット】価格：990,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-10715-5



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-tsdf-x

リスクシナリオ 2032 全産業編

リスクの未来を新規事業に生かす



主要30リスクを5つのステップで分析

リスクのインパクトを定量的に評価し、未来シナリオや業種別に取り得る対策を網羅

産業別インデックスとスコアランキングでリスクを多面的に提示

自動車業界、不動産・建設業界、流通・物流・交通業界、情報通信業界など、幅広く収録

6分野30テーマの主要リスクを定量的に評価し、未来シナリオと全産業分野への影響を分析

世界は、かつてない「リスクの時代」を迎えています。グローバル化した経済活動を背景に、この数年、地政学リスクや感染症の拡大リスクなどは企業活動、そして日常生活で極めて身近な存在になっています。その多くに共通するのは、いずれも直前まで多くの人々が予測していなかったということです。しかし、将来起こり得るリスクを評価し、あらかじめ対策を練って被害を最小限に食い止めることは可能です。新規事業の立ち上げでリスクを考慮し「プランB」を練るプロセスはもちろん、リスク自体が新たなビジネスの好機になり得ます。リスクは、すなわち大きな社会課題でもあるからです。『リスクシナリオ2032 全産業編』では、今後10年で影響が高まる6分野30テーマの主要リスクを選び出し、これから起こり得るシナリオを提示します。リスクによる被害想定の定量評価や未来シナリオで具体的な対策に生かす、リスクマネジメントの決定版レポートです。

目次

第0章 リスクの洗い出しと評価の手法
リスクとは何か
取り上げたリスクの選定アプローチ ほか

第1章 社会のネットワーク化がもたらすリスク
サイバー攻撃によるデータ喪失やシステム破壊
広域停電“ブラックアウト”による企業活動停止 ほか

第2章 テクノロジーの進化がもたらすリスク
インターネット販売事業者の業容拡大による小売業の衰退
次世代AI開発からの脱落による日本の産業競争力低下 ほか

第3章 社会の変容がもたらすリスク
サステナブル調達における情報収集・開示の負荷が増加
SDGs対応が不十分で企業価値を毀損 ほか

第4章 政治・経済のグローバル化がもたらすリスク
中国の拡張主義が引き起こす物流・貿易途絶や人的被害
データ関連規制がもたらす制裁金負担や管理コスト増大 ほか

第5章 気候変動、自然災害の激甚化がもたらすリスク
気候変動で事業継続が困難に
大気汚染や気候変動がもたらす不動産の資産価値低下 ほか

第6章 企業内部の課題がもたらすリスク
海外子会社の管理不備による損失や事故の発生
システム管理者の内部不正による情報漏洩 ほか

■ 著者：東京海上ディーアール
■ レポート：A4判、326ページ ■ 2022年8月30日発行
■ 【書籍とオンラインサービスのセット】価格：880,000円（10%税込）、ISBN：978-4-296-11280-7 ※書籍のみの販売はありません。



詳細・誌面サンプルはこちら▶
nkbp.jp/hj-risks-x

日経BPの「予測・分析レポート」が
貴社の未来を拓く戦略策定を強力にサポート!

**市場予測、独自調査による分析、未来へ向けたロードマップなどが
あらゆる産業で活用されています。**



さまざまな部門、いろいろな用途で活用されています

経営企画部門など
中長期視点で戦略を立案するため、中長期のトレンド予測や技術進展予測を活用

R&D部門、技術開発部門など
自社の技術開発計画策定のため、技術トレンドや市場ニーズの把握に

新規事業開発部門など
新規事業企画を立案するため、新たなビジネス分野の探索に

事業企画部門など
社内を説得するため、客観的かつ信頼性の高い日経BPのコンテンツをエビデンスとして

マーケティング部門など
自社が属する業界だけでなく、周辺市場の動向もウォッチするために

レポート内の検索、図表ダウンロードも!
便利な「オンラインサービス」もあります。



テレワークでも閲覧できる!

「テキスト検索」や「レポート閲覧」がすぐできる
オンラインサービスなら、ページ数が多いレポートから、入力したキーワードと関連するテキスト情報を瞬時に検索し、一覧表示、欲しい情報に素早くアクセスできます。複数のレポートを購入されている場合は、購入済みレポートの横断検索も可能。また、目次に沿って閲覧することもできます。

出典や説明文も一緒に、ボタン一つでパワポに出力
検索したテキスト情報や図表などのコンテンツは、ボタン一つでパワーポイント形式でダウンロードできます。出典情報や説明文も一緒に出力されるので、資料作成時の手間が省けます。

入力した検索ワードの「関連ワード」、「関連企業」が分かる
日経BP独自の機械学習エンジンで、入力した検索ワードに関連する「ワード」や「企業」の検索結果を表示します。

図表の解説文を分析、図表だけを探せる
入力したキーワードと関連する図表だけをサムネイルで一覧表示。図表をクリックして、詳細情報にアクセスできます。

※「オンラインサービス」のご利用には、[書籍とオンラインサービスのセット]のご購入が必要です。※オンラインサービスセットご購入の場合は、Webでオンラインサービスの利用規約をご確認いただき、ご同意の上お申し込みください。※ご購入後、弊社にて利用登録が完了しましたら、メールでお知らせします。(最大1週間かかる場合があります) ※ご利用期間は1年間です。書籍の発送日を起点にして1年後の翌月末が利用期限です。※アクセス権は1部の購入に対し1名分です。複数名の利用をご希望の場合はお問い合わせください。※コンテンツご利用の際には、必ず出所(出典)を明記してください。※不特定多数にコンテンツを閲覧させることや、コンテンツを複製、譲渡、貸与、公衆送信等することはできません。例:コンテンツを含むデータファイルを部署外や社外に配信・転送すること、コンテンツを法令に抵触する方法で利用することなど ※コンテンツの商用転載を希望する場合(書籍やインターネット、広告、販促パンフレット、セミナー／研修、イントラネット等への転載など)は、事前に転載申請が必要です。商用転載は基本的に有料です。コンテンツの使用を希望される場合は、日経BP著作権窓口へご連絡ください。無断転載は著作権法違反となります。なお、商用転載については、ご使用を承れない場合もございます。あらかじめご了承ください。

各種調査 勉強会も

中期経営計画や技術戦略の立案、新規事業の領域探索にご活用ください。

中期経営計画トレンド抽出・選定調査 レポート購入者限定



貴社が中計を策定するうえでの重要トレンド・キーワードを日経BP 総合研究所が抽出・選定し、ご報告するサービスです。

中期経営計画の策定をサポートするサービスです。貴社の課題や重点ポイントについてヒアリングを実施し、「貴社の中期経営計画上で重要となり得る」トレンド・キーワードを日経BP 総合研究所が抽出、その理由とともに提示・レポートします。

新規事業開発キーワード抽出・選定調査 レポート購入者限定



事業創出のヒントとなる技術・市場・社会の重要トレンドを日経BP 総合研究所が抽出・選定し、ご報告するサービスです。

新規事業のアイデア探しをサポートするサービスです。貴社の課題や重視するポイントについてヒアリングを実施し、事業創出のヒントとなる技術・市場・社会の重要トレンド、キーワードを抽出、その理由とともに提示・レポートします。

お問い合わせはこちら▶ https://fm.nikkeibp.co.jp/E-2209-01-contact.html

日経BP予測・分析レポート Live Updates

激動の業界で一歩先へ。エキスパートが毎月オンラインで解説!!



半導体チップレット 最新動向・勉強会

半導体チップレットという新たな市場での覇権を狙う企業の動きが活発化しています。勃興するチップレット市場での勝ち筋を見出したいとお考えの皆様に、最前線で起こっている技術革新、キープレーヤーの動向、市場展望はもちろん、データセンター業界や自動車業界の動きなども取り上げ、全力でお届けします。

詳細、受講お申し込みはこちら▶
nkbp.jp/scc_x



蓄電池ビジネス 最新動向・勉強会

世界各国で蓄電池をめぐる政策やビジネスがめまぐるしく変化しており、業界を巡る情報は刻々と動いています。数カ月も経つと新しい話題が続々と出てきます。国内外の政策やビジネス動向に詳しい専門家が、毎月オンラインで蓄電池ビジネスを巡る情報をアップデートします。

詳細、受講お申し込みはこちら▶
nkbp.jp/bat_x

日経BP

〒105-8308
東京都港区虎ノ門4丁目3番12号
https://nkbp.jp/hj-24s



SKM-2601